森林クラウドシステムに係る
標準仕様書（案）

Ver. 6.1

令和 4 年 3 月

森林 GIS フォーラム　標準仕様分科会

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

＜森林クラウドシステムに係る標準仕様書　目次＞

第１章 森林クラウドシステムに係る標準仕様の説明 8

１．１ 概要 8

１．２ 標準仕様の対象ユーザー 8

１．３ 標準仕様の使用方法 8

１．４ 標準仕様の前提となる運用体制 9

１．５ 標準仕様に含まれる森林情報 11

１.５.１ データの標準仕様（都道府県） 11

１.５.２ データの標準仕様（市町村・林業事業体） 11

１.５.３ データの標準仕様（木材需要者） 11

１.５.４ システムの標準仕様 13

１.５.５ 森林管理業務に用いる画像情報・GNSS 情報のガイドライン 14

１.５.６ セキュリティガイドライン 14

１．６ 標準仕様のレベル分け 14

１.６.１ データの標準仕様のレベル分け 14

１.６.２ システムの標準仕様のレベル分け 15

１．７ 標準仕様準拠チェックシートによる評価 15

第２章 標準仕様（都道府県版） 16

２．１ 標準仕様の概要 16

２.１.１ 数値情報と地図情報 16

２.１.２ データベース構造 17

２.１.３ データベース項目の略称 19

２.１.４ データベース項目の重要項目 19

２．２ 森林資源情報（森林所有者情報含む） 20

２.２.１ 概要 20

Copyright © 2021 森林 GIS フォーラム

２.２.２ 基本仕様 21
２.２.３ 推奨仕様 37
２.２.４ 森林資源情報（森林所有者情報含む）に係るシステムの標準仕様 65
２．３ 施業履歴情報 66
２.３.１ 概要 66
２.３.２ 基本仕様 67
２.３.３ 推奨仕様 70
２.３.４ 森林資源情報における施業履歴情報の取り扱い 74
２.３.５ 施業履歴情報の標準化に係るシステムの標準仕様 75
２．４ 路網情報 76
２.４.１ 概要 76
２.４.２ 基本仕様 78
２.４.３ 推奨仕様 81
２.４.４ 路網情報の標準化に係るシステムの標準仕様 86
２．５ 地図情報 87
２.５.１ その他地図情報 87
２.５.２ 数値属性情報に対応した地図情報 87
２．６ 地域森林計画に必要な項目 90
第３章 標準仕様（市町村・林業事業体版） 91
３．１ 標準仕様の概要 91
３.１.１ 数値情報と地図情報 91
３.１.２ データベース構造 92
３.１.３ データリンクの対象と方法 93
３.１.４ データベース項目の略称 99
３.１.５ データベース項目の重要項目 99

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

３．２ 森林資源情報 111
３.２.１ 小班の独自区分 111
３.２.２ 基本仕様 115
３.２.３ 推奨仕様 129
３.２.４ 森林資源情報の標準化に係るシステムの標準仕様 146
３．３ 森林所有者情報 100
３.３.１ 概要 100
３.３.２ 基本仕様 101
３.３.３ 推奨仕様 102
３.３.４ 森林所有者情報の標準化に係るシステムの標準仕様 110
３．４ 施業履歴情報 147
３.４.１ 概要 111
３.４.２ 基本仕様 149
３.４.３ 推奨仕様 155
３.４.４ 施業履歴情報の標準化に係るシステムの標準仕様 162
３．５ 路網情報 163
３.５.１ 概要 163
３.５.２ 基本仕様 165
３.５.３ 推奨仕様 168
３.５.４ 路網情報の標準化に係るシステムの標準仕様 173
３．６ 地図情報 174
３.６.１ その他地図情報 174
３.６.２ 数値情報に対応した地図情報 174
３．７ ユーザー間のデータ提供時のデータ変換 177
３.７.１ 概要 177

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

３.７.２ 数値情報の取得方法 177
３.７.３ データ変換一覧表 178
第４章 標準仕様（木材需要者が求める森林情報） 195
４．１ 概要 195
４．２ 出材情報 196
４.２.１ 概要 196
４.２.２ 情報の利用方法 197
４.２.３ 数値情報と地図情報 198
４.２.４ データベースの作成方法 199
４.２.５ データベース構造 200
４.２.６ 基本仕様 201
４.２.７ 推奨仕様 207
４.２.８ 出材情報の標準化に係るシステムの標準仕様 215
４．３ 出荷地情報 216
４.３.１ 概要 216
４.３.２ 情報の利用方法 217
４.３.３ 数値情報と地図情報 218
４.３.４ データベースの作成方法 219
４.３.５ データベース構造 221
４.３.６ 基本仕様 222
４.３.７ 推奨仕様 231
４.３.８ 出荷地情報の標準化に係るシステムの標準仕様 240
４．４ 森林取引情報の検討 241
４.４.１ 概要 241
４.４.２ 情報の利用方法 242

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

４.４.３ 数値情報と地図情報 243
４.４.４ データベースの作成方法 244
４.４.５ データベース構造 245
４.４.６ 基本仕様 247
４.４.７ 推奨仕様 255
４.４.８ 森林取引情報の標準化に係るシステムの標準仕様 275
４．５ システムの標準仕様 276
４.５.１ データ作成に関するシステムの要件 276
４.５.２ データ閲覧に関するシステムの要件 280
第５章 システムの標準仕様 281
５．１ 概要 281
５．２ データ作成・更新に関するシステムの要件 281
５.２.１ 各データの作成・更新に関するシステムの要件 282
５.２.２ DB 間リンクの更新 282
５.２.３ 年次更新 282
５.２.４ データの管理運用 283
５．３ データ閲覧・出力に関するシステムの要件 284
５.３.１ データ閲覧における要件 284
５.３.２ 地図データの印刷・出力における要件 285
５．４ 業務に利用するアプリケーションの要件 286
５.４.１ アプリケーションが利用する DB 286
５.４.２ 機能概要 287
５．５ データ流通に関するシステムの要件 289
５.５.１ 各 DB の更新のためのデータ流通 289
５.５.２ 許認可業務のためのデータ流通 293

Copyright © 2021 森林 GIS フォーラム

５．６ データ・機能別システム要件一覧 295

第６章 森林管理業務に用いる画像情報のガイドライン 307

６．１ 概要 307

６．２ 前提 307

６．３ 各業務に必要となる画像の要件 308

６．４ クラウドの利用における画像取り扱いの技術 308

６．５ リモートセンシング技術やその利用手法等に関する手引き(仮称) 309

第７章 森林管理業務に用いる GNSS のガイドライン 309

７．１ GNSS の利用が考えられる森林管理業務 309

７．２ 森林管理業務に影響を与える GNSS の水平精度 309

７．３ GNSS の精度をより高めるための方法 310

第１章 森林クラウドシステムに係る標準仕様の説明

１．１ 概要

本標準仕様は、林野庁森林整備部計画課の補助事業である、「森林情報高度利活用技術開発事業」における「森林クラウドシステム標準化事業」の成果を基に作成したものである。

森林の有する多面的機能を将来に渡って持続的に発揮させるためには、森林を適切に維持管理し、かつ地域の林業を活性化させる必要があるが、その実現には、都道府県・市町村・林業事業体・木材需要者等が保有する大量の森林情報の高度な利活用が不可欠であり、その一助として、森林情報システムへの次世代情報処理技術（クラウド技術）の応用が期待されている。

本事業においては、都道府県、市町村、林業事業体・木材需要者等で蓄積されている森林情報の効率的な利活用が可能となるよう、森林分野における次世代情報処理技術（森林クラウド）に関するシステムの仕様やデータ形式の標準化、セキュリティガイドラインの作成を行うこととしており、本仕様書はその平成２９年度の成果を受け、平成２８年度までに作成した標準仕様の検証・改善・追加を行ったものである。

なお本標準仕様の策定に至る過程は、別途作成済みの「森林情報高度利活用技術開発事業（森林クラウドシステム標準化事業）報告書」に詳細を記しているので、併せてご一読いただきたい。

１．２ 標準仕様の対象ユーザー

本事業の実施期間は、平成２５年度から平成２９年度までの５ヵ年に渡り、初年度の平成２５年度は都道府県を、平成２６年度は市町村・林業事業体を、平成２７年度には木材需要者をそれぞれ対象ユーザーとして標準仕様を作成し、平成２８年度、平成２９年度において標準仕様の検証・改善・追加を実施した。

１．３ 標準仕様の使用方法

本標準仕様は、現在都道府県・市町村・林業事業体・木材需要者等、それぞれの業務に森林情報を用いるユーザーが異なったシステム・データ形式で森林情報システムを運用していることで、その開発・運用やデータの共有化が非効率な状態となっている普遍的な課題を改善するための標準化の成果である。

そのため本標準仕様は、次世代情報処理技術（森林クラウド）を用いたシステムの開発・運用において最も効果を発揮するものではあるが、従来のスタンドアロン型や

プライベートネットワーク型のシステムにおいても有効であることを目指して作成している。

また各ユーザーが森林情報システムを更新する際に、本標準仕様の全てを採用する場合だけでなく、部分的に採用する場合、検討過程や考え方のみ参考にする場合等、各々の事情に合わせた様々な範囲での使用も想定している。

１．４ 標準仕様の前提となる運用体制

本標準仕様の前提となる運用体制は、以下の通りである。

まず都道府県は都道府県向け標準仕様を使用し、市町村と林業事業体（・森林所有者）は、共通であるが、都道府県とは別の市町村・林業事業体向け標準仕様を使用する。後者の管理主体は市町村となる。

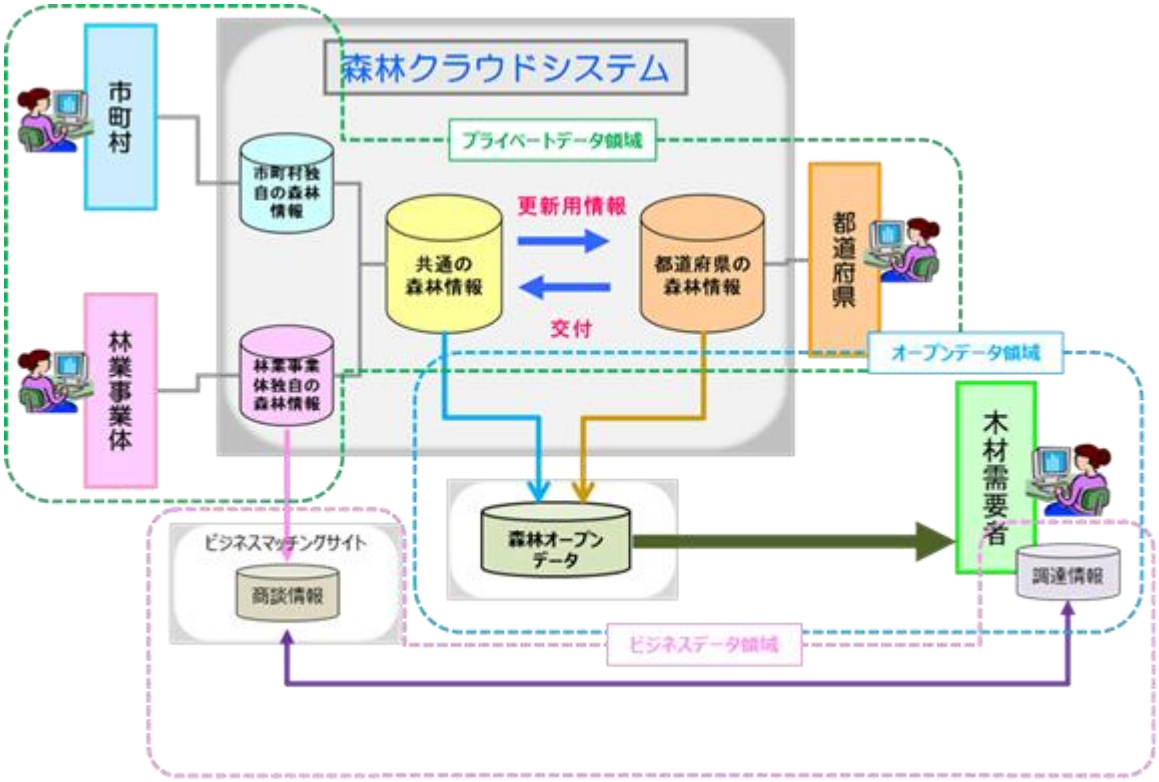
都道府県は、保有するデータを市町村・林業事業体向けに交付するとともに、逆に市町村・林業事業体のデータを、精度確認した上で、自身のデータベースを更新する基データとして活用する。

さらに木材需要者は、基本的には木材の供給元である林業事業体や森林所有者から各種の情報を得ることとなる。これらの情報は林業事業体や森林所有者がそれぞれ保有しているデータから生成される。

また木材需要者が、都道府県や市町村からオープンデータとしてデータを得る場合も想定している。

なおこの運用体制は、森林管理や木材供給の担い手を巡る現状を踏まえ、本標準仕様の前提としているものであるが、必ずしも森林クラウドシステムの最終形を規定しているものではなく、今後森林管理や木材需要を取り巻く環境の変化によって、本標準仕様を随時見直すことも必要である。

Copyright © 2021 森林GISフォーラム


森林クラウドシステム
市町村
林業事業体
市町村独自の森林情報
林業事業体独自の森林情報
プライベートデータ領域
共通の森林情報
更新用情報
交付
都道府県の森林情報
都道府県
オープンデータ領域
木材需要者
森林オープンデータ
ビジネスマッチングサイト
商談情報
調達情報
ビジネスデータ領域

１．５ 標準仕様に含まれる森林情報

１.５.１ データの標準仕様（都道府県）

都道府県を対象とした標準仕様としては、下記種別の森林情報が含まれる。

森林資源情報（森林所有者情報含む）
施業履歴情報
路網情報
その他地図情報

１.５.２ データの標準仕様（市町村・林業事業体）

市町村・林業事業体を対象とした標準仕様としては、下記種別の森林情報が含まれる。

森林資源情報（市町村独自）
森林所有者情報（市町村独自）
施業履歴情報
路網情報
その他地図情報

なお、市町村・林業事業体の「森林資源情報」・「森林所有者情報」については、都道府県の「森林資源情報」とは別の形式となっているが、施業履歴情報・路網情報・その他地図情報については、共通の形式となっている。

１.５.３ データの標準仕様（木材需要者）

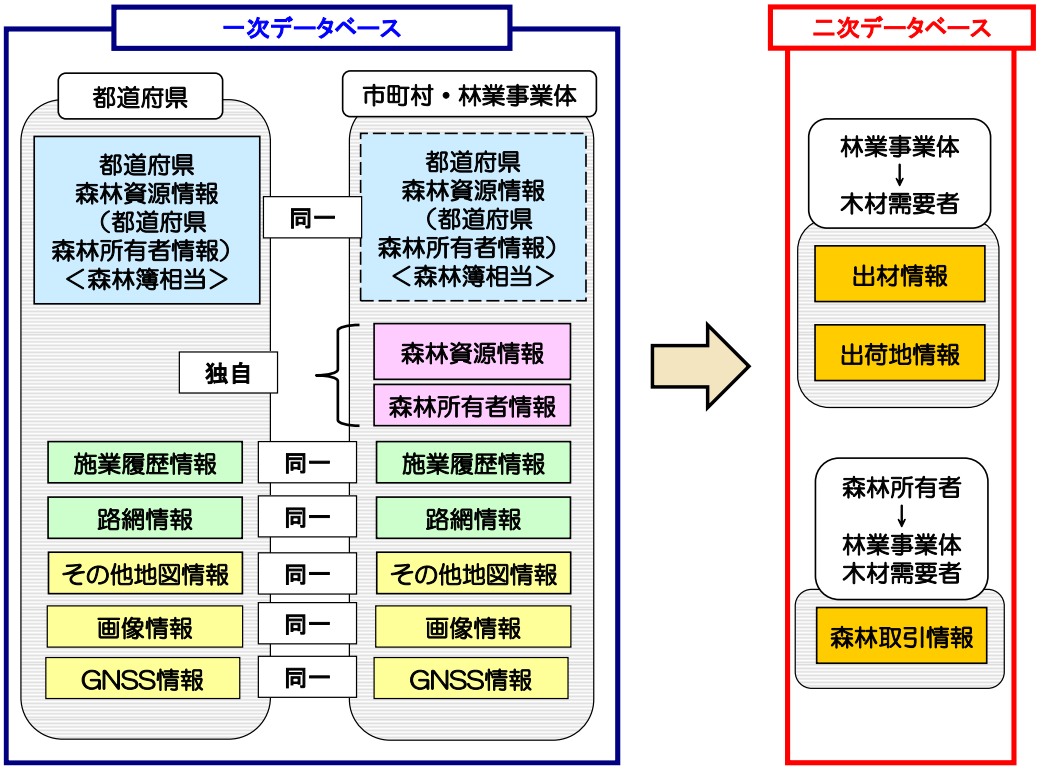
木材需要者が求める森林情報（データ）としては、下記種別の森林情報が含まれる。

出材情報
出荷地情報
森林取引情報

なお、標準仕様が規定する都道府県及び、市町村・林業事業体の情報は、各ユーザーが保有し、利用する情報であるのに対し、木材需要者が求める森林情報の標準仕様は、必要なときに必要なユーザーが既存の情報を参考にして作成し、利用する情報となる。

本標準仕様では、前者の情報を一次データベース、後者の情報を二次データベースと定義する。

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

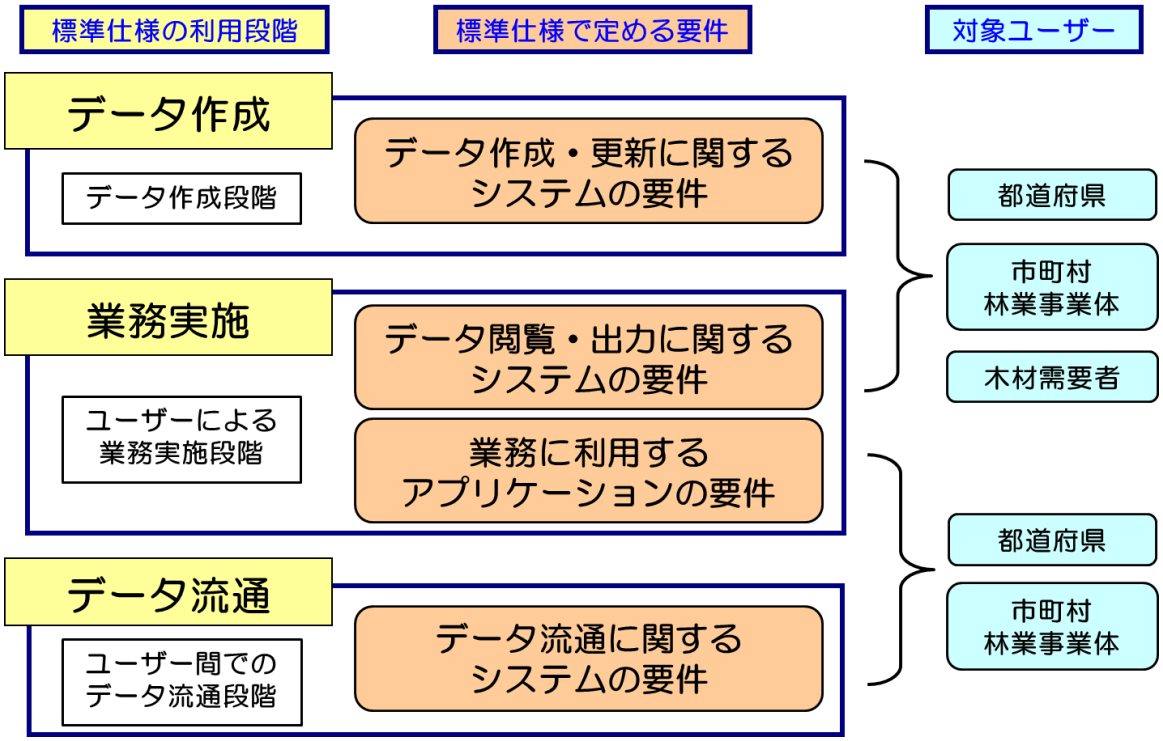

一次データベース
都道府県
市町村・林業事業体
都道府県
森林資源情報
（都道府県
森林所有者情報）
＜森林簿相当＞
同一
都道府県
森林資源情報
（都道府県
森林所有者情報）
＜森林簿相当＞
独自
森林資源情報
森林所有者情報
施業履歴情報
同一
施業履歴情報
路網情報
同一
路網情報
その他地図情報
同一
その他地図情報
画像情報
同一
画像情報
GNSS情報
同一
GNSS情報
二次データベース
林業事業体
↓
木材需要者
出材情報
出荷地情報
森林所有者
↓
林業事業体
木材需要者
森林取引情報

１.５.４ システムの標準仕様

本標準仕様におけるシステムの標準仕様は、標準化されたデータを利活用する際に、システムに求められる最低限の機能要件を定めるのみとしており、現時点ではそれ以上の細目に渡る仕様は含んでいない。これはシステム事業者側の自由度を高め、健全な競争環境を確保することに留意しているためである。

具体的には、「データ作成」・「業務実施」・「データ流通」というデータの利用段階に着目し、標準化されたデータに関わる以下の項目について、それぞれの要件を定めている。

データ作成・更新に関するシステム（第２章、第３章、第４章）
データ閲覧・出力に関するシステム（第２章、第３章、第４章）
業務に利用するアプリケーション（第５章）
データ流通に関するシステム（第５章）



このうち、「データ作成・更新に関するシステム」及び「データ閲覧・出力に関するシステム」の要件は、都道府県版、市町村・林業事業体版、木材需要者の求める森林情報について標準仕様を作成し各章のデータの標準仕様と並列して記載している。「業務に利用するアプリケーション」及び「データ流通に関するシステム」の要件は、都道府県版及び市町村・林業事業体版のみを対象とし、第５章にて記載している。

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

木材需要者の求める森林情報においては、業務内容やアプリケーションの提供者・ユーザーにより求める機能が異なり、各データの提供先（木材需要者）がシステムを有していない場合が想定されるため、「業務に利用するアプリケーション」と「データ流通に関するシステム」の要件いずれも現時点では標準仕様の対象外としている。

１.５.５ 森林管理業務に用いる画像情報・GNSS 情報のガイドライン

森林管理業務に用いる画像情報のガイドライン、並びに GNSS 情報を森林管理業務に用いる際のガイドラインを作成している。

１.５.６ セキュリティガイドライン

本標準仕様では、都道府県、市町村・林業事業体、並びに木材需要者が森林情報の利活用を行う際に遵守すべきセキュリティガイドラインを定めている。

その内容については、別冊「森林クラウドシステムに関わる情報セキュリティガイドライン」に取りまとめているので、そちらを参照願いたい。

１．６ 標準仕様のレベル分け

本仕様は、データ・システムとも、基本仕様・推奨仕様の２つの仕様から構成されている。

それぞれの作成基準は、以下の通りである。

基本仕様：業務上、最低限必要なデータやシステムの仕様

推奨仕様：効率化かつ高度化された森林管理を目指すにあたって、必要と考えられるデータやシステムの仕様

１.６.１ データの標準仕様のレベル分け

森林資源情報（都道府県）・森林資源情報（市町村・林業事業体）・森林所有者情報（市町村・林業事業体）・施業履歴情報・路網情報・その他地図情報については、データ項目の多寡、データの取得難易度、データベース構造の複雑さ等に着目し、標準仕様を「基本仕様」と「推奨仕様」に大別し、ユーザーのニーズに応じた仕様の選択を可能としている。

特に市町村・林業事業体版の標準仕様（データ）においては、上記に加え、以下の基準も念頭に置き仕様を分別している。

基本仕様：既存の森林情報からデータを取り入れられるもの

推奨仕様：独自にデータを取得する必要のあるもの

さらに、木材需要者が求める森林情報の標準仕様の分別基準は、以下の通りである。

基本仕様：データ受領側の視点から最低限必要となるデータ
　　容易に作成が可能なデータ

推奨仕様：搭載することが望ましいデータ
　　作成に高コストを要する、または高度なシステムを要求するデータ

１.６.２ システムの標準仕様のレベル分け

システムにおける標準仕様の分別基準は、以下の通りである。

基本仕様：基本仕様のデータを取扱う際に必要な要件
　　森林情報を取扱うシステムが最低限備えておくべき要件

推奨仕様：推奨仕様のデータを取扱う際に必要な要件
　　発展的に森林情報を活用する際に必要な要件

１．７ 標準仕様準拠チェックシートによる評価

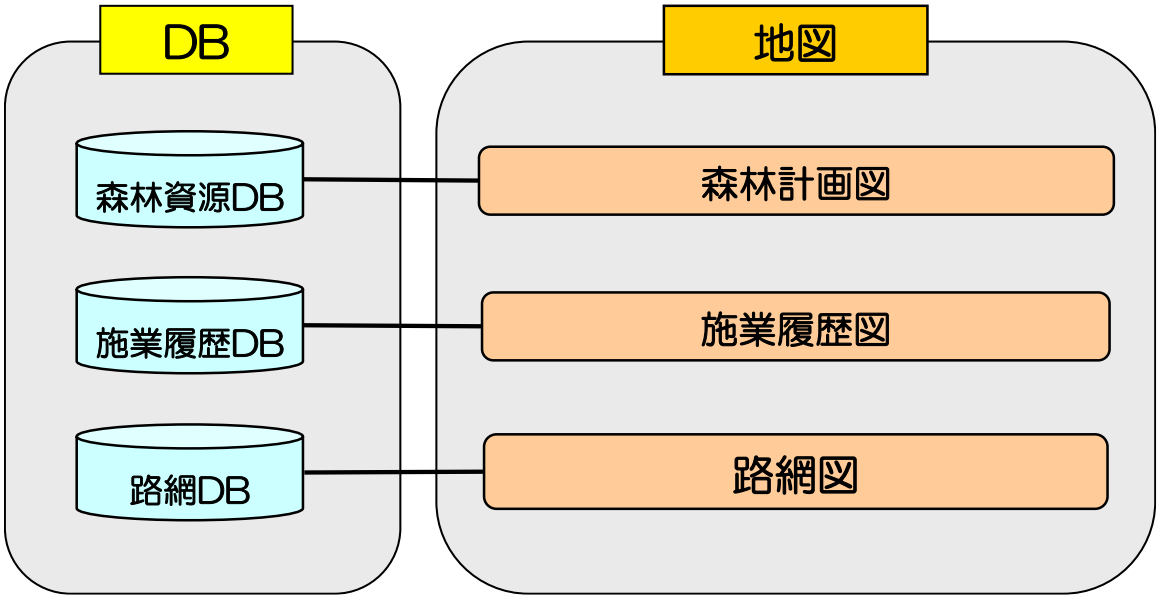
標準仕様を採用したシステムを評価する場合、標準仕様で定める内容は多岐に渡るため、実際にどの程度標準仕様の詳細内容に合致しているかを判定することが必要となる。本標準仕様では、システム構築を発注する事業者と受注者が相互に標準仕様への準拠状況を確認するため、「標準仕様準拠チェックシート」を作成している。標準仕様の採用者は、これを利用して各データ・システムの標準仕様への準拠状況を把握することができる。

第２章 標準仕様（都道府県版）

２．１ 標準仕様の概要

２.１.１ 数値情報と地図情報

- 地図情報には、「数値属性情報に対応した地図情報」と「その他地図情報」がある。
- 数値情報を持つ各データベース（以下 DB）に対して、地図情報が以下の通り対応している。
- 数値情報と地図情報のリンクは、各 DB の主キーとなる情報を組み合わせたリンクキーを用いて行う。



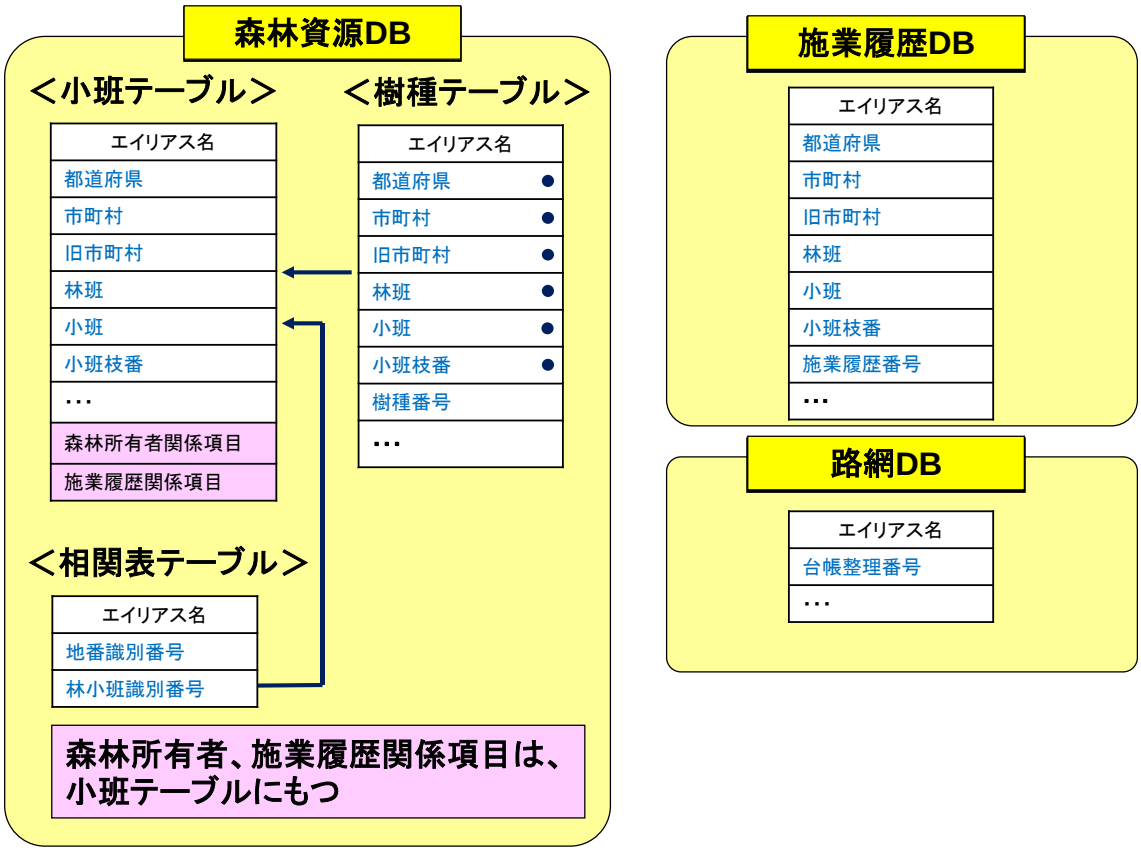
２.１.２ データベース構造

都道府県版標準仕様の DB は森林資源 DB、施業履歴 DB、路網 DB の独立した３つの DB に分けられる。

その構造は、基本仕様と推奨仕様とで異なる。

◎ 基本仕様

- 森林資源 DB は、小班テーブルと樹種テーブル、相関表テーブルの 3 テーブルのリレーショナルデータベースとする。相関表テーブルの定義については、「林地台帳及び地図整備マニュアル」に記載されている「林地台帳のデータ定義」に従う。
- 小班テーブルを参照する外部キーは、都道府県・市町村（・旧市町村）・林班・小班群・小班・小班枝番とする。

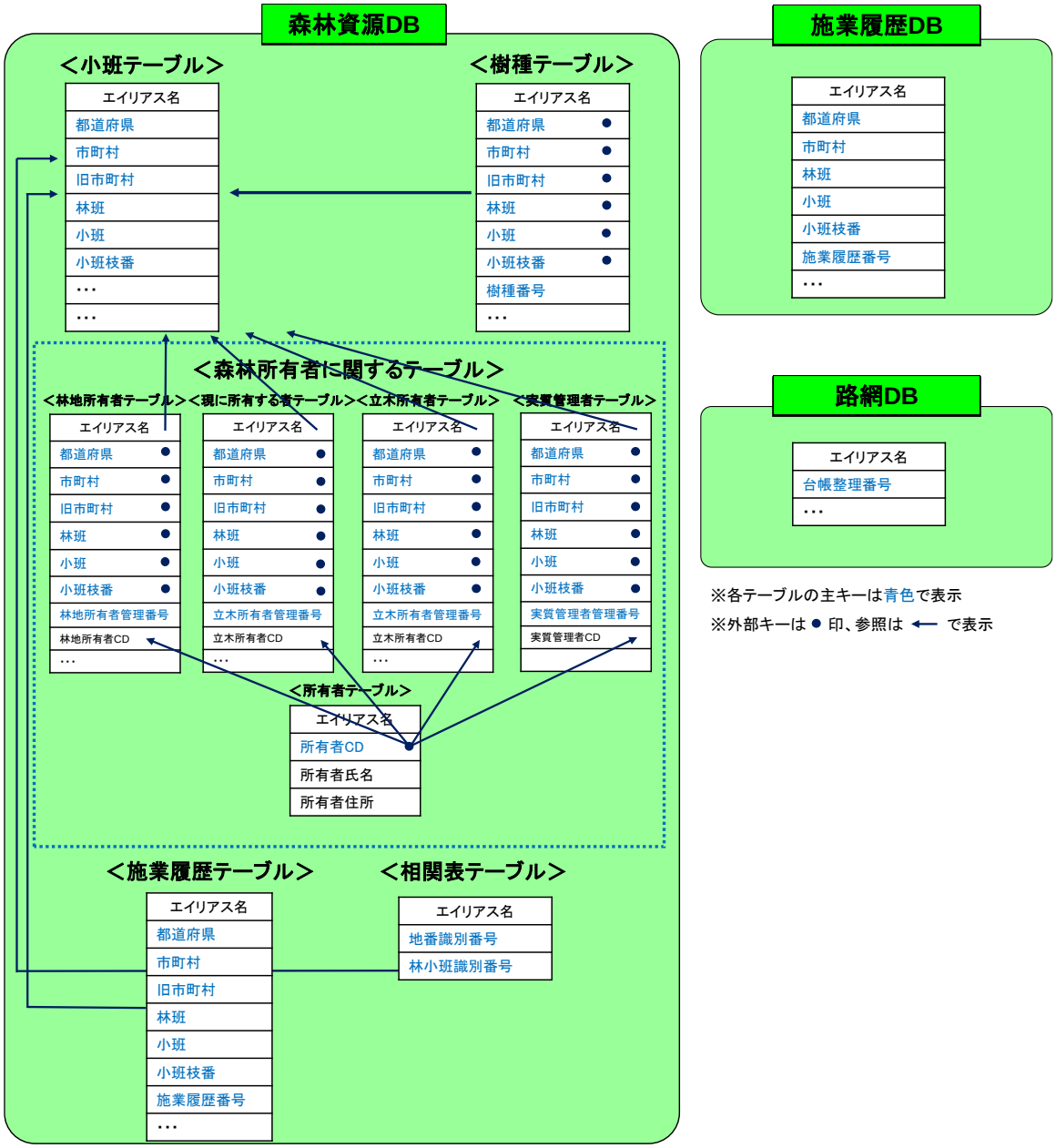


※各テーブルの主キーは青色で表示

※外部キーは ● 印、参照は ← で表示

◎ 推奨仕様

- 森林資源 DB は、小班テーブル・樹種テーブル・森林所有者に関するテーブル（林地所有者テーブル・現に所有する者テーブル・立木所有者テーブル・実質管理者テーブル・所有者テーブル）・施業履歴テーブル、相関表テーブルの 9 テーブルのリレーショナルデータベースとする。相関表テーブルの定義については、「林地台帳及び地図整備マニュアル」に記載されている「林地台帳のデータ定義」に従う。
- 基本仕様と同じく、小班テーブルを参照する外部キーは、都道府県、市町村、（旧市町村）、林班、小班、小班枝番とする。



２.１.３ データベース項目の略称

データベース項目の中には名称の長いものがあり、閲覧する際に不便であることが想定されるため、全ての項目において略称を設定し、閲覧の際にはこの略称を利用可能とした。

各項目の略称は、別途データベース一覧表に記載している。

２.１.４ データベース項目の重要項目

標準仕様のデータベースにおいては、データの項目数が多いため各データベースの中で重要項目を設定し、データ項目の重要性を判断する際の目安とした。

重要項目に該当しない項目は、システムにおけるデータ表示の際に非表示とすることが可能となるよう、システムの標準仕様において定めた。また、非表示項目はユーザーが任意の操作をすることで、表示されることも同様にシステムの標準仕様に定めた。

なお、実際に非表示にする項目やその表示方法は、ユーザーとシステム事業者で決めることとする。

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

２．２ 森林資源情報（森林所有者情報含む）

２.２.１ 概要

◎ 林班・小班・枝番

- 管理単位は、「地域森林計画及び国有林の地域別の森林計画に関する事務の取り扱いの運用について」(平成 25 年 3 月 29 日付け 24 林整計第 323 号林野庁長官通知）に定める通り、「林班」－「小班群」－「小班」－「小班枝番」とする。
- 都道府県によっては、管理単位の名称が異なる場合があり、運用上避けられない場合は、各都道府県の区分に合わせて名前を変更する。
  ただし概念は変えない。
- 小班が小班群（準林班)、施業番号などが小班（枝番）を意味している場合は、小班→小班群、施業番号→小班、施業番号枝番→小班枝番、等にデータ変換する。
- 管理単位が「林班」－「地番」－「地番枝番」となっている場合は、地番→小班、地番枝番→小班枝番にデータ変換する。

◎ 林班界・小班界・枝番界（森林計画図）

＜位置精度＞

- 森林計画図の位置精度は、縮尺 5,000 分の 1 とする。

＜内容＞

- 地図データの位置精度を保つためには、データ入力の基資料となる紙図面の縮尺も、5,000 分の 1 とする必要がある。
  （特に所有界の意味合いも持つ小班界データを作成する場合）

◎ 樹種レコード

- 1 つの小班レコードに、樹種レコードを 3 つまでリンク可能とする。
- 基本的には、1 小班（枝番）レコードに 1 樹種レコードとし、混交林等の場合に複数樹種を含むこととする。

◎ 地図情報

＜リンクキー＞

- 森林資源データベースと地図(森林計画図)データはリンクキーでリンクする。
- リンクキーは数値 22 桁。
  （都道府県（2 桁）＋市町村（4 桁）＋旧市町村（4 桁）＋林班（4 桁）＋小班群（2 桁）＋小班（4 桁）＋小班枝番（2 桁))

＜留意事項＞

- 小班ポリゴンを持たず、地番ポリゴンで管理している都道府県(「林班」－(「小

班群・準林班」）－「地番」－「地番支番」）については、地番ポリゴンを小班ポリゴンに置き換えて運用する。この場合、地番とは独立した小班番号を振り直す。

２.２.２ 基本仕様

（１） 小班テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
frst_age_at	林齢データ時点	林齢時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨
dist_code	森林計画区	計画区			H	－	3	－	○		基本・推奨
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2桁	基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4桁	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－		コードは任意（合併前の全国統一コードの使用を推奨）	基本・推奨
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－	－		基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の） コードは任意	基本・推奨
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の） コードは任意	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の） コードは任意；必須入力 枝番なしは、「00」	基本・推奨
oaza_code	大字	大字		○	H	－	50	－		コードは任意 複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
aza_code	字	字		○	H	－	50	－		コードは任意 複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
honban	地番本番	地番本番		○	H	－	10	－	－	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
shiban	地番支番	地番支番		○	H	－	10	－	－	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
own_form	所有形態	所有形態			H		2		○		基本・推奨
absentee_holder	所有者の在村・不在村	在村			H	－	1	－	○	現に所有する者の在村・不在村	基本・推奨
frstlandowner_name	林地所有者　氏名・名称	林所有者氏名			X	－	100	－	－		基本仕様のみ
frstlandowner_address	林地所有者　住所	林所有者住所			X	－	100	－	－		基本仕様のみ
joint_frstlandowner	林地所有者　共有有無	林所有者共有			9	－	1	－	○		基本仕様のみ
holder_name	現に所有している者　氏名・名称	現所有者氏名			X	－	100	－	－		基本仕様のみ
holder_address	現に所有している者　住所	現所有者住所			X	－	100	－	－		基本仕様のみ
joint_holder	現に所有している者　共有有無	現所有者共有			9	－	1	－	○		基本仕様のみ
frst_type	森林の種類	森林種類		○	H	－	2	－	○	第1から第5まで持つこととする。	基本・推奨
syohan_area	小班面積	小班面積		○	9	ha	3	第2位	－		基本・推奨
logging_method	伐採の方法等	伐採方法			H	－	1	－	○		基本・推奨
regenaration_method	更新の方法等	更新方法			H	－	1	－	○		基本・推奨
public_functions	公益的機能別施業森林等区分	公益的区分		○	H	－	1	－	○	第1から第5まで持つこととする。	基本・推奨
treatment_methods	公益的機能別施業森林等施業方法	公益的施業		○	H	－	1	－	○	第1から第3まで持つこととする。	基本・推奨
KeieiUmu	森林経営計画認定の有無コード	認定有無		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
NinteiSyu	森林経営計画認定者の種類コード	認定者		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
NtyYM	森林経営計画認定年月	認定年月		○	D	－	－	－	－		基本・推奨
proceeds_sharing_frst	分収林	分収林			H	－	1	－	○		基本・推奨
last_logging_type	直近施業種（間伐・主伐）	直近伐採種			H	－	2	－	○		基本・推奨
last_logging_year	直近施業実施年度（間伐・主伐）	直近伐採年			H	－	4	－	－	西暦年度で記載	基本・推奨
last_logging_area	直近施業面積（間伐・主伐）	直近伐採面積			9	ha	5	第2位	－		基本・推奨
last_affrstation_type	直近施業種（造林・保育）	直近造林保育種			H	－	2	－	○		基本・推奨
last_affrstation_year	直近施業実施年度（造林・保育）	直近造林保育年			H	－	4	－	－	西暦年度で記載	基本・推奨
last_affrstation_area	直近施業面積（造林・保育）	直近造林保育面積			9	ha	5	第2位	－		基本・推奨
frst_to_be_thinned_out	要間伐森林	要間伐			H	－	1	－	○		基本・推奨
urbanization_area	市街化区域	市街化			H	－	1	－	○		基本・推奨
zyugai_control_area	鳥獣害防止森林区域	鳥獣害		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
frst_certification_type	森林認証の種類	認証種類			H	－	1	－	○		基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨
remarks	備考	備考			X	－	100	－	－		基本・推奨

○テーブルのデータ定義内容

【フィールド名】半角英数

【エイリアス名】データ項目の内容を表す。日本語

【キー】各テーブルの主キーに関するフィールド

【必須】テーブル内で入力が必須となるフィールド

【重要項目】データの中で重要性の高いフィールド

【データ型】「9」数字形式（半角）、「H」半角文字列形式（全角不可）、「X」全角文字列形式（半角不可）、「D」日付形式（半角　9999/99/99形式）

【単位】フィールドに単位がある場合に記載

【桁数】フィールドの値の入力桁数

【小数点】フィールドの値が小数部分を持つ場合、小数部分の位を記載

【コード表】コード表がある場合に○

【仕様区分】本標準仕様で定める基本仕様・推奨仕様の区分。

ア　　林齢データ時点

内容　　：林齢の算定基準となる年月日(例：2015 年 4 月 1 日)

作成・更新に関するシステム要件：

年次更新を行った際に、自動で 1 年繰り上がる。

イ　　森林計画区

コード表：次表の通り

コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称
001	渡島檜山	031	磐城	061	山梨東部	091	円山川	121	肱川
002	後志胆振	032	阿武隈川	062	富士川上流	092	大和・木津川	122	中予山岳
003	胆振東部	033	会津	063	富士川中流	093	北山・十津川	123	南予
004	日高	034	奥久慈	064	千曲川下流	094	吉野	124	嶺北仁淀
005	石狩空知	035	八溝多賀	065	中部山岳	095	紀南	125	四万十川
006	上川南部	036	水戸那珂	066	千曲川上流	096	紀北	126	高知
007	上川北部	037	霞ヶ浦	067	伊那谷	097	紀中	127	安芸
008	留萌	038	那珂川	068	木曽谷	098	日野川	128	遠賀川
009	宗谷	039	鬼怒川	069	宮・庄川	099	天神川	129	福岡
010	網走西部	040	渡良瀬川	070	飛騨川	100	千代川	130	筑後・矢部川
011	網走東部	041	利根上流	071	長良川	101	江の川下流	131	佐賀東部
012	釧路根室	042	吾妻	072	揖斐川	102	斐伊川	132	佐賀西部
013	十勝	043	利根下流	073	木曽川	103	隠岐	133	長崎北部
014	津軽	044	西毛	074	静岡	104	高津川	134	長崎南部
015	東青	045	埼玉	075	富士	105	高梁川下流	135	五島壱岐
016	下北	046	千葉北部	076	伊豆	106	旭川	136	対馬
017	三八上北	047	千葉南部	077	天竜	107	吉井川	137	白川・菊池川
018	馬淵川上流	048	多摩	078	尾張西三河	108	高梁川上流	138	緑川
019	久慈・閉井川	049	伊豆諸島	079	東三河	109	江の川上流	139	球磨川
020	大槌・気仙川	050	神奈川	080	伊賀	110	太田川	140	天草
021	北上川上流	051	下越	081	北伊勢	111	瀬戸内	141	大分北部
022	北上川中流	052	中越	082	南伊勢	112	山口	142	大分中部
023	宮城北部	053	上越	083	尾鷲熊野	113	岩徳	143	大分南部
024	宮城南部	054	佐渡	084	湖北	114	豊田	144	大分西部
025	米代川	055	神通川	085	湖南	115	萩	145	五ヶ瀬川
026	雄物川	056	庄川	086	由良川	116	吉野川	146	耳川
027	子吉川	057	能登	087	淀川上流	117	那賀・海部川	147	一ツ瀬川
028	庄内	058	加賀	088	大阪	118	香川	148	大淀川
029	最上村山	059	越前	089	加古川	119	今治松山	149	広渡川
030	置賜	060	若狭	090	揖保川	120	東予	150	北薩
								151	姶良
								152	南薩
								153	大隈
								154	熊毛
								155	奄美大島
								156	沖縄北部
								157	沖縄中南部
								158	宮古八重山

ウ　　都道府県

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

エ　　市町村

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

オ　　旧市町村

内容　　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目
例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県ごとに独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

カ　　林班

内容　　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、(国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から、) アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

キ　　小班群（準林班）

内容　　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林班）として設定することが出来る。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は、・・・・」の文字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

ク　　小班

内容　　：原則として、所有者別（同一の所有者の所有に係る森林が分離している場合はその森林別）に設定する。この場合において、林況が異なるとき又は施業上特に取り扱いを異にする必要があるときには、さらに林況別又は林分別に細分する。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班から、アラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

ケ　　小班枝番

内容　　：既に設定された小班について、所有者別、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで

管理する。

コ　　大字・字

内容　　：当該レコードの小班（小班枝番）が位置する大字・字

作成方法：市町村毎にコード化し、そのコードを用いて記載する。

森林の所在が大字名と地番で明確になる場合は字名を、逆に字名と地番で明確になる場合は大字名を、それぞれ省略しても構わない。

一つの小班（または小班枝番）に複数の地番が存在する場合、最も面積の大きな地番が属する大字・字を入力する。

サ　　地番（本番・支番）

内容　　：当該レコードの小班（小班枝番）が位置する地番

小班（小班枝番）が複数の地番に位置する場合は、最も重なりの面積が大きな地番とする。

作成方法：該当箇所の地番を半角文字で入力する。

一つの小班（または小班枝番）に複数の地番が存在する場合、最も面積の大きな地番を入力する。

シ　　所有形態

内容　　：林地（土地）の所有者に関する情報

コード表：次表の通り

コード	分類	名称	略称
01	公有林	県有林	県有
02		市町村有林	市町村有
03		その他公有林	他公有
04	私有林	個人	個人
05		共有	共有
06		会社	会社
07		社寺	社寺
08		森林組合	組合
09		学校	学校
10		任意団体	団体
11		公社	公社
12		森林総合研究所	森林総研
13		財産区	財産区
14		その他	その他

ス　　所有者の在村・不在村

内容　　：現に所有する者の在村・不在村に関する情報。

作成方法：各所有者が市町村内に住んでいるかを入力する。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	在村	在村
2	不在村－都道府県内	不内
3	不在村－都道府県外	不外
4	不明	不明

セ　　林地所有者名　氏名・名称

内容　　：林地（土地）の所有者に関する情報

作成方法：全角文字で氏名・名称を記載。一つの小班に複数の林地所有者が存在する場合は原則代表者のみ入力する。

ソ　　林地所有者　住所

内容　　：林地（土地）の所有者に関する情報

作成方法：1 所有者につき、1 件ずつ入力可能とする。

タ　　林地所有者　共有有無

内容　　：林地（土地）の所有者の共有に関する情報

作成方法：共有がある場合は「1」を入力。

チ　　現に所有している者　氏名・名称

内容　　：森林簿・森林の土地所有者届出制度に基づく所有者情報・境界明確化事業等の各種事業などにより得られた、現に所有している者、所有者と見なされる者の情報

作成方法：全角文字の入力項目を設ける。一つの小班に複数の林地所有者が存在する場合は原則代表者のみ入力する。

ツ　　現に所有している者　住所

内容　　：現に所有している者、所有者とみなされる者に関する情報

作成方法：1 所有者につき、1 件ずつ入力可能とする。

テ　　現に所有している者　共有有無

内容　　：現に所有している者、所有者とみなされる者の共有に関する情報

作成方法：共有がある場合は「1」を入力。

ト　　森林の種類

コード表：次表の通り

地図に関するシステム要件：

本項目によって制限林等の主題図（分類図）を作成する場合、その種別とともに、「保安林－保安林以外」のみに大別した分類を可能とする。

留意点　：1 つの小班（または小班枝番）に複数の制限林が指定されている場合があるが、5 つまで入力を可能とする。

（例：森林の種類 1、森林の種類 2、森林の種類 3、・・）

コード	名称	略称
01	普通林	普
11	水源かん養保安林	水かん
12	土砂流出防備保安林	土流
13	土砂崩壊防備保安林	土崩
14	飛砂防備保安林	飛砂
15	防風保安林	防風
16	水害防備保安林	水害
17	潮害防備保安林	潮害
18	干害防備保安林	干害
19	防雪保安林	防雪
20	防霧保安林	防霧
21	雪崩防止保安林	雪崩
22	落石防止保安林	落石
23	防火保安林	防火
24	魚つき保安林	魚つき
25	航行目標保安林	航行
26	保健保安林	保健
27	風致保安林	風致
30	保安施設地区	保施設
31	砂防指定地	砂防
41	国立公園特別地区	国公特
42	国立公園第1種特別地域	国公1
43	国立公園第2種特別地域	国公2
44	国立公園第3種特別地域	国公3
45	国立公園地区分未定地域	国公未
46	国立公園普通地域	国公普

コード	名称	略称
51	国定公園特別保護地区	国公保
52	国定公園第1種特別地域	国定1
53	国定公園第2種特別地域	国定2
54	国定公園第3種特別地域	国定3
55	国定公園地区分未定地域	国定未
56	国定公園普通地域	国定普
61	都道府県立自然公園第1種特別地域	県公1
62	都道府県立自然公園第2種特別地域	県公2
63	都道府県立自然公園第3種特別地域	県公3
64	都道府県立自然公園地区分未定地域	県公未
65	都道府県立自然公園普通地域	県公普
70	原生自然環境保全地域	原生
71	鳥獣保護区特別保護地区	鳥獣
72	都市計画区域風致地区	都市
73	特別母樹林	母樹
74	史跡名勝天然記念物	史跡
75	自然環境保全地区特別地区	自特
76	自然環境保全地区普通地区	自普
77	都道府県自然環境保全地域特別地区	県自特
78	都道府県自然環境保全地域普通地区	県自普
79	緑地保全地区	緑地
80	生息地等保護区内の管理地区	生管
81	生息地等保護区内の監視地区	生監
82	その他	他

ナ　　小班面積

作成・更新に関するシステム要件：

樹種テーブルにおける「樹種面積」は、

「樹種面積」＝「小班面積」×「面積歩合」

とする。

「小班面積」、「樹種面積」、「面積歩合」、のどれかが更新された場合は、残りの項目を再計算する。

樹種テーブルにおける同一「層区分」での「樹種面積」の合計は、本「小班面積」と一致しなければならない。

この際、「面積歩合」の数値と丸め誤差の関係で、「小班面積」と「樹種面積の合計」が一致しない場合は、最も「面積歩合」の大きなレコードの「樹種面積」を増減させて、合致させる。

ニ　　伐採の方法等

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	皆伐	K
2	択伐	T
3	禁伐	N
4	その他	O

ヌ　　更新の方法等

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	新植	S
2	天然下種	T
3	ぼう芽	B
4	更新困難地	K

ネ　　公益的機能別施業森林等区分

コード表：次表の通り

留意点　：それぞれ、一つの小班（または小班枝番）に複数の区分が存在する場合、代表値を 5 つまで入力を可能とする。

（例：公益的機能別施業森林等区分 1、公益的機能別施業森林等区分 2、公益的機能別施業森林等区分 3、・・）

コード	名称	略称
1	水源涵養機能森林	S
2	災害防止･土壌保全機能森林	T
3	快適環境機能森林	K
4	保健文化機能森林	H
5	木材生産機能森林	M
6	その他森林機能森林	Z

ノ　　公益的機能別施業森林等施業方法

コード表：次表の通り

留意点　：一つの小班（または小班枝番）に複数の施業方法が存在する場合、代表値を 3 つまで入力を可能とする。

（例：公益的機能別施業森林等施業方法 1、公益的機能別施業森林等施業方法 2、公益的機能別施業森林等施業方法 3）

コード	名称	略称
1	伐期延長森林	E
2	長伐期施業森林	B
3	複層林施業森林(択伐以外)	F
4	複層林施業森林(択伐)	P
5	特定広葉樹育成森林	I

ハ　　森林経営計画認定の有無コード

内容　　：当該レコードの小班（小班枝番）の森林経営計画の認定情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

ヒ　　森林経営計画認定者の種類コード

内容　　：森林経営計画の認定者の情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	市町村長	市町村長
2	都道府県知事	知事
3	農林水産大臣	大臣

フ　　森林経営計画認定年月

内容　　：森林経営計画の認定年月を記載する。

ヘ　　分収林

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	分収造林	分造
2	分収育林	分育

ホ　　直近施業種（間伐・主伐）

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
01	間伐(切捨)	切捨間
02	間伐(搬出)	搬出間
03	間伐(治山事業)	治山間
11	主伐(皆伐)	皆伐
12	主伐(択伐)	択伐

マ　　直近施業実施年度（間伐・主伐）

内容　　：間伐・主伐の直近施業実施年度を記載

ミ　　直近施業面積（間伐・主伐）

単位　　：ヘクタール（ha）

作成に関するシステム要件：

施業履歴レイヤにおける直近の施業履歴ポリゴンと該当小班ポリゴン（または小班枝番ポリゴン）の重なり面積を求積し、自動入力する。

ム　　直近施業種（造林・保育）

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
21	造林	造林
31	下刈	下刈
32	除伐	除伐
33	つる切り	つる切
34	枝打	枝打
51	鹿ネット設置	鹿ネット
52	ツリーシェルター設置	シェルター

メ　　直近施業年度（造林・保育）

内容　　：造林・保育の直近施業実施年度を記載

モ　　直近施業面積（造林・保育）

作成に関するシステム要件：

施業履歴レイヤにおける直近の施業履歴ポリゴンと、該当小班ポリゴン（または小班枝番ポリゴン）の重なり面積を求積し、自動入力する。

ヤ　　要間伐森林

内容　　：森林経営計画作成時に必要な項目

コード表：次表の通り

作成方法:市町村が定める要間伐森林区域内かどうか(一部でも含まれている場合は「1」)を記載する。

コード	名称	略称
1	要間伐森林	要間
2	要間伐森林外	要間外

ユ　市街化区域

内容　：森林経営計画作成時に必要な項目

コード表：次表の通り

作成方法：市町村が定める市街化区域内かどうか（一部でも含まれている場合は「1」）を記載する。

市街化区域は、市町村が作成する都市計画図から確認が可能である。

コード	名称	略称
1	市街化区域	市街
2	市街化区域外	市街外

ヨ　鳥獣害防止森林区域

内容　：森林法の規定する鳥獣害防止森林区域に関する情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	ニホンジカ	鹿
2	その他	他

ラ　森林認証の種類

内容　：該当小班が取得対象となっている森林認証の種類

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	FSC	FSC
2	SGEC	SGEC
3	その他認証	その他

リ　更新データ時点

内容　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（２） 樹種テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2桁	基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4桁	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－		コードは任意（合併前の全国統一コードの使用を推奨）	基本・推奨
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－			基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意；必須入力 枝番なしは、「00」	基本・推奨
tree_species_number	樹種番号	樹種番号	○	○	H	－	2	－	－		基本・推奨
logging_planned_frst	計画的伐採対象森林の内外の別	伐採対象内外			H	－	1		○		基本・推奨
layer_type	層区分	層区分		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
frst_type	林種	林種		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
treatment_type	施業方法による区分	施業方法区分			H	－	1	－	○		基本・推奨
site_quality	地位級	地位級		○	H	－	1	－	－		基本・推奨
group_of_tree_species	中樹種	中樹種		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
tree_species	樹種	樹種		○	H	－	3	－		コードは任意（都道府県森林簿と同一も可）	基本・推奨
area_ratio	面積歩合	面積歩合		○	9	%	3	－	－		基本・推奨
area_of_each_species	樹種面積	樹種面積		○	9	ha	3	第2位	－		基本・推奨
frst_age	林齢	林齢		○	9	－	3	－	－		基本・推奨
age_class	齢級	齢級			9	－	2	－	－		基本・推奨
crown_density	樹冠疎密度	疎密度			H	－	1	－	○		基本・推奨
average_tree_height	平均樹高	平均樹高		○	9	m	2	第1位	－	基本・推奨仕様で一部算定方法に差異あり	基本・推奨
yield_table_based_volume	ha当たり材積	ha材積		○	9	m^3	4	－	－		基本・推奨
yield_table_based_growth	ha当たり総成長量	ha成長量		○	9	m^3	4	－	－		基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨

ア　　都道府県

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

イ　　市町村

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

ウ　　旧市町村

内容　　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目

例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県毎に独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

エ　　林班

内容　　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、(国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から、) アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

オ　　小班群（準林班）

内容　　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林

班）として設定することができる。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は、・・・・」の文字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

カ　小班

内容　：原則として、所有者別（同一の所有者の所有に係る森林が分離している場合はその森林別）に設定する。この場合において、林況が異なるとき又は施業上特に取り扱いを異にする必要があるときには、さらに林況別又は林分別に細分する。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班から、アラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

キ　小班枝番

内容　：既に設定された小班について、所有者別、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで管理する。

ク　樹種番号

内容　：一つの小班（または小班枝番）レコードに複数の樹種レコードが連結可能なデータベース構造とするため、各樹種レコードを識別するための番号

作成方法：一つの小班（または小班枝番）内の樹種に、1 から順に通し番号を付す。

ケ　計画的伐採対象森林の内外の別

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	内	内
2	外	外

コ　層区分

コード表：次表の通り

留意事項：複層林は樹種テーブル内の「層区分」と「面積歩合」で管理する。
層区分ごとの面積歩合の合計が 100 となる様にする。

コード	名称	略称
1	上層木	上
2	下層木	下

サ　　林種

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	人工林	J
2	天然林	T
3	伐採跡地	A
4	未立木地	M
5	竹林	B

シ　　施業方法による区分

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	育成単層林	S
2	育成複層林	P
3	天然性林	N

作成・更新に関するシステム要件：

1 小班レコードに 2 樹種レコード以上が存在する場合、1 樹種レコードにおいて施業方法による区分が定められると、他の樹種レコードにおける施業方法区分も同一の値が入力・固定される。

ス　　地位級

作成方法：主要樹種について、「地域森林計画及び国有林の地域別の森林計画に関する事務の取り扱いの運用について」(平成 25 年 3 月 29 日付け 24 林整計第 323 号林野庁長官通知)附録第 5 号別添「立地級調査について」に従って調査を行い、記載する。

セ　　中樹種

コード表：次表の通り

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーごとに、中樹種と樹種の対応表を作成し、樹種が更新されれば、中樹種を自動入力する。

地図に関するシステム要件：

樹種に関する検索方法は、「中樹種」区分での検索を基本とする。

主題図における各中樹種のデフォルト色は各ユーザーで定めるが、固定とする。（凡例が存在しない場合でも、分かり易くするため。）一つの小班（小班枝番）に複数の樹種レコードが存在する場合は、最大の面積歩合の樹種レコードを基に、主題図の分類結果を表示する。
また複層林の場合は、下木は別途表示可能とする。(例：ハッチング等を使用)

コード	分類	名称	略称
01	針葉樹	スギ	スギ
02		ヒノキ類	ヒノキ
03		マツ類	マツ
04		カラマツ	カラ
05		トドマツ	トド
06		エゾマツ	エゾ
07		その他N	N
08	広葉樹	クヌギ	クヌギ
09		ナラ類	ナラ
10		ブナ	ブナ
11		その他L	L
12	竹林	タケ	タケ

ソ　　樹種

コード表：各ユーザーが設定

作成方法：コード表は任意に設定するが、これまで各都道府県が調整してきた既存の森林簿と合わせても構わない。

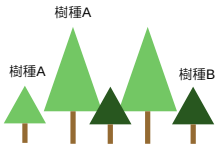
タ　　面積歩合

内容　　：複層林における層区分ごとの樹冠の占有面積割合

単位　　：パーセント（%）

留意事項：複層林は樹種テーブル内の「層区分」と「面積歩合」で管理する。
混交林は樹種テーブル内の「面積歩合」で管理する。
層区分毎の面積歩合の合計が 100 となる様にする。(以下の例を参照)

■複層林の例



＜樹種テーブル（小班面積が10haの場合）＞

樹種番号	樹種	層区分	面積歩合	樹種面積	林齢
1	A	1	100%	10ha	50
2	A	2	33%	3.3ha	20
3	B	2	67%	6.7ha	20

■混交林の例

＜樹種テーブル（小班面積が10haの場合）＞

樹種番号	樹種	層区分	面積歩合	樹種面積	林齢
1	A	1	40%	4ha	50
2	B	1	60%	6ha	20

チ　　樹種面積

作成・更新に関するシステム要件：

「樹種面積」＝「小班面積」×「面積歩合」とする。

「小班面積」、「樹種面積」、「面積歩合」、のどれかが更新された場合は、残りの項目を再計算する。

樹種テーブルにおける同一「層区分」での「樹種面積」の合計は、「小班面積」と一致しなければならない。

この際、「面積歩合」の数値と丸め誤差の関係で、「小班面積」と「樹種面積の合計」が一致しない場合は、最も「面積歩合」の大きなレコードの「樹種面積」を増減させて、合致させる。

ツ　　林齢

作成方法：人工林は、更新（植栽）の年を 1 年生とし、天然林では、林冠を構成する樹木の地上高 20cm の位置の年輪数を基礎として算定する。

複層林等で、層区分毎の林齢が明確な林分は、上層木、下層木に区分して記載する。

作成に関するシステム要件：

上記以外の異齢林の場合、便宜的に林齢範囲の中央値を林齢として自動入力する。

地図に関するシステム要件：

地図上に、林齢とともに植栽年度も表示可能とする。

テ　　齢級

作成に関するシステム要件：

林齢を 5 で除して、小数点第 1 位を繰り上げた数値が自動入力される。

ト　　樹冠疎密度

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
01	疎	疎
02	密	密
03	中	中

ナ　　平均樹高

単位　　：メートル（m）

作成方法：実測（林況調査や森林航測等）による上層木平均樹高（単純平均ではなく上

層木平均であることに留意)、又は樹種・林齢・齢級・地位級等の項目を基に、各都道府県が調製した収穫予想表からのデータを入力する。

ニ　ha 当たり材積

単位　：立方メートル（m^3）

作成方法：当該小班位おける実測値、又は樹種・林齢・齢級・地位級等の項目を基に、各都道府県が調製した収穫予想表からのデータを入力する。

ヌ　ha 当たり総成長量

単位　：立方メートル（m^3）

作成方法：当該小班における実測値、又は樹種・林齢・齢級・地位級等の項目を基に、各都道府県が調製した収穫予想表からのデータを入力する。

ネ　更新データ時点

内容　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

２.２.３ 推奨仕様

（１） 小班テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
frst_age_at	林齢データ時点	林齢時点			D	―	―	―		西暦で記載	基本・推奨
dist_code	森林計画区	計画区			H	―	3	―	○		基本・推奨
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	―	2	―	○	総務省全国地方公共団体コードの上2桁	基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	H	―	4	―	○	総務省全国地方公共団体コードの下4桁	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	―	4	―		コードは任意（合併前の全国統一コードの使用を推奨）	基本・推奨
rinpan	林班	林班	○	○	H	―	4	―			基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	―	2	―		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan	小班	小班	○	○	H	―	4	―		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	―	2	―		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意；必須入力 枝番なしは、「00」	基本・推奨
oaza_code	大字	大字		○	H	－	50	―		コードは任意 複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
aza_code	字	字		○	H	－	50	―		コードは任意 複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
honban	地番本番	地番本番		○	H	―	10	―	―	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
shiban	地番支番	地番支番		○	H	―	10	―	―	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
own_form	所有形態	所有形態			H		2		○		基本・推奨
absentee_holder	所有者の在村・不在村	在村			H	－	1	－	○	現に所有する者の在村・不在村	基本・推奨
frst_type	森林の種類	森林種類		○	H	―	2	―	○	第1から第5まで持つこととする。	基本・推奨
frst_type_range	森林の種類範囲	種類範囲			H	―	1	―	○		推奨仕様のみ
syohan_area	小班面積	小班面積		○	9	ha	3	第2位	―		基本・推奨
logging_method	伐採の方法等	伐採方法			H	―	1	―	○		基本・推奨
regenaration_method	更新の方法等	更新方法			H	―	1	―	○		基本・推奨
public_functions	公益的機能別施業森林等区分	公益的区分		○	H	―	1	―	○	第1から第5まで持つこととする。	基本・推奨
treatment_methods	公益的機能別施業森林等施業方法	公益的施業		○	H	―	1	―	○	第1から第3まで持つこととする。	基本・推奨
KeieiUmu	森林経営計画認定の有無コード	認定有無		○	H	―	2	―	○		基本・推奨
NinteiSyu	森林経営計画認定者の種類コード	認定者		○	H	―	2	―	○		基本・推奨
NtyYM	森林経営計画認定年月	認定年月		○	D	－	－	－	－		基本・推奨
proceeds_sharing_frst	分収林	分収林			H	―	1	―	○		基本・推奨
last_logging_type	直近施業種（間伐・主伐）	直近伐採種			H	―	2	―	○		基本・推奨
last_logging_year	直近施業実施年度（間伐・主伐）	直近伐採年			H	―	4	―	―	西暦年度で記載	基本・推奨
last_logging_area	直近施業面積（間伐・主伐）	直近伐採面積			9	ha	5	第2位	―		基本・推奨
last_affrstation_type	直近施業種（造林・保育）	直近造林保育種			H	―	2	―	○		基本・推奨
last_affrstation_year	直近施業実施年度（造林・保育）	直近造林保育年			H	―	4	―	―	西暦年度で記載	基本・推奨
last_affrstation_area	直近施業面積（造林・保育）	直近造林保育面積			9	ha	5	第2位	―		基本・推奨
woods_to_be_thinned_out	要間伐森林	要間伐			H	―	1	―	○		基本・推奨
urbanization_area	市街化区域	市街化			H	―	1	―	○		基本・推奨
zyugai_control_area	鳥獣害防止森林区域	鳥獣害		○	H	―	1	―	○		基本・推奨
frst_certification_type	森林認証の種類	認証種類			H	―	1	―	○		基本・推奨
syohan_location	小班地利	小班地利			9	m	6	―	―		推奨仕様のみ
syohan_inclination	小班傾斜	小班傾斜			9	°	2	―	―		推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	―	―	―	―	西暦で記載	基本・推奨
remarks	備考	備考			X	―	100	―	―		基本・推奨

ア　　林齢データ時点

内容　　：林齢の算定基準となる年月日

（例：2015 年 4 月 1 日）

作成・更新に関するシステム要件：

年次更新を行った際に、自動で 1 年繰り上がる。

イ　　森林計画区

コード表：次表の通り

コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	名称
001	渡島檜山	031	磐城	061	山梨東部	091	円山川	121	肱川
002	後志胆振	032	阿武隈川	062	富士川上流	092	大和・木津川	122	中予山岳
003	胆振東部	033	会津	063	富士川中流	093	北山・十津川	123	南予
004	日高	034	奥久慈	064	千曲川下流	094	吉野	124	嶺北仁淀
005	石狩空知	035	八溝多賀	065	中部山岳	095	紀南	125	四万十川
006	上川南部	036	水戸那珂	066	千曲川上流	096	紀北	126	高知
007	上川北部	037	霞ヶ浦	067	伊那谷	097	紀中	127	安芸
008	留萌	038	那珂川	068	木曽谷	098	日野川	128	遠賀川
009	宗谷	039	鬼怒川	069	宮・庄川	099	天神川	129	福岡
010	網走西部	040	渡良瀬川	070	飛騨川	100	千代川	130	筑後・矢部川
011	網走東部	041	利根上流	071	長良川	101	江の川下流	131	佐賀東部
012	釧路根室	042	吾妻	072	揖斐川	102	斐伊川	132	佐賀西部
013	十勝	043	利根下流	073	木曽川	103	隠岐	133	長崎北部
014	津軽	044	西毛	074	静岡	104	高津川	134	長崎南部
015	東青	045	埼玉	075	富士	105	高梁川下流	135	五島壱岐
016	下北	046	千葉北部	076	伊豆	106	旭川	136	対馬
017	三八上北	047	千葉南部	077	天竜	107	吉井川	137	白川・菊池川
018	馬淵川上流	048	多摩	078	尾張西三河	108	高梁川上流	138	緑川
019	久慈・閉井川	049	伊豆諸島	079	東三河	109	江の川上流	139	球磨川
020	大槌・気仙川	050	神奈川	080	伊賀	110	太田川	140	天草
021	北上川上流	051	下越	081	北伊勢	111	瀬戸内	141	大分北部
022	北上川中流	052	中越	082	南伊勢	112	山口	142	大分中部
023	宮城北部	053	上越	083	尾鷲熊野	113	岩徳	143	大分南部
024	宮城南部	054	佐渡	084	湖北	114	豊田	144	大分西部
025	米代川	055	神通川	085	湖南	115	萩	145	五ヶ瀬川
026	雄物川	056	庄川	086	由良川	116	吉野川	146	耳川
027	子吉川	057	能登	087	淀川上流	117	那賀・海部川	147	一ツ瀬川
028	庄内	058	加賀	088	大阪	118	香川	148	大淀川
029	最上村山	059	越前	089	加古川	119	今治松山	149	広渡川
030	置賜	060	若狭	090	揖保川	120	東予	150	北薩
								151	姶良
								152	南薩
								153	大隈
								154	熊毛
								155	奄美大島
								156	沖縄北部
								157	沖縄中南部
								158	宮古八重山

ウ　　都道府県コード

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

エ　　市町村コード

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

オ　　旧市町村

内容　　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目

例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県ごとに独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

カ　　林班

内容　　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、(国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から、) アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

キ　　小班群（準林班）

内容　　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林班）として設定することができる。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は、・・・・」の文字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

ク　　小班

内容　　：原則として、所有者別（同一の所有者の所有に係る森林が分離している場合はその森林別）に設定する。この場合において、林況が異なるとき又は施業上特に取り扱いを異にする必要があるときには、さらに林況別又は林分別に細分する。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班から、アラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

ケ　　小班枝番

内容　　：既に設定された小班について、所有者別、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで管理する。

コ　　大字・字

内容　　：当該レコードの小班（小班枝番）が位置する大字・字

作成方法：市町村毎にコード化し、そのコードを用いて記載する。
森林の所在が大字名と地番で明確になる場合は字名を、逆に字名と地番で明確になる場合は大字名を、それぞれ省略しても構わない。

一つの小班（または小班枝番）に複数の地番が存在する場合、最も面積の大きな地番が属する大字・字を入力する。

サ　地番（本番・支番）

内容　：当該レコードの小班（小班枝番）が位置する地番
小班（小班枝番）が複数の地番に位置する場合は、最も重なりの面積が大きな地番とする。

作成方法：該当箇所の地番を半角文字で入力する。
一つの小班（または小班枝番）に複数の地番が存在する場合、最も面積の大きな地番を入力する。

シ　所有形態

内容　：林地（土地）の所有者に関する情報

コード表：次表の通り

コード	分類	名称	略称
01	公有林	県有林	県有
02		市町村有林	市町村有
03		その他公有林	他公有
04	私有林	個人	個人
05		共有	共有
06		会社	会社
07		社寺	社寺
08		森林組合	組合
09		学校	学校
10		任意団体	団体
11		公社	公社
12		森林総合研究所	森林総研
13		財産区	財産区
14		その他	その他

ス　所有者の在村・不在村

内容　：現に所有する者の在村・不在村に関する情報。

作成方法：各所有者が市町村内に住んでいるかを入力する。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	在村	在村
2	不在村－都道府県内	不内
3	不在村－都道府県外	不外
4	不明	不明

セ　　森林の種類

コード表：次表の通り

地図に関するシステム要件：

本項目によって制限林等の主題図（分類図）を作成する場合、その種別とともに、「保安林－保安林以外」のみに大別した分類を可能とする。

留意点　：1 つの小班（または小班枝番）に複数の制限林が指定されている場合があるが、5 つまで入力を可能とする。

（例：森林の種類 1、森林の種類 2、森林の種類 3、・・）

コード	名称	略称
01	普通林	普
11	水源かん養保安林	水かん
12	土砂流出防備保安林	土流
13	土砂崩壊防備保安林	土崩
14	飛砂防備保安林	飛砂
15	防風保安林	防風
16	水害防備保安林	水害
17	潮害防備保安林	潮害
18	干害防備保安林	干害
19	防雪保安林	防雪
20	防霧保安林	防霧
21	雪崩防止保安林	雪崩
22	落石防止保安林	落石
23	防火保安林	防火
24	魚つき保安林	魚つき
25	航行目標保安林	航行
26	保健保安林	保健
27	風致保安林	風致
30	保安施設地区	保施設
31	砂防指定地	砂防
41	国立公園特別地区	国公特
42	国立公園第1種特別地域	国公1
43	国立公園第2種特別地域	国公2
44	国立公園第3種特別地域	国公3
45	国立公園地区分未定地域	国公未
46	国立公園普通地域	国公普

コード	名称	略称
51	国定公園特別保護地区	国公保
52	国定公園第1種特別地域	国定1
53	国定公園第2種特別地域	国定2
54	国定公園第3種特別地域	国定3
55	国定公園地区分未定地域	国定未
56	国定公園普通地域	国定普
61	都道府県立自然公園第1種特別地域	県公1
62	都道府県立自然公園第2種特別地域	県公2
63	都道府県立自然公園第3種特別地域	県公3
64	都道府県立自然公園地区分未定地域	県公未
65	都道府県立自然公園普通地域	県公普
70	原生自然環境保全地域	原生
71	鳥獣保護区特別保護地区	鳥獣
72	都市計画区域風致地区	都市
73	特別母樹林	母樹
74	史跡名勝天然記念物	史跡
75	自然環境保全地区特別地区	自特
76	自然環境保全地区普通地区	自普
77	都道府県自然環境保全地域特別地区	県自特
78	都道府県自然環境保全地域普通地区	県自普
79	緑地保全地区	緑地
80	生息地等保護区内の管理地区	生管
81	生息地等保護区内の監視地区	生監
82	その他	他

ソ　　森林の種類範囲

コード表：次表の通り

作成・更新に関するシステム要件：

都道府県において、各制限林を所管する部署が、制限林ポリゴンデータを作成する。小班データ（地図）の更新時に、上記制限林ポリゴンと当該小班ポリゴンをオーバーレイし、その重なり具合で、該当コードが自動入力される。

留意点　：それぞれの森林の種類に対応したコードを、1 レコードに 5 つまで搭載可能とする。

（例：森林の種類範囲 1、森林の種類範囲 2、森林の種類範囲 3、・・）

コード	名称	略称
1	全域制限林	全域
2	一部制限林	一部
3	制限林なし	無し

タ　　小班面積

作成・更新に関するシステム要件：

樹種テーブルにおける「樹種面積」は、

「樹種面積」＝「小班面積」×「面積歩合」

とする。

「小班面積」、「樹種面積」、「面積歩合」、のどれかが更新された場合は、残りの項目を再計算する。

樹種テーブルにおける同一「層区分」での「樹種面積」の合計は、本「小班面積」と一致しなければならない。

この際、「面積歩合」の数値と丸め誤差の関係で、「小班面積」と「樹種面積の合計」が一致しない場合は、最も「面積歩合」の大きなレコードの「樹種面積」を増減させて、合致させる。

チ　　伐採の方法等

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	皆伐	K
2	択伐	T
3	禁伐	N
4	その他	O

ツ　　更新の方法等

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	新植	S
2	天然下種	T
3	ぼう芽	B
4	更新困難地	K

テ　　公益的機能別施業森林等区分

コード表：次表の通り

留意点　：それぞれ、一つの小班（または小班枝番）に複数の区分が存在する場合、代表値を 5 つまで入力を可能とする。

（例：公益的機能別施業森林等区分 1、公益的機能別施業森林等区分 2、公益的機能別施業森林等区分 3、・・）

コード	名称	略称
1	水源涵養機能森林	S
2	災害防止・土壌保全機能森林	T
3	快適環境機能森林	K
4	保健文化機能森林	H
5	木材生産機能森林	M
6	その他森林機能森林	Z

ト　　公益的機能別施業森林等施業方法

コード表：次表の通り

留意点　：一つの小班（または小班枝番）に複数の施業方法が存在する場合、代表値を 3 つまで入力を可能とする。

（例：公益的機能別施業森林等施業方法 1、公益的機能別施業森林等施業方法 2、公益的機能別施業森林等施業方法 3）

コード	名称	略称
1	伐期延長森林	E
2	長伐期施業森林	B
3	複層林施業森林（択伐以外）	F
4	複層林施業森林（択伐）	P
5	特定広葉樹育成森林	I

ト　　森林経営計画認定の有無コード

内容　　：当該レコードの小班（小班枝番）の森林経営計画の認定情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

ナ　　森林経営計画認定者の種類コード

内容　　：森林経営計画の認定者の情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	市町村長	市町村長
2	都道府県知事	知事
3	農林水産大臣	大臣

ニ　　森林経営計画認定年月

内容　　：森林経営計画の認定年月を記載する。

ヌ　　分収林

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	分収造林	分造
2	分収育林	分育

ネ　　直近施業種（間伐・主伐）

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
01	間伐(切捨)	切捨間
02	間伐(搬出)	搬出間
03	間伐(治山事業)	治山間
11	主伐(皆伐)	皆伐
12	主伐(択伐)	択伐

ノ　　直近施業実施年度（間伐・主伐）

内容　　：間伐・主伐の直近施業実施年度を記載する。

ハ　　直近施業面積（間伐・主伐）

単位　　：ヘクタール（ha）

作成に関するシステム要件：

施業履歴レイヤにおける直近の施業履歴ポリゴンと、該当小班ポリゴン（または小班枝番ポリゴン）の重なり面積を GIS で算出する。

ヒ　　直近施業種（造林・保育）

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
21	造林	造林
31	下刈	下刈
32	除伐	除伐
33	つる切り	つる切
34	枝打	枝打
51	鹿ネット設置	鹿ネット
52	ツリーシェルター設置	シェルター

Copyright © 2021 森林 GIS フォーラム

フ　　直近施業実施年度（造林・保育）

内容　　：造林・保育の直近施業実施年度を記載する。

ヘ　　直近施業面積（造林・保育）

単位　　：ヘクタール（ha）

作成に関するシステム要件：

施業履歴レイヤにおける直近の施業履歴ポリゴンと、該当小班ポリゴン（または小班枝番ポリゴン）の重なり面積を GIS で算出する。

ホ　　要間伐森林

内容　　：森林経営計画作成時に必要な項目

コード表：次表の通り

作成方法:市町村が定める要間伐森林区域内かどうか(一部でも含まれている場合は「1」)を記載する。

コード	名称	略称
1	要間伐森林	要間
2	要間伐森林外	要間外

マ　　市街化区域

内容　　：森林経営計画作成時に必要な項目

コード表：次表の通り

作成方法：市町村が定める市街化区域内かどうか（一部でも含まれている場合は「1」）を記載する。

市街化区域は、市町村が作成する都市計画図から確認が可能である。

コード	名称	略称
1	市街化区域	市街
2	市街化区域外	市街外

ミ　　鳥獣害防止森林区域

内容　　：森林法の規定する鳥獣害防止森林区域に関する情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	ニホンジカ	鹿
2	その他	他

ム　　森林認証の種類

内容　　：該当小班が取得対象となっている森林認証の種類

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	FSC	FSC
2	SGEC	SGEC
3	その他認証	その他

メ　　小班地利

内容　　：木材搬出用の 10T トラックが通行可能な路網からの距離の小班内平均値
（従来の地利級とは異なる概念）

単位　　：メートル（m）　（10m 刻み）

作成・更新に関するシステム要件：

基礎となる地利データとして、10T トラックが通行可能な路網からの距離を算定した 10m メッシュデータを作成する。

データ作成・更新時に、小班ポリゴンと上記地利データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の地利データの平均値が、10m 単位で自動入力される。

小班ポリゴン、公道データ（後述）、林業用路網データ（後述）のいずれが更新された場合に、上記処理を実施する。

モ　　小班傾斜

内容　　：小班内の傾斜の平均値

単位　　：度（°）　（5°刻み）

作成・更新に関するシステム要件：

基礎となる 10m メッシュの傾斜データを作成する。

データ作成・更新時に、小班ポリゴンと傾斜データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の傾斜の平均値が 5 度刻みで、小班傾斜欄に自動入力される。

小班ポリゴン、傾斜データいずれかが更新された場合に、上記処理を実施する。

ヤ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（2） 樹種テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2桁	基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4桁	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－		コードは任意（合併前の全国統一コードの使用を推奨）	基本・推奨
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－			基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意；必須入力 枝番なしは、「00」	基本・推奨
tree_species_number	樹種番号	樹種番号	○	○	H	－	2	－			基本・推奨
logging_planned_frst	計画的伐採対象森林の内外の別	伐採対象内外			H	－	1		○		基本・推奨
layer_type	層区分	層区分		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
frst_type	林種	林種		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
treatment_type	施業方法による区分	施業方法区分			H	－	1	－	○		基本・推奨
site_quality	地位級	地位級		○	H	－	1	－	－		基本・推奨
group_of_tree_species	中樹種	中樹種		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
tree_species	樹種	樹種		○	H	－	3	－		コードは任意（都道府県森林簿と同一も可）	基本・推奨
variety	品種	品種			H	－	2	－	○	コードは任意	推奨仕様のみ
area_ratio	面積歩合	面積歩合		○	9	%	3	－	－		基本・推奨
area_of_each_species	樹種面積	樹種面積		○	9	ha	3	第2位	－		基本・推奨
frst_age	林齢	林齢		○	9	－	3	－	－		基本・推奨
frst_age_up	林齢範囲上	林齢上			9	－	3	－	－		推奨仕様のみ
frst_age_down	林齢範囲下	林齢下			9	－	3	－	－		推奨仕様のみ
age_class	齢級	齢級			9	－	2	－	－		基本・推奨
crown_density	樹冠疎密度	疎密度			H	－	1	－	○		基本・推奨
average_tree_height	平均樹高	平均樹高		○	9	m	2	第1位	－	基本・推奨仕様で一部算定方法に差異あり	基本・推奨
trees_count	ha当たり立木本数	ha本数			9	本	5	－			推奨仕様のみ
trees_count_date	ha当たり立木本数査定年月日	本数調査日			D	－	－	－		西暦で記載	推奨仕様のみ
volume	ha当たり材積	ha材積		○	9	m^3	4	－	－		基本・推奨
growth	ha当たり総成長量	ha成長量		○	9	m^3	4	－	－		基本・推奨
tree_height_assay_date	樹高査定年月日	樹高査定日			9	m	2	第1位	－	40年生時の樹高	推奨仕様のみ
relative_location	相対地位	相対地位			H	－	1	－		区分はユーザーによって定める	推奨仕様のみ
yield_table_based_volume	ha当たり査定材積－収穫表	ha査定材積			9	m^3	4	－	－		推奨仕様のみ
yield_table_based_growth	ha当たり査定成長量－収穫表	ha査定成長量			9	m^3	4	－	－		推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨

ア　　都道府県

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

イ　　市町村

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

ウ　　旧市町村

内容　　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目

例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県毎に独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

エ　　林班

内容　　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、（国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から、）アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

オ　　小班群（準林班）

内容　　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林班）として設定することができる。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は、・・・・」の文字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

カ　　小班

内容　　：原則として、所有者別（同一の所有者の所有に係る森林が分離している場合はその森林別）に設定する。この場合において、林況が異なるとき又は施業上特に取り扱いを異にする必要があるときには、さらに林況別又は林分別に細分する。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班から、アラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

キ　　小班枝番

内容　　：既に設定された小班について、所有者別、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで管理する。

ク　　樹種番号

内容　　：一つの小班（または小班枝番）レコードに複数の樹種レコードが連結可能なデータベース構造とするため、各樹種レコードを識別するための番号

作成方法：一つの小班（または小班枝番）内の樹種に、1 から順に通し番号を付す。

ケ　　計画的伐採対象森林の内外の別

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	内	内
2	外	外

コ　　層区分

コード表：次表の通り

留意事項：複層林は樹種テーブル内の「層区分」と「面積歩合」で管理する。
層区分ごとの面積歩合の合計が 100 となる様にする。

コード	名称	略称
1	上層木	上
2	下層木	下

サ　林種

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	人工林	J
2	天然林	T
3	伐採跡地	A
4	未立木地	M
5	竹林	B

シ　施業方法による区分

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	育成単層林	S
2	育成複層林	P
3	天然性林	N

作成・更新に関するシステム要件：
1 小班レコードに 2 樹種レコード以上が存在する場合、1 樹種レコードにおいて施業方法による区分が定められると、他の樹種レコードにおける施業方法区分も同一の値が入力・固定される。

ス　地位級

作成方法：主要樹種について、「地域森林計画及び国有林の地域別の森林計画に関する事務の取り扱いの運用について」(平成 25 年 3 月 29 日付け 24 林整計第 323 号林野庁長官通知)附録第 5 号別添「立地級調査について」に従って調査を行い、記載する。

セ　中樹種

コード表：次表の通り

作成・更新に関するシステム要件：
ユーザーごとに、中樹種と樹種の対応表を作成し、樹種が更新されれば、中

樹種を自動入力する。

地図に関するシステム要件：

樹種に関する検索方法は、「中樹種」区分での検索を基本とする。

主題図における各中樹種のデフォルト色は各ユーザーで定めるが、固定とする。（凡例が存在しない場合でも、分かり易くするため。）

（小班枝番）に複数の樹種レコードが存在する場合は、最大の面積歩合の樹種レコードを基に、主題図の分類結果を表示する。

また複層林の場合は、下木は別途表示可能とする。（例：ハッチング等を使用）

コード	分類	名称	略称
01	針葉樹	スギ	スギ
02		ヒノキ類	ヒノキ
03		マツ類	マツ
04		カラマツ	カラ
05		トドマツ	トド
06		エゾマツ	エゾ
07		その他N	N
08	広葉樹	クヌギ	クヌギ
09		ナラ類	ナラ
10		ブナ	ブナ
11		その他L	L
12	竹林	タケ	タケ

ソ　樹種

コード表：各ユーザーが設定

作成方法：コード表は任意に設定するが、これまで各都道府県が調整してきた既存の森林簿と合わせても構わない。

タ　品種

コード表：各ユーザーが任意に設定する。

チ　面積歩合

内容　：複層林における層区分ごとの樹冠の占有面積割合

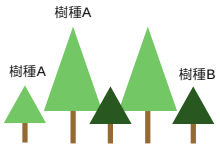
単位　：パーセント（%）

留意事項：複層林は樹種テーブル内の「層区分」と「面積歩合」で管理する。

混交林は樹種テーブル内の「面積歩合」で管理する。

層区分毎の面積歩合の合計が 100 となる様にする。

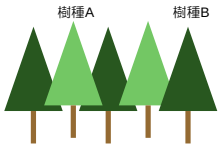
■複層林の例



＜樹種テーブル（小班面積が10haの場合）＞

樹種番号	樹種	層区分	面積歩合	樹種面積	林齢
1	A	1	100%	10ha	50
2	A	2	33%	3.3ha	20
3	B	2	67%	6.7ha	20

■混交林の例



＜樹種テーブル（小班面積が10haの場合）＞

樹種番号	樹種	層区分	面積歩合	樹種面積	林齢
1	A	1	40%	4ha	50
2	B	1	60%	6ha	20

ツ　　樹種面積

作成・更新に関するシステム要件：

「樹種面積」＝「小班面積」×「面積歩合」とする。

「小班面積」、「樹種面積」、「面積歩合」、のどれかが更新された場合は、残りの項目を再計算する。

樹種テーブルにおける同一「層区分」での「樹種面積」の合計は、「小班面積」と一致しなければならない。

この際、「面積歩合」の数値と丸め誤差の関係で、「小班面積」と「樹種面積の合計」が一致しない場合は、最も「面積歩合」の大きなレコードの「樹種面積」を増減させて、合致させる。

テ　　林齢

作成方法：人工林は、更新（植栽）の年を 1 年生とし、天然林では、林冠を構成する樹木の地上高 20cm の位置の年輪数を基礎として算定する。

複層林等で、層区分毎の林齢が明確な林分は、上層木、下層木に区分して記載する。

作成に関するシステム要件：

上記以外の異齢林の場合、便宜的に林齢範囲の中央値を林齢として自動入力する。

地図に関するシステム要件：

地図上に、林齢とともに植栽年度も表示可能とする。

ト　　林齢範囲上・林齢範囲下

作成に関するシステム要件：

（林齢の区分が明確でない異齢林の場合、）林齢範囲の最高値と最低値を入力すると、その平均値が「林齢」に自動入力される。

逆に（同齢林の場合は）、「林齢」が入力されれば、その数値が「林齢範囲上」

「林齢範囲下」にそれぞれ自動入力される。

ナ　齢級

作成に関するシステム要件：

林齢を 5 で除して、小数点第 1 位を繰り上げた数値が自動入力される。

ニ　樹冠疎密度

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
01	疎	疎
02	密	密
03	中	中

ヌ　平均樹高

内容　：実測（林況調査や森林航測等）による上層木平均樹高
（単純平均ではなく上層木平均であることに留意）

単位　：メートル（m）

作成に関するシステム要件：

算定の基データとして航空レーザ計測成果がラスタないしメッシュポリゴン、単木データ等で与えられた場合、小班ポリゴンとこれらのデータをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の樹高データの平均値が、0.1m単位で自動入力される。

更新に関するシステム要件：

データを年次で更新（翌年度に繰越）する際、「樹種」、「林齢」、並びに「相対地位」（後述）から、各都道府県が調製する樹高成長曲線に基づき、自動更新する。

ネ　ha 当たり立木本数

内容　：小班内の立木本数密度を示す。

単位　：本　（100 本刻み）

作成方法：実測（林況調査や森林航測等）に基づいて記載
伐採等の森林施業や災害によって変化するため、その都度更新する。

作成に関するシステム要件：

算定の基データとして、航空レーザ計測成果がラスタないしメッシュポリゴン、単木データ等で与えられた場合、小班ポリゴンと基データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の立木本数データの総計を小班面積で割り返した値が、100 本刻み（四捨五入）で自動入力される。

ノ　　当たり立木本数査定年月日

作成方法：ha 当たり立木本数の査定（林況調査や森林航測等）を実施した年月日を記載

ハ　　ha 当たり材積

単位　　：立方メートル（m^3）

作成方法：当該小班位おける実測値、又は樹種・林齢・齢級・地位級等の項目を基に、各都道府県が調製した収穫予想表からのデータを入力する。

ヒ　　ha 当たり総成長量

単位　　：立方メートル（m^3）

作成方法：当該小班における実測値、又は樹種・林齢・齢級・地位級等の項目を基に、各都道府県が調製した収穫予想表からのデータを入力する。

フ　　樹高査定年月日

作成方法：樹高の査定（林況調査や森林航測等）を行った年月日を記載する。

ヘ　　相対地位

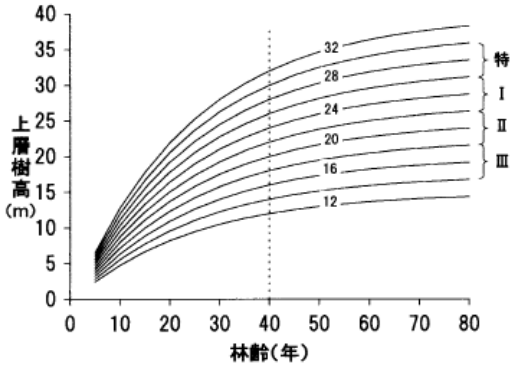
内容　　：該当小班の成長力を等級で示したもの

作成・更新に関するシステム要件：

樹高成長曲線と「相対地位」の関係は、都道府県毎に設定する。

「平均樹高」を作成・更新すると、「樹種」・「林齢」と樹高成長曲線の関係から、「相対地位」を自動入力する。

樹高成長曲線が存在しない樹種に関しては、データは無しとする。



相対地位指数の例（北海道）

ホ　　ha 当たり査定材積―収穫表

内容　　:「樹種」・「林齢」・「相対地位」に基づき、各都道府県が調製した収穫予想表から推定される ha 当たり材積

単位　　：立方メートル（m^3）

作成・更新に関するシステム要件：

「平均樹高」または「林齢」が更新された場合、「樹種」・「林齢」・「相対地位」が該当する収穫予想表の ha 当たり材積を自動入力する。

収穫予想表が存在しない樹種に関しては、別途何らかの基準を設け、自動でデータを入力可能とする。

マ　　ha 当たり成長量―収穫表

内容　　:「樹種」・「林齢」・「相対地位」に基づき、各都道府県の収穫予想表から推定される ha 当たり成長量

単位　　：立方メートル（m^3）

作成・更新に関するシステム要件：

「平均樹高」または「林齢」が更新された場合、「樹種」・「林齢」・「相対地位」が該当する収穫予想表の ha 当たり成長量を自動入力する。

収穫予想表が存在しない樹種に関しては、別途何らかの基準を設け、自動でデータを入力可能とする。

ミ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（３） 林地所有者テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2桁	推奨仕様のみ
city_code	市町村	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4桁	推奨仕様のみ
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－			推奨仕様のみ
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－			推奨仕様のみ
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－			推奨仕様のみ
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－			推奨仕様のみ
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－			推奨仕様のみ
frstlandowner_number	林地所有者管理番号	林所有者番号	○	○	H	－	2	－	－		推奨仕様のみ
frstlandowner_code	林地所有者CD	林所有者CD			H	－	11	－	－	前9桁ランダム＋後2桁都道府県コード 所有者Tの所有者CDを利用	推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	推奨仕様のみ

ア　　都道府県

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

イ　　市町村

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

ウ　　旧市町村

内容　　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目

例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県毎に独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

エ　　林班

内容　　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、(国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から､) アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

オ　　小班群（準林班）

内容　　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林班）として設定することができる。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は､・・・・」の文字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

カ　　小班

内容　　：原則として、所有者別（同一の所有者の所有に係る森林が分離している場合はその森林別）に設定する。この場合において、林況が異なるとき又は施業上特に取り扱いを異にする必要があるときには、さらに林況別又は林分別に細分する。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班から、アラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

キ　　小班枝番

内容　　：既に設定された小班について、所有者別、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで管理する。

ク　　林地所有者管理番号

作成に関するシステム要件：

林地所有者レコードの作成時に、自動採番にて作成される。

ケ　　林地所有者 CD

作成に関するシステム要件：

下 2 桁が都道府県コード、前 9 桁は自動のランダム採番にて作成される。

コ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（4） 現に所有しているもの

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	推奨仕様のみ
city_code	市町村	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4 桁	推奨仕様のみ
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－			推奨仕様のみ
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－			推奨仕様のみ
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－			推奨仕様のみ
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－			推奨仕様のみ
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－			推奨仕様のみ
holder_number	現に所有している者管理番号	現所有者番号	○	○	H	－	2	－	－		推奨仕様のみ
holder_code	現に所有している者CD	現所有者CD			H	－	11	－	－	前9桁ランダム＋後2桁都道府県コード 所有者Tの所有者CDを利用	推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	推奨仕様のみ

ア　　都道府県

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

イ　　市町村

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

ウ　　旧市町村

内容　　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目

例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県毎に独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

エ　　林班

内容　　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、(国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から､) アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

オ　　小班群（準林班）

内容　　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林班）として設定することができる。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は、・・・・」の文字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

カ　小班

内容　：原則として、所有者別（同一の所有者の所有に係る森林が分離している場合はその森林別）に設定する。この場合において、林況が異なるとき又は施業上特に取り扱いを異にする必要があるときには、さらに林況別又は林分別に細分する。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班から、アラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

キ　小班枝番

内容　：既に設定された小班について、所有者別、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで管理する。

ク　現に所有している者管理番号

作成に関するシステム要件：

現に所有している者レコードの作成時に、自動採番にて作成される。

ケ　現に所有している者 CD

作成に関するシステム要件：

下 2 桁が都道府県コード、前 9 桁は自動のランダム採番にて作成される。

コ　更新データ時点

内容　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（5） 立木所有者テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	推奨仕様のみ
city_code	市町村	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4 桁	推奨仕様のみ
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－			推奨仕様のみ
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－			推奨仕様のみ
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－			推奨仕様のみ
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－			推奨仕様のみ
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－			推奨仕様のみ
trees_owner_number	立木所有者管理番号	立所有者番号	○	○	H	－	2	－	－		推奨仕様のみ
trees_owner_code	立木所有者CD	立所有者CD			H	－	11	－	－	前9桁ランダム＋後2桁都道府県コード 所有者Tの所有者CDを利用	推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	推奨仕様のみ

ア　　都道府県

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

イ　　市町村

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

ウ　　旧市町村

内容　　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目
例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県毎に独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

エ　　林班

内容　　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、(国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から､) アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

オ　　小班群（準林班）

内容　　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林班）として設定することができる。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は、・・・・」の文

字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

カ　　小班

内容　　：原則として、所有者別（同一の所有者の所有に係る森林が分離している場合はその森林別）に設定する。この場合において、林況が異なるとき又は施業上特に取り扱いを異にする必要があるときには、さらに林況別又は林分別に細分する。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班から、アラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

キ　　小班枝番

内容　　：既に設定された小班について、所有者別、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで管理する。

ク　　立木所有者管理番号

作成に関するシステム要件：

立木所有者レコードの作成時に、自動採番にて作成される。

ケ　　立木所有者 CD

作成に関するシステム要件：

下 2 桁が都道府県コード、前 9 桁は自動のランダム採番にて作成される。

コ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（6） 実質管理者テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2桁	推奨仕様のみ
city_code	市町村	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4桁	推奨仕様のみ
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－			推奨仕様のみ
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－			推奨仕様のみ
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－			推奨仕様のみ
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－			推奨仕様のみ
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－			推奨仕様のみ
admin_number	実質管理者管理番号	実管理者番号	○	○	H	－	2	－	－		推奨仕様のみ
admin_code	実質管理者CD	実管理者CD			H	－	11	－	－	前9桁ランダム＋後2桁都道府県コード 所有者Tの所有者CDを利用	推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	推奨仕様のみ

ア　　都道府県

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

イ　　市町村

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

ウ　　旧市町村

内容　　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目

例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県毎に独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

エ　　林班

内容　　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、(国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から､) アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

オ　　小班群（準林班）

内容　　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林班）として設定することができる。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は､・・・・」の文字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

カ　　小班

内容　　：原則として、所有者別（同一の所有者の所有に係る森林が分離している場合はその森林別）に設定する。この場合において、林況が異なるとき又は施業上特に取り扱いを異にする必要があるときには、さらに林況別又は林分別に細分する。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班から、アラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

キ　小班枝番

内容　　：既に設定された小班について、所有者別、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで管理する。

ク　実質管理者管理番号

作成に関するシステム要件：

実質管理者レコードの作成時に、自動採番にて作成される。

ケ　実質管理有者 CD

作成に関するシステム要件：

下 2 桁が都道府県コード、前 9 桁は自動のランダム採番にて作成される。

コ　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（7） 所有者テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
owner_code	所有者CD	所有者CD	○	○	H	―	11	―	―		推奨仕様のみ
owner_name	所有者氏名・名称	氏名・名称		○	X	―	100	―	―		推奨仕様のみ
owner_name_kana	氏名・名称カナ	氏名・名称カナ			X	―	100	―	―		推奨仕様のみ
owner_address	所有者住所	所有者住所		○	X	―	100	―	―		推奨仕様のみ
owner_tel	所有者電話番号	所有者電話番号			H	―	11	―	―		推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	―	―	―	―	西暦で記載	推奨仕様のみ

ア　所有者 CD

内容　：「林地所有者テーブル」の林地所有者 CD、「現に所有する者テーブル」の現に所有している者 CD、「立木所有者テーブル」の立木所有者 CD、「実質管理者テーブル」の実質管理者 CD にそれぞれリンクする。

コード表：コードはユーザーが任意に設定する。
前 9 桁はランダム採番、最後の 2 桁は都道府県コード

イ　所有者氏名・名称

作成方法：全角文字で氏名・名称を記載。1 地番レコードに複数の所有者名レコードが存在する場合は、ユーザーが適宜追加する。
（例：所有者 1、所有者 2）

ウ　氏名・名称カナ

作成方法：全角文字で上記所有者の氏名・名称の振り仮名を記載。

エ　所有者住所

作成方法：代表となる 1 所有者につき、2 レコード入力可能とする。

オ　所有者電話番号

作成方法：代表となる 1 所有者につき、2 レコード入力可能とする。

カ　更新データ時点

内容　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：
ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

２.２.４ 森林資源情報（森林所有者情報含む）に係るシステムの標準仕様

都道府県の森林資源情報・森林所有者情報のデータ項目に係るシステムの標準仕様を抜粋し、次表に再掲する。

仕様区分	項目	内容区分	内容区分　詳細	内容
基本・推奨共通	林齢データ時点	データ作成	■データの算出方法	◎年次更新を行った際に、自動で一年繰り上がる。
基本・推奨共通	林班・小班・枝番	データ作成	■データコンバージョン	◎変更すると不都合が生じる等、運用上避けられない場合は、属する都道府県の区分に合わせて名称を変更することを可能とする。ただし概念は変えない。 ◎小班が小班群（準林班）、施業番号などが小班（枝番）を意味している場合は、小班→小班群、施業番号→小班、施業番号枝番→小班枝番に変換する。 ◎管理方法が「林班ー地番ー地番枝番」となっている場合は、地番→小班、地番枝番→小班枝番に変換する。
基本・推奨共通	樹種テーブル	データ作成	■データベース構造 ■データコンバージョン	◎標準仕様を採用する前の基データにおいて、小班テーブル内に樹種テーブルに格納すべき項目が含まれている場合（例：「第１樹種」・「第２樹種」～）は、正規化し、樹種テーブルに分離して管理する。
基本・推奨共通	小班面積・樹種面積	データ作成	■データの算出方法	◎「樹種面積」＝「小班面積」×「面積歩合」とする。 ◎「小班面積」、「樹種面積」、「面積歩合」、のどれかが更新された場合は、残りの項目を再計算する。 ◎樹種テーブルにおける同一「層区分」での「樹種面積」の合計は、「小班面積」と一致しなければならない。 ◎「面積歩合」の数値と丸め誤差の関係で、「小班面積」と「樹種面積の合計」が一致しない場合は、最も「面積歩合」の大きなレコードの「樹種面積」を増減させて、合致させる。
基本	森林所有者	データ作成	■データベース構造	◎小班テーブルの中に含める。 ◎コード化しない。
推奨	所有者テーブル （所有者管理番号 ・所有者CD）	データ作成	■データベース構造 ■コード生成・管理	◎小班テーブルと別テーブルで管理 ◎林地所有者、現に所有する者、立木所有者、実質管理者をそれぞれ別テーブルとする。 ◎コード化する。全11桁（前9桁はランダム採番、最後の2桁は都道府県コード）とする。 ◎所有者管理番号を自動採番する。
基本・推奨共通	公益的機能別施業森林等区分	データ作成	■GISを使用したデータ生成	◎1つの小班（または小班枝番）に複数の制限林が指定されている場合があるが、5つまで入力を可能とする。 （例：公益的機能別施業森林等区分1、公益的機能別施業森林等区分2、・・公益的機能別施業森林等区分5）
基本・推奨共通	中樹種・樹種	データ作成	■データの算出方法	◎ユーザーごとに、中樹種と樹種の対応表を作成し、樹種が入力されれば、中樹種が自動入力される。
基本・推奨共通	林齢	データ作成	■データの算出方法	◎（林齢の区分が明確でない異齢林の場合、）林齢範囲の最高値と最低値を入力すると、その平均値が「林齢」に自動入力される。 ◎（同齢林の場合は）、「林齢」が入力されれば、その数値が「林齢範囲上」「林齢範囲下」にそれぞれ自動入力される。
基本・推奨共通	齢級	データ作成	■データの算出方法	◎齢級は林齢から自動計算する。
推奨	林齢範囲	データ作成		◎（林齢の区分が明確でない異齢林の場合、）林齢範囲の最高値と最低値を入力すると、その平均値が「林齢」に自動入力される。 ◎（同齢林の場合は）、「林齢」が入力されれば、その数値が「林齢範囲上」「林齢範囲下」にそれぞれ自動入力される。
推奨	森林の種類範囲	データ作成	■GISを使用したデータ生成	◎小班データ（地図）の更新時に、制限林ポリゴンと当該小班ポリゴンをオーバーレイし、その重なり具合で、該当コードが自動入力される。
推奨	相対地位	データ作成	■データの算出方法	◎樹高成長曲線と相対地位の関係は、ユーザー毎に設定する。 ◎平均樹高を入力すると、樹種・林齢の関係から、相対地位が自動更新される。 ◎相対地位の算定基準となる樹高成長曲線と相対地位の区分（1等級、2等級等）は、ぞれぞれの都道府県が調整したものを利用する。
推奨	平均樹高	データ作成		◎算定の基データとして航空レーザ計測成果がラスタないしメッシュポリゴン、単木データ等で与えられた場合、小班ポリゴンとこれらのデータをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の樹高データの平均値が、0.1m単位で自動入力される。
推奨	ha当たり立木本数	データ作成		◎算定の基データとして、航空レーザ計測成果がラスタないしメッシュポリゴン、単木データ等で与えられた場合、小班ポリゴンと基データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の立木本数データの総計を小班面積で割り返した値が、100本刻み（四捨五入）で自動入力される。
推奨	ha当たり査定材積-収穫表・ha当たり査定成長量-収穫表	データ作成	■データの算出方法	◎「平均樹高」または「林齢」が更新された場合、「樹種」・「林齢」・「相対地位」が該当する収穫予想表のha当たり材積・成長量が自動更新される。 ◎収穫予想表が存在しない樹種に関しては、別途何らかの基準を設け、自動でデータを入力可能とする。
推奨	小班地利	データ作成	■GISを使用したデータ生成	◎基礎となる地利データとして、10tトラックが通行可能な路網からの距離を算定した10mメッシュデータを作成する。 ◎データ作成・更新時に、小班ポリゴンと上記地利データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の地利データの平均値が、10m単位で自動入力される。 ◎小班ポリゴン、公道データ（後述）、林業用路網データ（同）のいずれが更新された場合、上記処理を実施する。
推奨	小班傾斜	データ作成	■GISを使用したデータ生成	◎基礎となる10mメッシュの傾斜データを作成する。 ◎データ作成・更新時に、小班ポリゴンと傾斜データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の傾斜の平均値が5度刻みで、小班傾斜欄に自動入力される。 ◎小班ポリゴン、傾斜データいずれかが更新された場合、上記処理を実施する。
基本・推奨共通	更新データ時点	データ作成	■データの算出方法	◎データを入力・更新する際に自動入力される。

２．３ 施業履歴情報

２.３.１ 概要

施業履歴情報は、森林資源情報（森林所有者情報を含む）とは別のレイヤとなり、地図データは独自の形状・位置情報を持つ。

施業履歴情報は、都道府県と市町村・林業事業体とで共通の仕様となる。

なお森林資源情報の推奨仕様における施業履歴テーブルは､推奨仕様の施業履歴DBが保有するテーブルと同一である。

◎ 施業履歴区画

- 施業履歴の区画は、施業実施後に実施区域を周囲測量したデータの取得や、小班ポリゴン・地番ポリゴンの取り込み、またはフリーハンドにより作成する。
- 測量した結果のデータは、それらを取扱うシステムにより、様々なデータ形式にて出力されることが想定されるため、それぞれの形式の取り込みに対応する必要がある。

◎ 地図情報

＜数値情報に対応した地図＞

- 施業履歴図

＜データ形式＞

- ベクトル（ポリゴン）

＜リンクキー＞

- 施業履歴 DB と地図データ（施業履歴ポリゴン）はリンクキーでリンクする。
- リンクキーは桁数 24 桁。
  （都道府県（2 桁）＋市町村（4 桁）＋旧市町村（4 桁）＋林班（4 桁）＋小班群（2 桁）＋小班（4 桁）＋小班枝番（2 桁）＋施業履歴番号（2 桁））

＜作成方法＞

- 測量した結果のデータ等、施業箇所が明確である場合は、そのデータを基に作成する。
  施業箇所が明確でない場合は、小班界（又は小班枝番界）又は、（後述する、市町村版森林所有者情報における）地番界を取り込むことで作成する。
  既存の施業箇所が紙図面で存在する場合は、その図面をスキャンして取り込んだ画像データに座標系を設定し、それを基にポリゴンデータを作成する。

＜表示方法＞

- 地図データの表示において、同一箇所に複数の履歴が重なる場合、最新の履歴が上となるように表示する。

２.３.２ 基本仕様

フィールド名	エイリアス名	略称	キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2桁	基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4桁	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－		コードは任意（合併前の全国統一コードの使用を推奨）	基本・推奨
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－			基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の） コードは任意	基本・推奨
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の） コードは任意	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の） コードは任意 必須入力　枝番なしは、「00」	基本・推奨
treatment_number	施業履歴番号	施業番号	○	○	9	－	2	－	－		基本・推奨
treatment_type	施業種	施業種		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
treatment_year	施業実施年度	施業年		○	H	－	4	－	－	西暦年度で記載	基本・推奨
treatment_area	施業面積	施業面積		○	9	ha	3	第2位	－		基本・推奨
polygon_creation_method	施業ポリゴン作成方法	ポリゴン作成法			H	－	2	－	○		基本・推奨
deer_net_length	施業延長	施業延長			H	m	4	－	－	施業が鹿ネット設置の場合のみ	基本・推奨
the_number_of_treeshelter	施業総本数	施業総本数			9	本	5	－	－	施業がツリーシェルター設置の場合のみ	基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨

ア　　都道府県・市町村・旧市町村

内容　　：施業箇所が属する都道府県・市町村・旧市町村

作成方法：施業履歴レコード作成時に、手動で入力する。

イ　　林班・小班群・小班・小班枝番

内容　　：施業箇所の中で最も大きな面積を占める林班・小班群・小班・小班枝番。

作成方法：施業履歴レコード作成時に、手動で入力する。

ウ　　施業履歴番号

内容　　：1 つの小班（または小班枝番）で複数の施業が実施される場合が存在するため、これらを識別するための番号。

作成方法：施業箇所の中で、最も大きな面積を占める小班（または小班枝番）において、1 から順に通し番号を入れる。

ただし、データを手動入力する際はこの限りではない。

この番号は、施業を実施し、ポリゴンデータを作成した順に、手動で入力する。

エ　　施業種

コード表：次表の通り

次表にない施業を入力する必要がある場合は、コード番号 60 から任意に追加設定する。

作成方法：実施した施業内容をユーザーが入力する。

コード	名称	略称
01	間伐(切捨)	切捨間
02	間伐(搬出)	搬出間
03	間伐(治山事業)	治山間
04	間伐(区分不明)	不明間
11	主伐(皆伐)	皆伐
12	主伐(択伐)	択伐
21	造林	造林
31	下刈	下刈
32	除伐	除伐
33	つる切り	つる切
34	枝打	枝打
51	鹿ネット設置	鹿ネット
52	ツリーシェルター設置	シェルター

オ　施業実施年度

作成方法：施業を実施した西暦年度をユーザーが入力する。

カ　施業面積

作成方法：施業を実施した箇所の測量データや、紙の測量図面のデジタイズ等により求積した結果をユーザーが入力する。

測量データが存在せず、小班（または小班枝番）ポリゴンと同一形状のものを利用して施業履歴ポリゴンを入力した場合、それぞれの元データの面積をユーザーが入力する。

キ　施業ポリゴン作成方法

内容　：施業履歴ポリゴンを作成した際の手法・基となったデータを記載する。ポリゴンデータの位置精度を示す、重要な指標となる。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	絶対座標測量データ入力	絶対測量
2	相対座標測量データ入力	相対測量
3	測量図デジタイズ	デジタイズ
4	林小班界・地番界の利用	既存界
5	その他	他

ク　施業延長

内容　：実施した施業種が鹿ネット設置の場合、施業面積の代わりに入力する項目。

作成方法：施業実績よりユーザーが入力する。

ケ　　施業総本数

内容　　：実施した施業種がツリーシェルター設置である場合に、施業面積の代わりに入力する項目。

面積当たりではなく、総本数を入力する。

作成方法：施業実績よりユーザーが入力する。

コ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

2.3.3 推奨仕様

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4 桁	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－		コードは任意（合併前の全国統一コードの使用を推奨）	基本・推奨
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－			基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意 必須入力　枝番なしは、「00」	基本・推奨
treatment_number	施業履歴番号	施業番号	○	○	9	－	2	－	－		基本・推奨
treatment_syohan	施業時小班	施業時小班			H	－	4	－	－		推奨仕様のみ
treatment_syohan_eda	施業時小班枝番	施業時小班枝番			H	－	2	－	－		推奨仕様のみ
treatment_owner_name	施業時所有者名	施業時所有者			X	－	100	－	－		推奨仕様のみ
project_name	事業名	事業名			X	－	100	－		コード化した場合のコードは任意	推奨仕様のみ
project_executor	事業実行者	事業実行者			X	－	100	－		コード化した場合のコードは任意	推奨仕様のみ
tree_species_as_of_treatment	施業時樹種	施業時樹種			H	－	2	－	○		推奨仕様のみ
first_age_as_of_treatment	施業時林齢	施業時林齢		○	9	－	3	－	－		推奨仕様のみ
treatment_type	施業種	施業種		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
treatment_year	施業実施年度	施業年		○	H	－	4	－	－	西暦年度で記載	基本・推奨
treatment_area	施業面積	施業面積		○	9	ha	3	第2位	－		基本・推奨
polygon_creation_method	施業ポリゴン作成方法	ポリゴン作成法			H	－	2	－	○		基本・推奨
deer_net_length	施業延長	施業延長			H	m	4	－	－	施業が鹿ネット設置の場合のみ	基本・推奨
the_number_of_treeshelter	施業総本数	施業総本数			9	本	5	－	－	施業がツリーシェルター設置の場合のみ	基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨

ア　　都道府県・市町村・旧市町村

内容　　：施業箇所が属する都道府県・市町村・旧市町村

作成に関するシステム要件：

小班（または小班枝番）ポリゴンとのオーバーレイにより、最も面積の重なりが大きな各データを手動、もしくは自動で入力する。

更新に関するシステム要件：

（都道府県・）市町村・旧市町村に変更があった場合、データ更新する。

イ　　林班・小班群・小班・小班枝番

内容　　：施業箇所の中で最も大きな面積を占める林班・小班群・小班・小班枝番

作成に関するシステム要件：

小班（又は小班枝番）ポリゴンとのオーバーレイにより、最も面積の重なりが大きな小班（又は小班枝番）各データを手動、もしくは自動で入力する。

更新に関するシステム要件：

（林班・）小班群・小班・小班枝番に変更があった場合、データを更新する。

ウ　　施業履歴番号

内容　　：1 つの小班（または小班枝番）で複数の施業が実施される場合が存在するため、これらを識別するための番号

作成に関するシステム要件：

小班ポリゴンデータとのオーバーレイ処理により、施業箇所の中で、最も大きな面積を占める小班（または小班枝番）において、1 から順に通し番号を入れる。

エ　　施業時小班・施業時小班枝番

作成方法：施業履歴レコード作成時に、小班ポリゴンを参考に、施業時の小班（または小班枝番）をユーザーが入力する。

オ　事業名

内容　：施業を実施した補助事業名
ユーザーが、施業履歴情報を補助事業ベースで把握し、資料も補助事業ごとに管理しているケースが多いため、必要となる項目

データ型：全角文字列形式（半角不可）の項目とするが、任意でユーザーが独自にマスタを作り、コード表を作成することも可能。

作成方法：施業履歴レコード作成時にユーザーが入力する。

留意点　：1 つの施業を複数の補助事業で実施する場合があるため、3 つまで入力可能とする。
（例：事業名 1、事業名 2、事業名 3）

カ　事業実行者

内容　：施業を実施した実行者

データ型：全角文字列形式（半角不可）の項目とするが、任意でユーザーが独自にマスタを作り、コード表を作成することも可能。

作成方法：施業履歴レコード作成時にユーザーが入力する。

キ　施業時森林所有者名

内容　：施業を実施した時点の、森林所有者

作成方法：施業履歴レコード作成時にユーザーが入力する。
入力する所有者の区分は、原則立木所有者とするが、林地所有者・実質管理者も可とする。

ク　施業時樹種

内容　：施業を実施した時点の、該当林分の樹種

コード表：森林資源 DB の樹種項目と共通のコードを用いる。

作成方法：施業履歴レコード作成時に、森林資源 DB を参考にユーザーが入力する。

ケ　施業時林齢

内容　：施業を実施した時点の、該当林分の林齢

作成方法：施業履歴レコード作成時に、森林資源レイヤを参考にユーザーが入力する。

コ　施業種

コード表：次表の通り

次表にない施業を入力する必要がある場合は、コード番号 60 から任意に追加設定する。

作成方法：実施した施業内容をユーザーが入力する。

コード	名称	略称
01	間伐（切捨）	切捨間
02	間伐（搬出）	搬出間
03	間伐(治山事業)	治山間
04	間伐(区分不明)	不明間
11	主伐（皆伐）	皆伐
12	主伐（択伐）	択伐
21	造林	造林
31	下刈	下刈
32	除伐	除伐
33	つる切り	つる切
34	枝打	枝打
51	鹿ネット設置	鹿ネット
52	ツリーシェルター設置	シェルター

サ　施業実施年度

作成方法：施業を実施した西暦年度をユーザーが入力する。

シ　施業面積

作成方法：施業を実施した箇所の測量データや、紙の測量図面のデジタイズ等により求積した結果をユーザーが入力する。

測量データが存在せず、小班（または小班枝番）ポリゴンと同一形状のものを利用して施業履歴ポリゴンを入力した場合、それぞれの元データの面積をユーザーが入力する。

ス　施業ポリゴン作成方法

内容　：施業履歴ポリゴンを作成した際の手法・基となったデータを記載する。ポリゴンデータの位置精度を示す、重要な指標となる。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	絶対座標測量データ入力	絶対測量
2	相対座標測量データ入力	相対測量
3	測量図デジタイズ	デジタイズ
4	林小班界・地番界の利用	既存界
5	その他	他

セ　　施業延長

内容　　：実施した施業種が鹿ネット設置の場合、施業面積の代わりに入力する項目。

作成方法：施業実績よりユーザーが入力する。

ソ　　施業総本数

内容　　：実施した施業種がツリーシェルター設置である場合に、施業面積の代わりに入力する項目。
面積当たりではなく、総本数を入力する。

作成方法：施業実績よりユーザーが入力する。

タ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：
ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

２.３.４ 森林資源情報における施業履歴情報の取り扱い

◎ 共通

前述した通り、施業履歴レコードの「都道府県」・「市町村」・「旧市町村」・「林班」・「小班群」・「小班」・「小班枝番」・「施業履歴番号」は、森林資源レイヤにおける小班（または小班枝番）ポリゴンを基に、手動または自動で入力される。

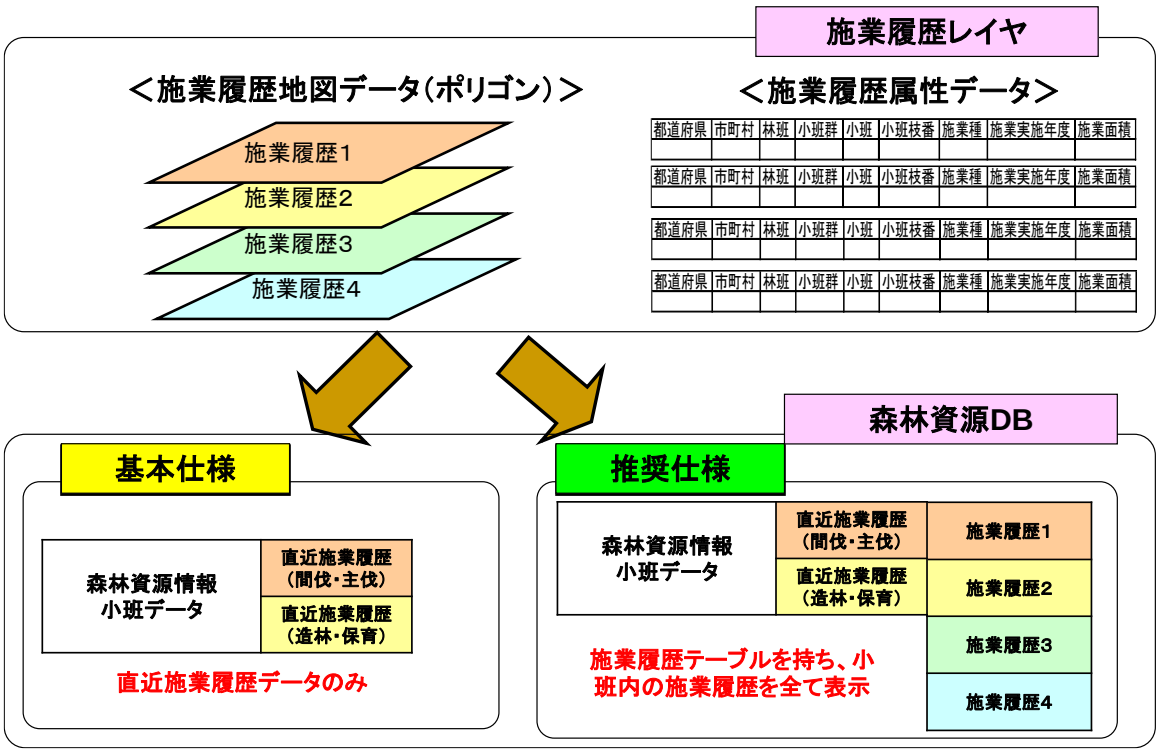
◎ 基本仕様

施業履歴レコードの設定・追加時に、「都道府県」・「市町村」・「林班」・「小班群」・「小班」・「小班枝番」を基に、森林資源 DB 内「小班テーブル」の施業履歴に関する項目に、直近の施業履歴レコードの情報が入力・更新される。

◎ 推奨仕様

森林資源 DB 内に、「施業履歴テーブル」を単独で保有し、「都道府県」・「市町村」・「市町村」・「林班」・「小班群」・「小班」・「小班枝番」・「施業履歴番号」を主キーとして、「小班テーブル」他とリレーショナルデータベース（RDB）を構築する。

このことにより、森林資源情報の一部として施業履歴情報を取扱う場合、一つの小班（または小班枝番）における施業履歴の全てを対象とすることが可能となる。



２.３.５ 施業履歴情報の標準化に係るシステムの標準仕様

施業履歴情報のデータ項目の標準化に係るシステムの標準仕様を抜粋し、次表に再掲する。

仕様区分	項目		内容区分	内容
基本・推奨共通	施業履歴テーブル	データ作成	■GISを使用したデータ生成 ■コード生成・管理	◎GIS上で独立した施業履歴レイヤ（ポリゴン）を生成する。 ◎小班レイヤ(ポリゴン）と施業履歴レイヤをオーバーレイし、森林資源DBの施業履歴テーブルの主キーを更新する。 （地図データの更新の都度、処理を行う。年次更新作業の際に実施するイメージ）
基本	直近施業種 直近施業実施年度 直近施業面積	データ作成	■データベース構造	◎上記オーバーレイ時に、施業種（間伐・主伐、造林・育林）毎に、直近の施業履歴データのみ小班テーブルに自動入力する。 ◎同時に、小班ポリゴンと施業履歴ポリゴンの重なり面積を算定し、小班テーブルの「直近施業面積」に自動入力する。
推奨	施業履歴テーブル （施業履歴番号・直近施業種・直近施業実施年度・直近施業面積）	データ作成	■データベース構造	◎上記オーバーレイ時に、該当小班に重なる施業履歴ポリゴン全てのデータを、森林資源DBの施業履歴テーブルに入力し、リレーショナルデータベースに変換する（施業履歴番号は自動採番する）。 ◎同時に、小班ポリゴンと施業履歴ポリゴンの重なり面積を算定し、施業履歴テーブルの「直近施業面積」に自動入力する。 ◎施業履歴テーブルより、施業履歴種類（間伐・主伐、造林・育林）毎に、直近の施業履歴データのみ小班テーブルに入力する。
基本・推奨共通	更新データ時点	データ作成	■データの算出方法	◎データを入力・更新する際に自動入力される。

２．４ 路網情報

２.４.１ 概要

路網情報については、主に路網の利用者に必要な情報という観点からデータ項目及び地図（森林計画図）と連携する仕様を定めている。

路網管理者に必要な情報項目については、各種法令や通知等で定められているため、特にデータ形式の標準化は行わず、路網ラインデータと林道台帳・作業道台帳情報がリンクすることのみを標準仕様とする。

◎ 対象となる地物

- 路網関連には、以下の図のような様々な地物がある中で、「公道」及び、「林業用路網」についての標準仕様を定めた。
- 平成２５年度版標準仕様に含めた、「林業用路網（総括）」、「橋梁」、「トンネル」・「高架」、「舗装」、「通行制限箇所」、「路網施設」の各地物については、各項目のデータ取得が困難であり、かつユーザー側も高レベルのデータメンテナンスが求められるため、拡張的な仕様として、標準仕様には含めないこととした。

・公道	【ライン】	基本仕様	推奨仕様
・林業用路網	【ライン】		
・林業用路網（総括）	【ライン】		
・橋梁	【ライン】		
・トンネル・高架	【ライン】		
・舗装	【ライン】		
・通行制限箇所	【ライン】		
・路網施設	【ポイント】【ライン】		

◎　数値情報と地図情報

＜数値情報の管理＞

- それぞれの地物項目の数値情報については、台帳（作成・管理）システムを構築し、台帳整理番号をキーとしてリンクさせる。

＜DB に対応した地図＞

- 路網図

＜地図データの形式＞

- 公道は、数値地図（国土基本情報）レベルの道路中心線の線形（ラインデータ）
  - ✧　１本線
  - ✧　年に１度、データ更新を行う。
- 林業用路網は、恒久的な林業用路網（林道・林業専用道・森林作業道）の線形（ラインデータ）
  - ✧　１本線
  - ✧　年に１度、データ更新を行う。

＜作成方法＞

- 既存の路網データ（デジタル）を取り込む、または既存の紙図面をスキャンしたものや、航空写真や微地形図等を基にしたデジタイズにより作成する。

＜表示方法＞

- デフォルトの表示は、公道・林道・林業専用道・森林作業道等の道種により、表示を変更する。

２.４.２ 基本仕様

フィールド名	エイリアス名	略称	キキー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
control_number	台帳整理番号	台帳番号	○	○	H		100		－		基本・推奨
route_name	路線名	路線名		○	X		100		－		基本・推奨
construction_status	既設・計画	既設・計画		○	H		1		○		基本・推奨
route_type	道種	道種		○	H		2		○		基本・推奨
route_length	延長	延長		○	9	m	6		－	台帳上の延長	基本・推奨
route_length_on_the_map	図上延長	図上延長		○	9	m	6		－	GIS上の延長	基本・推奨
opening_year	開設(予定)年度	開設年度			9		4		－	西暦年	基本・推奨
minimum_width	最小幅員(全幅員)	全幅員		○	9	m	3	第1位	－		基本・推奨
minimum_width_for_roadway	最小幅員(車道幅員)	車道幅員		○	9	m	3	第1位	－		基本・推奨
route_manager	路網管理者	管理者		○	X		100		－		基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨

ア　　台帳整理番号

内容　　：各地物の数値属性を管理する台帳システムにおける整理番号

イ　　路線名

内容　　：林道台帳等から参照した路線名を入力する。

ウ　　既設・計画

内容　　：レコードの対象区間が、既設路線か計画路線かを区分する。

コード表：次表の通り

作成方法：対象区間の既設・計画の区分を選択する。

コード	既設・計画の別	略称
1	既設	既設
2	計画	計画

エ　　道種

コード表：次表の通り

＜公道＞

コード	名称	略称
01	高速自動車国道（有料）	高速有料
02	高速自動車国道（無料）	高速無料
03	その他国道（有料）	国道有料
04	その他国道（無料）	国道無料
05	都道府県道（有料）	県道有料
06	都道府県道（無料）	県道無料
07	市町村道（有料）	市道有料
08	市町村道（無料）	市道無料
09	農道	農道
10	その他公道	その他

＜林業用路網＞

コード	名称	略称
21	林道（基幹道）	基幹道
22	林道（管理道）	管理道
23	林道（施業道）	施業道
24	林業専用道	専用道
25	森林作業道	作業道
26	その他私設路網	その他

オ　延長

単位　：メートル（m）

作成方法：台帳上の延長距離を記載する。

カ　図上延長

単位　：メートル（m）

作成に関するシステム要件：

GIS 上でラインデータの延長距離を算出し、自動入力する。

キ　開設（予定）年度

作成方法：既設路網については開設年度を、計画路線については開通予定年度を記載する。林道台帳・作業道台帳から引用する。

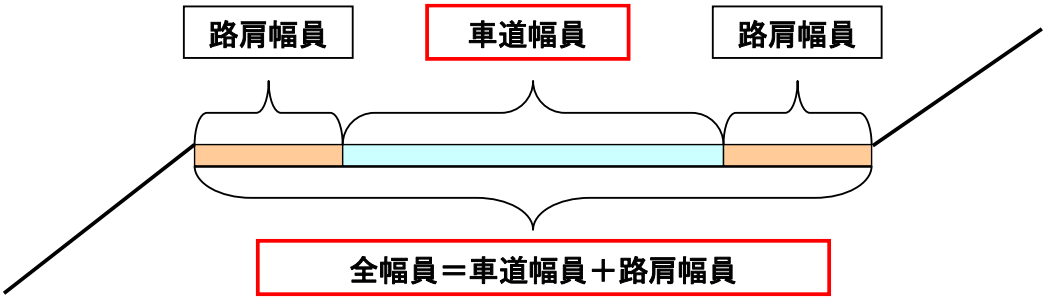
ク　最小幅員（全幅員・車道幅員）

内容　：次の図の通り、車道幅員における最小幅員と、両路肩幅員を加えた全幅員における最小幅員

単位　：メートル（m）

作成方法：林業用路網のうち、林道に関しては、林道台帳に全幅員・車道幅員とも記載

されているため、その数値を入力する。
林業専用道・森林作業道の場合は、路網開設時の情報を入力する。



ケ　路網管理者

作成方法：林業用路網のうち、林道に関しては、林道台帳から入力する。
林業専用道・森林作業道の場合は作業道台帳から入力するが、こちらは当該路網を利用するユーザーが限られるため、項目の入力は必須ではない。

チ　更新データ時点

内容　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：
ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

２.４.３ 推奨仕様

<路網DB－路網テーブル>

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
control_number	台帳整理番号	台帳番号	○	○	H		100				基本・推奨
route_name	路線名	路線名		○	X		100				基本・推奨
construction_status	既設・計画	既設・計画		○	H		1		○		基本・推奨
route_type	道種	道種		○	H		2		○		基本・推奨
route_length	延長	延長		○	9	m	6			台帳上の延長	基本・推奨
route_length_on_the_map	図上延長	図上延長		○	9	m	6			GIS上の延長	基本・推奨
opening_year	開設(予定)年度	開設年度		○	9		4			西暦年	基本・推奨
minimum_width	最小幅員(全幅員)	全幅員		○	9	m	3	第1位			基本・推奨
minimum_width_for_roadway	最小幅員(車道幅員)	車道幅員		○	9	m	3	第1位			基本・推奨
route_manager	最小曲線半径	曲線半径			9	m	3	第1位			推奨仕様のみ
maximum_longitudinal_slope	最急縦断勾配	縦断勾配			9	°	3	第1位			推奨仕様のみ
passable_wheelbase_type	通行可能車両(ホイール系)車両区分	通行ホイル区分			H		1		○		推奨仕様のみ
passable_wheelbase_type	通行可能車両(ホイール系)車種	通行ホイル車種		○	H		2		○		推奨仕様のみ
input_ymd_passable_wheelbase	通行可能車両(ホイール系)入力年月日	通行ホイル入力日			D						推奨仕様のみ
inputter_passable_wheelbase	通行可能車両(ホイール系)入力者名	通行ホイル入力者			X		100				推奨仕様のみ
passable_crawler_type	通行可能車両(クローラ系)車種	通行クロラ車種			H		2		○		推奨仕様のみ
input_ymd_passable_crawler	通行可能車両(クローラ系)入力年月日	通行クロラ入力日			D						推奨仕様のみ
inputter_passable_crawler	通行可能車両(クローラ系)入力者名	通行クロラ入力者			X		100				推奨仕様のみ
route_manager	路網管理者	管理者		○	X		100				基本・推奨
address_of_route_manager	路網管理者連絡先	管理者連絡先			X		100				推奨仕様のみ
terrain_measurement_year	地形計測年	地形計測年			D	―	―	―	―	西暦で記載	推奨仕様のみ
terrain_measurement_method	地形計測法	地形計測法			H	―	―	―	○		推奨仕様のみ
terrain_measurement_measurer	地形計測者	地形計測者			X	―	100	―			推奨仕様のみ
traffic_survey	通行調査	通行調査			X	―	250	―			推奨仕様のみ
traffic_survey_year	通行調査年	通行調査年			D	―	―	―	―	西暦で記載	推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	―	―	―	―	西暦で記載	基本・推奨

ア　　台帳整理番号

内容　　：各地物の数値属性を管理する台帳システムにおける整理番号

イ　　路線名

内容　　：林道台帳等から参照した路線名を入力する。

ウ　　既設・計画

内容　　：レコードの対象区間が、既設路線か計画路線かを区分する。

コード表：次表の通り

作成方法：対象区間の既設・計画の区分を選択する。

コード	既設・計画の別	略称
1	既設	既設
2	計画	計画

エ　　道種

コード表：次表の通り

＜公道＞

コード	名称	略称
01	高速自動車国道(有料)	高速有料
02	高速自動車国道(無料)	高速無料
03	その他国道(有料)	国道有料
04	その他国道(無料)	国道無料
05	都道府県道(有料)	県道有料
06	都道府県道(無料)	県道無料
07	市町村道(有料)	市道有料
08	市町村道(無料)	市道無料
09	農道	農道
10	その他公道	その他

＜林業用路網＞

コード	名称	略称
21	林道(基幹道)	基幹道
22	林道(管理道)	管理道
23	林道(施業道)	施業道
24	林業専用道	専用道
25	森林作業道	作業道
26	その他私設路網	その他

オ　延長

単位　：メートル（m）

作成方法：台帳上の延長距離を記載する。

カ　図上延長

単位　：メートル（m）

作成に関するシステム要件：

GIS 上でラインデータの延長距離を算出し、自動入力する。

キ　開設（予定）年度

作成方法：既設路網については開設年度を、計画路線については開通予定年度を記載する。林道台帳・作業道台帳から引用する。

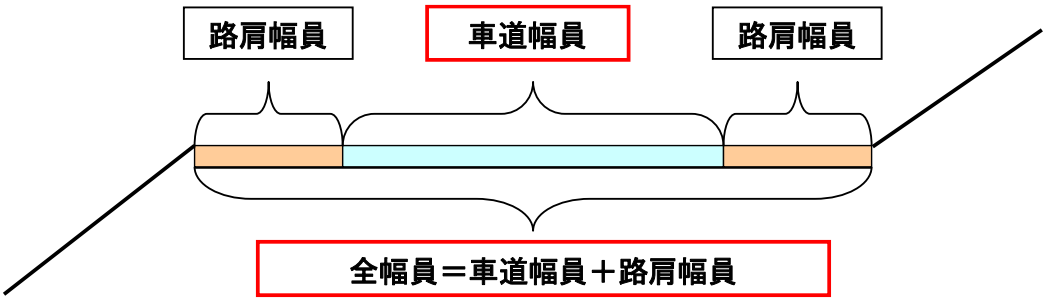
ク　最小幅員（全幅員・車道幅員）

内容　：次の図の通り、車道幅員における最小幅員と、両路肩幅員を加えた全幅員における最小幅員

単位　：メートル（m）

作成方法：林業用路網のうち、林道に関しては、林道台帳に全幅員・車道幅員とも記載されているため、その数値を入力する。

林業専用道・森林作業道の場合は、路網開設時の情報を入力する。



ケ　　最小曲線半径

単　　位：メートル（m）

作成方法：林道台帳・作業道台帳の様式には規定されていない項目であるため、既設路線を含め、計画段階のデータ等から、ユーザーが独自に入力する。

コ　　最急縦断勾配

単位　　：度（°）

作成方法：林道台帳・作業道台帳の様式には規定されていない項目であるため、既設路線を含め、計画段階のデータ等から、ユーザーが独自に入力する。

サ　　通行可能車両（ホイール系）

①　　車両区分

コード表：次表の通り

作成方法：以下「車種」コードが入力された際に、自動で更新される。

②　　車種

コード表：次表の通り

作成方法：路網管理者だけでなく、他の（システム上管理された）路網利用者も編集可能とする。

車両区分コード	車両区分	車種コード	車種	略称
1	大型自動車	01	フルトレーラー	フルトレ
		02	セミトレーラー	セミトレ
		03	15tトラック	15t
		04	11tトラック	11t
2	中型自動車	05	8tトラック	8t
3	普通自動車	06	4tトラック	4t
		07	2tトラック	2t
		08	普通自動車（四駆）	普通
		09	軽トラック	軽トラ
0	通行不能	00	通行不能	通行不能

③　入力年月日

作成方法：「車両区分」データ、「車種」データが更新された年月日が自動入力される。

④　入力者名

作成方法：「車両区分」データ・「車種」データを更新したユーザーの氏名を入力する。
（システムでユーザー管理を行っている場合、自動更新とする。）

シ　通行可能車両（クローラ系）

①　車種

コード表：次表の通り

作成方法：路網管理者だけでなく、他の（システム上管理された）路網利用者も編集可能とする。

車種コード	車種	略称
21	0.70m3級	0.7
22	0.45m3級	0.45
23	0.25m3級	0.25
24	0.20m3級	0.2
20	通行不能	通行不能

②　入力年月日

作成に関するシステム要件：

データを入力した年月日を、自動入力する。

路網管理者だけでなく、他の（システム上管理された）路網利用者も編集可能とする。

③　入力者名

作成方法：「車両区分」データ・「車種」データを更新したユーザーの氏名を入力する。
（システムでユーザー管理を行っている場合、自動入力とする。）

ス　　路網管理者

作成方法：林業用路網のうち、林道に関しては、林道台帳から入力する。
林業専用道・森林作業道の場合は作業道台帳から入力するが、こちらは当該路網を利用するユーザーが限られるため、項目の入力は必須ではない。

セ　　路網管理者連絡先

作成方法：電話番号・e-mail アドレス等を、ユーザーが独自に入力する。

ソ　　地形計測年

作成方法：地盤高（DTM）データの計測年。西暦で記載。yyyy/mm/dd の日付。計測終了日または、計測月日が不明な場合は計測年の 1 月 1 日として入力する。(例: 2020/01/01)

タ　　地形計測法

コード表：次表の通り

作成方法：：地盤高（DTM）計測方法の名称。

コード	名称	略称
1	航空レーザ	航空レーザ
2	航空写真	航空写真
3	UAVレーザ	UAVレーザ
4	UAV写真	UAV写真
5	地上レーザ	地上レーザ

チ　　地形計測者

作成方法：地盤高（DTM）計測業者名。

ツ　　通行調査

作成方法：通行情報について自由記述。

テ　　通行調査年

作成方法：通行調査年月日を西暦で記載。

ト　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：
ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

２.４.４ 路網情報の標準化に係るシステムの標準仕様

路網情報のデータ項目の標準化に係るシステムの標準仕様を抜粋し、次表に再掲する。

仕様区分	項目		内容区分	内容
基本・推奨共通	公道、林業用路網	データ作成	■データの算出方法	◎台帳システムを構築した場合、台帳情報を地物データとリンクさせる。
基本・推奨共通	図上延長	データ作成	■GISを使用したデータ生成	◎GIS上でラインデータの延長を算出し、自動入力する。
基本・推奨共通	入力年月日	データ作成	■データの算出方法	◎データを入力した年月日を自動入力する。
基本・推奨共通	入力者氏名	データ作成	■データの算出方法	◎(システムでユーザー管理を行っている場合)データを入力したユーザーの氏名を自動入力する。
基本・推奨共通	更新データ時点	データ作成	■データの算出方法	◎データを入力・更新する際に自動入力される。

２．５ 地図情報

２.５.１ その他地図情報

◎ 基本仕様

＜等高線＞

データ型：ラスタデータ（森林基本図をスキャンしたもの）

作成方法：森林基本図をスキャンしたものを、ジオリファレンス機能を用いてデータ化する。

◎ 推奨仕様

＜等高線＞

データ型：ベクトル（ライン）データ（計曲線・主曲線の属性）と、元のラスタデータを両方保有する。

作成方法：各種市販データも活用可能

２.５.２ 数値属性情報に対応した地図情報

◎ その他留意事項

＜地図精度＞

- デジタイズにより作成した地図データの精度は、データ入力に使用した基図面の縮尺（１／〇）により規定される。
- 出力する地図を他ユーザーが利用する場合は、凡例に基となった地図の縮尺を表示する。

＜ファイル形式＞

- 地図データのファイル形式は任意とするが、シェープファイル形式または GML 形式への変換を可能とする。

＜表示方法＞

- デフォルトの表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。
- ユーザーが設定（変更）した表示は、保存可能とする。

＜測地系＞

- 地球上の位置を、緯度経度で表現する際の基準
- 地球を楕円に近似する際の、楕円の種類により分類される。

【世界測地系】

近似楕円の重心が、地球の中心にある。

【日本測地系】

東京の平面が正確に表現できるように、重心を合わせている。

- 日本では、平成 24 年以降は、世界測地系の一つである日本測地系 2000 を（上記の日本測地系とは異なる）用いている。

＜座標系＞

- 地球上の位置を、座標値によって表す際の決まりのこと。

【投影座標系】

地球を二次元の平面に投影し、XY 座標で表す座標系。

投影方法により、UTM 座標系、平面直角座標系第 1~19 系等にさらに分類される。

【地理座標系】

三次元の地球上の位置を緯度・経度座標で表す座標系

	投影座標系		地理座標系
	平面直角座標系	UTM座標系	
世界測地系	【日本測地系2000_平面直角座標系第1～19系】 日本の公共測量で利用	【世界測地系2000_UTM座標系】 世界各地の大縮尺地図に利用	【日本測地系2000_地理座標系】 【WGS84】 GNSSの位置情報の基準に利用
日本測地系	【日本測地_平面直角座標系第1～19系】 一部の都道府県で利用されている場合あり	【日本測地系2000_ UTM座標系】	【日本測地系_地理座標系】

- 都道府県によっては、日本測地系を利用している場合があるため、地図データの世界測地系と、日本測地系との相互変換が必要となる。
- GNSS 由来を始め、様々な座標系の地図データを入力・参照する場合があるため、地図データを利用する際には、各座標系への対応に留意する必要がある。

＜地図データ入力のガイドライン(推奨)＞

- 紙図面を基にデータ入力する場合は、画面上のフリーハンドではなく、ジオリファレンス機能（スキャニング⇒座標系設定）を使用して入力する。

- 座標系設定の精度を上げるためには、GIS から出力する紙図面には、緯線・経線が印刷されている必要がある。（要システム対応）
- 委託撮影ではなく、既存の航空写真からオルソ化された背景画像を基にデータ入力する場合は、基データの精度に留意する。
- ポケットコンパス等で測量した成果（測量野帳）を入力・処理するシステムは、西偏（磁北と真北の差）への対応が必要である。

２．６ 地域森林計画に必要な項目

都道府県版標準仕様はその作成過程で、林野庁が定める森林簿項目からその利用頻度により一部の項目を除外して標準仕様の項目を定めた。

そのため、都道府県が地域森林計画を作成するにあたり、標準仕様に加えて以下の項目等が必要であるということがわかった。

ただし、これは都道府県により異なる可能性があるため、今回は標準仕様には含めず、必要に応じて、都道府県のユーザーが項目を任意に追加することで対応する。

◎　管理区域

搭載 DB：小班 DB

◎　森林の土地の保全に特に留意すべき地区・区域

搭載 DB：小班 DB・地番 DB

◎　土壌型

搭載 DB：小班 DB

◎　搬出方法を特定する森林

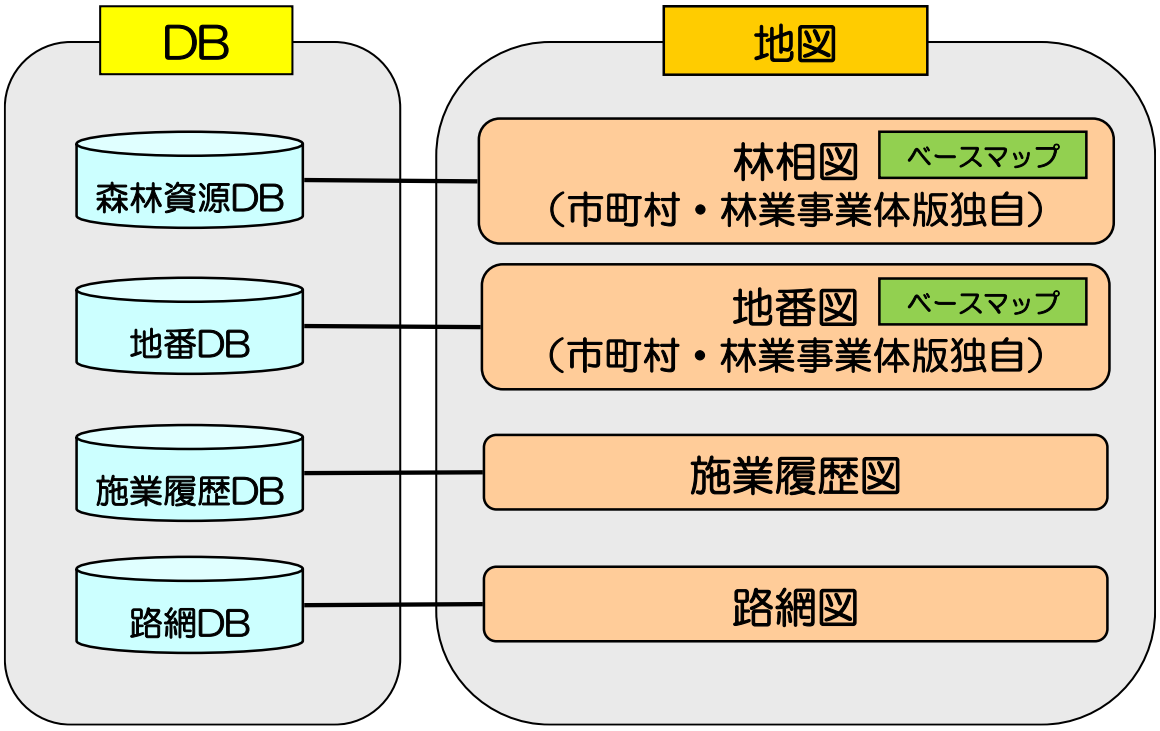
搭載 DB：小班 DB

第３章 標準仕様（市町村・林業事業体版）

３．１ 標準仕様の概要

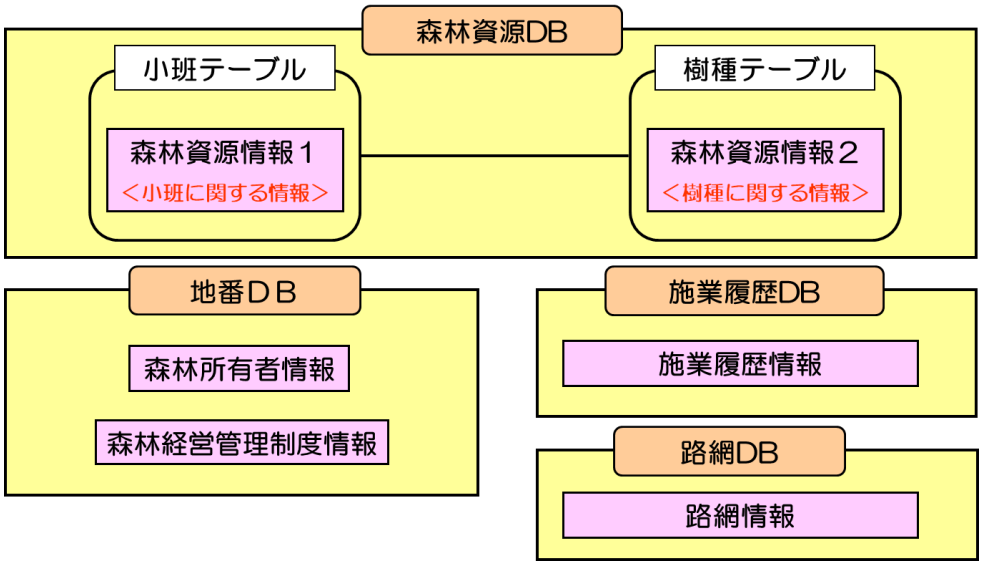
３.１.１ 数値情報と地図情報

- 地図情報には、「数値属性情報に対応した地図情報」と「その他地図情報」がある。
- 数値情報を持つ各データベース（以下 DB）に対して、地図情報がそれぞれ対応している。
- 市町村・林業事業体版の標準仕様を構成する各情報のうち、数値情報と地図情報が連携するものは、以下の図の通りである。
- ベースマップ（基図）には、林相図又は地番図を利用する。これは、ユーザーが任意に選択する。
- 数値情報と地図情報のリンクは、各 DB の主キーとなる情報を組み合わせたリンクキーを用いて行う。



３.１.２ データベース構造

- 市町村・林業事業体版の DB は、まず森林資源 DB、地番 DB、施業履歴 DB、路網 DB の 4 つの独立した DB に分けられる。
- 森林資源 DB は小班テーブルと樹種テーブルの 2 テーブルのリレーショナルデータベースとする。
- 地番 DB には、森林所有者テーブルと森林経営管理制度テーブルが含まれる。
- なお、施業履歴 DB と路網 DB は、都道府県と共通の仕様となっている。

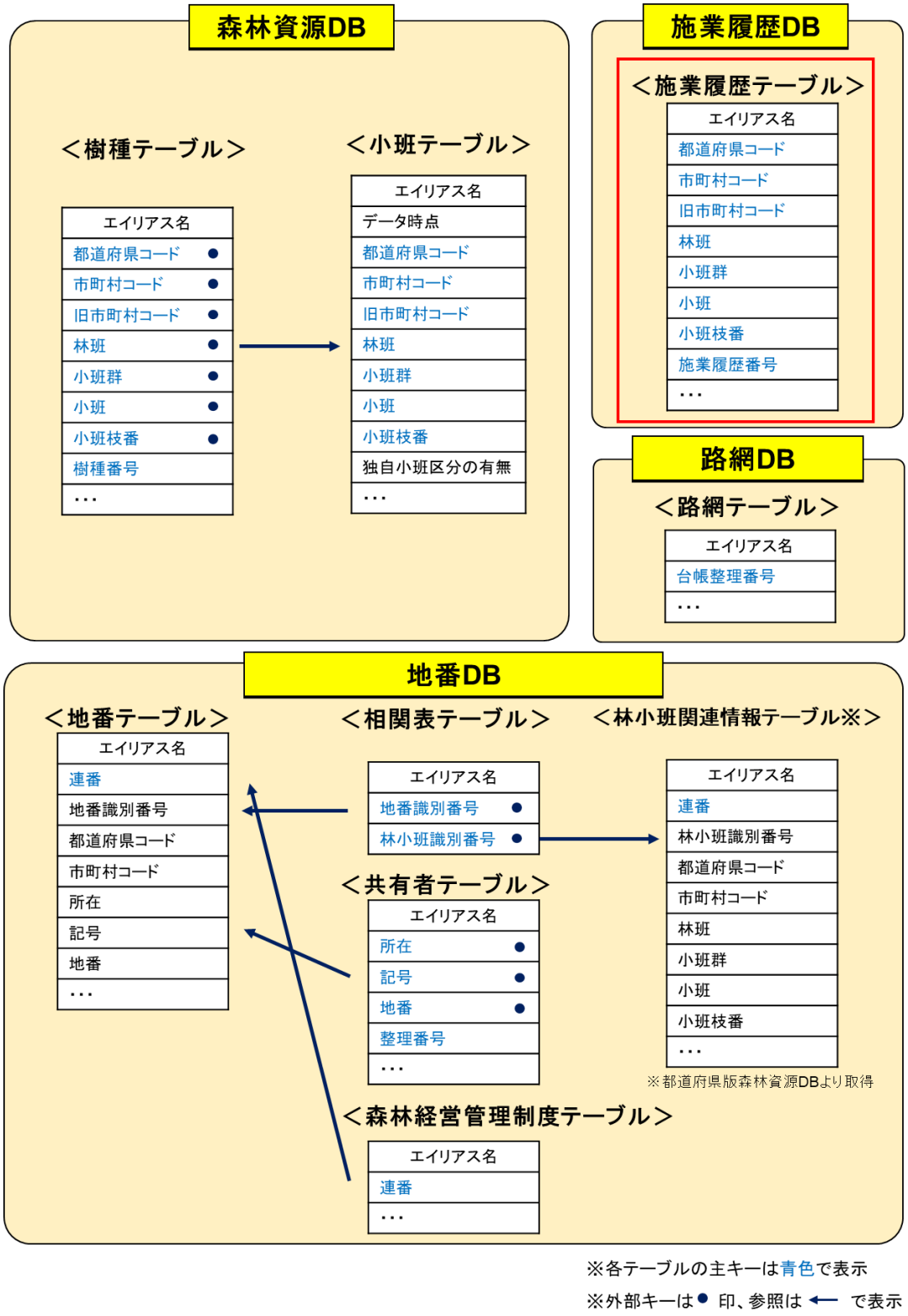


３.１.３ データリンクの対象と方法

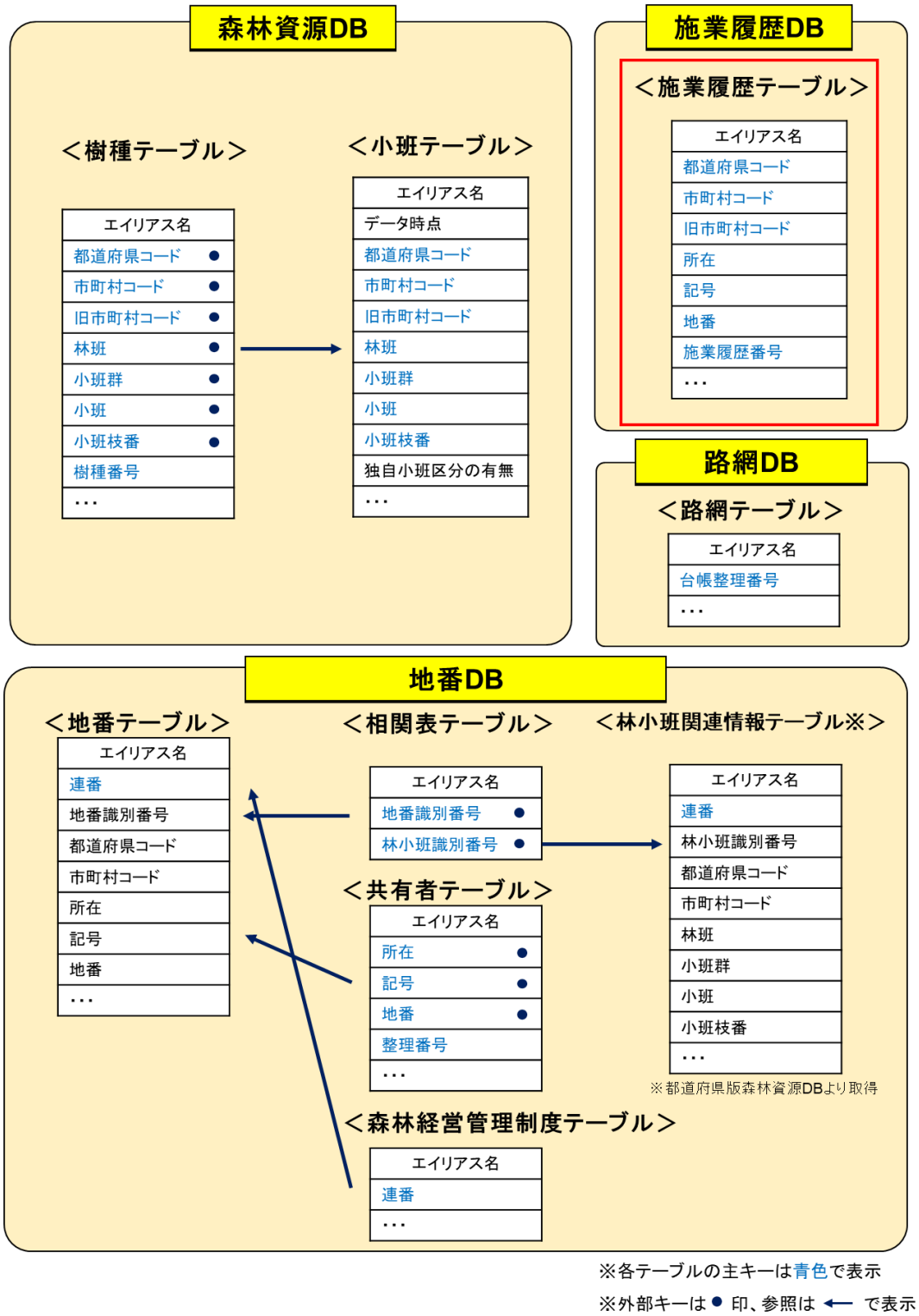
◎ 基本仕様

- 4 つの DB はリンクしない。
- ベースマップを林相図とするか地番図とするかによって、施業履歴 DB の項目が異なる。

＜「森林資源 DB－林相図」をベースマップとする場合＞



＜「森林資源 DB－地番図」をベースマップとする場合＞

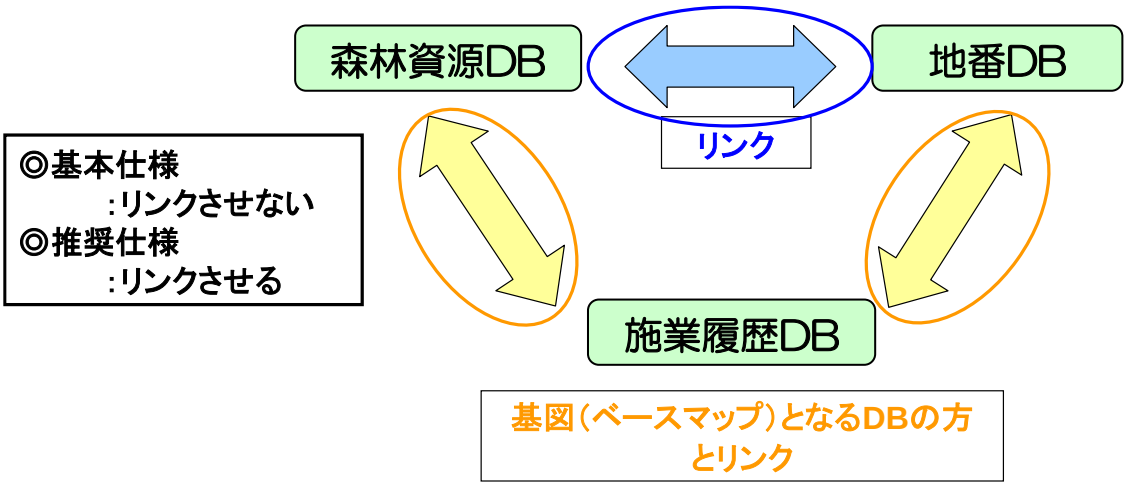


※各テーブルの主キーは青色で表示

※外部キーは● 印、参照は ← で表示

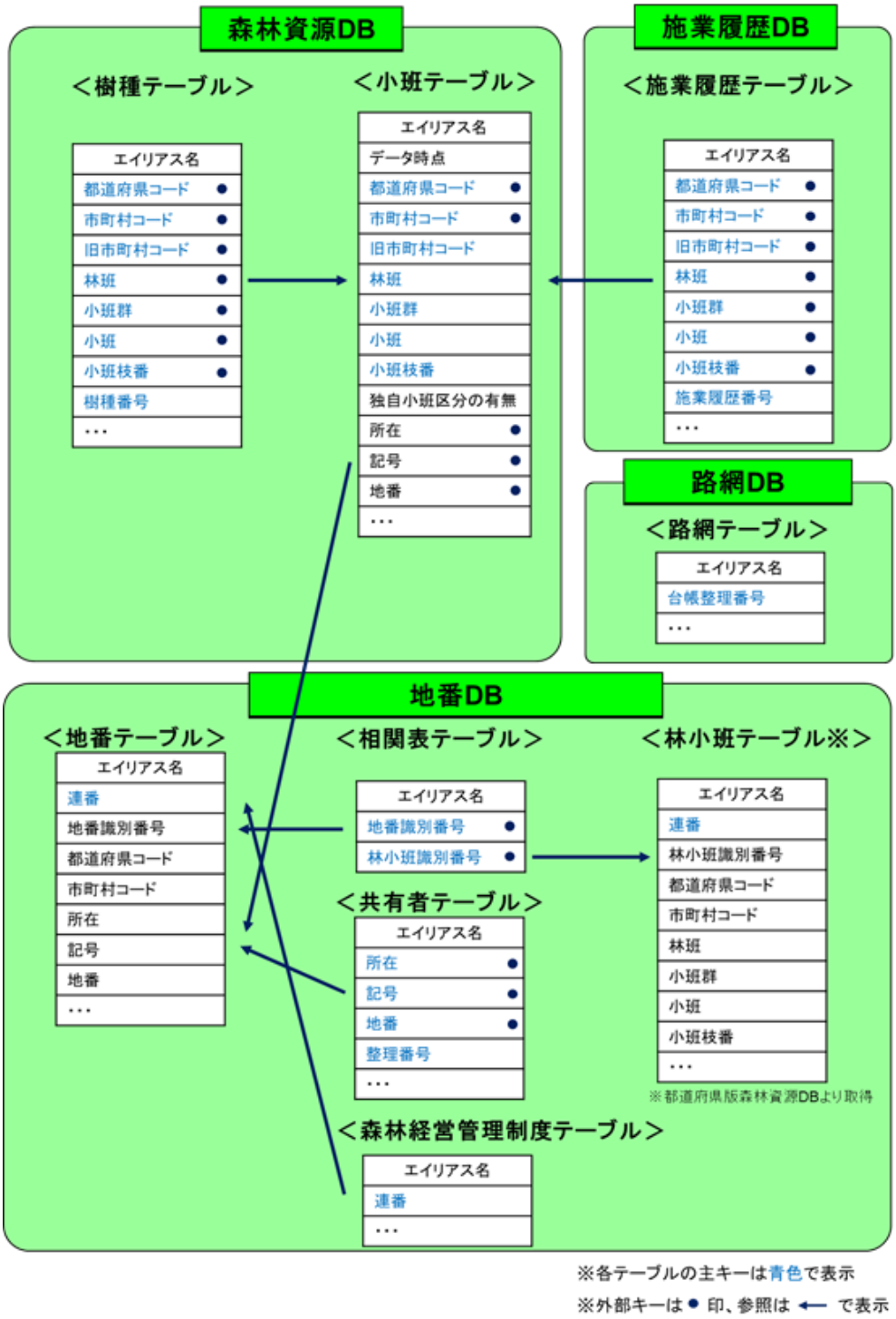
◎ 推奨仕様

- まず 4 つの DB のうち、森林資源 DB と地番 DB はリンクする。
- さらに、施業履歴 DB は森林資源 DB（林相図）と地番 DB（地番図）のうち、ベースマップに選択されている方とリンクをする。
- これらのリンク方法は、リンクキーを使用する方法・リンクテーブルを使用する方法等が想定されるが、標準仕様でその方法は定めない。
  リンク方法に関わらず、データ更新時に、それぞれの DB に対応する地図データのオーバーレイによって得られたポリゴンデータ同士の位置関係に基づき、リンク情報を更新させる。

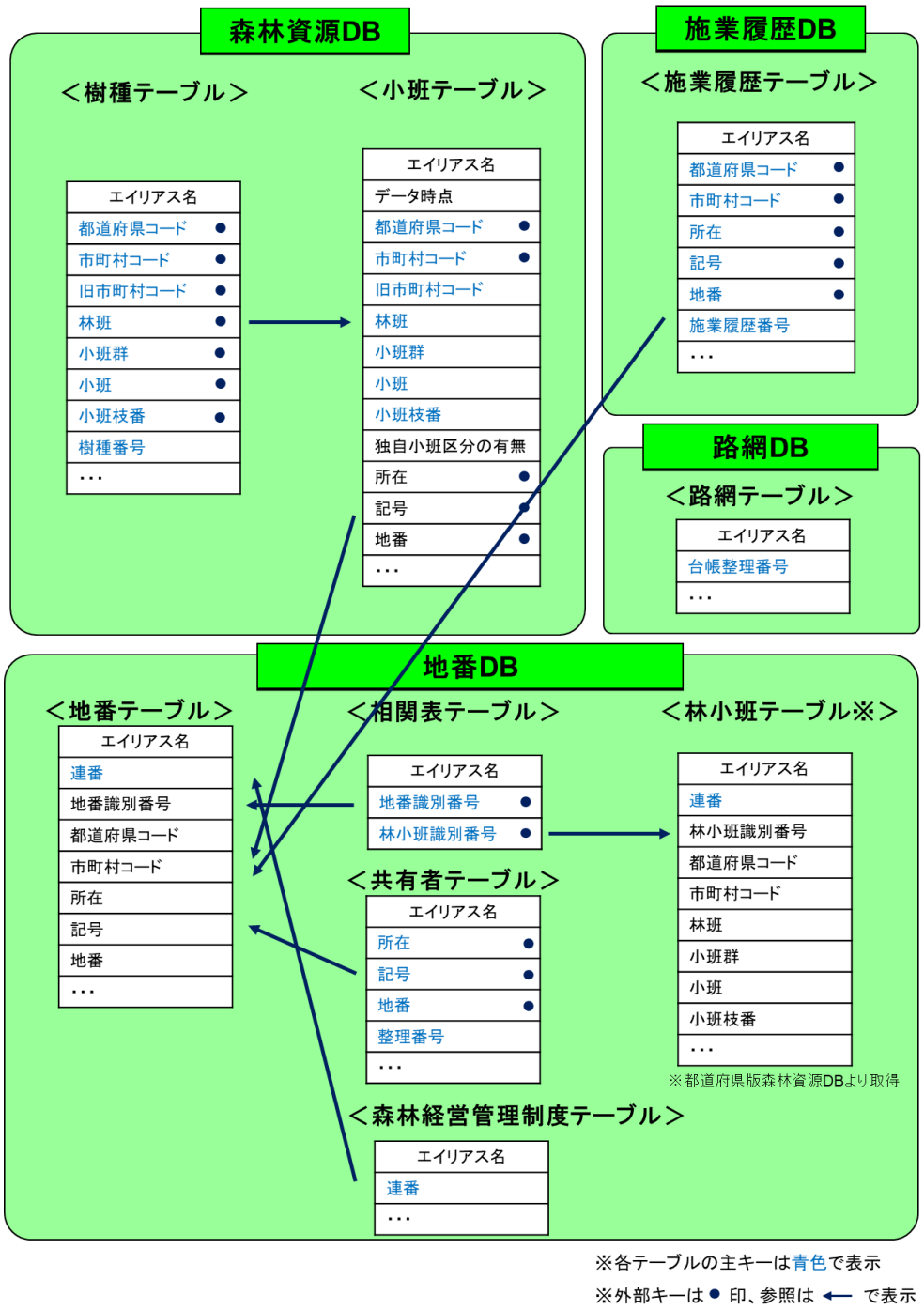


- 例として、リンクキーを利用して、リンクを行う場合を以下の図に示す。
- この場合、それぞれの DB において、ベースマップとリンクするための項目（リンクキー）をもつ必要がある。

＜「森林資源 DB－林相図」をベースマップとする場合＞



＜「地番 DB－地番図」をベースマップとする場合＞



３.１.４ データベース項目の略称

データベース項目の中には名称の長いものがあり、閲覧する際に不便であることが想定されるため、全ての項目において略称を設定し、閲覧の際にはこの略称を利用することを可能とする。

各項目の略称はデータベース一覧表に記載する。

３.１.５ データベース項目の重要項目

標準仕様のデータベースにおいては、データの項目数が多いため各データベースの中で重要項目を設定し、データ項目の重要性を判断する際の目安とした。

重要項目に該当しない項目は、システムにおけるデータ表示の際に非表示とすることが可能となるよう、システムの標準仕様において定めた。また、非表示項目はユーザーが任意の操作をすることで、表示されることも同様にシステムの標準仕様に定めた。

なお、実際に非表示にする項目やその表示方法は、ユーザーとシステム事業者で決めることとする。

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

３．２ 森林所有者情報

３.２.１ 概要

市町村・林業事業体の森林所有者情報は、3.1.2 データベース構造で示したとおり地番 DB 内に、森林資源情報と独立した情報として管理する。

◎ 地図情報

＜DB に対応した地図＞

- 地番図

＜データ形式＞

ベクトル（ポリゴン）

＜リンクキー＞

- 地番 DB と地図データ（地番ポリゴン）はリンクキーでリンクする。
- リンクキーは桁数任意
  （都道府県（2 桁）＋市町村（4 桁）＋旧市町村（4 桁）＋大字（任意）＋字（任意）＋地番本番（任意）＋地番支番（任意））

＜作成方法＞

- 地籍調査成果等から地番界が明確である場合は、そのデータを基に作成する。
- 境界測量成果等で新たに一部の地番界が明確になった場合は、該当箇所のみ作成する。
- データが無い場合は作成できない。

＜表示方法＞

- ベースマップが地番図の場合、大字・字・地番本番・地番支番をデフォルトで表示する。（個人情報としての取扱に留意する。）

３.２.２ 基本仕様

- 各データテーブルの定義については、「林地台帳及び地図整備マニュアル」に記載されている「林地台帳のデータ定義」に従う。
- 林小班関連情報テーブルについては、都道府県版森林資源 DB を参照してデータを作成する。

（１）　地番テーブル

No.	分類	フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
1	連番	ID	連番	連番	○	○	9	－	10	－	－	システムにより自動的に行ごとに付けられる重複しない連番	基本・推奨
2	地番識別情報	TKEY	地番識別情報	地番識別		○	X	－	255	－	－	「都道府県～記号"地番玄孫番までを結合した識別情報」※	基本・推奨
3	都道府県	TPrefCD	都道府県コード	都道府県		○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	基本・推奨
4	市町村	TCityCD	市町村コード	市町村		○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4 桁	基本・推奨
5	登記簿上の所在情報	Tsyozai	所在	所在		○	X	－	100	－	－	全角文字列形式とする。	基本・推奨
6		TKigo	記号	記号		○	H	－	10	－	－	山地番の記号「Y」や「甲」「乙」等の記号を地番本番と分けて管理する場合に使用可能とする。	基本・推奨
7		Tchban	地番	地番		○	H	－	50	－	－	半角文字列形式とする。地番本番"玄孫番までハイフン(-)で結合する。	基本・推奨
8	登記簿情報	TName	氏名・名称	氏名・名称		○	X	－	100	－	－	登記簿データの漢字氏名、外字を含む場合は外字コードを入力	基本・推奨
9		TAddr	住所	住所		○	X	－	100	－	－	登記簿データの漢字住所、外字を含む場合は外字コードを入力	基本・推奨
10		TKyoyu1	共有	共有		○	9	－	1	－	○	1:有	基本・推奨
11		ToukiYMD	登記年月日	登記年月日		○	D	－	－	－	－		基本・推奨
12		TTimcCD	登記地目コード	登記地目		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
13		Tmen	面積	面積		○	9	ha	7.4	第4位	－	登記簿の面積(小数第4位)	基本・推奨
14	現に所有している者、所有者とみなされる者	TSyoyuName	氏名・名称	氏名・名称		○	X	－	100	－	－		基本・推奨
15		TShoyuAddr	住所	住所		○	X	－	100	－	－		基本・推奨
16		Tkyoyu2	共有	共有		○	9	－	1	－	○	1:有	基本・推奨
17		TJiyCD	記載事由コード	記載事由		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
18		TKisaiYMD	届出年月日・記載年月日	届出記載年月日		○	D	－	－	－	－		基本・推奨
20	境界に係る測量の実施状況 / 地籍調査情報	TiskCD	地籍調査済・未コード	地籍調査		○	H	－	2	－	○	1:済　2:未済　3:不明	基本・推奨
21		TiskYMD	地籍調査年月日	地籍調査年月日		○	D	－	－	－	－		基本・推奨
22	境界の確定に資する測量	SinChoku	境界確定済・未コード	境界確定		○	H	－	2	－	○	1:済　2:一部済　3:未済　4:不明	基本・推奨
23		KakutaiYMD	実施年月日	実施年月日		○	D	－	－	－	－		基本・推奨
29	任意入力項目	TOldCityCD	旧市町村コード	旧市町村			H	－	4	－	○		基本・推奨
30		TOazaCD	大字コード	大字			H	－	50	－	○	桁数は各自治体の特性で判断する	基本・推奨
31		TAzaCD	字コード	字			H	－	50	－	○	無い場合は入力不要	基本・推奨
32		THon	地番本番	地番本番			H	－	10	－	－	枝番等を分けて持つ場合に記載	基本・推奨
33		TEda	地番枝番	地番枝番			H	－	10	－	－		基本・推奨
34		TEda1	地番孫番	地番孫番			H	－	10	－	－		基本・推奨
35		TEda2	地番曾孫番	地番曾孫番			H	－	10	－	－		基本・推奨
36		TEda3	地番玄孫番	地番玄孫番			H	－	10	－	－		基本・推奨
24		TFree1	任意項目1	任意項目1			X	－	255	－	－	汎用性を考慮してテキスト型とする。 集計が必要な場合はエクスポート後に数値化するなど適宜対応する。 項目数の追加は各自治体の特性で判断する	基本・推奨
25		TFree2	任意項目2	任意項目2			X	－	255	－	－		基本・推奨
26		TFree3	任意項目3	任意項目3			X	－	255	－	－		基本・推奨
27		TFree4	任意項目4	任意項目4			X	－	255	－	－		基本・推奨
28		TFree5	任意項目5	任意項目5			X	－	255	－	－		基本・推奨
29	データ管理項目	updated_at	更新データ時点	更新時点			D	―	―	―	―	西暦で記載	基本・推奨

（２）　林小班関連テーブル

No.	分類	フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
1	連番	ID	連番	連番	○	○	9		10		－	システムにより自動的に行ごとに付けられる重複しない連番	基本・推奨
2	林小班識別情報	RKEY	林小班識別情報	地番識別		○	H		100		－	都道府県～小班枝番までを結合した識別情報	基本・推奨
3	都道府県	RPrefCD	都道府県コード	都道府県		○	H		2		○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	基本・推奨
4	森林簿上の所在情報	RCityCD	市町村コード	市町村		○	H		4		○	森林簿上のコードを入力	基本・推奨
5		ROldCityCD	旧市町村コード	旧市町村		○	H		4		○	森林簿上のコードを入力	基本・推奨
6		Rin	林班	林班		○	H		4		－		基本・推奨
7		SyohanGn	小班群	小班群		○	H		2		任意		基本・推奨
8		Syohan	小班	小班		○	H		4		－		基本・推奨
9		SyohanEda	小班枝番	小班枝番		○	H		2		－		基本・推奨
10	森林経営計画の認定情報	KeieiUmu	認定の有無コード	認定有無		○	H		2		○	1:有	基本・推奨
11		NinteiSyu	認定者の種類コード	認定者			H		2		○	1:市町村長　2:都道府県知事　3:農林水産大臣	基本・推奨
12		NtyYM	認定年月	認定年月			D		－		－	(重複は新しい方)	基本・推奨
13	公益的機能別施業森林等	Zonetype1	区分コード1	公益的区分1		○	H		2		○		基本・推奨
14		Zonetype2	区分コード2	公益的区分2		○	H		2		○		基本・推奨
15		Zonetype3	区分コード3	公益的区分3		○	H		2		○		基本・推奨
16		SegName1	施業方法等1	公益的施業1		○	H		2		○		基本・推奨
17		SegName2	施業方法等2	公益的施業2		○	H		2		○		基本・推奨
18		SegName3	施業方法等3	公益的施業3		○	H		2		○		基本・推奨
19	任意入力項目	RFree1	任意項目1	任意項目1			X		255		－	汎用性を考慮してテキスト型とする。 集計が必要な場合はエクスポート後に数値化するなど適宜対応する。 項目数の追加は各自治体の特性で判断する	基本・推奨
20		RFree2	任意項目2	任意項目2			X		255		－		基本・推奨
21		RFree3	任意項目3	任意項目3			X		255		－		基本・推奨
22		RFree4	任意項目4	任意項目4			X		255		－		基本・推奨
23		RFree5	任意項目5	任意項目5			X		255		－		基本・推奨
24		RSyoyuName	氏名・名称	氏名・名称			X		255		－	林小班に対応する「現に所有している者、所有者とみなされる者」の氏名、住所について森林簿情報から記載可	基本・推奨
25		RShoyuAddr	住所	住所			X		255		－		基本・推奨
26		Rkyoyu	共有	共有			9		1		－		基本・推奨
27		RJiyCD	記載事由コード	記載事由			H		2		○		基本・推奨
28		RKisaiYMD	届出年月日・記載年月日	届出記載年月日			D		－		－		基本・推奨
29	データ管理項目	updated_at	更新データ時点	更新時点			D	―	―	―	―	西暦で記載	基本・推奨

（３）　相関表テーブル

No.	分類	フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
1	地番識別情報	TKEY	地番識別情報	地番識別	○	○	X		255		－	都道府県～記号～地番玄孫番までを結合した識別情報	基本・推奨
2	林小班識別情報	RKEY	林小班識別情報	林小班識別	○	○	H		100		－	都道府県～小班枝番までを結合した識別情報	基本・推奨
3	データ管理項目	updated_at	更新データ時点	更新時点			D	―	―	―	―	西暦で記載	基本・推奨

（４）　共有者テーブル

No.	分類	フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
1	登記簿上の所在情報	Tsyozai	所在	所在	○	○	X		100		－	全角文字列形式とする。	基本・推奨
2		TKigo	記号	記号	○		H		10		－	山地番の記号「Y」や「甲」「乙」等の記号を地番本番と分けて管理する場合に使用可能とする。	基本・推奨
3		Tchban	地番	地番	○	○	H		50		－	半角文字列形式とする。地番本番"玄孫番までハイフン(-)で結合する。	基本・推奨
4	連番	KEYNo	整理番号	整理番号	○	○	9		100		－	所在＋記号＋地番ごとの連番(システムにより自動的に付けられる重複しない連番)	基本・推奨
5	所有者情報	TName	氏名・名称	氏名・名称		○	X		100		－	登記簿データの漢字氏名、外字を含む場合は外字コードを入力	基本・推奨
6		TAddr	住所	住所		○	X		100		－	登記簿データの漢字住所、外字を含む場合は外字コードを入力	基本・推奨
7	登記簿情報	ToukiYMD	登記年月日	登記年月日			D		－	－	－	「登記簿上の所有者」について使用	基本・推奨
8	現に所有している者、所有者とみなされる者	TJiyCD	記載事由コード	記載事由			H	－	2	－	○	「現に所有している者・所有者とみなされる者」について使用	基本・推奨
9		TKisaiYMD	届出年月日・記載年月日	届出記載年月日			D	－	－	－	－	「現に所有している者・所有者とみなされる者」について使用	基本・推奨
10	任意入力項目	TFree1	任意項目1	任意項目1			X		255		－	汎用性を考慮してテキスト型とする。	基本・推奨
11		TFree2	任意項目2	任意項目2			X		255		－		基本・推奨
12	データ管理項目	updated_at	更新データ時点	更新時点			D	―	―	―	―	西暦で記載	基本・推奨

３.２.３ 推奨仕様

- 各データテーブルの定義については、「林地台帳及び地図整備マニュアル」に記載されている「林地台帳のデータ定義」に従う。
- なお、林小班関連情報テーブルについては、都道府県版森林資源 DB を参照してデータを作成する。
- 「林地台帳のデータ定義」に含まれない、推奨仕様から追加した項目について説明する。

（１） 地番テーブル

No.	分類		フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
1	連番		ID	連番	連番	○	○	9	－	10	－	－	システムにより自動的に行ごとに付けられる重複しない連番	基本・推奨
2	地番識別情報		TKEY	地番識別情報	地番識別		○	X	－	255	－	－	「都道府県～記号`地番玄孫番までを結合した識別情報」※	基本・推奨
3	都道府県		TPrefCD	都道府県コード	都道府県		○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	基本・推奨
4	市町村		TCityCD	市町村コード	市町村		○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4 桁	基本・推奨
5	登記簿上の所在情報		Tsyozai	所在	所在		○	X	－	100	－	－	全角文字列形式とする。	基本・推奨
6			TKigo	記号	記号		○	H	－	10	－	－	山地番の記号「Y」や「甲」「乙」等の記号を地番本番と分けて管理する場合に使用可能とする。	基本・推奨
7			Tchban	地番	地番		○	H	－	50	－	－	半角文字列形式とする。地番本番`玄孫番までハイフン(-)で結合する。	基本・推奨
8	登記簿情報		TName	氏名・名称	氏名・名称		○	X	－	100	－	－	登記簿データの漢字氏名、外字を含む場合は外字コードを入力	基本・推奨
9			TKana	氏名・名称カナ	氏名・名称カナ			X	－	100	－	－		推奨仕様のみ
10			TAddr	住所	住所		○	X	－	100	－	－	登記簿データの漢字住所、外字を含む場合は外字コードを入力	基本・推奨
11			TTel	電話番号	電話番号			H	－	11	－	－		推奨仕様のみ
12			TKyoyu1	共有	共有		○	9	－	1	－	○	1:有	基本・推奨
13			ToukiYMD	登記年月日	登記年月日		○	D	－	－	－	－		基本・推奨
14			TTimcCD	登記地目コード	登記地目			H	－	2	－	○		基本・推奨
15			Tmen	面積	面積		○	9	ha	7.4	第4位	－	登記簿の面積（小数第4位）	基本・推奨
16	現に所有している者、所有者とみなされる者		TSyoyuName	氏名・名称	氏名・名称		○	X	－	100	－	－		基本・推奨
17			TSyoyuKana	氏名・名称カナ	氏名・名称カナ			X	－	100	－	－		推奨仕様のみ
18			TShoyuAddr	住所	住所		○	X	－	100	－	－		基本・推奨
19			TSyoyuTel	電話番号	電話番号			H	－	11	－	－		推奨仕様のみ
20			Tkyoyu2	共有	共有		○	9	－	1	－	○	1:有	基本・推奨
21			TJiyCD	記載事由コード	記載事由		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
22			TKisaiYMD	届出年月日・記載年月日	届出記載年月日		○	D	－	－	－	－		基本・推奨
23	境界に係る測量の実施状況	地籍調査情報	TiskCD	地籍調査済・未コード	地籍調査		○	H	－	2	－	○	1:済 2:未済 3:不明	基本・推奨
24			TiskYMD	地籍調査年月日	地籍調査年月日		○	D	－	－	－	－		基本・推奨
25		境界の確定に資する測量	SinChoku	境界確定済・未コード	境界確定		○	H	－	2	－	○	1:済 2:一部済 3:未済 4:不明	基本・推奨
26			KakuteiYMD	実施年月日	実施年月日		○	D	－	－	－	－		基本・推奨
27	立木所有者情報		trees_owner_name	立木所有者 氏名・名称	立所有者氏名		○	X	－	100	－	－		推奨仕様のみ
28			trees_owner_name_kana	氏名・名称カナ	氏名・名称カナ			X	－	100	－	－		推奨仕様のみ
29			trees_owner_address	立木所有者 住所	住所		○	X	－	100	－	－		推奨仕様のみ
30			trees_owner_tel	電話番号	電話番号			H	－	11	－	－		推奨仕様のみ
31	実質管理者情報		admin_name	実質管理者 氏名・名称	実質管理者氏名		○	X	－	100	－	－		推奨仕様のみ
32			admin_name_kana	氏名・名称カナ	氏名・名称カナ			X	－	100	－	－		推奨仕様のみ
33			admin_address	実質管理者 住所	住所		○	X	－	100	－	－		推奨仕様のみ
34			admin_tel	電話番号	電話番号			H	－	11	－	－		推奨仕様のみ
35	任意入力項目		TOldCityCD	旧市町村コード	旧市町村			H	－	4	－	○		基本・推奨
36			TOazaCD	大字コード	大字			H	－	50	－	○	桁数は各自治体の特性で判断する	基本・推奨
37			TAzaCD	字コード	字			H	－	50	－	○	無い場合は入力不要	基本・推奨
38			THon	地番本書	地番本書			H	－	10	－	－	枝番等を分けて持つ場合に記載	基本・推奨
39			TEda	地番枝番	地番枝番			H	－	10	－	－		基本・推奨
40			TEda1	地番孫番	地番孫番			H	－	10	－	－		基本・推奨
41			TEda2	地番曾孫番	地番曾孫番			H	－	10	－	－		基本・推奨
42			TEda3	地番玄孫番	地番玄孫番			H	－	10	－	－		基本・推奨
43			TFree1	任意項目1	任意項目1			X	－	255	－	－		基本・推奨
44			TFree2	任意項目2	任意項目2			X	－	255	－	－	汎用性を考慮してテキスト型とする。	基本・推奨
45			TFree3	任意項目3	任意項目3			X	－	255	－	－	集計が必要な場合はエクスポート後に数値化するなど適宜対応する。	基本・推奨
46			TFree4	任意項目4	任意項目4			X	－	255	－	－	項目数の追加は各自治体の特性で判断する	基本・推奨
47			TFree5	任意項目5	任意項目5			X	－	255	－	－		基本・推奨
48			chiban_as_of_ymd	地番データ時点	地番データ時点			D	－	－	－	－	地番DBを更新する際に自動更新する。	推奨仕様のみ
49			chiban_area	地番面積	地番面積			9	ha	7.4	第4位	－		推奨仕様のみ
50			chiban_data_source	地番情報データ取得方法	地番情報取得法			H	－	2	－	○		推奨仕様のみ
51			proceeds_sharing_frst	分収林	分収林			H	－	2	－	○		推奨仕様のみ
52			frst_type	森林の種類	森林種類			H	－	2	－	○	第1から第5まで持つこととする。	推奨仕様のみ
53			frst_type_range	森林の種類範囲	種類範囲			H	－	2	－	○		推奨仕様のみ
54			logging_method	伐採の方法等	伐採方法			H	－	2	－	○		推奨仕様のみ

ア　　立木所有者　氏名・名称

内容　　：立木の所有者について、全角文字で氏名・名称を記載する。

イ　　立木所有者　住所

内容　　：立木の所有者住所を記載する。

ウ　　立木所有者　共有

内容　　：立木の所有者住所を記載する。

作成方法：共有がある場合は「1」を入力。

エ　　立木所有者　記載事由コード

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	森林法に基づく森林の土地の所有者届出	土地所有者届
2	本人による修正申出	本人修正申出
3	森林簿	森林簿
4	国土利用計画法に基づく土地取引の届出	国土利用計画法
5	その他	その他

オ　　立木所有者　届出年月日・記載年月日

内容　　：立木所有者について届出があった年月日、記載した年月日。

カ　　実質管理者　氏名・名称

内容　　：林地の所有者ではない、現地の実質的な管理者に関する情報。全角文字で氏名・名称を記載する。

キ　　実質管理者　住所

内容　　：実質管理者の住所を記載する。

ク　　実質管理者　記載事由コード

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	森林法に基づく森林の土地の所有者届出	土地所有者届
2	本人による修正申出	本人修正申出
3	森林簿	森林簿
4	国土利用計画法に基づく土地取引の届出	国土利用計画法
5	その他	その他

ケ　　実質管理者　届出年月日・記載年月日

内容　　：実質管理者について届出があった年月日、記載した年月日。

コ　　地番データ時点

内容　　：地番 DB を取得した際の年月日の項目

地番情報は、他の情報とは異なる時点で更新することがあるため、より重要となる。

作成・更新に関するシステム要件：

地番データ時点は、該当する DB を入力・更新する際に、自動更新される。

サ　　地番面積

単位　　：ヘクタール（ha）

作成方法：地番情報データ取得方法に示すいずれかの方法で取得した情報を基に入力する。

シ　　地番情報データ取得方法

内容　　：地番 DB の各情報を取得した方法を記載する項目
情報の精度を示す重要な指標となる。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	地籍調査完了済地番情報	地籍完了
2	境界測量成果	境界測量
3	その他	他

ス　　分収林

内容　　：分収林である場合に、その種類を記載する。

コード表：次表の通り

作成方法：独立した分収林の地図情報よりデータを作成する。

コード	名称	略称
1	分収造林	分造
2	分収育林	分育

セ　　森林の種類範囲

内容　　：指定されている森林の種類の制限範囲が、地番の全域か、又は、地番の一部のみかを識別する項目

コード表：次表の通り

作成に関するシステム要件：

制限林の地図データがある場合は、地番ポリゴンとオーバーレイして、「森林の種類」にその制限林の種類を自動入力する。

その際に、地番ポリゴンと制限林データとの重なりの状況により、当該地番の森林種類範囲を自動更新する。

留意点　：森林の種類が、1 地番に複数指定されている場合は、各森林の種類に対応する形で森林の種類範囲を複数定める。

（例：森林の種類範囲 1、森林の種類範囲 2、森林の種類範囲 3）

森林の種類が指定されていないレコードの場合は、森林の種類範囲は「制限

林なし」となる。

コード	名称	略称
1	全域制限林	全域
2	一部制限林	一部
3	制限林なし	無し

ソ　森林の種類

コード表：次表の通り

地図に関するシステム要件：

本項目によって制限林等の主題図（分類図）を作成する場合、その種別とともに、「保安林－保安林以外」のみに大別した分類を可能とする。

留意点　：1 つの小班（または小班枝番）に複数の制限林が指定されている場合があるが、3 つまで入力を可能とする。

（例：森林の種類 1、森林の種類 2、森林の種類 3）

コード	名称	略称
01	普通林	普
11	水源かん養保安林	水かん
12	土砂流出防備保安林	土流
13	土砂崩壊防備保安林	土崩
14	飛砂防備保安林	飛砂
15	防風保安林	防風
16	水害防備保安林	水害
17	潮害防備保安林	潮害
18	干害防備保安林	干害
19	防雪保安林	防雪
20	防霧保安林	防霧
21	雪崩防止保安林	雪崩
22	落石防止保安林	落石
23	防火保安林	防火
24	魚つき保安林	魚つき
25	航行目標保安林	航行
26	保健保安林	保健
27	風致保安林	風致
30	保安施設地区	保施設
31	砂防指定地	砂防
41	国立公園特別地区	国公特
42	国立公園第1種特別地域	国公1
43	国立公園第2種特別地域	国公2
44	国立公園第3種特別地域	国公3
45	国立公園地区分未定地域	国公未
46	国立公園普通地域	国公普

コード	名称	略称
51	国定公園特別保護地区	国公保
52	国定公園第1種特別地域	国定1
53	国定公園第2種特別地域	国定2
54	国定公園第3種特別地域	国定3
55	国定公園地区分未定地域	国定未
56	国定公園普通地域	国定普
61	都道府県立自然公園第1種特別地域	県公1
62	都道府県立自然公園第2種特別地域	県公2
63	都道府県立自然公園第3種特別地域	県公3
64	都道府県立自然公園地区分未定地域	県公未
65	都道府県立自然公園普通地域	県公普
70	原生自然環境保全地域	原生
71	鳥獣保護区特別保護地区	鳥獣
72	都市計画区域風致地区	都市
73	特別母樹林	母樹
74	史跡名勝天然記念物	史跡
75	自然環境保全地区特別地区	自特
76	自然環境保全地区普通地区	自普
77	都道府県自然環境保全地域特別地区	県自特
78	都道府県自然環境保全地域普通地区	県自普
79	緑地保全地区	緑地
80	生息地等保護区内の管理地区	生管
81	生息地等保護区内の監視地区	生監
82	その他	他

タ　伐採の方法等

内容　　：制限林に関連して定められる項目

コード表：次表の通り

留意点　：森林の種類が、1 地番に複数指定されている場合は、各森林の種類に対応する形で森林の伐採方法を複数定める。

（例：伐採の方法等 1、伐採の方法等 2、伐採の方法等 3）

チ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

コード	名称	略称
1	皆伐	K
2	択伐	T
3	禁伐	N
4	その他	O

（２）　林小班関連情報テーブル

No.	分類	フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
1	連番	ID	連番	連番	○	○	9		10		－	システムにより自動的に行ごとに付けられる重複しない連番	基本・推奨
2	林小班識別情報	RKEY	林小班識別情報	林小班識別		○	H		100		－	都道府県～小班枝番までを結合した識別情報	基本・推奨
3	都道府県	RPrefCD	都道府県コード	都道府県		○	H		2		○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	基本・推奨
4	森林簿上の所在情報	RCityCD	市町村コード	市町村		○	H		4		○	森林簿上のコードを入力	基本・推奨
5		ROldCityCD	旧市町村コード	旧市町村		○	H		4		○	森林簿上のコードを入力	基本・推奨
6		Rin	林班	林班		○	H		4		－		基本・推奨
7		SyohanGn	小班群	小班群		○	H		2		任意		基本・推奨
8		Syohan	小班	小班		○	H		4		－		基本・推奨
9		SyohanEda	小班枝番	小班枝番		○	H		2		－		基本・推奨
10	森林経営計画の認定情報	KeieiUmu	認定の有無コード	認定有無		○	H		2		○	1:有	基本・推奨
11		NinteiSyu	認定者の種類コード	認定者			H		2		○	1:市町村長 2:都道府県知事 3:農林水産大臣	基本・推奨
12		NtyYM	認定年月	認定年月			D		－		－	（重複は新しい方）	基本・推奨
13	公益的機能別施業森林等	Zonetype1	区分コード1	公益的区分1		○	H		2		○		基本・推奨
14		Zonetype2	区分コード2	公益的区分2		○	H		2		○		基本・推奨
15		Zonetype3	区分コード3	公益的区分3		○	H		2		○		基本・推奨
16		SegName1	施業方法等1	公益的施業1		○	H		2		○		基本・推奨
17		SegName2	施業方法等2	公益的施業2		○	H		2		○		基本・推奨
18		SegName3	施業方法等3	公益的施業3		○	H		2		○		基本・推奨
19	任意入力項目	RFree1	任意項目1	任意項目1			X		255		－	汎用性を考慮してテキスト型とする。	基本・推奨
20		RFree2	任意項目2	任意項目2			X		255		－	集計が必要な場合はエクスポート後に数値化するなど適宜対応	基本・推奨
21		RFree3	任意項目3	任意項目3			X		255		－	する。	基本・推奨
22		RFree4	任意項目4	任意項目4			X		255		－	項目数の追加は各自治体の特性で判断する	基本・推奨
23		RFree5	任意項目5	任意項目5			X		255		－		基本・推奨
24		RSyoyuName	氏名・名称	氏名・名称			X		255		－	林小班に対応する「現に所有している者、所有者とみなされる者」	基本・推奨
25		RShoyuAddr	住所	住所			X		255		－	の氏名、住所について森林簿情報から記載可	基本・推奨
26		Rkyoyu	共有	共有			9		1		－		基本・推奨
27		RJiyCD	記載事由コード	記載事由			H		2		○		基本・推奨
28		RKisaiYMD	届出年月日・記載年月日	届出記載年月日			D		－		－		基本・推奨
29	データ管理項目	updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨

（３）　相関表テーブル

No.	分類	フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
1	地番識別情報	TKEY	地番識別情報	地番識別	○	○	X		255		－	都道府県～記号～地番玄孫番までを結合した識別情報	基本・推奨
2	林小班識別情報	RKEY	林小班識別情報	林小班識別	○	○	H		100		－	都道府県～小班枝番までを結合した識別情報	基本・推奨
3	データ管理項目	updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨

（４）　地番 DB－共有者テーブル(登記簿情報)

No.	分類	フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
1	登記簿上の所在情報	syozai	所在	所在	○	○	X		100		－	全角文字列形式とする。	推奨仕様のみ
2		Kigo	記号	記号	○		H		10		－	山地番の記号「り」や「甲」「乙」等の記号を地番本番と分けて管理する場合に使用可能とする。	推奨仕様のみ
3		chiban	地番	地番	○	○	H		50		－	半角文字列形式とする。地番本番～玄孫番までハイフン(-)で結合する。	推奨仕様のみ
4	連番	KEYNo	整理番号	整理番号	○	○	9		100		－	所在＋記号＋地番ごとの連番（システムにより自動的に付けられる重複しない連番）	推奨仕様のみ
5	所有者情報	Name	氏名・名称	氏名・名称		○	X		100			登記簿データの漢字氏名、外字を含む場合は外字コードを入力	推奨仕様のみ
6		Kana	氏名・名称カナ	氏名・名称カナ			X	－	100	－	－		推奨仕様のみ
7		Addr	住所	住所		○	X		100			登記簿データの漢字住所、外字を含む場合は外字コードを入力	推奨仕様のみ
8		Tel	電話番号	電話番号			H	－	11	－	－		推奨仕様のみ
9	登記簿情報	TouikiYMD	登記年月日	登記年月日			D		－	－	－	「登記簿上の所有者」について使用	推奨仕様のみ
10	任意入力項目	Free1	任意項目1	任意項目1			X		255		－	汎用性を考慮してテキスト型とする。	推奨仕様のみ
11		Free2	任意項目2	任意項目2			X		255		－		推奨仕様のみ
12	データ管理項目	updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	推奨仕様のみ

（５）　地番 DB－共有者テーブル(現に所有している者)

No.	分類	フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
1	登記簿上の所在情報	syozai	所在	所在	○	○	X		100		－	全角文字列形式とする。	推奨仕様のみ
2		Kigo	記号	記号	○		H		10		－	山地番の記号「り」や「甲」「乙」等の記号を地番本番と分けて管理する場合に使用可能とする。	推奨仕様のみ
3		chiban	地番	地番	○	○	H		50		－	半角文字列形式とする。地番本番～玄孫番までハイフン(-)で結合する。	推奨仕様のみ
4	連番	KEYNo	整理番号	整理番号	○	○	9		100		－	所在＋記号＋地番ごとの連番（システムにより自動的に付けられる重複しない連番）	推奨仕様のみ
5	現に所有している者、所有者とみなされる者	trees_owner_name	氏名・名称	氏名・名称		○	X		100			登記簿データの漢字氏名、外字を含む場合は外字コードを入力	推奨仕様のみ
6		syoyuKana	氏名・名称カナ	氏名・名称カナ			X	－	100	－	－		推奨仕様のみ
7		syoyuAddr	住所	住所		○	X		100			登記簿データの漢字住所、外字を含む場合は外字コードを入力	推奨仕様のみ
8		syoyuTel	電話番号	電話番号			H	－	11	－	－		推奨仕様のみ
9		JiyCD	記載事由コード	記載事由			H	－	2	－	○	「現に所有している者・所有者とみなされる者」について使用	推奨仕様のみ
10		KisaiYMD	届出年月日・記載年月日	届出記載年月日			D	－	－	－	－	「現に所有している者・所有者とみなされる者」について使用	推奨仕様のみ
11	任意入力項目	Free1	任意項目1	任意項目1			X		255		－	汎用性を考慮してテキスト型とする。	推奨仕様のみ
12		Free2	任意項目2	任意項目2			X		255		－		推奨仕様のみ
13	データ管理項目	updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	推奨仕様のみ

（６）　地番 DB－共有者テーブル(立木所有者)

No.	分類	フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
1	登記簿上の所在情報	syozai	所在	所在	○	○	X		100		－	全角文字列形式とする。	推奨仕様のみ
2		Kigo	記号	記号	○		H		10		－	山地番の記号「り」や「甲」「乙」等の記号を地番本番と分けて管理する場合に使用可能とする。	推奨仕様のみ
3		chiban	地番	地番	○	○	H		50		－	半角文字列形式とする。地番本番～玄孫番までハイフン(-)で結合する。	推奨仕様のみ
4	連番	KEYNo	整理番号	整理番号	○	○	9		100		－	所在＋記号＋地番ごとの連番（システムにより自動的に付けられる重複しない連番）	推奨仕様のみ
5	立木所有者	trees_owner_name	氏名・名称	氏名・名称		○	X		100			登記簿データの漢字氏名、外字を含む場合は外字コードを入力	推奨仕様のみ
6		trees_owner_name_kana	氏名・名称カナ	氏名・名称カナ			X	－	100	－	－		推奨仕様のみ
7		trees_owner_address	住所	住所		○	X		100			登記簿データの漢字住所、外字を含む場合は外字コードを入力	推奨仕様のみ
8		trees_owner_tel	電話番号	電話番号			H	－	11	－	－		推奨仕様のみ
9	任意入力項目	Free1	任意項目1	任意項目1			X		255		－	汎用性を考慮してテキスト型とする。	推奨仕様のみ
10		Free2	任意項目2	任意項目2			X		255		－		推奨仕様のみ
11	データ管理項目	updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	推奨仕様のみ

（7） 地番 DB－共有者テーブル(実質管理者)

No.	分類	フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
1	登記簿上の所在情報	syozai	所在	所在	○	○	X		100		－	全角文字列形式とする。	推奨仕様のみ
2		Kigo	記号	記号	○		H		10		－	山地番の記号「Y」や「甲」「乙」等の記号を地番本番と分けて管理する場合に使用可能とする。	推奨仕様のみ
3		chiban	地番	地番	○	○	H		50		－	半角文字列形式とする。地番本番～支孫番までハイフン(-)で結合する。	推奨仕様のみ
4	連番	KEYNo	整理番号	整理番号	○	○	9		100		－	所在＋記号＋地番ごとの連番（システムにより自動的に付けられる重複しない連番）	推奨仕様のみ
5	実質管理者	admin_name	氏名・名称	氏名・名称		○	X		100			登記簿データの漢字氏名、外字を含む場合は外字コードを入力	推奨仕様のみ
6		admin_name_kana	氏名・名称カナ	氏名・名称カナ			X	－	100	－	－		推奨仕様のみ
7		admin_address	住所	住所		○	X		100			登記簿データの漢字住所、外字を含む場合は外字コードを入力	推奨仕様のみ
8		admin_tel	電話番号	電話番号			H	－	11	－	－		推奨仕様のみ
9	任意入力項目	Free1	任意項目1	任意項目1			X		255		－	汎用性を考慮してテキスト型とする。	推奨仕様のみ
10		Free2	任意項目2	任意項目2			X		255		－		推奨仕様のみ
11	データ管理項目	updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	推奨仕様のみ

（8） 森林経営管理制度情報

No.	分類	フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
1	連番	ID	連番	連番	○	○	9	－	10	－	－	システムにより自動的に行ごとに付けられる重複しない連番	推奨仕様のみ
2	意向調査	Advance_Intention_YMD	意向調査事前準備時期	意向準備時期			D	－	－	－	－		推奨仕様のみ
3		Advance_Intention	意向調査準備内容	意向準備内容			H	－	2	－	○		推奨仕様のみ
4		Intention_Umu	意向調査実施有無	意向実施有無		○	H	－	2	－	○		推奨仕様のみ
5		Intention_YMD	意向調査実施時期	意向実施時期		○	D	－	－	－	－		推奨仕様のみ
6		Intention_Reply_Umu	意向調査回答有無	意向回答有無		○	H	－	2	－	○		推奨仕様のみ
7		Management_Intention	経営管理意向	経営管理意向		○	H	－	2	－	○		推奨仕様のみ
8		Collection_Intenshon	集積計画作成意向	集積作成意向		○	H	－	2	－	○		推奨仕様のみ
9	集積計画	Collection_Offer_Umu	集積計画策定申出有無	集積申出有無			H	－	2	－	○		推奨仕様のみ
10		Collection_Offer_YMD	集積計画策定申出時期	集積申出時期			D	－	－	－	－		推奨仕様のみ
11		Collection_Umu	集積計画策定有無	集積策定有無		○	H	－	2	－	○		推奨仕様のみ
12		Collection_Umu	集積計画策定時期	集積策定時期		○	D	－	－	－	－		推奨仕様のみ
13	実施配分計画	Allocation_Umu	実施配分計画策定有無	配分策定有無		○	H	－	2	－	○		推奨仕様のみ
14		Allocation_YMO	実施配分計画策定時期	配分策定時期		○	D	－	－	－	－		推奨仕様のみ
15		Allocation_Release_Umu	実施配分計画解除有無	配分解除有無		○	H	－	2	－	○		推奨仕様のみ
16		Allocation_Release_YMO	実施配分計画解除時期	配分解除時期		○	D	－	－	－	－		推奨仕様のみ
17	データ管理項目	updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	推奨仕様のみ

ア　意向調査事前準備時期

内容　：森林経営管理制度における意向調査の事前準備を行った時期

イ　意向調査準備内容

内容　：森林経営管理制度における意向調査の事前準備内容

コード表：次表の通り

意向調査準備内容		
コード	名称	略称
1	森林情報等整備	情報整備
2	事前アンケート調査	事前調査
3	所有者向け説明会	所有者説明
4	その他	その他

ウ　意向調査実施有無

内容　：森林経営管理制度における意向調査の実施の有無

コード表：次表の通り

意向調査実施有無		
コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

エ　意向調査実施時期

内容　：森林経営管理制度における意向調査の実施時期

オ　意向調査回答有無

内容　：森林経営管理制度における意向調査の回答の有無

コード表：次表の通り

意向調査回答有無		
コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無
3	宛先不明	宛先不明

オ　　経営管理意向

内容　　：森林経営管理制度の意向調査における森林所有者の意向の内容

コード表：次表の通り

経営管理意向		
コード	名称	略称
1	既に委託	既委託
2	自身で経営管理	自経営管理
3	自身で委託	自委託
4	委託を検討	委託検討
5	譲渡を希望	譲渡希望
6	その他	その他
7	不明	不明

カ　　集積計画作成意向

内容　　：森林経営管理制度における集積計画作成の意向

コード表：次表の通り

集積計画作成意向		
コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無
2	不明	不明

キ　　集積計画策定申出有無

内容　　：森林経営管理制度における集積計画策定申出の有無

コード表：次表の通り

集積計画策定申出有無		
コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

ク　　集積計画策定申出時期

内容　　：森林経営管理制度における集積計画策定申出の時期

ケ　　集積計画策定有無

内容　　：森林経営管理制度における集積計画策定の有無

コード表：次表の通り

集積計画策定有無		
コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

コ　　集積計画策定時期

内容　　：森林経営管理制度における集積計画策定の時期

サ　　実施配分計画策定有無

内容　　：森林経営管理制度における実施配分計画策定の有無

コード表：次表の通り

実施配分計画策定有無		
コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

シ　　実施配分計画策定時期

内容　　：森林経営管理制度における実施配分計画策定の時期

ス　　実施配分計画解除有無

内容　　：森林経営管理制度における実施配分計画解除の有無

コード表：次表の通り

実施配分計画解除有無		
コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

セ　　実施配分計画解除時期

内容　　：森林経営管理制度における実施配分計画解除の時期

３.２.４ 森林所有者情報の標準化に係るシステムの標準仕様

市町村・林業事業体版の森林所有者情報のデータ項目に係るシステムの標準仕様を抜粋し、次表に再掲する。

仕様区分	項目		内容
基本・推奨共通	地番データ時点	データ作成	◎地番DBにデータを入力・更新する際に、自動入力される。
基本	森林所有者	データ作成	◎小班テーブルの中に含める。 ◎コード化しない。
推奨	森林所有者CD（森林所有者テーブル）	データ作成	◎小班テーブルと別テーブルで管理 ◎コード化する。全11桁（前9桁はランダム採番、最後の2桁は都道府県コード）とする。
推奨	前所有者名	データ作成	◎新しく所有者が変更になる際には、「森林所有者漢字」項目から自動入力される。 ただし、入力による更新を可能とする。
推奨	各森林所有者情報	データ作成	◎地籍調査の情報や境界明確化事業の成果等の電子データがある場合、地番・森林所有者名・森林所有者住所・森林所有者電話番号を自動で取り込む。 ◎この際、基のデータ形式への対応が必要となる。 ◎森林所有者住所から、森林所有者都道府県と森林所有者市町村のCDを自動入力する。
推奨	森林の種類	データ作成	◎制限林の地図データがある場合に、地番ポリゴンとオーバーレイして、森林の種類にその制限林の種類を自動入力する。
推奨	森林の種類範囲	データ作成	◎制限林の地図データがある場合に、地番ポリゴンとオーバーレイし、地番ポリゴンの各地番と制限林ポリゴンとの重なり度合いにより、当該地番の森林種類範囲を自動入力する。

３．３ 森林資源情報

３.３.１ 小班の独自区分

推奨仕様として、林班（または小班群）を一つの単位として、林相界を基に小班界を区分し、市町村・林業事業体独自の情報を作成・更新することを可能とする。

◎ 独自区分の実施

＜実施の範囲＞

- 一部の小班のみを独自に区分すると、隣接する小班とのズレが生じる恐れがあるため、林班（または小班群）内の全小班について一括して実施することが望ましい。
- 市町村・林業事業体版森林資源情報は、都道府県版森林資源情報と異なり、森林所有者に関する情報は別 DB で保有するため、林相界を基に区分し、所有界では区分しない。

＜調査により収集する情報＞

- 独自区分することにより、その林班内は都道府県版森林資源情報の区画と異なることになるため、都道府県版森林資源情報の数値情報をそのまま利用することができない。
- そのため、以下の項目は各種調査等により新たに情報を取得する必要がある。
  ⇒層区分・林種・樹種・樹種面積・面積歩合・平均樹高・ha 当たり立木本数・樹冠疎密度
  （平均樹高・ha 当たり立木本数は独自区分でなくても調査が必要）

＜都道府県版森林資源情報から入力する情報＞

- 都道府県版森林資源情報とは異なる区分となるが、都道府県版からのみ得ることができる情報は、最も適当な情報を任意に入力する。（例：林齢等）

＜区分時の小班＞

- 独自区分した小班は、都道府県版標準仕様と同じ方法で、小班名を設定する。
  ⇒林班（小班群）の一隅の小班から連続して、連続番号を付す。
- 小班枝番が必要な場合は、同様に小班の一隅の小班枝番から連続して、連続番号を付す。

＜区分時の小班面積＞

- 小班面積は、周囲測量の結果、又は、GIS 上で小班ポリゴンの面積を求積した結果を利用する。

◎ 独自区分に必要となるシステム要件

小班の独自区分作業は推奨仕様のため、データ項目も推奨仕様を採用する。

＜小班＞

- 小班を独自区分する場合、林班（小班群）ポリゴンをコピーしたポリゴンをベースに、ポリゴン分割機能を利用して、区分する。
- 測量結果や施業履歴レイヤからのデータ取り込みによるポリゴンデータ、または背景画像等を参考にしてフリーハンド等により作成されたポリゴンデータを、スナッピング機能によりトレースして、分割する。
- 区分した各小班の属性情報を、別途表計算ソフト（出力は CSV 形式）にて作成し、GIS へ取り込む。
- 地図情報と数値情報の不整合を、自動でチェックする。

＜公益的機能別施業森林等区分・施業方法、森林経営計画＞

- 都道府県版森林資源情報における小班ポリゴンとのオーバーレイにより、重なり面積の大きな属性値を自動取得する。

＜林班・小班群・小班・小班枝番＞

- 市町村・林業事業体が属する都道府県により標準仕様と区分の名称が異なる場合で、変更するとユーザーの不都合が生じる等、運用上避けられない場合は、属する都道府県の区分に合わせて名称を変更することを可能とする。
  ただし概念は変えないこととする。

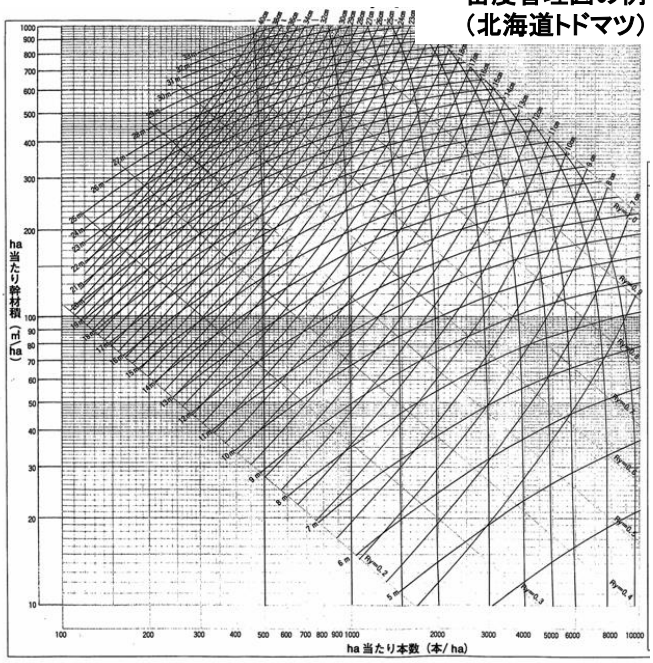
＜樹種レコード＞

- 1 つの小班（枝番）レコードに、樹種レコードを 3 つまでリンク可能とする。
- 基本的には、1 小班（枝番）レコードに 1 樹種レコードとし、混交林の場合に限り、複数樹種を含むこととする。

＜密度管理図＞

- 市町村・林業事業体標準仕様（推奨仕様）は、密度管理図を用いて材積を算定する。
- 密度管理図は、林分の密度と材積成長との間に定量的な関係があることを利用して，林分を管理するための図であり、具体的には、上層木平均樹高・胸高直径・本数密度・材積の関係を、グラフ上に表現している。
- 密度管理図を利用する際には、対象となる林分の間伐施業は下層間伐が前提であることに、留意しなければならない。

密度管理図の例
（北海道トドマツ）



◎ 独自区分の地図情報に必要となるシステム要件

＜DB に対応した地図＞

- 林相図

＜データ形式＞

- ベクトル（ポリゴン）

＜リンクキー＞

- 森林資源 DB と地図データ（林相ポリゴン）はリンクキーでリンクする。
- リンクキーは数値 22 桁。
  （都道府県（2 桁）＋市町村（4 桁）＋旧市町村（4 桁）＋林班（4 桁）＋小班群（2 桁）＋小班（4 桁）＋小班枝番（2 桁））

＜作成方法＞

- 各調査等により林相界が判明した際には、先述の通り、小班を独自に区分して作成する。
- ただし初期データは、都道府県の森林計画図と同じ形状も可とする。

＜表示方法＞

- 林相図がベースマップの場合、林班、小班群、小班、小班枝番をデフォルトで表示する。
- 地番図がベースマップの場合、大字、字、地番本番、地番支番をデフォルトで表示する。
- 1 小班レコードに複数の樹種レコードが含まれる場合、数値属性をラベリングする際は、最も面積の大きい樹種レコードの情報を表示する。

- 主題図を作成する際も同様に、最も面積の大きい樹種レコードの情報に基づいて分類される。

３.３.２ 基本仕様

（１） 小班テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
frst_age_at	林齢データ時点	林齢時点			D	－	－	－		西暦で記載	基本・推奨
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4 桁	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－		コードは任意（合併前の全国統一コードの使用を推奨）	基本・推奨
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－			基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－		任意の項目文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意必須入力	基本・推奨
syozai	所在	所在		○	X		100		－	全角文字列形式とする。	基本・推奨
Kigo	記号	記号		○	H		10		－	山地番の記号「r」や「甲」「Z」等の記号を地番本番と分けて管理する場合に使用可能とする。	基本・推奨
chban	地番	地番		○	H		50		－	半角文字列形式とする。地番本番"玄孫番までハイフン(-) で結合する。	基本・推奨
original_shohan_type	独自小班区分の有無	独自区分		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
own_form	所有形態	所有形態			H	－	2	－	○		基本・推奨
absentee_holder	所有者の在村・不在村	在村			H	－	1	－	○	現に所有する者の在村・不在村	基本・推奨
syohan_area	小班面積	小班面積		○	9	ha	3	第2位			基本・推奨
public_functions	公益的機能別施業森林等区分	公益的区分		○	H	－	2	－	○	第1から第5まで持つこととする。	基本・推奨
treatment_methods	公益的機能別施業森林等施業方法	公益的施業		○	H	－	2	－	○	第1から第3まで持つこととする。	基本・推奨
KeieiUmu	森林経営計画認定の有無コード	認定有無		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
NinteiSyu	森林経営計画認定者の種類コード	認定者		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
NtyYM	森林経営計画認定年月	認定年月		○	D	－	－	－	－		基本・推奨
frstcertification_type	森林認証の種類	認証種類			H	－	1	－	○		基本・推奨
last_logging_type	直近施業種（間伐・主伐）	直近伐採種			H	－	2	－	○	施業種コードを利用	基本・推奨
last_logging_year	直近施業実施年度（間伐・主伐）	直近伐採年			9	－	4	－	－	西暦年度で記載	基本・推奨
last_logging_area	直近施業面積（間伐・主伐）	直近伐採面積			9	ha	3	第2位	－		基本・推奨
last_affrstation_type	直近施業種（造林・保育）	直近造林保育種			H	－	2	－	○	施業種コードを利用	基本・推奨
last_affrstation_year	直近施業実施年度（造林・保育）	直近造林保育年			9	－	4	－	－	西暦年度で記載	基本・推奨
last_affrstation_area	直近施業面積（造林・保育）	直近造林保育面積			9	ha	3	第2位	－		基本・推奨
zyugai_control_area	鳥獣害防止森林区域	鳥獣害		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨
remarks	備考	備考			X	－	255	－	－		基本・推奨

※データ型について

「9」数字形式（半角）、「H」半角文字列形式（全角不可）、「X」全角文字列形式（半角不可）、「D」日付形式（半角 9999/99/99 形式）

ア　林齢データ時点

内容　：林齢の算定基準となる年月日（例：2015 年 4 月 1 日）

作成・更新に関するシステム要件：

年次更新を行った際に、自動で 1 年繰り上がる。

イ　都道府県コード

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

ウ　市町村コード

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

エ　旧市町村

内容　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目

例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県ごとに独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

オ　林班

※都道府県版標準仕様の森林資源情報における林班に合わせる。

内容　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森

林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、(国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から、)アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

カ　小班群（準林班）

※都道府県版標準仕様の森林資源情報における小班群（準林班）に合わせる。

内容　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林班）として設定することができる。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は、・・・・」の文字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

キ　小班

内容　：林況が異なる、又は施業上特に取り扱いを異にする必要がある林況別又は林分別に区分する。

作成方法：林班毎に林班の一隅の小班から連続してアラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

ク　小班枝番

内容　：既に設定された小班について、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで管理する。

ケ　独自小班区分の有無

内容　：小班の区画が、都道府県版森林資源情報の区画と同一か、独自に区分したものかを判別するため項目。

（基本仕様においては、小班の独自区分を実施しないため、コードは必ず「2（無)」となる。）

データ型・桁数：文字型・1 桁

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

コ　　所在

内容　　：地番データベース・地番テーブルの「所在」情報を参照する。

サ　　記号

内容　　：地番データベース・地番テーブルの「記号」情報を参照する。

シ　　地番

内容　　：地番データベース・地番テーブルの「地番」情報を参照する。

ス　　所有形態

内容　　：林地（土地）の所有者に関する情報

コード表：次表の通り

コード	分類	名称	略称
01	公有林	県有林	県有
02		市町村有林	市町村有
03		その他公有林	他公有
04	私有林	個人	個人
05		共有	共有
06		会社	会社
07		社寺	社寺
08		森林組合	組合
09		学校	学校
10		任意団体	団体
11		公社	公社
12		森林総合研究所	森林総研
13		財産区	財産区
14		その他	その他

セ　　所有者の在村・不在村

内容　　：現に所有する者の在村・不在村に関する情報。

作成方法：各所有者が市町村内に住んでいるかを入力する。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	在村	在村
2	不在村－都道府県内	不内
3	不在村－都道府県外	不外
4	不明	不明

ソ　　小班面積

作成・更新に関するシステム要件：

樹種テーブルにおける「樹種面積」は、

「樹種面積」＝「小班面積」×「面積歩合」

とする。

「小班面積」、「樹種面積」、「面積歩合」、のどれかが更新された場合は、残りの項目を再計算する。

樹種テーブルにおける同一「層区分」での「樹種面積」の合計は、本「小班面積」と一致しなければならない。

この際、「面積歩合」の数値と丸め誤差の関係で、「小班面積」と「樹種面積の合計」が一致しない場合は、最も「面積歩合」の大きなレコードの「樹種面積」を増減させて、合致させる。

留意点　：小班の独自区分を実施せず、都道府県版森林資源情報（林相図）の区画をそのまま使用している場合は、都道府県版森林資源情報の面積をそのまま利用する。

タ　　公益的機能別施業森林等区分

コード表：次表の通り

留意点　：一つの小班（または小班枝番）に複数の区分が存在する場合は、5 つまで入力を可能とする。

（例：公益的機能別施業森林等区分 1、公益的機能別施業森林等区分 2、公益的機能別施業森林等区分 3、・・）

コード	名称	略称
1	水源涵養機能森林	S
2	災害防止・土壌保全機能森林	T
3	快適環境機能森林	K
4	保健文化機能森林	H
5	木材生産機能森林	M
6	その他森林機能森林	Z

チ　　公益的機能別施業森林等施業方法

データ型・桁数：文字型・1 桁

コード表：次表の通り

留意点　：一つの小班（または小班枝番）に複数の施業方法が存在する場合は、3 つまで入力を可能とする。

（例：公益的機能別施業森林等施業方法 1、公益的機能別施業森林等施業方法 2、公益的機能別施業森林等施業方法 3）

コード	名称	略称
1	伐期延長森林	E
2	長伐期施業森林	B
3	複層林施業森林(択伐以外)	F
4	複層林施業森林(択伐)	P
5	特定広葉樹育成森林	I

ツ　森林経営計画認定の有無コード

内容　：当該レコードの小班（小班枝番）の森林経営計画の認定情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

テ　森林経営計画認定者の種類コード

内容　：森林経営計画の認定者の情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	市町村長	市町村長
2	都道府県知事	知事
3	農林水産大臣	大臣

ト　森林経営計画認定年月

内容　：森林経営計画の認定年月を記載する。

ナ　森林認証の種類

内容　：該当小班が取得対象となっている森林認証の種類

コード表：次表の通り

ニ　直近施業種（間伐・主伐）・(造林・保育)

内容　：実施した施業のうち最新の情報を、森林資源 DB で参照するための項目の一つ

施業情報は間伐・主伐と、造林・保育に区分する。

コード表：次表の通り

作成・更新に関するシステム要件：

森林資源レイヤのデータ更新の際に、森林資源レイヤと施業履歴レイヤとの

オーバーレイ処理によりリンクさせることでデータを入力・更新する。
一つの小班に複数の施業履歴レコードがある場合、施業履歴 DB の「施業種」が間伐・主伐の中で最新のレコードを検索し、その「施業種」を「直近施業種（間伐・主伐）」項目に自動入力する。
同様に、施業履歴 DB の「施業種」が造林・保育の中で最新のレコードを検索し、その「施業種」を「直近施業種（造林・保育）」項目に自動入力する。

コード	名称	略称
01	間伐（切捨）	切捨間
02	間伐（搬出）	搬出間
03	間伐(治山事業)	治山間
04	間伐(区分不明)	不明間
11	主伐（皆伐）	皆伐
12	主伐（択伐）	択伐

コード	名称	略称
21	造林	造林
31	下刈	下刈
32	除伐	除伐
33	つる切り	つる切
34	枝打	枝打
51	鹿ネット設置	鹿ネット
52	ツリーシェルター設置	シェルター

ヌ　直近施業実施年度（間伐・主伐）・（造林・保育）

作成方法：森林資源レイヤのデータ更新の際に、森林資源レイヤと施業履歴レイヤとのオーバーレイ処理により算出する。
直近施業種に入力された（間伐・主伐）と（造林・保育）の各データに対応する施業履歴 DB の「施業実施年度」を、（間伐・主伐）と（造林・保育）項目にそれぞれ入力・更新する。

ネ　直近施業面積（間伐・主伐）・（造林・保育）

単位　：ヘクタール（ha）

作成・更新に関するシステム要件：
森林資源レイヤのデータ更新の際に、森林資源レイヤと施業履歴レイヤとのオーバーレイ処理により算出する。
小班ポリゴンと施業履歴ポリゴンの重なり面積を GIS で算出し、施業履歴テーブルの「直近施業面積」を自動入力・更新する。
直近施業種に入力された（間伐・主伐）と（造林・保育）の各データに対応する施業履歴 DB の「施業面積」を（間伐・主伐）と（造林・保育）項目にそれぞれ入力・更新する。

ノ　鳥獣害防止森林区域

内容　：森林法の規定する鳥獣害防止森林区域に関する情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	ニホンジカ	鹿
2	その他	他

ハ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（２） 樹種テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4 桁	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－		コードは任意	基本・推奨
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－			基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ(コード化した場合の)コードは任意	基本・推奨
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－		文字型は数字のみ(コード化した場合の)コードは任意	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ(コード化した場合の)コードは任意必須入力	基本・推奨
tree_species_number	樹種番号	樹種番号	○	○	H	－	2	－			基本・推奨
logging_planned_frst	計画的伐採対象森林の内外の別	伐採対象内外			H	－	1		○		基本・推奨
layer_type	層区分	層区分		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
frst_type	林種	林種		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
group_of_tree_species	中樹種	中樹種		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
tree_species	樹種	樹種		○	H	－	3	－	○		基本・推奨
area_ratio	面積歩合	面積歩合		○	9	%	3	第1位	－		基本・推奨
area_of_each_species	樹種面積	樹種面積		○	9	ha	3	第2位	－		基本・推奨
frst_age	林齢	林齢		○	9	－	3	－	－	異齢林の場合、林齢の範囲の中央値を入力	基本・推奨
age_class	齢級	齢級			9	－	2	－	－		基本・推奨
rotation_age	標準伐期齢	標準伐期			9	年	3	－	－		基本・推奨
crown_density	樹冠疎密度	樹冠疎密度			H	－	1	－	○		基本・推奨
average_tree_height	平均樹高	平均樹高		○	9	m	2	－	－		基本・推奨
tree_height_assay_date	樹高査定年月日	樹高査定日			D	－	－	－	－		基本・推奨
tree_height_assay_method	樹高査定方法	樹高査定法			H	－	1	－	○	査定方法コード	基本・推奨
relative_location	相対地位	相対地位		○	H	－	1	－		区分はユーザーによって定める	基本・推奨
yield_table_based_volume	ha当たり査定材積－収穫表	ha材積収穫表		○	9	m3	4	－	－		基本・推奨
yield_table_based_growth	ha当たり査定成長量－収穫表	ha成長量収穫表		○	9	m3	4	－	－		基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨

ア　　都道府県

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

イ　　市町村

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

ウ　　旧市町村

内容　　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目

例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県毎に独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

エ　　林班

※都道府県版標準仕様の森林資源情報における林班に合わせる。

内容　　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、(国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から、)アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

オ　　小班群（準林班）

※都道府県版標準仕様の森林資源情報における小班群（準林班）に合わせる。

内容　　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林

班）として設定することができる。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は、・・・・」の文字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

カ　小班

内容　：林況が異なる、又は施業上特に取り扱いを異にする必要がある林況別又は林分別に区分する。

作成方法：林班毎に林班の一隅の小班から連続してアラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

キ　小班枝番

内容　：既に設定された小班について、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで管理する。

ク　樹種番号

内容　：一つの小班（または小班枝番）レコードに複数の樹種レコードを保有可能なデータベース構造とするため、各樹種レコードを識別するための番号。

作成方法：一つの小班（または小班枝番）内の樹種レコードに、1 から順に通し番号を付す。

ケ　計画的伐採対象森林の内外の別

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	内	内
2	外	外

コ　層区分

コード表：次表の通り

留意事項：複層林は樹種テーブル内の「層区分」と「面積歩合」で管理する。
層区分毎の面積歩合の合計が 100 となる様にする。

コード	名称	略称
1	上層木	上
2	下層木	下

サ　　林種

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	人工林	J
2	天然林	T
3	伐採跡地	A
4	未立木地	M
5	竹林	B

シ　　施業方法による区分

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	育成単層林	S
2	育成複層林	P
3	天然性林	N

ス　　中樹種

コード表：次表の通り

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーごとに、中樹種と樹種の対応表を作成し、樹種が更新されれば、中樹種を自動入力する。

地図に関するシステム要件：

樹種に関する検索方法としては、「中樹種」区分での検索を基本とする。

主題図における各中樹種のデフォルト色は各ユーザーで定めるが、固定とする。（凡例が存在しない場合でも、分かり易くするため。）

一つの小班(小班枝番)に複数の樹種レコードが存在する場合は、最大の面積歩合の樹種レコードを基に、主題図の分類結果を表示する。

また複層林の場合は、下木は別途表示可能とする（例：ハッチング等を使用）

コード	分類	名称	略称
01	針葉樹	スギ	スギ
02		ヒノキ類	ヒノキ
03		マツ類	マツ
04		カラマツ	カラ
05		トドマツ	トド
06		エゾマツ	エゾ
07		その他N	N
08	広葉樹	クヌギ	クヌギ
09		ナラ類	ナラ
10		ブナ	ブナ
11		その他L	L
12	竹林	タケ	タケ

セ　　樹種

コード表：各ユーザーが設定

作成方法：市町村・林業事業体が属する都道府県版森林資源情報の同項目と合わせる。

ソ　　面積歩合

内容　　：複層林における層区分毎の樹冠の占有面積割合

（小数点以下１桁）

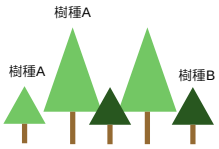
単位　　：パーセント（%）

留意事項：複層林は樹種テーブル内の「層区分」と「面積歩合」で管理する。

混交林は樹種テーブル内の「面積歩合」で管理する。

層区分ごとの面積歩合の合計が 100 となる様にする。

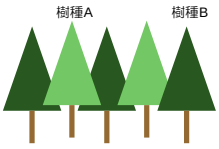
■複層林の例



＜樹種テーブル（小班面積が10haの場合）＞

樹種番号	樹種	層区分	面積歩合	樹種面積	林齢
1	A	1	100%	10ha	50
2	A	2	33%	3.3ha	20
3	B	2	67%	6.7ha	20

■混交林の例



＜樹種テーブル（小班面積が10haの場合）＞

樹種番号	樹種	層区分	面積歩合	樹種面積	林齢
1	A	1	40%	4ha	50
2	B	1	60%	6ha	20

タ　　樹種面積

作成・更新に関するシステム要件：

「樹種面積」＝「小班面積」×「面積歩合」とする。

「小班面積」、「樹種面積」、「面積歩合」、のどれかが更新された場合は、残りの項目を再計算する。

樹種テーブルにおける同一「層区分」での「樹種面積」の合計は、「小班面積」と一致しなければならない。

この際、「面積歩合」の数値と丸め誤差の関係で、「小班面積」と「樹種面積の合計」が一致しない場合は、最も「面積歩合」の大きなレコードの「樹種面積」を増減させて、合致させる。

チ　　林齢

作成方法：人工林は、更新（植栽）の年を 1 年生とし、天然林では、林冠を構成する樹木の地上高 20cm の位置の年輪数を基礎として算定する。

複層林等で、層区分毎の林齢が明確な林分は上層木、下層木に区分して記載

する。

作成に関するシステム要件：

上記以外の異齢林の場合、便宜的に林齢範囲の中央値を林齢として自動入力する。

地図に関するシステム要件：

林齢とともに植栽年度も表示可能とする。

ツ　齢級

作成に関するシステム要件：

林齢を 5 で除して、小数点第 1 位を繰り上げた数値が自動入力される。

テ　標準伐期齢

作成方法：当該市町村で定められている標準伐期齢を手動入力する。

ト　樹冠疎密度

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
01	疎	疎
02	密	密
03	中	中

ナ　平均樹高

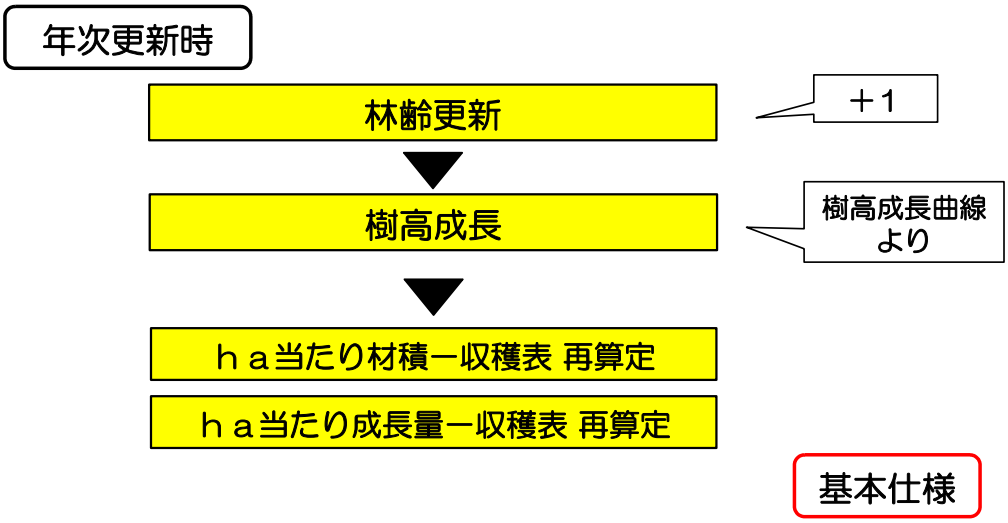
作成方法：後述する「樹高査定方法」項目に示す方法により、初期データを作成する。

更新に関するシステム要件：

「樹種」・年次更新された「林齢」と「相対地位（後述）」を基に、各都道府県が調製する収穫予想表から樹高を再計算し、自動更新する。

※相対地位に関しては、都道府県森林資源情報を参照

収穫予想表が存在しない樹種に関しては、別途何らかの基準を設け、自動でデータを入力可能とする。



ニ　　樹高査定年月日

作成方法：樹高査定を行った年月日を記載

ヌ　　樹高査定方法

内容　　：樹高の査定方法を示す項目

コード表：コード表は本数査定方法と共通の査定方法コードを利用する。

コード	名称	略称
1	現地調査	現調
2	航空測量	航測
3	その他	他

ネ　　相対地位

内容　　：該当小班の成長力を等級で示したもの

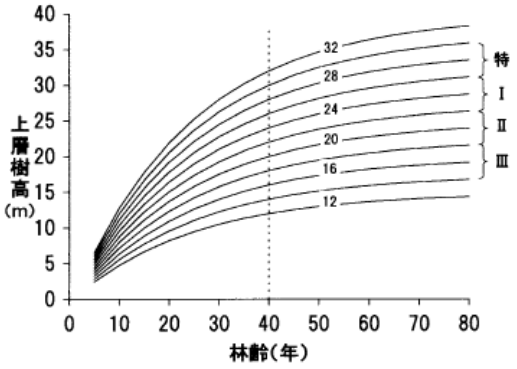
作成・更新に関するシステム要件：

樹高成長曲線と「相対地位」の関係は、都道府県ごとに設定する。

相対地位の算定基準となる樹高成長曲線と区分（一等級、二等級など）は、属する都道府県が調製したものを利用する。

「平均樹高」を作成・更新すると、「樹種」・「林齢」と樹高成長曲線の関係から、「相対地位」を自動入力する。

樹高成長曲線が存在しない樹種に関しては、データは無しとする。



相対地位指数の例（北海道）

ノ　　ha 当たり査定材積―収穫表

内容　　:「樹種」・「林齢」・「相対地位」に基づき、各都道府県が調製した収穫予想表から推定される ha 当たり材積

単位　　：立方メートル（m^3）

作成・更新に関するシステム要件：

「平均樹高」または「林齢」が更新された場合、「樹種」・「林齢」・「相対地位」が該当する収穫予想表の ha 当たり材積を自動入力する。

収穫予想表が存在しない樹種に関しては、別途何らかの基準を設け、自動でデータを入力可能とする。

ハ　　ｈａ当たり査定成長量―収穫表

内容　　:「樹種」・「林齢」・「相対地位」に基づき、各都道府県が調製した収穫予想表から推定される ha 当たり成長量

単位　　：立方メートル（m^3）

作成・更新に関するシステム要件：

「平均樹高」または「林齢」が更新された場合、「樹種」・「林齢」・「相対地位」が該当する収穫予想表の ha 当たり成長量を自動入力する。

収穫予想表が存在しない樹種に関しては、別途何らかの基準を設け、自動でデータを入力可能とする。

ヒ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

３.３.３ 推奨仕様

（１） 小班テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
frst_age_at	林齢データ時点	林齢時点			D	－	－	－		西暦で記載	基本・推奨
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4 桁	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－		コードは任意（合併前の全国統一コードの使用を推奨）	基本・推奨
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－			基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－		任意の項目文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意必須入力	基本・推奨
Tsyozai	所在	所在		○	X		100		－	全角文字列形式とする。	基本・推奨
TKigo	記号	記号		○	H		10		－	山地番の記号「Y」や「甲」「Z」等の記号を地番本番と分けて管理する場合に使用可能とする。	基本・推奨
Tchban	地番	地番		○	H		50		－	半角文字列形式とする。地番本番”玄孫番までハイフン（-）で結合する。	基本・推奨
original_shohan_type	独自小班区分の有無	独自区分		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
own_form	所有形態	所有形態			H	－	2	－	○		基本・推奨
absentee_holder	所有者の在村・不在村	在村			H	－	1	－	○	現に所有する者の在村・不在村	基本・推奨
syohan_area	小班面積	小班面積		○	9	ha	3	第2位			基本・推奨
area_method	面積算定方法	面積算定法			H	－	1	－	○		推奨仕様のみ
public_functions	公益的機能別施業森林等区分	公益的区分		○	H	－	2	－	○	第1から第5まで持つこととする。	基本・推奨
treatment_methods	公益的機能別施業森林等施業方法	公益的施業		○	H	－	2	－	○	第1から第3まで持つこととする。	基本・推奨
KeieiUmu	森林経営計画認定の有無コード	認定有無		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
NinteiSyu	森林経営計画認定者の種類コード	認定者		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
NtyYM	森林経営計画認定年月	認定年月		○	D	－	－	－	－		基本・推奨
frst_certification_type	森林認証の種類	認証種類			H	－	1	－	○		基本・推奨
last_logging_type	直近施業種（間伐・主伐）	直近伐採種			H	－	2	－	○	施業種コードを利用	基本・推奨
last_logging_year	直近施業実施年度（間伐・主伐）	直近伐採年			9	－	4	－		西暦年度で記載	基本・推奨
last_logging_area	直近施業面積（間伐・主伐）	直近伐採面積			9	ha	3	第2位			基本・推奨
last_affrstation_type	直近施業種（造林・保育）	直近造林保育種			H	－	2	－	○	施業種コードを利用	基本・推奨
last_affrstation_year	直近施業実施年度（造林・保育）	直近造林保育年			9	－	4	－		西暦年度で記載	基本・推奨
last_affrstation_area	直近施業面積（造林・保育）	直近造林保育面積			9	ha	3	第2位			基本・推奨
syohan_location	小班地利	小班地利		○	9	m	6	－	－		推奨仕様のみ
syohan_inclination	小班傾斜	小班傾斜		○	9	°	2	－	－		推奨仕様のみ
zyugai_control_area	鳥獣害防止森林区域	鳥獣害		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨
remarks	備考	備考			X	－	255	－			基本・推奨

ア　　林齢データ時点

内容　　：林齢の算定基準となる年月日

（例：2015 年 4 月 1 日）

作成・更新に関するシステム要件：

年次更新を行った際に、自動で 1 年繰り上がる。

イ　　都道府県コード

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

ウ　　市町村コード

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

エ　　旧市町村

内容　　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目

例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県ごとに独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

オ　　林班

※都道府県版標準仕様の森林資源情報における林班に合わせる。

内容　　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森

林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、(国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から、)アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

カ　小班群（準林班）

※都道府県版標準仕様の森林資源情報における小班群（準林班）に合わせる。

内容　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林班）として設定することができる。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は、・・・・」の文字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

キ　小班

内容　：林況が異なる、又は施業上特に取り扱いを異にする必要がある林況別又は林分別に区分する。

作成方法：林班毎に林班の一隅の小班から連続してアラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

ク　小班枝番

内容　：既に設定された小班について、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで管理する。

ケ　独自小班区分の有無

内容　：小班の区画が、都道府県版森林資源情報の区画と同一か、独自に区分したものかを判別するため項目。

（基本仕様においては、小班の独自区分を実施しないため、コードは必ず「2（無)」となる。）

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

セ　　所在

内容　　：地番データベース・地番テーブルの「所在」情報を参照する。

ソ　　記号

内容　　：地番データベース・地番テーブルの「記号」情報を参照する。

タ　　地番

内容　　：地番データベース・地番テーブルの「地番」情報を参照する。

チ　　所有形態

内容　　：林地（土地）の所有者に関する情報

コード表：次表の通り

コード	分類	名称	略称
01	公有林	県有林	県有
02		市町村有林	市町村有
03		その他公有林	他公有
04	私有林	個人	個人
05		共有	共有
06		会社	会社
07		社寺	社寺
08		森林組合	組合
09		学校	学校
10		任意団体	団体
11		公社	公社
12		森林総合研究所	森林総研
13		財産区	財産区
14		その他	その他

ツ　　所有者の在村・不在村

内容　　：現に所有する者の在村・不在村に関する情報。

作成方法：各所有者が市町村内に住んでいるかを入力する。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	在村	在村
2	不在村－都道府県内	不内
3	不在村－都道府県外	不外
4	不明	不明

テ　　小班面積

作成・更新に関するシステム要件：

樹種テーブルにおける「樹種面積」は、
「樹種面積」＝「小班面積」×「面積歩合」
とする。
「小班面積」、「樹種面積」、「面積歩合」、のどれかが更新された場合は、残りの項目を再計算する。
樹種テーブルにおける同一「層区分」での「樹種面積」の合計は、本「小班面積」と一致しなければならない。
この際、「面積歩合」の数値と丸め誤差の関係で、「小班面積」と「樹種面積の合計」が一致しない場合は、最も「面積歩合」の大きなレコードの「樹種面積」を増減させて、合致させる。

留意点　：小班の独自区分を実施せず、都道府県版森林資源情報（林相図）の区画をそのまま使用している場合は、都道府県版森林資源情報の面積をそのまま利用する。

ト　面積算定方法

内容　：特に、独自区分された小班面積データの算定方法を明確にするために必要となる項目
面積の算定方法により、面積の精度が異なり、利用できる業務が限定されるため、重要となる。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	台帳面積（森林簿）	台帳
2	GIS（林相図）	GIS
3	現地測量	現測
4	航空測量	航測
5	その他	他

ナ　公益的機能別施業森林等区分

コード表：次表の通り

留意点　：一つの小班（または小班枝番）に複数の区分が存在する場合は、5 つまで入力を可能とする。
（例：公益的機能別施業森林等区分 1、公益的機能別施業森林等区分 2、公益的機能別施業森林等区分 3、・・）

コード	名称	略称
1	水源涵養機能森林	S
2	災害防止・土壌保全機能森林	T
3	快適環境機能森林	K
4	保健文化機能森林	H
5	木材生産機能森林	M
6	その他森林機能森林	Z

ニ　　公益的機能別施業森林等施業方法

コード表：次表の通り

留意点　：一つの小班（または小班枝番）に複数の施業方法が存在する場合は、3 つまで入力を可能とする。

（例：公益的機能別施業森林等施業方法 1、公益的機能別施業森林等施業方法 2、公益的機能別施業森林等施業方法 3）

コード	名称	略称
1	伐期延長森林	E
2	長伐期施業森林	B
3	複層林施業森林（択伐以外）	F
4	複層林施業森林（択伐）	P
5	特定広葉樹育成森林	I

ヌ　　森林経営計画認定の有無コード

内容　　：当該レコードの小班（小班枝番）の森林経営計画の認定情報コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

ネ　　森林経営計画認定者の種類コード

内容　　：森林経営計画の認定者の情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	市町村長	市町村長
2	都道府県知事	知事
3	農林水産大臣	大臣

ツ　　森林経営計画認定年月

内容　　：森林経営計画の認定年月を記載する。

ノ　　森林認証の種類

内容　　：該当小班が取得対象となっている森林認証の種類

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	FSC	FSC
2	SGEC	SGEC
3	その他認証	その他

ハ　　直近施業種（間伐・主伐）・（造林・保育）

内容　　：実施した施業のうち最新の情報を、森林資源 DB で参照するための項目の一つ

施業情報は間伐・主伐と、造林・保育に区分する。

コード表：次表の通り

作成・更新に関するシステム要件：

森林資源レイヤのデータ更新の際に、森林資源レイヤと施業履歴レイヤとのオーバーレイ処理によりリンクさせることでデータを入力・更新する。

一つの小班に複数の施業履歴レコードがある場合、施業履歴 DB の「施業種」が間伐・主伐の中で最新のレコードを検索し、その「施業種」を「直近施業種（間伐・主伐）」項目に自動入力する。

同様に、施業履歴 DB の「施業種」が造林・保育の中で最新のレコードを検索し、その「施業種」を「直近施業種（造林・保育）」項目に自動入力する。

コード	名称	略称
01	間伐（切捨）	切捨間
02	間伐（搬出）	搬出間
03	間伐(治山事業)	治山間
04	間伐(区分不明)	不明間
11	主伐（皆伐）	皆伐
12	主伐（択伐）	択伐

コード	名称	略称
21	造林	造林
31	下刈	下刈
32	除伐	除伐
33	つる切り	つる切
34	枝打	枝打
51	鹿ネット設置	鹿ネット
52	ツリーシェルター設置	シェルター

ヒ　　直近施業実施年度（間伐・主伐）・（造林・保育）

作成方法：森林資源レイヤのデータ更新の際に、森林資源レイヤと施業履歴レイヤとのオーバーレイ処理により算出する。

直近施業種に入力された（間伐・主伐）と（造林・保育）の各データに対応する施業履歴 DB の「施業実施年度」を、（間伐・主伐）と（造林・保育）項目にそれぞれ入力・更新する。

フ　　直近施業面積（間伐・主伐）・（造林・保育）

単位　　：ヘクタール（ha）

作成・更新に関するシステム要件：

森林資源レイヤのデータ更新の際に、森林資源レイヤと施業履歴レイヤとのオーバーレイ処理により算出する。

小班ポリゴンと施業履歴ポリゴンの重なり面積を GIS で算出し、施業履歴テーブルの「直近施業面積」を自動入力・更新する。

直近施業種に入力された（間伐・主伐）と（造林・保育）の各データに対応する施業履歴 DB の「施業面積」を（間伐・主伐）と（造林・保育）項目にそれぞれ入力・更新する。

ヘ　　小班地利

内容　　：木材搬出用の 10T トラックが通行可能な路網からの距離の小班内平均値（従来の地利級とは異なる概念）

単位　　：メートル（m）　（10m 刻み）

作成・更新に関するシステム要件：

10m メッシュを作成し、メッシュごとに路網レイヤの林道・作業道からの最短距離（地利データ）を算出する。

地利データを小班ポリゴンにオーバーレイし、小班ポリゴン内の地利の平均値によって 10m単位で自動入力する。

小班ポリゴン、路網データのいずれかの更新の度に、上記処理を実施する。

ノ　　小班傾斜

内容　　：小班内の傾斜の平均値

単位　　：度（°）　（5°刻み）

作成・更新に関するシステム要件：

10m メッシュごとの傾斜データを作成する。

傾斜データを小班ポリゴンオーバーレイし、小班ポリゴン内の傾斜の平均値を 5 度刻みで自動入力する。

小班ポリゴン、傾斜データのいずれかの更新の度に、上記処理を実施する。

ホ　　鳥獣害防止森林区域

内容　　：森林法の規定する鳥獣害防止森林区域に関する情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	ニホンジカ	鹿
2	その他	他

マ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（２） 樹種テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県	都道府県	○	○	H	－	2	－	○		基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	H	－	4	－	○	コードは任意（全国統一コードの使用を推奨）	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－		コードは任意	基本・推奨
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－			基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ（コード化した場合の）コードは任意必須入力	基本・推奨
tree_species_number	樹種番号	樹種番号	○	○	H	－	2	－			基本・推奨
logging_planned_frst	計画的伐採対象森林の内外の別	伐採対象内外			H	－	1		○		基本・推奨
layer_type	層区分	層区分		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
frst_type	林種	林種		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
treatment_type	施業方法による区分	施業方法区分			H	－	1	－	○		基本・推奨
group_of_tree_species	中樹種	中樹種		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
tree_species	樹種	樹種		○	H	－	3	－	○		基本・推奨
variety	品種	品種			H	－	2	－	○	コードは任意	推奨仕様のみ
area_ratio	面積歩合	面積歩合		○	9	%	3	第1位			基本・推奨
area_of_each_species	樹種面積	樹種面積		○	9	ha	3	第2位			基本・推奨
frst_age	林齢	林齢		○	9	－	3	－		異齢林の場合、林齢の範囲の中央値を入力	基本・推奨
frst_age_up	林齢範囲上	林齢上			9	－	3	－			推奨仕様のみ
frst_age_down	林齢範囲下	林齢下			9	－	3	－			推奨仕様のみ
age_class	齢級	齢級			9	－	2	－			基本・推奨
rotation_age	標準伐期齢	標準伐期			9	年	3	－			基本・推奨
crown_density	樹冠疎密度	樹冠疎密度			H	－	1	－	○		基本・推奨
average_tree_height	平均樹高	平均樹高		○	9	m	2	－			基本・推奨
tree_height_assay_date	樹高査定年月日	樹高査定日			D	－	－	－			基本・推奨
tree_height_assay_method	樹高査定方法	樹高査定法			H	－	1	－	○	査定方法コード	基本・推奨
trees_count	ha当たり立木本数	ha本数		○	9	本	5	－			推奨仕様のみ
trees_count_date	ha当たり立木本数査定年月日	本数調査日			D	－	－	－		西暦で記載	推奨仕様のみ
tree_height_assay_method	本数査定方法	本数査定法			H	－	1	－	○	査定方法コード	推奨仕様のみ
relative_location	相対地位	相対地位		○	H	－	1	－		区分はユーザーによって定める	基本・推奨
yield_table_based_volume	ha当たり査定材積－収穫表	ha材積収穫表		○	9	m3	4	－			基本・推奨
yield_table_based_growth	ha当たり査定成長量－収穫表	ha成長量収穫表		○	9	m3	4	－			基本・推奨
absolute_location	絶対地位	絶対地位		○	9	m	2	第1位		40年生時の樹高	推奨仕様のみ
dens_contrl_chart_based_growth	ha当たり査定材積－密度管理図	ha材積管理図		○	9	m3	4	－			推奨仕様のみ
dens_contrl_chart_based_volume	ha当たり査定成長量－密度管理図	ha成長量管理図		○	9	m3	4	－			推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨

ア　　都道府県

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

イ　　市町村

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

ウ　　旧市町村

内容　　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目

例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県毎に独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

エ　　林班

※都道府県版標準仕様の森林資源情報における林班に合わせる。

内容　　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、(国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から、)アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

オ　　小班群（準林班）

※都道府県版標準仕様の森林資源情報における小班群（準林班）に合わせる。

内容　　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林班）として設定することができる。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は、・・・・」の文字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

カ　　小班

内容　　：林況が異なる、又は施業上特に取り扱いを異にする必要がある林況別又は林分別に区分する。

作成方法：林班毎に林班の一隅の小班から連続してアラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

キ　　小班枝番

内容　　：既に設定された小班について、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで管理する。

ク　　樹種番号

内容　　：一つの小班（または小班枝番）レコードに複数の樹種レコードが連結可能なデータベース構造とするため、各樹種レコードを識別するための番号

作成方法：一つの小班（または小班枝番）内の樹種に、1 から順に通し番号を付す。

ケ　　計画的伐採対象森林の内外の別

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	内	内
2	外	外

コ　　層区分

コード表：次表の通り

留意事項：複層林は樹種テーブル内の「層区分」と「面積歩合」で管理する。

コード	名称	略称
1	上層木	上
2	下層木	下

層区分毎の面積歩合の合計が 100 となる様にする。

サ　　林種

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	人工林	J
2	天然林	T
3	伐採跡地	A
4	未立木地	M
5	竹林	B

シ　　施業方法による区分

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	育成単層林	S
2	育成複層林	P
3	天然性林	N

作成・更新に関するシステム要件：

1 小班レコードに 2 樹種レコード以上が存在する場合、1 樹種レコードにおいて施業方法による区分が定められると、他の樹種レコードにおける施業方法区分も同一の値が入力・固定される。

ス　　中樹種

コード表：次表の通り

作成・更新に関するシステム要件：

樹種のコード、および中樹種と樹種の対応表はユーザーごとに作成する。

樹種が入力・更新された場合、中樹種を自動入力する。

地図に関するシステム要件：

樹種に関する検索方法としては、「中樹種」区分での検索を基本とする。

主題図における各中樹種のデフォルト色は各ユーザーで定めるが、固定とする。（凡例が存在しない場合でも、分かり易くするため。）

一つの小班(小班枝番)に複数の樹種レコードが存在する場合は、最大の面積歩合の樹種レコードを基に、主題図の分類結果を表示する。

また複層林の場合は、下木は別途表示可能とする（例：ハッチング等を使用）

コード	分類	名称	略称
01	針葉樹	スギ	スギ
02		ヒノキ類	ヒノキ
03		マツ類	マツ
04		カラマツ	カラ
05		トドマツ	トド
06		エゾマツ	エゾ
07		その他N	N
08	広葉樹	クヌギ	クヌギ
09		ナラ類	ナラ
10		ブナ	ブナ
11		その他L	L
12	竹林	タケ	タケ

セ　　樹種

コード表：各ユーザーが設定

作成方法：市町村・林業事業体が属する都道府県版森林資源情報の同項目と合わせる。

ソ　　品種

コード表：各ユーザーが任意に設定する。

タ　　面積歩合

内容　　：複層林における層区分毎の樹冠の占有面積割合

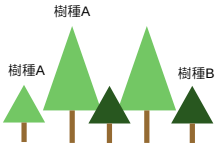
単位　　：パーセント（%）

留意事項：複層林は樹種テーブル内の「層区分」と「面積歩合」で管理する。

混交林は樹種テーブル内の「面積歩合」で管理する。

層区分ごとの面積歩合の合計が 100 となる様にする。

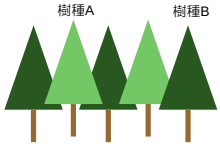
■複層林の例



＜樹種テーブル（小班面積が10haの場合）＞

樹種番号	樹種	層区分	面積歩合	樹種面積	林齢
1	A	1	100%	10ha	50
2	A	2	33%	3.3ha	20
3	B	2	67%	6.7ha	20

■混交林の例



＜樹種テーブル（小班面積が10haの場合）＞

樹種番号	樹種	層区分	面積歩合	樹種面積	林齢
1	A	1	40%	4ha	50
2	B	1	60%	6ha	20

タ　　樹種面積

作成・更新に関するシステム要件：

「樹種面積」＝「小班面積」×「面積歩合」とする。

「小班面積」「面積歩合」が入力・更新された場合は「樹種面積」を再計算する。

樹種テーブルにおける同一「層区分」での「樹種面積」の合計は、「小班面積」と一致しなければならない。

この際、「面積歩合」の数値と丸め誤差の関係で、「小班面積」と「樹種面積の合計」が一致しない場合は、最も「面積歩合」の大きなレコードの「樹種面積」を増減させて、合致させる。

チ　林齢

作成方法：人工林は、更新（植栽）の年を 1 年生とし、天然林では、林冠を構成する樹木の地上高 20cm の位置の年輪数を基礎として算定する。

複層林等で、層区分毎の林齢が明確な林分は上層木、下層木に区分して記載する。

作成に関するシステム要件：

上記以外の異齢林の場合、便宜的に林齢範囲の中央値を林齢として自動入力する。

林齢範囲上下が入力された場合（異齢林の場合）、林齢範囲の中央値を林齢として自動入力する。

地図に関するシステム要件：

林齢とともに植栽年度も表示可能とする。

ツ　林齢範囲上下

作成に関するシステム要件：

林齢範囲上下が入力された場合（異齢林の場合）、林齢範囲の中央値を林齢として自動入力する。

林齢が入力された場合（同齢林の場合）、林齢の数値を「林齢範囲上」「林齢範囲下」にそれぞれ自動入力する。

テ　齢級

作成に関するシステム要件：

齢級は、林齢を 5 で除して、小数点第 1 位を切り上げた数値を自動入力する。

ト　標準伐期齢

作成方法：当該市町村で定められている標準伐期齢を手動入力する。

ナ　　樹冠疎密度

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
01	疎	疎
02	密	密
03	中	中

ニ　　平均樹高

内容　　：実測（林況調査や森林航測等）による上層木平均樹高
（単純平均ではなく上層木平均であることに留意）

単位　　：メートル（m）

作成に関するシステム要件：
算定の基データとして航空レーザ計測成果がラスタないしメッシュポリゴン、単木データ等で与えられた場合、小班ポリゴンとこれらのデータをオーバーレイし、小班ポリゴン内の平均値を、0.1m単位で入力する。

更新に関するシステム要件：
データを年次で更新（翌年度に繰越）する際、「樹種」、「林齢」、並びに「相対地位」（後述）から、各都道府県が調製する樹高成長曲線に基づき、自動更新する。

ヌ　　樹高査定年月日

作成方法：樹高査定を行った年月日を記載

ネ　　樹高査定方法

内容　　：樹高の査定方法を示す項目

コード表：コード表は本数査定方法と共通の査定方法コードを利用する。

コード	名称	略称
1	現地調査	現調
2	航空測量	航測
3	その他	他

ノ　　ha 当たり立木本数

内容　　：小班内の立木本数密度を示す。

単位　　：本　（100 本刻み）

作成方法：実測（林況調査や森林航測等）に基づいて記載
伐採等の森林施業や災害によって変化するため、その都度更新する。

作成に関するシステム要件：

算定の基データとして、航空レーザ計測成果がラスタないしメッシュポリゴン、単木データ等で与えられた場合、小班ポリゴンと基データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の立木本数データの総計を小班面積で割り返した値が、100 本刻み（四捨五入）で自動入力される。

ハ　ha 当たり立木本数査定年月日

作成に関するシステム要件：

ha 当たり立木本数の査定（林況調査や森林航測等）を実施した年月日を記載

ヒ　本数査定方法

内容　：ha 当たり本数の査定方法を示す項目

コード表：コード表は樹高査定方法と共通の査定方法コードを利用する。

コード	名称	略称
1	現地調査	現調
2	航空測量	航測
3	その他	他

フ　相対地位

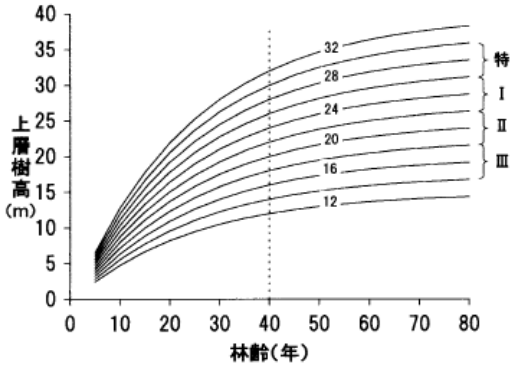
内容　：該当小班の成長力を等級で示したもの相対地位指数

作成・更新に関するシステム要件：

樹高成長曲線と「相対地位」の関係は、都道府県ごとに設定する。

ユーザーが属する都道府県が調製した樹高成長曲線と等級区分（一等級、二等級など）を用いて、「平均樹高」・「林齢」・「樹種」から自動入力する。

樹高成長曲線が存在しない樹種に関しては、データは無しとする。



相対地位指数の例（北海道）

ヘ　　ha 当たり査定材積―収穫表

内容　　:「樹種」・「林齢」・「相対地位」に基づき、各都道府県が調製した収穫予想表から推定される ha 当たり材積

単位　　：立方メートル（m^3）

作成・更新に関するシステム要件：

「平均樹高」または「林齢」が更新された場合、「樹種」・「林齢」・「相対地位」が該当する収穫予想表の ha 当たり材積を自動入力する。

収穫予想表が存在しない樹種に関しては、別途何らかの基準を設け、自動でデータを入力可能とする。

ホ　　絶対地位

内容　　：相対地位とは別に、数値で示すことのできる絶対地位として、40 年生時の樹高を入力する。

単位　　：メートル（m）

作成・更新に関するシステム要件：

樹高成長曲線を用いて、「平均樹高」・「樹種」・「林齢」から 40 年生時の樹高を自動入力する。

マ　　ha 当たり査定材積－密度管理図

内容　　:「林種」が人工林の場合、密度管理図を利用して算定した材積

単位　　：立方メートル（m^3）

作成に関するシステム要件：

「林種」が人工林の場合、該当する密度管理図を用いて、「平均樹高」・「ｈａ当たり立木本数」・「樹種」から自動入力する。

更新に関するシステム要件：

「樹種」・「林齢」・「絶対地位」に基づき、年次更新時に樹高を自動成長させる。

このとき同時に、「ha 当たり査定材積－密度管理図」も上記により再算定し自動更新する。

ミ　　ha 当たり査定成長量－密度管理図

内容　　：密度管理図を利用して算定した成長量

単位　　：立方メートル（m^3）

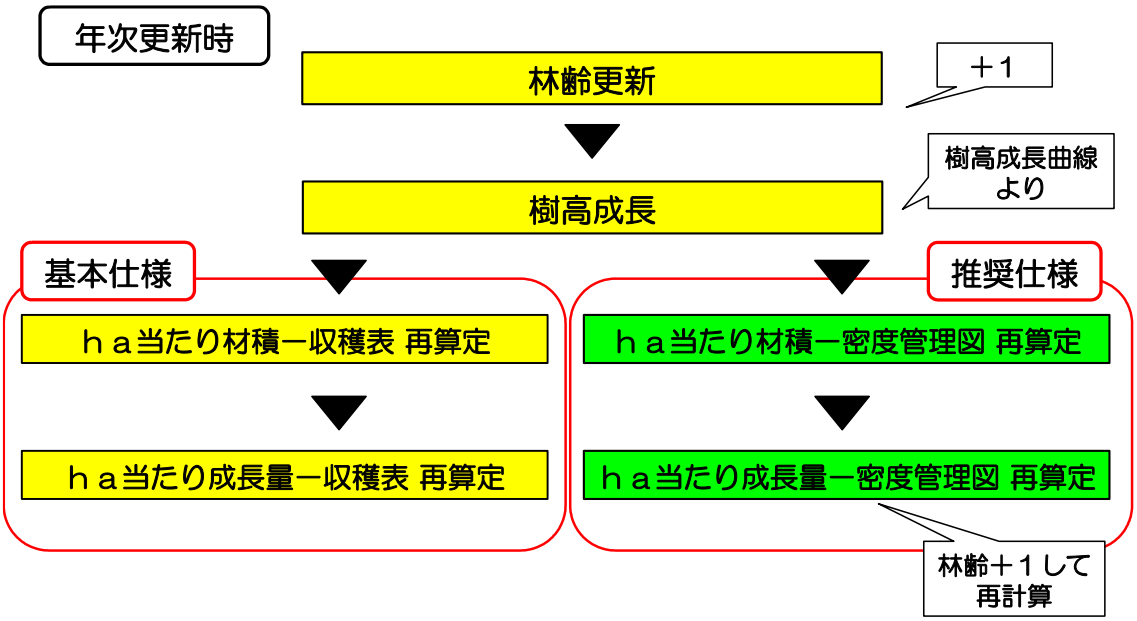
作成に関するシステム要件：

林齢に 1 加えて算出した「ｈａ当たり査定材積－密度管理図」と、「ｈａ当た

り査定材積ー密度管理図」との差を自動入力する。

更新に関するシステム要件：

年次更新時に「林齢」と「樹高」が成長する際に、「ha 当たり査定材積ー密度管理図」と同様、再算定し自動更新する。



ム　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

３.３.４ 森林資源情報の標準化に係るシステムの標準仕様

市町村・林業事業体版の森林資源情報のデータ項目に係るシステムの標準仕様を抜粋し、次表に再掲する。

仕様区分	項目	内容区分	内容
基本・推奨共通	林齢データ時点	データ作成	◎年次更新を行った際に、自動で一年繰り上がる。
推奨	独自小班区分 （小班の作成）	データ作成	◎部分的に区分を行う場合、林班（小班群）ポリゴンからコピーしたポリゴンをベースに、ポリゴン分割機能を利用して、区分する。 ◎スナッピング機能を用いて、測量結果、施業履歴レイヤからの取り込み、フリーハンド等により作成されたポリゴンをトレースして、分割する。 ◎区分した各小班の属性情報を、別途表計算ソフト（CSV）にて作成し、GISへ取り込む。 ◎地図情報と数値情報の不整合を、自動でチェックする。
推奨	独自小班区分 （取得する項目）	データ作成	◎公益的機能別施業森林等区分や施業方法、森林経営計画項目において、 修正前の小班ポリゴンとのオーバーレイにより、重なり面積の大きな属性値を自動取得する。
基本・推奨共通	データ時点	データ作成	◎森林資源DBにデータを入力・更新する際に、自動入力される。
基本・推奨共通	林班・小班・枝番	データ作成	◎変更すると不都合が生じる等、運用上避けられない場合は、属する都道府県の区分に合わせて名称を変更することを可能とする。ただし概念は変えない。 ◎小班が小班群（準林班）、施業番号などが小班（枝番）を意味している場合は、小班→小班群、施業番号→小班、施業番号枝番→小班枝番に変換する。 ◎管理方法が「林班－地番－地番枝番」となっている場合は、地番→小班、地番枝番→小班枝番に変換する。
推奨	大字・字・地番本番・地番支番	データ作成	◎地番図における地番ポリゴンとのオーバーレイにより、最も面積の重なりが大きな地番の情報を入力する。
推奨	小班地利	データ作成	◎基礎となる地利データとして、10tトラックが通行可能な路網からの距離を算定した10mメッシュデータを作成する。 ◎データ作成・更新時に、小班ポリゴンと上記地利データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の地利データの平均値が、10m単位で自動入力される。 ◎小班ポリゴン、公道データ（後述）、林業用路網データ（同）のいずれが更新された場合、上記処理を実施する。
推奨	小班傾斜	データ作成	◎基礎となる10mメッシュの傾斜データを作成する。 ◎データ作成・更新時に、小班ポリゴンと傾斜データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の傾斜の平均値が5度刻みで、小班傾斜欄に自動入力される。 ◎小班ポリゴン、傾斜データいずれかが更新された場合、上記処理を実施する。
基本・推奨共通	樹種テーブル	データ作成	◎標準仕様を採用する前の基データにおいて、小班テーブル内に樹種テーブルに格納すべき項目が含まれている場合（例：「第１樹種」・「第２樹種」～）は、正規化し、樹種テーブルに分離して管理する。
基本・推奨共通	中樹種・樹種	データ作成	◎ユーザー毎に、中樹種と樹種の対応表を作成し、樹種が入力されれば、中樹種が自動入力される。
基本・推奨共通	小班面積・樹種面積	データ作成	◎「樹種面積」＝「小班面積」×「面積歩合」とする。 ◎「小班面積」、「樹種面積」、「面積歩合」、のどれかが更新された場合は、残りの項目を再計算する。 ◎樹種テーブルにおける同一「層区分」での「樹種面積」の合計は、「小班面積」と一致しなければならない。 ◎「面積歩合」の数値と丸め誤差の関係で、「小班面積」と「樹種面積の合計」が一致しない場合は、最も「面積歩合」の大きなレコードの「樹種面積」を増減させて、合致させる。
基本・推奨共通	林齢	データ作成	◎（林齢の区分が明確でない異齢林の場合、）林齢範囲の最高値と最低値を入力すると、その平均値が「林齢」に自動入力される。 ◎（同齢林の場合は）、「林齢」が入力されれば、その数値が「林齢範囲上」「林齢範囲下」にそれぞれ自動入力される。
基本・推奨共通	齢級	データ作成	◎齢級は林齢から自動計算する。
推奨	林齢範囲上・下	データ作成	◎（林齢の区分が明確でない異齢林の場合、）林齢範囲の最高値と最低値を入力すると、その平均値が「林齢」に自動入力される。 ◎（同齢林の場合は）、「林齢」が入力されれば、その数値が「林齢範囲上」「林齢範囲下」にそれぞれ自動入力される。
推奨	樹高・本数査定年月日	データ作成	◎樹高または本数のデータを入力した際に、自動で査定年月日を入力する。 ◎査定年月日は、入力による更新を可能とする。
基本・推奨共通	樹高	データ作成	◎年次更新時に、林齢と相対地位（基本仕様）、または林齢と絶対地位（推奨仕様）、により再計算される。
推奨	平均樹高	データ作成	◎算定の基データとして航空レーザ計測成果がラスタないしメッシュポリゴン、単木データ等で与えられた場合、小班ポリゴンとこれらのデータをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の樹高データの平均値が、0.1m単位で自動入力される。
推奨	ha当たり立木本数	データ作成	◎算定の基データとして、航空レーザ計測成果がラスタないしメッシュポリゴン、単木データ等で与えられた場合、小班ポリゴンと基データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の立木本数データの総計を小班面積で割り返した値が、100本刻み（四捨五入）で自動入力される。
推奨	相対地位	データ作成	◎樹高成長曲線と「相対地位」の関係は、都道府県毎に設定する。 ◎相対地位の算定基準となる樹高成長曲線と区分（一等級、二等級など）は、属する都道府県が調製したものを利用する。 ◎「平均樹高」を作成・更新すると、「樹種」・「林齢」と樹高成長曲線の関係から、「相対地位」が自動更新される。 ◎樹高成長曲線が存在しない樹種に関しては、データは無しとする。
推奨	ha当たり査定材積－収穫表・ ha当たり査定成長量－収穫表	データ作成	◎樹高と林齢が入力された場合、収穫表における当該林齢と査定地位が該当するha当たり材積および、ha当たり成長量が自動入力される。
推奨	絶対地位	データ作成	◎樹高と樹種、林齢が入力されれば、樹高成長曲線より40年生時の樹高を計算し、絶対地位が自動入力される。
推奨	ha当たり査定材積－密度管理図	データ作成	◎初期データは、査定して求めた「平均樹高」と「ha当たり立木本数」、「樹種」より、「ha当たり査定材積－密度管理図」を自動入力する。 ◎「樹種」・「林齢」・「絶対地位」に基づき、年次更新時に、樹高を自動成長させる。 このとき同時に、「ha当たり査定材積－密度管理図」も、上記により再算定して更新する。
推奨	ha当たり査定成長量－密度管理図	データ作成	◎初期データは、現時点での林齢において「ha当たり査定材積－密度管理図」を計算した後に、林齢を1加え、「ha当たり査定材積－密度管理図」を再計算し、その材積の差を自動入力する。 ◎年次更新時に「林齢」と「樹高」が成長する際に、「ha当たり査定材積－密度管理図」と同様、再算定し自動更新する。
基本・推奨共通	更新データ時点	データ作成	◎森林資源DBにデータを入力・更新する際に自動入力される。

３．４ 施業履歴情報

３.４.１ 概要

施業履歴情報は、都道府県と市町村・林業事業体とで共通の仕様となる。
森林資源情報や森林所有情報とは独立して、各情報を作成・更新する。

◎ 主キー

- 市町村・林業事業体版施業履歴 DB の主キーはベースマップとしているレイヤにより異なる。
  - ✧ ベースマップが林相図（森林資源レイヤ）の場合、都道府県・市町村・旧市町村・林班・小班群・小班・小班枝番・施業履歴番号が主キーとなる。
  - ✧ ベースマップが地番図（地番レイヤ）の場合、都道府県・市町村・所在・記号・地番・施業履歴番号が主キーとなる。
- 主キーの各項目は仕様のレベルにより、その入力方法が異なる。
  - ✧ 基本仕様では、作成した施業履歴レイヤの代表林小班、または代表地番の情報を手動入力する。
  - ✧ 推奨仕様では、ベースマップが林相図の場合は林相ポリゴン、ベースマップが地番図の場合は地番ポリゴンを施業履歴ポリゴンとオーバーレイし、各施業履歴ポリゴン内で最も大きな面積を占める小班（または小班枝番）または地番の情報を主キーとして取得する。ただし、データを手動入力することも可能とする。ベースマップとなっているレイヤの地図データが作成・修正される場合に、主キーの更新を行う。

◎ 施業履歴区画

- 施業履歴の区画は、施業実施後に実施区域を周囲測量したデータや、小班ポリゴン・地番ポリゴンの取り込み、またはフリーハンドにより作成する。
- 測量した結果のデータは、それらを取扱うシステムにより、様々なデータ形式にて出力されることが想定されるため、それぞれの形式の取り込みに対応する必要がある。

◎ 地図情報

＜DB に対応した地図＞

- 施業履歴図

＜データ形式＞

- ベクトル（ポリゴン）

＜リンクキー＞

- 施業履歴 DB と地図データ（施業履歴ポリゴン）はリンクキーでリンクする。
- リンクキーはベースマップとなる地図により異なる。
- ベースマップが林相図の場合、リンクキーは桁数 24 桁
  （都道府県（2 桁）＋市町村（4 桁）＋旧市町村（4 桁）＋林班（4 桁）＋小班群（2 桁）＋小班（4 桁）＋小班枝番（2 桁）＋施業履歴番号（2 桁））
- ベースマップが地番図の場合、リンクキーは桁数任意
  （都道府県（2 桁）＋市町村（4 桁）＋旧市町村（4 桁）＋大字（任意）＋字（任意）＋地番本番（任意）＋地番支番（任意）＋施業履歴番号（2 桁））

＜作成方法＞

- 測量した結果のデータ等、施業箇所が明確である場合は、そのデータを基に作成する。
- 施業箇所が明確でない場合は、小班（又は小班枝番）又は、（市町村版森林所有者情報における）地番界を取り込むことで作成する。
  既存の施業箇所が紙図面で存在する場合は、その図面をスキャンして取り込んだ画像データに座標系を設定し、それを基にポリゴンデータを作成する。

＜表示方法＞

- 地図データの表示において、同一箇所に複数の履歴が重なる場合、最新の履歴が上となるように表示する。

３.４.２ 基本仕様

- 先述の通り、施業履歴情報の基本仕様では、施業履歴 DB は、森林資源 DB・地番 DB のどちらともリンクしない。
- また、林相図と地番図のどちらをベースマップとするかにより、利用する DB が異なる。

（１） 林相図がベースマップの場合

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県コード	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	基本・推奨
city_code	市町村コード	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4 桁	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	－	4	－		コードは任意	基本・推奨
rinpan	林班	林班	○	○	H	－	4	－			基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ(コード化した場合の)コードは任意	基本・推奨
syohan	小班	小班	○	○	H	－	4	－		文字型は数字のみ(コード化した場合の)コードは任意	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	－	2	－		文字型は数字のみ(コード化した場合の)コードは任意必須入力	基本・推奨
treatment_number	施業履歴番号	施業番号	○	○	9	－	2	－			基本・推奨
treatment_type	施業種	施業種		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
treatment_year	施業実施年度	施業年		○	H	－	4	－		西暦年度で記載	基本・推奨
treatment_area	施業面積	施業面積		○	9	ha	3	第2位			基本・推奨
polygon_creation_method	施業ポリゴン作成方法	ポリゴン作成法			H	－	2	－	○		基本・推奨
deer_net_length	施業延長	施業延長			H	m	4	－		施業が鹿ネット設置の場合のみ	基本・推奨
the_number_of_treeshelter	施業総本数	施業総本数			9	本	5	－		施業がツリーシェルター設置の場合のみ	基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨

ア　　都道府県コード

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

イ　　市町村コード

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

ウ　　旧市町村

内容　　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目

例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県ごとに独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

エ　　林班

※都道府県版標準仕様の森林資源情報における林班に合わせる。

内容　　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、(国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から、)アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

オ　　小班群（準林班）

※都道府県版標準仕様の森林資源情報における小班群（準林班）に合わせる。

内容　　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林班）として設定することができる。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は、・・・・」の文字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

カ　　小班

内容　　：林況が異なる、又は施業上特に取り扱いを異にする必要がある林況別又は林分別に区分する。

作成方法：林班毎に林班の一隅の小班から連続してアラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

キ　　小班枝番

内容　　：既に設定された小班について、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで管理する。

ク　　施業履歴番号

内容　　：1 つの小班（または小班枝番）または地番（本番・支番）で複数の施業が実施される場合に、これらを識別するための番号

作成方法：同じ区画内において、1 から順に通し番号を入れる。
この番号は、施業を実施し、ポリゴンデータを作成した順に、手動で入力する。

ケ　　施業種

コード表：次表の通り
次表にない施業を入力する必要がある場合は、コード番号 60 から任意に追加する。

作成方法：実施した施業内容を、入力する。

コード	名称	略称
1	間伐(切捨)	切捨間
2	間伐(搬出)	搬出間
3	間伐(治山事業)	治山間
4	間伐(区分不明)	不明間
11	主伐(皆伐)	皆伐
12	主伐(択伐)	択伐
21	造林	造林
31	下刈	下刈
32	除伐	除伐
33	つる切り	つる切
34	枝打	枝打
51	鹿ネット設置	鹿ネット
52	ツリーシェルター設置	シェルター

コ　施業実施年度

作成方法：施業を実施した西暦年度を入力する。

サ　施業面積

作成方法：施業を実施した箇所の測量データや、紙の測量図面のデジタイズ等により求積した結果を入力する。

測量データが存在せず、小班（または小班枝番）ポリゴン、または地番ポリゴンと同一形状のものを利用して施業履歴ポリゴンを入力した場合、それぞれの基となるデータの面積を入力する。

シ　施業ポリゴン作成方法

内容　：施業履歴ポリゴンを作成した際の手法・基となったデータを記載する。ポリゴンデータの位置精度を示す、重要な指標となる。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	絶対座標測量データ入力	絶対測量
2	相対座標測量データ入力	相対測量
3	測量図デジタイズ	デジタイズ
4	林小班界・地番界の利用	既存界
5	その他	他

ス　施業延長

内容　：実施した施業種が鹿ネット設置の場合、施業面積の代わりに入力する項目。

作成方法：施業実績より入力する。

セ　　施業総本数

内容　　：実施した施業種がツリーシェルター設置である場合に、施業面積の代わりに入力する項目。面積当たりの本数ではなく、総本数を入力する。

作成方法：施業実績より入力する。

ソ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（２） 地番図がベースマップの場合

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県コード	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	基本・推奨
city_code	市町村コード	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4 桁	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	―	4	―		コードは任意	基本・推奨
syozai	所在	所在	○	○	X		100		－	全角文字列形式とする。	基本・推奨
Kigo	記号	記号	○		H		10		－	山岳番の記号(ｲ)や「甲」「乙」等の記号を地番本番と分けて管理する場合に使用可能とする。	基本・推奨
chiban	地番	地番	○	○	H		50		－	半角文字列形式とする。地番本番～玄孫番までハイフン(-)で結合する。	基本・推奨
treatment_number	施業履歴番号	施業番号	○	○	H		2		－		基本・推奨
treatment_type	施業種	施業種		○	H	―	2	―	○		基本・推奨
treatment_year	施業実施年度	施業年		○	H	―	4	―		西暦で記載	基本・推奨
treatment_area	施業面積	施業面積		○	9	ha	3	第2位			基本・推奨
polygon_creation_method	施業ポリゴン作成方法	ポリゴン作成法			H	―	2	―	○		基本・推奨
deer_net_length	施業延長	施業延長			9	m	4	―	－		基本・推奨
the_number_of_treeshelter	施業総本数	施業総本数			9	本	5	―	－		基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	―	―	―	―	西暦で記載	基本・推奨

ア　　都道府県

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

イ　　市町村

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

ウ　　所在

内容　　：地番データベース・地番テーブルの「所在」情報を参照する。

エ　　記号

内容　　：地番データベース・地番テーブルの「記号」情報を参照する。

オ　　地番

内容　　：地番データベース・地番テーブルの「地番」情報を参照する。

カ　　施業履歴番号

内容　　：1 つの小班（または小班枝番）または地番（本番・支番）で複数の施業が実施される場合に、これらを識別するための番号

作成方法：同じ区画内において、1 から順に通し番号を入れる。

この番号は、施業を実施し、ポリゴンデータを作成した順に、手動で入力する。

キ　施業種

コード表：次表の通り

次表にない施業を入力する必要がある場合は、コード番号 60 から任意に追加する。

作成方法：実施した施業内容を、入力する。

コード	名称	略称
1	間伐（切捨）	切捨間
2	間伐（搬出）	搬出間
3	間伐(治山事業)	治山間
4	間伐(区分不明)	不明間
11	主伐（皆伐）	皆伐
12	主伐（択伐）	択伐
21	造林	造林
31	下刈	下刈
32	除伐	除伐
33	つる切り	つる切
34	枝打	枝打
51	鹿ネット設置	鹿ネット
52	ツリーシェルター設置	シェルター

ク　施業実施年度

作成方法：施業を実施した西暦年度を入力する。

ケ　施業面積

作成方法：施業を実施した箇所の測量データや、紙の測量図面のデジタイズ等により求積した結果を入力する。

測量データが存在せず、小班（または小班枝番）ポリゴン、または地番ポリゴンと同一形状のものを利用して施業履歴ポリゴンを入力した場合、それぞれの基となるデータの面積を入力する。

コ　施業ポリゴン作成方法

内容　：施業履歴ポリゴンを作成した際の手法・基となったデータを記載する。ポリゴンデータの位置精度を示す、重要な指標となる。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	絶対座標測量データ入力	絶対測量
2	相対座標測量データ入力	相対測量
3	測量図デジタイズ	デジタイズ
4	林小班界・地番界の利用	既存界
5	その他	他

サ　施業延長

内容　：実施した施業種が鹿ネット設置の場合、施業面積の代わりに入力する項目。

作成方法：施業実績より入力する。

シ　施業総本数

内容　：実施した施業種がツリーシェルター設置である場合に、施業面積の代わりに入力する項目。面積当たりの本数ではなく、総本数を入力する。

作成方法：施業実績より入力する。

ス　更新データ時点

内容　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

３.４.３ 推奨仕様

- 先述の通り、施業履歴情報の推奨仕様では、施業履歴 DB は森林資源 DB 又は地番 DB とリンクする。
- 基本仕様と同様に、林相図と地番図のどちらをベースマップとするかにより、利用する DB が異なる。

（１） 林相図がベースマップの場合

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県コード	都道府県	○	○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	基本・推奨
city_code	市町村コード	市町村	○	○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4 桁	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	―	4	―		コードは任意	基本・推奨
rinpan	林班	林班	○	○	H	―	4	―			基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群	○	○	H	―	2	―		文字型は数字のみ(コード化した場合の)コードは任意	基本・推奨
syohan	小班	小班	○	○	H	―	4	―		文字型は数字のみ(コード化した場合の)コードは任意	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番	○	○	H	―	2	―		文字型は数字のみ(コード化した場合の)コードは任意必須入力	基本・推奨
treatment_number	施業履歴番号	施業番号	○	○	9	―	2	―			基本・推奨
treatment_type	施業時小班	施業時小班			H	―	4	―			推奨仕様のみ
treatment_year	施業時小班枝番	施業時小班枝番			H	―	2	―			推奨仕様のみ
treatment_area	施業時森林所有者名	施業時所有者			X	―	100	―			推奨仕様のみ
project_name	事業名	事業名		○	X	―	100	―			推奨仕様のみ
project_executor	事業実行者	事業実行者			X	―	100	―			推奨仕様のみ
tree_species_as_of_treatment	施業時樹種	施業時樹種			H	―	2	―	○		推奨仕様のみ
frst_age_as_of_treatment	施業時林齢	施業時林齢			9	―	3	―			推奨仕様のみ
treatment_type	施業種	施業種		○	H	―	2	―	○		基本・推奨
treatment_year	施業実施年度	施業年		○	H	―	4	―		西暦年度で記載	基本・推奨
treatment_area	施業面積	施業面積		○	9	ha	3	第2位			基本・推奨
polygon_creation_method	施業ポリゴン作成方法	ポリゴン作成法			H	―	2	―	○		基本・推奨
deer_net_length	施業延長	施業延長			H	m	4	―		施業が鹿ネット設置の場合のみ	基本・推奨
the_number_of_treeshelter	施業総本数	施業総本数			9	本	5	―		施業がツリーシェルター設置の場合のみ	基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	―	―	―	―	西暦で記載	基本・推奨

ア　　都道府県コード

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

イ　　市町村コード

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

ウ　　旧市町村

内容　　：レコードを特定する（ユニークなレコードとする）ための項目

例）元は異なる市町村に存在した「同名の林班の箇所」が、市町村合併により同じ市町村になる場合は、旧市町村コードにより、レコードを特定することが可能となる。

作成方法：コードは都道府県ごとに独自に作成するが、合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

エ　　林班

※都道府県版標準仕様の森林資源情報における林班に合わせる。

内容　　：原則として、字界、天然地形、又は地物をもって区画するものとし、地域森林計画にあってはその面積がおおむね 50 ヘクタールとなるように設定する。

作成方法：市町村の区域ごとにその一隅の林班から、(国有林森林計画にあっては原則として森林計画区ごとにその区域の一隅の林班から、)アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、林班ポリゴンデータを作成する。

オ　　小班群（準林班）

※都道府県版標準仕様の森林資源情報における小班群（準林班）に合わせる。

内容　　：小班（後述）の数が著しく多いときには、必要に応じ、それぞれ天然地形等によりおおむね 5 ヘクタールを単位とする集団にとりまとめ、小班群（準林班）として設定することができる。

作成方法：林班ごとに林班の一隅の小班群（準林班）から「い、ろ、は、・・・・」の文字を用いて記号を付す。対応する地図データとして、ライン又はポリゴンにて小班群（準林班）データを作成する。

カ　　小班

内容　　：林況が異なる、又は施業上特に取り扱いを異にする必要がある林況別又は林分別に区分する。

作成方法：林班毎に林班の一隅の小班から連続してアラビア数字による連続番号（地番をもってこれに代えることができる）を付す。対応する地図データとして、小班ポリゴンデータを作成する。

キ　　小班枝番

内容　　：既に設定された小班について、林況別又は林分別に細分する必要がある場合は、小班枝番を設定する。

作成方法：小班の一隅から、アラビア数字による連続番号を付す。対応する地図データとして、小班と同様のポリゴンデータを作成し、小班レイヤと同一レイヤで管理する。

ク　　施業履歴番号

内容　　：1 つの小班（または小班枝番）または地番（本番・支番）で複数の施業が実施される場合に、これらを識別するための番号

作成方法：同じ区画内において、1 から順に通し番号を入れる。
この番号は、施業を実施し、ポリゴンデータを作成した順に、手動で入力する。

ケ　　施業時小班・施業時小班枝番

作成方法：施業履歴レコード作成時に、森林資源レイヤを参考に、施業時の小班（または小班枝番）をユーザーが入力する。

コ　　施業時森林所有者名

内容　　：施業を実施した時点の森林所有者の項目
入力する所有者の区分は、原則立木所有者とするが、林地所有者・実質管理者も可とする。
作成方法：施業履歴レコード作成に、地番レイヤを参考にユーザーが手動入力する。

サ　施業種
コード表：次表の通り
次表にない施業を入力する必要がある場合は、コード番号 60 から任意に追加する。
作成方法：実施した施業内容を入力する。

コード	名称	略称
1	間伐（切捨）	切捨間
2	間伐（搬出）	搬出間
3	間伐(治山事業)	治山間
4	間伐(区分不明)	不明間
11	主伐（皆伐）	皆伐
12	主伐（択伐）	択伐
21	造林	造林
31	下刈	下刈
32	除伐	除伐
33	つる切り	つる切
34	枝打	枝打
51	鹿ネット設置	鹿ネット
52	ツリーシェルター設置	シェルター

シ　施業実施年度
作成方法：施業を実施した西暦年度を入力する。

ス　施業面積
作成方法：施業を実施した箇所の測量データや、紙の測量図面のデジタイズ等により求積した結果を入力する。
測量データが存在せず、小班（または小班枝番）ポリゴン、または地番ポリゴンと同一形状のものを利用して施業履歴ポリゴンを入力した場合、それぞれの基となるデータの面積を入力する。

セ　施業ポリゴン作成方法
内容　　：施業履歴ポリゴンを作成した際の手法・基となったデータを記載する。ポリゴンデータの位置精度を示す、重要な指標となる。
コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	絶対座標測量データ入力	絶対測量
2	相対座標測量データ入力	相対測量
3	測量図デジタイズ	デジタイズ
4	林小班界・地番界の利用	既存界
5	その他	他

ソ　施業延長

内容　：実施した施業種が鹿ネット設置の場合、施業面積の代わりに入力する項目。

作成方法：施業実績より入力する。

タ　施業総本数

内容　：実施した施業種がツリーシェルター設置である場合に、施業面積の代わりに入力する項目。面積当たりの本数ではなく、総本数を入力する。

作成方法：施業実績より入力する。

チ　更新データ時点

内容　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（2） 地番図がベースマップの場合

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
prefecture_code	都道府県コード	都道府県		○	H	－	2	－	○	総務省全国地方公共団体コードの上2 桁	基本・推奨
city_code	市町村コード	市町村		○	H	－	4	－	○	総務省全国地方公共団体コードの下4 桁	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	H	―	4	―		コードは任意	基本・推奨
syozai	所在	所在	○	○	X		100		－	全角文字列形式とする。	基本・推奨
Kigo	記号	記号	○		H		10		－	山地番の記号「ｙ」や「甲」「乙」等の記号を地番本番と分けて管理する場合に使用可能とする。	基本・推奨
chban	地番	地番	○	○	H		50		－	半角文字列形式とする。地番本番~玄孫番までハイフン(-)で結合する。	基本・推奨
treatment_number	施業履歴番号	施業番号	○	○	H		2		－		基本・推奨
syozai_as_of_treatment	施業時所在	施業時所在			X		100		－		推奨仕様のみ
Kigo_as_of_treatment	施業時記号	施業時記号			H		10		－		推奨仕様のみ
chiban_as_of_treatment	施業時地番	施業時地番			H		50		－		推奨仕様のみ
project_name	事業名	事業名		○	X	―	100	―			推奨仕様のみ
project_executor	事業実行者	事業実行者			X	―	100	―			推奨仕様のみ
tree_species_as_of_treatment	施業時樹種	施業時樹種			H	―	2	―	○		推奨仕様のみ
frst_age_as_of_treatment	施業時林齢	施業時林齢			9	―	3	―			推奨仕様のみ
treatment_type	施業種	施業種		○	H	―	2	―	○		基本・推奨
treatment_year	施業実施年度	施業年		○	D	―	―	―		西暦で記載	基本・推奨
treatment_area	施業面積	施業面積		○	9	ha	3	第2位			基本・推奨
polygon_creation_method	施業ポリゴン作成方法	ポリゴン作成法			H	―	2	―	○		基本・推奨
deer_net_length	施業延長	施業延長			9	m	4	―	－		基本・推奨
the_number_of_treeshelter	施業総本数	施業総本数			9	本	5	―	－		基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	―	―	―	―	西暦で記載	基本・推奨

ア　都道府県コード

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

イ　市町村コード

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

ウ　所在

内容　：地番データベース・地番テーブルの「所在」情報を参照する。

エ　　記号

内容　　：地番データベース・地番テーブルの「記号」情報を参照する。

オ　　地番

内容　　：地番データベース・地番テーブルの「地番」情報を参照する。

カ　　施業履歴番号

内容　　：1 つの小班（または小班枝番）または地番（本番・支番）で複数の施業が実施される場合に、これらを識別するための番号

作成方法：同じ区画内において、1 から順に通し番号を入れる。
この番号は、施業を実施し、ポリゴンデータを作成した順に、手動で入力する。

キ　　施業時小班・施業時小班枝番

作成方法：施業履歴レコード作成時に、森林資源レイヤを参考に、施業時の小班（または小班枝番）をユーザーが入力する。

ク　　施業時森林所有者名

内容　　：施業を実施した時点の森林所有者の項目
入力する所有者の区分は、原則立木所有者とするが、林地所有者・実質管理者も可とする。

作成方法：施業履歴レコード作成に、地番レイヤを参考にユーザーが手動入力する。

ケ　　施業種

コード表：次表の通り
次表にない施業を入力する必要がある場合は、コード番号 60 から任意に追加する。

作成方法：実施した施業内容を入力する。

コード	名称	略称
1	間伐(切捨)	切捨間
2	間伐(搬出)	搬出間
3	間伐(治山事業)	治山間
4	間伐(区分不明)	不明間
11	主伐(皆伐)	皆伐
12	主伐(択伐)	択伐
21	造林	造林
31	下刈	下刈
32	除伐	除伐
33	つる切り	つる切
34	枝打	枝打
51	鹿ネット設置	鹿ネット
52	ツリーシェルター設置	シェルター

コ　施業実施年度

作成方法：施業を実施した西暦年度を入力する。

サ　施業面積

作成方法：施業を実施した箇所の測量データや、紙の測量図面のデジタイズ等により求積した結果を入力する。

測量データが存在せず、小班（または小班枝番）ポリゴン、または地番ポリゴンと同一形状のものを利用して施業履歴ポリゴンを入力した場合、それぞれの基となるデータの面積を入力する。

シ　施業ポリゴン作成方法

内容　：施業履歴ポリゴンを作成した際の手法・基となったデータを記載する。ポリゴンデータの位置精度を示す、重要な指標となる。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	絶対座標測量データ入力	絶対測量
2	相対座標測量データ入力	相対測量
3	測量図デジタイズ	デジタイズ
4	林小班界・地番界の利用	既存界
5	その他	他

ス　施業延長

内容　：実施した施業種が鹿ネット設置の場合、施業面積の代わりに入力する項目

作成方法：施業実績より入力する。

セ　　施業総本数

内容　　：実施した施業種がツリーシェルター設置である場合に、施業面積の代わりに入力する項目。面積当たりの本数ではなく、総本数を入力する。

作成方法：施業実績より入力する。

ソ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

３.４.４ 施業履歴情報の標準化に係るシステムの標準仕様

施業履歴情報のデータ項目の標準化に係るシステムの標準仕様を抜粋し、次表に再掲する。

仕様区分	項目		内容
基本・推奨共通	施業履歴テーブル	データ作成	◎ベースマップが林相図の場合は林相ポリゴン、ベースマップが地番図の場合は地番ポリゴンを施業履歴ポリゴンとオーバーレイし、最も大きな面積を占める小班（または小班枝番）または地番（本番・支番）を施業履歴の主キーとして、更新する。 （地図データの更新の都度、処理を行う。または年次更新作業の際に実施する。）
推奨	直近施業種・ 直近施業実施年度・ 直近施業面積	データ作成	◎小班ポリゴンと施業履歴ポリゴンをオーバーレイし、その重なり面積を算定し、施業履歴テーブルの「施業面積」に自動入力する。 ◎施業履歴テーブルより、「間伐・主伐」、「造林・育林」別に、直近の施業履歴データのみ小班テーブルに入力する。
基本・推奨共通	更新データ時点	データ作成	◎データを入力・更新する際に自動入力される。

３．５ 路網情報

３.５.１ 概要

路網情報は、都道府県と市町村・林業事業体とで共通の仕様となり、主に路網利用者に必要な情報という観点からデータ項目、及び地図データに関する仕様を定めている。

路網管理者に必要な情報項目については、各種法令や通知等で定められているため、特にデータ形式の標準化は行わず、路網ラインデータと林道台帳・作業道台帳情報がリンクすることのみを標準仕様とする。

◎ 対象となる地物

- 路網関連には、以下の図のような様々な地物がある中で、「公道」及び、「林業用路網」についての標準仕様を定めた。
- 平成２５年度版標準仕様に含めた、「林業用路網（総括）」、「橋梁」、「トンネル」・「高架」、「舗装」、「通行制限箇所」、「路網施設」の各地物については、各項目のデータ取得が困難であり、かつユーザー側も高レベルのデータメンテナンスが求められるため、拡張的な仕様として、標準仕様には含めないこととした。

・公道	【ライン】	基本仕様	推奨仕様
・林業用路網	【ライン】		
・林業用路網（総括）	【ライン】		
・橋梁	【ライン】		
・トンネル・高架	【ライン】		
・舗装	【ライン】		
・通行制限箇所	【ライン】		
・路網施設	【ポイント】【ライン】		

◎　数値情報と地図情報

＜数値情報の管理＞

- それぞれの地物項目の数値属性については、台帳（作成・管理）システムを構築し、台帳整理番号をキーとしてリンクさせる。

＜DB に対応した地図＞

- 路網図

＜地図データの形式＞

- 公道は、数値地図（国土基本情報）レベルの道路中心線の線形（ラインデータ）
  - ✧　１本線
  - ✧　年に１度、データ更新を行う。
- 林業用路網は、恒久的な林業用路網（林道、林業専用道、森林作業道）の線形（ラインデータ）
  - ✧　１本線
  - ✧　年に１度、データ更新を行う。

＜作成方法＞

- 既存の路網データ（デジタル）を取り込む、または既存の紙図面をスキャンしたものや、航空写真や微地形図等を基にしたデジタイズにより作成する。

＜表示方法＞

- デフォルトの表示は、公道・林道・林業専用道・森林作業道等の道種により、表示を変更する。

３.５.２ 基本仕様

<路網DB　－路網テーブル>

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
control_number	台帳整理番号	台帳番号	○	○	H	－	100	－	－		基本・推奨
route_name	路線名	路線名		○	X	－	100	－	－		基本・推奨
construction_status	既設・計画	既設・計画		○	H	－	1	－	○		基本・推奨
route_type	道種	道種		○	H	－	2	－	○		基本・推奨
route_length	延長	延長		○	9	m	6	－	－	台帳上の延長	基本・推奨
route_length_on_the_map	図上延長	図上延長		○	9	m	6	－	－	GIS上の延長	基本・推奨
opening_year	開設（予定）年度	開設年度			9		4	－	－	西暦年	基本・推奨
minimum_width	最小幅員（全幅員）	全幅員		○	9	m	3	第1位	－		基本・推奨
minimum_width_for_roadway	最小幅員（車道幅員）	車道幅員		○	9	m	3	第1位	－		基本・推奨
route_manager	路網管理者	管理者		○	X	－	100	－	－		基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨

ア　　台帳整理番号

内容　　：各地物の数値属性を管理する台帳システムにおける整理番号

イ　　路線名

内容　　：林道台帳等から参照した路線名を入力する。

ウ　　既設・計画

内容　　：レコードの対象区間が、既設路線か計画路線かによって区分する。

コード表：次表の通り

作成方法：対象区間の既設・計画の区分を選択する。

コード	名称	略称
1	既設	既設
2	計画	計画

エ　　道種（公道／林業用路網）

コード表：次表の通り

＜公道＞

コード	名称	略称
1	高速自動車国道(有料)	高速有料
2	高速自動車国道(無料)	高速無料
3	その他国道(有料)	国道有料
4	その他国道(無料)	国道無料
5	都道府県道(有料)	県道有料
6	都道府県道(無料)	県道無料
7	市町村道(有料)	市道有料
8	市町村道(無料)	市道無料
9	農道	農道
10	その他公道	その他

＜林業用路網＞

コード	名称	略称
21	林道(基幹道)	基幹道
22	林道(管理道)	管理道
23	林道(施業道)	施業道
24	林業専用道	専用道
25	森林作業道	作業道
26	その他私設路網	その他

オ　延長

単位　：メートル（m）

作成方法：台帳上の延長距離を記載する。

カ　図上延長

単位　：メートル（m）

作成に関するシステム要件：

GIS 上でラインデータの延長距離を算出し、自動入力する。

キ　開設（予定）年度

作成方法：既設路網については開設年度を、計画路線については開通予定年度を記載する。林道台帳・作業道台帳から引用する。

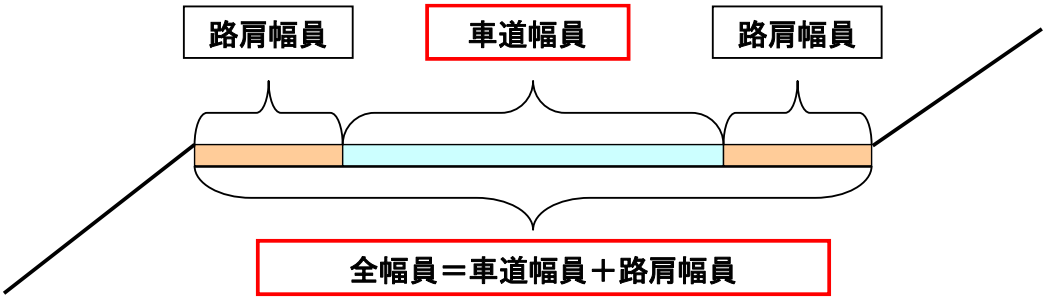
ク　最小幅員（全幅員・車道幅員）

内容　：以下の図の通り、車道幅員における最小幅員と、両路肩幅員を加えた全幅員における最小幅員。

単位　：メートル（m）

作成方法：林業用路網の内、林道に関しては、林道台帳に全幅員・車道幅員とも記載さ

れているため、その数値を入力する。
林業専用道・森林作業道の場合は、路網開設時の情報を入力する。



ケ　路網管理者

作成方法：林業用路網のうち、林道に関しては、林道台帳から入力する。
林業専用道・森林作業道の場合は作業道台帳から入力するが、こちらは当該路網を利用するユーザーが限られるため、項目の入力は必須ではない。

コ　更新データ時点

内容　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：
ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

３.５.３ 推奨仕様

＜路網DB－路網テーブル＞

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	備考	仕様区分
control_number	台帳整理番号	台帳番号	○	○	H		100				基本・推奨
route_name	路線名	路線名		○	X		100				基本・推奨
construction_status	既設・計画	既設・計画		○	H		1		○		基本・推奨
route_type	道種	道種		○	H		2		○		基本・推奨
route_length	延長	延長		○	9	m	6			台帳上の延長	基本・推奨
route_length_on_the_map	図上延長	図上延長		○	9	m	6			GIS上の延長	基本・推奨
opening_year	開設(予定)年度	開設年度		○	9		4			西暦年	基本・推奨
minimum_width	最小幅員(全幅員)	全幅員		○	9	m	3	第1位			基本・推奨
minimum_width_for_roadway	最小幅員(車道幅員)	車道幅員		○	9	m	3	第1位			基本・推奨
route_manager	最小曲線半径	曲線半径			9	m	3	第1位			推奨仕様のみ
maximum_longitudinal_slope	最急縦断勾配	縦断勾配			9	°	3	第1位			推奨仕様のみ
passable_wheelbase_type	通行可能車両(ホイール系)車両区分	通行ホイル区分			H		1		○		推奨仕様のみ
passable_wheelbase_type	通行可能車両(ホイール系)車種	通行ホイル車種		○	H		2		○		推奨仕様のみ
input_ymd_passable_wheelbase	通行可能車両(ホイール系)入力年月日	通行ホイル入力日			D						推奨仕様のみ
inputter_passable_wheelbase	通行可能車両(ホイール系)入力者名	通行ホイル入力者			X		100				推奨仕様のみ
passable_crawler_type	通行可能車両(クローラ系)車種	通行クロラ車種			H		2		○		推奨仕様のみ
input_ymd_passable_crawler	通行可能車両(クローラ系)入力年月日	通行クロラ入力日			D						推奨仕様のみ
inputter_passable_crawler	通行可能車両(クローラ系)入力者名	通行クロラ入力者			X		100				推奨仕様のみ
route_manager	路網管理者	管理者		○	X		100				基本・推奨
address_of_route_manager	路網管理者連絡先	管理者連絡先			X		100				推奨仕様のみ
terrain_measurement_year	地形計測年	地形計測年			D	－	－	－	－	西暦で記載	推奨仕様のみ
terrain_measurement_method	地形計測法	地形計測法			H	－	－	－	○		推奨仕様のみ
terrain_measurement_measurer	地形計測者	地形計測者			X	－	100	－			推奨仕様のみ
traffic_survey	通行調査	通行調査			X	－	250	－			推奨仕様のみ
traffic_survey_year	通行調査年	通行調査年			D	－	－	－	－	西暦で記載	推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	西暦で記載	基本・推奨

ア　　台帳整理番号

内容　　：各地物の数値属性を管理する台帳システムにおける整理番号

イ　　路線名

内容　　：林道台帳等から参照した路線名を入力する。

ウ　　既設・計画

内容　　：レコードの対象区間が、既設路線か計画路線かによって区分する。

コード表：次表の通り

作成方法：対象区間の既設・計画の区分を選択する。

コード	名称	略称
1	既設	既設
2	計画	計画

エ　　道種（公道／林業用路網）

コード表：次表の通り

＜公道＞

コード	名称	略称
1	高速自動車国道(有料)	高速有料
2	高速自動車国道(無料)	高速無料
3	その他国道(有料)	国道有料
4	その他国道(無料)	国道無料
5	都道府県道(有料)	県道有料
6	都道府県道(無料)	県道無料
7	市町村道(有料)	市道有料
8	市町村道(無料)	市道無料
9	農道	農道
10	その他公道	その他

＜林業用路網＞

コード	名称	略称
21	林道(基幹道)	基幹道
22	林道(管理道)	管理道
23	林道(施業道)	施業道
24	林業専用道	専用道
25	森林作業道	作業道
26	その他私設路網	その他

オ　延長

単位　：メートル（m）

作成方法：台帳上の延長距離を記載する。

カ　図上延長

単位　：メートル（m）

作成に関するシステム要件：

GIS 上でラインデータの延長距離を算出し、自動入力する。

キ　開設（予定）年度

作成方法：既設路網については開設年度を、計画路線については開通予定年度を記載する。林道台帳・作業道台帳から引用する。

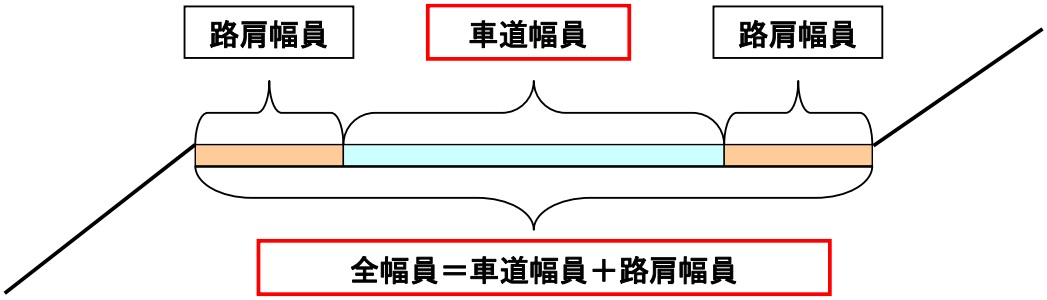
ク　最小幅員（全幅員・車道幅員）

内容　：以下の図の通り、車道幅員における最小幅員と、両路肩幅員を加えた全幅員における最小幅員。

単位　：メートル（m）

作成方法：林業用路網の内、林道に関しては、林道台帳に全幅員・車道幅員とも記載さ

れているため、その数値を入力する。
林業専用道・森林作業道の場合は、路網開設時の情報を入力する。



ケ　　最小曲線半径

単　　位：メートル（m）

作成方法：林道台帳・作業道台帳の様式には規定されていない項目であるため、既設路線を含め、計画段階のデータ等から、ユーザーが独自に入力する。

コ　　最急縦断勾配

単位　　：度（°）

作成方法：林道台帳・作業道台帳の様式には規定されていない項目であるため、既設路線を含め、計画段階のデータ等から、ユーザーが独自に入力する。

サ　　通行可能車両（ホイール系）

①　　車両区分

コード表：次表の通り

作成方法：下記「車種」コードが更新された際に、自動で更新される。

②　　車種

コード表：次表の通り

作成方法：路網管理者だけでなく、他の（システム上管理された）路網利用者も編集可能とする。

車両区分コード	車両区分	車種コード	車種	略称
1	大型自動車	01	フルトレーラー	フルトレ
		02	セミトレーラー	セミトレ
		03	15tトラック	15t
		04	11tトラック	11t
2	中型自動車	05	8tトラック	8t
3	普通自動車	06	4tトラック	4t
		07	2tトラック	2t
		08	普通自動車(四駆)	普通
		09	軽トラック	軽トラ
0	通行不能	00	通行不能	通行不能

③　入力年月日

作成方法：「車両区分」データ、「車種」データが更新された年月日が自動入力される。

④　入力者名

作成方法：「車両区分」データ・「車種」データを更新したユーザーの氏名を入力する。
（システムでユーザー管理を行っている場合、自動更新とする。）

シ　通行可能車両（クローラ系）

①　車種

コード表：次表の通り

作成方法：路網管理者だけでなく、他の（システム上管理された）路網利用者も編集可能とする。

コード	車種	略称
21	0.70m3級	0.7
22	0.45m3級	0.45
23	0.25m3級	0.25
24	0.20m3級	0.2
20	通行不能	通行不能

②　入力年月日

作成に関するシステム要件：

データを入力した年月日を、自動入力する。

路網管理者だけでなく、他の（システム上管理された）路網利用者も編集可能とする。

③　入力者名

作成方法：「車両区分」データ・「車種」データを更新したユーザーの氏名を入力する。
（システムでユーザー管理を行っている場合、自動更新とする。）

ス　　路網管理者

作成方法：林業用路網のうち、林道に関しては、林道台帳から入力する。
林業専用道・森林作業道の場合は作業道台帳から入力するが、こちらは当該路網を利用するユーザーが限られるため、項目の入力は必須ではない。

セ　　路網管理者連絡先

作成方法：電話番号・e-mail アドレス等を、ユーザーが独自に入力する。

ソ　　地形計測年

作成方法：地盤高（DTM）データの計測年。西暦で記載。yyyy/mm/dd の日付。計測終了日または、計測月日が不明な場合は計測年の 1 月 1 日として入力する。(例: 2020/01/01)

タ　　地形計測法

コード表：次表の通り

作成方法：：地盤高（DTM）計測方法の名称。

コード	名称	略称
1	航空レーザ	航空レーザ
2	航空写真	航空写真
3	UAVレーザ	UAVレーザ
4	UAV写真	UAV写真
5	地上レーザ	地上レーザ

チ　　地形計測者

作成方法：地盤高（DTM）計測業者名。

ツ　　通行調査

作成方法：通行情報について自由記述。

テ　　通行調査年

作成方法：通行調査年月日を西暦で記載。

ト　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：
ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

３.５.４ 路網情報の標準化に係るシステムの標準仕様

路網情報のデータ項目の標準化に係るシステムの標準仕様を抜粋し、次表に再掲する。

仕様区分	項目		内容
基本・推奨共通	公道、林業用路網	データ作成	◎林道台帳・作業道台帳のシステムを構築し、台帳情報を地物データとリンクさせる。
基本・推奨共通	図上延長	データ作成	◎GIS上でラインデータの延長を算出し、自動入力する。
基本・推奨共通	入力年月日	データ作成	◎データを入力した年月日を自動入力する。
基本・推奨共通	入力者氏名	データ作成	◎（システムでユーザー管理を行っている場合、）データを入力した路網管理者の氏名を自動入力する。
基本・推奨共通	更新データ時点	データ作成	◎森林資源DBにデータを入力・更新する際に自動入力される。

３．６ 地図情報

３.６.１ その他地図情報

◎ 基本仕様

＜等高線＞

データ型：ラスタデータ（森林基本図をスキャンしたもの）

作成方法：森林基本図をスキャンしたものを、ジオリファレンス機能を用いてデータ化する。

◎ 推奨仕様

＜等高線＞

データ型：ベクトル（ライン）データ（計曲線・主曲線の属性）と、元のラスタデータを両方保有する。

作成方法：各種市販データも活用可能

３.６.２ 数値情報に対応した地図情報

◎ 留意事項

＜地図精度＞

- デジタイズにより作成した地図データの精度は、データ入力に使用した基図面の縮尺（１／〇）により規定される。
- 出力する地図を他ユーザーが利用する場合は、凡例に基となった地図の縮尺を表示する。

＜ファイル形式＞

- 地図データのファイル形式は任意とするが、シェープファイル形式または GML 形式への変換を可能とする。

＜表示方法＞

- デフォルトの表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。
- ユーザーが設定（変更）した表示は、保存可能とする。

＜測地系と座標系＞

＜測地系＞

- 地球上の位置を、緯度経度で表現する際の基準。
- 地球を楕円に近似する際の、楕円の種類により分類される。

【世界測地系】

近似楕円の重心が、地球の中心にある。

【日本測地系】

東京の平面が正確に表現できるように、重心を合わせている。

- 日本では、平成 24 年以降は、世界測地系の一つである日本測地系 2000（上記の日本測地系とは異なる）を用いている。

＜座標系＞

- 地球上の位置を、座標値によって表す際の決まりのこと

【投影座標系】

地球を二次元の平面に投影し、XY 座標で表す座標系

投影方法により、UTM 座標系、平面直角座標系第 1~19 系等にさらに分類される。

【地理座標系】

三次元の地球上の位置を緯度・経度座標で表す座標系

	投影座標系		地理座標系
	平面直角座標系	UTM座標系	
世界測地系	【日本測地系2000_平面直角座標系第1～19系】 日本の公共測量で利用	【世界測地系2000_UTM座標系】 世界各地の大縮尺地図に利用	【日本測地系2000_地理座標系】 【WGS84】 GNSSの位置情報の基準に利用
日本測地系	【日本測地_平面直角座標系第1～19系】 一部の都道府県で利用されている場合あり	【日本測地系2000_ UTM座標系】	【日本測地系_地理座標系】

- 都道府県によっては、日本測地系を利用している場合があるため、地図データの世界測地系と、日本測地系との相互変換が必要となる。

  GNSS 由来を始め、様々な座標系の地図データを入力・参照する場合があるため、地図データを利用する際には、各座標系への対応に留意する必要がある。

＜地図データ入力のガイドライン(推奨)＞

- 紙図面を基にデータ入力する場合は、画面上のフリーハンドではなく、ジオリファレンス機能（スキャニング⇒座標系設定）を使用して入力する。
- 座標系設定の精度を上げるためには、GIS から出力する紙図面には、緯線・経線が印刷されている必要がある。（要システム対応）

- 委託撮影ではなく、既存の航空写真からオルソ化された背景画像を基にデータ入力する場合は、基データの精度に留意する。
- ポケットコンパス等で測量した成果（測量野帳）を入力・処理するシステムは、西偏（磁北と真北の差）への対応が必要である。

３．７ ユーザー間のデータ提供時のデータ変換

３.７.１ 概要

本標準仕様では、市町村・林業事業体版標準仕様を利用しているユーザーと都道府県版標準仕様を利用しているユーザーとが、データをやり取りすることを想定している。

都道府県と市町村・林業事業体の標準仕様ではデータベースの構造やデータ項目が異なるものがあるため、異なる標準仕様を利用しているユーザーからのデータを自身の DB に取り込むためには、受領したデータの中のどのデータ項目を自身の DB のどの項目に入力するかを明確にしておく必要がある。

そこで以下の通り、次の３ケースにおけるデータ変換要件を整理する。

（１） 都道府県から市町村・林業事業体へ情報が交付され、そのデータを初期データとして利用する場合

（２） 都道府県から市町村・林業事業体へ情報が交付され、そのデータを更新データとして利用する場合

（３） 市町村・林業事業体から都道府県へ情報が提供され、そのデータを更新データとして利用する場合

なお、基本仕様と推奨仕様とで仕様が異なるため、上記の（１）～（３）のケースにおいて、更に以下の 4 ケースについて整理した。

① 基本仕様から基本仕様

② 基本仕様から推奨仕様

③ 推奨仕様から基本仕様

④ 推奨仕様から推奨仕様

３.７.２ 数値情報の取得方法

異なる標準仕様を利用しているユーザーからデータを変換し取得する際には、各データの区画（小班界・地番界等）が異なることが想定される。

そこで、異なる区画のデータ（数値情報）を取得するために、地図情報（ポリゴン）をオーバーレイする方法を用いることとする。

3.7.3 データ変換一覧表

（1） 都道府県から市町村・林業事業体へ情報が交付され、そのデータを初期データとして利用する場合

（以下、左の参照元テーブルは、右の参照先テーブルに必要な項目のみ記載）

① 基本仕様から基本仕様

＜森林資源DB小班テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
林齢データ時点	基本・推奨
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
所有形態	基本・推奨
所有者の在村・不在村	基本・推奨
小班面積	基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	基本・推奨
森林経営計画認定年月	基本・推奨
森林認証の種類	基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨
備考	基本・推奨

＜森林資源DB－小班テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
林齢データ時点	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
都道府県	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所在	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
記号	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
地番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
独自小班区分の有無	－	－	－	基本仕様ではコードは「2:無」	基本・推奨
所有形態	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所有者の在村・不在村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班面積	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定年月	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林認証の種類	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨
備考	－	－	－		基本・推奨

＜森林資源DB －樹種テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
樹種番号	基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	基本・推奨
層区分	基本・推奨
林種	基本・推奨
中樹種	基本・推奨
樹種	基本・推奨
面積歩合	基本・推奨
樹種面積	基本・推奨
林齢	基本・推奨
齢級	基本・推奨
樹冠疎密度	基本・推奨
平均樹高	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜森林資源DB －樹種テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種番号	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
層区分	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
中樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
面積歩合	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種面積	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
齢級	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
標準伐期齢	－	－	－		基本・推奨
樹冠疎密度	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
平均樹高	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹高査定年月日	－	－	－		基本・推奨
樹高査定方法	－	－	－		基本・推奨
相対地位	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定材積－収穫表	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定成長量－収穫表	－	－	－		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜施業履歴DB－施業履歴テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
施業履歴番号	基本・推奨
施業種	基本・推奨
施業実施年度	基本・推奨
施業面積	基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	基本・推奨
施業延長	基本・推奨
施業総本数	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜施業履歴DB－林相図ベースマップ＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
市町村コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
林班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班群	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業履歴番号	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業種	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業実施年度	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業面積	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業延長	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業総本数	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜路網DB －路網テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
台帳整理番号	基本仕様
路線名	基本仕様
既設・計画	基本仕様
道種	基本仕様
延長	基本仕様
図上延長	基本仕様
開設(予定)年度	基本仕様
最小幅員(全幅員)	基本仕様
最小幅員(車道幅員)	基本仕様
路網管理者	基本仕様
更新データ時点	基本・推奨

＜路網DB －路網テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
台帳整理番号	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路線名	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
既設・計画	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
道種	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
図上延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
開設(予定)年度	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(全幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(車道幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路網管理者	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

②　基本仕様から推奨仕様

＜森林資源DB_小班テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
林齢データ時点	基本・推奨
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
所有形態	基本・推奨
所有者の在村・不在村	基本・推奨
小班面積	基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	基本・推奨
森林経営計画認定年月	基本・推奨
森林認証の種類	基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨
備考	基本・推奨

＜森林資源DB－小班テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
林齢データ時点	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
都道府県	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所在	－	－	－		基本・推奨
記号	－	－	－		基本・推奨
地番	－	－	－		基本・推奨
独自小班区分の有無	－	－	－		基本・推奨
所有形態	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所有者の在村・不在村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班面積	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定年月	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林認証の種類	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班地利	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班傾斜	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨
備考	－	－	－		基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
樹種番号	基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	基本・推奨
層区分	基本・推奨
林種	基本・推奨
中樹種	基本・推奨
樹種	基本・推奨
面積歩合	基本・推奨
樹種面積	基本・推奨
林齢	基本・推奨
齢級	基本・推奨
樹冠疎密度	基本・推奨
平均樹高	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種番号	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
層区分	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
中樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
品種					推奨仕様のみ
面積歩合	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種面積	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢範囲上					推奨仕様のみ
林齢範囲下					推奨仕様のみ
齢級	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
標準伐期齢	－	－	－		基本・推奨
樹冠疎密度	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
平均樹高	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹高査定年月日	－	－	－		基本・推奨
樹高査定方法	－	－	－		基本・推奨
ha当たり立木本数					推奨仕様のみ
ha当たり立木本数査定年月日					推奨仕様のみ
本数査定方法					推奨仕様のみ
相対地位	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定材積－収穫表	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定成長量－収穫表	－	－	－		基本・推奨
絶対地位	－	－	－		推奨仕様のみ
ha当たり査定材積－密度管理図	－	－	－		推奨仕様のみ
ha当たり査定成長量－密度管理図	－	－	－		推奨仕様のみ
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜施業履歴DB－施業履歴テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
施業履歴番号	基本・推奨
施業種	基本・推奨
施業実施年度	基本・推奨
施業面積	基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	基本・推奨
施業延長	基本・推奨
施業総本数	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜施業履歴DB－林相図ベースマップ＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
市町村コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
林班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班群	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業履歴番号	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業時小班	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時小班枝番	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時所有者名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業実行者	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時樹種	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時林齢	－	－	－		推奨仕様のみ
施業種	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業実施年度	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業面積	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業延長	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業総本数	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
台帳整理番号	基本仕様
路線名	基本仕様
既設・計画	基本仕様
道種	基本仕様
延長	基本仕様
図上延長	基本仕様
開設(予定)年度	基本仕様
最小幅員(全幅員)	基本仕様
最小幅員(車道幅員)	基本仕様
路網管理者	基本仕様
更新データ時点	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
台帳整理番号	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路線名	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
既設・計画	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
道種	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
図上延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
開設(予定)年度	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(全幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(車道幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小曲線半径	－	－	－		推奨仕様のみ
最急縦断勾配	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)車両区分	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)車種	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)入力年月	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)入力者名	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)車種	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)入力年月	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)入力者名	－	－	－		推奨仕様のみ
路網管理者	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路網管理者連絡先	路網DB	路網テーブル	同名		推奨仕様のみ
更新データ時点				システムによる自動更新	基本・推奨

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

③　推奨仕様から基本仕様

＜森林資源DB小班テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
林齢データ時点	基本・推奨
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
所有形態	基本・推奨
所有者の在村・不在村	基本・推奨
小班面積	基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	基本・推奨
森林経営計画認定年月	基本・推奨
森林認証の種類	基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨
備考	基本・推奨

＜森林資源DB－小班テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
林齢データ時点	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
都道府県	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所在	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
記号	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
地番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
独自小班区分の有無	－	－	－	基本仕様ではコードは「2:無」	基本・推奨
所有形態	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所有者の在村・不在村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班面積	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定年月	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林認証の種類	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨
備考	－	－	－		基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
樹種番号	基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	基本・推奨
層区分	基本・推奨
林種	基本・推奨
中樹種	基本・推奨
樹種	基本・推奨
面積歩合	基本・推奨
樹種面積	基本・推奨
林齢	基本・推奨
齢級	基本・推奨
樹冠疎密度	基本・推奨
平均樹高	基本・推奨
樹高査定年月日	推奨仕様のみ
相対地位	推奨仕様のみ
ha当たり査定材積－収穫表	推奨仕様のみ
ha当たり査定成長量－収穫表	推奨仕様のみ
更新データ時点	基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種番号	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
層区分	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
中樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
面積歩合	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種面積	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
齢級	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
標準伐期齢	－	－	－		基本・推奨
樹冠疎密度	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
平均樹高	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹高査定年月日	－	－	－		基本・推奨
樹高査定方法	－	－	－		基本・推奨
相対地位	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定材積－収穫表	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定成長量－収穫表	－	－	－		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜施業履歴DB－施業履歴テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
施業履歴番号	基本・推奨
施業種	基本・推奨
施業実施年度	基本・推奨
施業面積	基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	基本・推奨
施業延長	基本・推奨
施業総本数	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜施業履歴DB－林相図ベースマップ＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
市町村コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
林班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班群	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業履歴番号	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業種	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業実施年度	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業面積	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業延長	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業総本数	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
台帳整理番号	基本仕様
路線名	基本仕様
既設・計画	基本仕様
道種	基本仕様
延長	基本仕様
図上延長	基本仕様
開設(予定)年度	基本仕様
最小幅員(全幅員)	基本仕様
最小幅員(車道幅員)	基本仕様
路網管理者	基本仕様
更新データ時点	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
台帳整理番号	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路線名	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
既設・計画	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
道種	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
図上延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
開設(予定)年度	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(全幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(車道幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路網管理者	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

④　推奨仕様から推奨仕様

＜森林資源DB_小班テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
林齢データ時点	基本・推奨
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
所有形態	基本・推奨
所有者の在村・不在村	基本・推奨
小班面積	基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	基本・推奨
森林経営計画認定年月	基本・推奨
森林認証の種類	基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	基本・推奨
小班地利	推奨仕様のみ
小班傾斜	推奨仕様のみ
鳥獣害防止森林区域	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨
備考	基本・推奨

＜森林資源DB－小班テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
林齢データ時点	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
都道府県	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所在	－	－	－		基本・推奨
記号	－	－	－		基本・推奨
地番	－	－	－		基本・推奨
独自小班区分の有無	－	－	－		基本・推奨
所有形態	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所有者の在村・不在村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班面積	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定年月	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林認証の種類	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班地利	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班傾斜	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨
備考	－	－	－		基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
樹種番号	基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	基本・推奨
層区分	基本・推奨
林種	基本・推奨
中樹種	基本・推奨
樹種	基本・推奨
面積歩合	基本・推奨
樹種面積	基本・推奨
林齢	基本・推奨
齢級	基本・推奨
樹冠疎密度	基本・推奨
平均樹高	基本・推奨
樹高査定年月日	推奨仕様のみ
ha当たり立木本数	推奨仕様のみ
ha当たり立木本数査定年月日	推奨仕様のみ
相対地位	推奨仕様のみ
ha当たり査定材積－収穫表	推奨仕様のみ
ha当たり査定成長量－収穫表	推奨仕様のみ
更新データ時点	基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種番号	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
層区分	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
中樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
品種					推奨仕様のみ
面積歩合	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種面積	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢範囲上					推奨仕様のみ
林齢範囲下					推奨仕様のみ
齢級	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
標準伐期齢	－				基本・推奨
樹冠疎密度	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
平均樹高	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹高査定年月日	－	－	－		基本・推奨
樹高査定方法	－	－	－		基本・推奨
ha当たり立木本数					推奨仕様のみ
ha当たり立木本数査定年月日					推奨仕様のみ
本数査定方法					推奨仕様のみ
相対地位	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定材積－収穫表	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定成長量－収穫表	－	－	－		基本・推奨
絶対地位	－	－	－		推奨仕様のみ
ha当たり査定材積－密度管理図	－	－	－		推奨仕様のみ
ha当たり査定成長量－密度管理図	－	－	－		推奨仕様のみ
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜施業履歴DB－施業履歴テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
施業履歴番号	基本・推奨
事業名	推奨仕様のみ
事業実行者	推奨仕様のみ
施業時樹種	推奨仕様のみ
施業時林齢	推奨仕様のみ
施業種	基本・推奨
施業実施年度	基本・推奨
施業面積	基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	基本・推奨
施業延長	基本・推奨
施業総本数	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜施業履歴DB－林相図ベースマップ＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
市町村コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
林班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班群	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業履歴番号	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業時小班	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時小班枝番	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時所有者名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業実行者	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時樹種	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時林齢	－	－	－		推奨仕様のみ
施業種	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業実施年度	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業面積	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業延長	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業総本数	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
台帳整理番号	基本仕様
路線名	基本仕様
既設・計画	基本仕様
道種	基本仕様
延長	基本仕様
図上延長	基本仕様
開設(予定)年度	基本仕様
最小幅員(全幅員)	基本仕様
最小幅員(車道幅員)	基本仕様
最小曲線半径	推奨仕様のみ
最急縦断勾配	推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)車両区分	推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)車種	推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)入力年月	推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)入力者名	推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)車種	推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)入力年月	推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)入力者名	推奨仕様のみ
路網管理者	基本仕様
路網管理者連絡先	推奨仕様のみ
更新データ時点	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
台帳整理番号	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路線名	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
既設・計画	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
道種	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
図上延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
開設(予定)年度	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(全幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(車道幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小曲線半径	－	－	－		推奨仕様のみ
最急縦断勾配	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)車両区分	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)車種	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)入力年月	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)入力者名	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)車種	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)入力年月	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)入力者名	－	－	－		推奨仕様のみ
路網管理者	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路網管理者連絡先	路網DB	路網テーブル	同名		推奨仕様のみ
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

（２） 都道府県から市町村・林業事業体へ情報が交付され、そのデータを更新データとして利用する場合

① 基本仕様から基本仕様

＜森林資源DB_小班テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
林齢データ時点	基本・推奨
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
所有形態	基本・推奨
所有者の在村・不在村	基本・推奨
小班面積	基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	基本・推奨
森林経営計画認定年月	基本・推奨
森林認証の種類	基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨
備考	基本・推奨

＜森林資源DB－小班テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
林齢データ時点	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
都道府県	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所在	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
記号	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
地番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
独自小班区分の有無	－	－	－	基本仕様ではコードは「2:無」	基本・推奨
所有形態	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所有者の在村・不在村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班面積	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定年月	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林認証の種類	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨
備考	－	－	－		基本・推奨

＜森林資源DB ―樹種テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
樹種番号	基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	基本・推奨
層区分	基本・推奨
林種	基本・推奨
中樹種	基本・推奨
樹種	基本・推奨
面積歩合	基本・推奨
樹種面積	基本・推奨
林齢	基本・推奨
齢級	基本・推奨
樹冠疎密度	基本・推奨
平均樹高	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜森林資源DB ―樹種テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	－	－	－		基本・推奨
市町村	－	－	－		基本・推奨
旧市町村	－	－	－		基本・推奨
林班	－	－	－		基本・推奨
小班群	－	－	－		基本・推奨
小班	－	－	－		基本・推奨
小班枝番	－	－	－		基本・推奨
樹種番号	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
層区分	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
中樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
面積歩合	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種面積	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
齢級	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
標準伐期齢	－	－	－		基本・推奨
樹冠疎密度	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
平均樹高	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹高査定年月日	－	－	－		基本・推奨
樹高査定方法	－	－	－		基本・推奨
相対地位	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定材積－収穫表	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定成長量－収穫表	－	－	－		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜施業履歴DB―施業履歴テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
施業履歴番号	基本・推奨
施業種	基本・推奨
施業実施年度	基本・推奨
施業面積	基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	基本・推奨
施業延長	基本・推奨
施業総本数	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜施業履歴DB―林相図ベースマップ＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県コード	－	－	－	代表値のため精度は低い	基本・推奨
市町村コード	－	－	－	代表値のため精度は低い	基本・推奨
旧市町村	－	－	－	代表値のため精度は低い	基本・推奨
林班	－	－	－	代表値のため精度は低い	基本・推奨
小班群	－	－	－	代表値のため精度は低い	基本・推奨
小班	－	－	－	代表値のため精度は低い	基本・推奨
小班枝番	－	－	－	代表値のため精度は低い	基本・推奨
施業履歴番号	－	－	－	自動取得	基本・推奨
施業種	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業実施年度	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業面積	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業延長	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業総本数	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜路網DB ―路網テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
台帳整理番号	基本仕様
路線名	基本仕様
既設・計画	基本仕様
道種	基本仕様
延長	基本仕様
図上延長	基本仕様
開設(予定)年度	基本仕様
最小幅員(全幅員)	基本仕様
最小幅員(車道幅員)	基本仕様
路網管理者	基本仕様
更新データ時点	基本・推奨

＜路網DB ―路網テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
台帳整理番号	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路線名	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
既設・計画	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
道種	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
図上延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
開設(予定)年度	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(全幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(車道幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路網管理者	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

②　基本仕様から推奨仕様

＜森林資源DB_小班テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
林齢データ時点	基本・推奨
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
所有形態	基本・推奨
所有者の在村・不在村	基本・推奨
小班面積	基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	基本・推奨
森林経営計画認定年月	基本・推奨
森林認証の種類	基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨
備考	基本・推奨

＜森林資源DB－小班テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
林齢データ時点	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
都道府県	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所在	－	－	－		基本・推奨
記号	－	－	－		基本・推奨
地番	－	－	－		基本・推奨
独自小班区分の有無	－	－	－		基本・推奨
所有形態	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所有者の在村・不在村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班面積	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定年月	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林認証の種類	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	－	－	－	施業履歴から作成するため移動不要	基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	－	－	－	施業履歴から作成するため移動不要	基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	－	－	－	施業履歴から作成するため移動不要	基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	－	－	－	施業履歴から作成するため移動不要	基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	－	－	－	施業履歴から作成するため移動不要	基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	－	－	－	施業履歴から作成するため移動不要	基本・推奨
小班地利	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班傾斜	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨
備考	－	－	－		基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
樹種番号	基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	基本・推奨
層区分	基本・推奨
林種	基本・推奨
中樹種	基本・推奨
樹種	基本・推奨
面積歩合	基本・推奨
樹種面積	基本・推奨
林齢	基本・推奨
齢級	基本・推奨
樹冠疎密度	基本・推奨
平均樹高	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種番号	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
層区分	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
中樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
品種					推奨仕様のみ
面積歩合	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種面積	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢範囲上					推奨仕様のみ
林齢範囲下					推奨仕様のみ
齢級	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
標準伐期齢	－	－	－		基本・推奨
樹冠疎密度	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
平均樹高	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹高査定年月日	－	－	－		基本・推奨
樹高査定方法	－	－	－		基本・推奨
ha当たり立木本数					推奨仕様のみ
ha当たり立木本数査定年月日					推奨仕様のみ
本数査定方法					推奨仕様のみ
相対地位	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定材積－収穫表	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定成長量－収穫表	－	－	－		基本・推奨
絶対地位	－	－	－		推奨仕様のみ
ha当たり査定材積－密度管理図	－	－	－		推奨仕様のみ
ha当たり査定成長量－密度管理図	－	－	－		推奨仕様のみ
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜施業履歴DB－施業履歴テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
施業履歴番号	基本・推奨
施業種	基本・推奨
施業実施年度	基本・推奨
施業面積	基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	基本・推奨
施業延長	基本・推奨
施業総本数	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜施業履歴DB－林相図ベースマップ＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
市町村コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
林班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班群	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業履歴番号	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業時小班	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時小班枝番	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時所有者名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業実行者	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時樹種	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時林齢	－	－	－		推奨仕様のみ
施業種	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業実施年度	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業面積	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業延長	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業総本数	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
台帳整理番号	基本仕様
路線名	基本仕様
既設・計画	基本仕様
道種	基本仕様
延長	基本仕様
図上延長	基本仕様
開設(予定)年度	基本仕様
最小幅員(全幅員)	基本仕様
最小幅員(車道幅員)	基本仕様
路網管理者	基本仕様
更新データ時点	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
台帳整理番号	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路線名	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
既設・計画	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
道種	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
図上延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
開設(予定)年度	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(全幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(車道幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小曲線半径	－	－	－		推奨仕様のみ
最急縦断勾配	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)車両区分	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)車種	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)入力年月	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)入力者名	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)車種	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)入力年月	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)入力者名	－	－	－		推奨仕様のみ
路網管理者	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路網管理者連絡先	路網DB	路網テーブル	同名		推奨仕様のみ
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

③　推奨仕様から基本仕様

＜森林資源DB_小班テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
林齢データ時点	基本・推奨
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
所有形態	基本・推奨
所有者の在村・不在村	基本・推奨
小班面積	基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	基本・推奨
森林経営計画認定年月	基本・推奨
森林認証の種類	基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨
備考	基本・推奨

＜森林資源DB－小班テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
林齢データ時点	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
都道府県	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所在	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
記号	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
地番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
独自小班区分の有無	－	－	－	基本仕様ではコードは「2:無」	基本・推奨
所有形態	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所有者の在村・不在村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班面積	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定年月	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林認証の種類	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨
備考	－	－	－		基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
樹種番号	基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	基本・推奨
層区分	基本・推奨
林種	基本・推奨
中樹種	基本・推奨
樹種	基本・推奨
面積歩合	基本・推奨
樹種面積	基本・推奨
林齢	基本・推奨
齢級	基本・推奨
樹冠疎密度	基本・推奨
平均樹高	基本・推奨
樹高査定年月日	推奨仕様のみ
相対地位	推奨仕様のみ
ha当たり査定材積－収穫表	推奨仕様のみ
ha当たり査定成長量－収穫表	推奨仕様のみ
更新データ時点	基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種番号	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
層区分	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
中樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
面積歩合	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種面積	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
齢級	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
標準伐期齢	－	－	－		基本・推奨
樹冠疎密度	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
平均樹高	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹高査定年月日	－	－	－		基本・推奨
樹高査定方法	－	－	－		基本・推奨
相対地位	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定材積－収穫表	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定成長量－収穫表	－	－	－		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜施業履歴DB－施業履歴テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
施業履歴番号	基本・推奨
施業種	基本・推奨
施業実施年度	基本・推奨
施業面積	基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	基本・推奨
施業延長	基本・推奨
施業総本数	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜施業履歴DB－林相図ベースマップ＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
市町村コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
林班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班群	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業履歴番号	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業種	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業実施年度	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業面積	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業延長	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業総本数	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
台帳整理番号	基本仕様
路線名	基本仕様
既設・計画	基本仕様
道種	基本仕様
延長	基本仕様
図上延長	基本仕様
開設(予定)年度	基本仕様
最小幅員(全幅員)	基本仕様
最小幅員(車道幅員)	基本仕様
路網管理者	基本仕様
更新データ時点	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
台帳整理番号	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路線名	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
既設・計画	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
道種	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
図上延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
開設(予定)年度	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(全幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(車道幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路網管理者	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

④　推奨仕様から推奨仕様

＜森林資源DB_小班テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
林齢データ時点	基本・推奨
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
所有形態	基本・推奨
所有者の在村・不在村	基本・推奨
小班面積	基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	基本・推奨
森林経営計画認定年月	基本・推奨
森林認証の種類	基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	基本・推奨
小班地利	推奨仕様のみ
小班傾斜	推奨仕様のみ
鳥獣害防止森林区域	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨
備考	基本・推奨

＜森林資源DB－小班テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
林齢データ時点	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
都道府県	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所在	－	－	－		基本・推奨
記号	－	－	－		基本・推奨
地番	－	－	－		基本・推奨
独自小班区分の有無	－	－	－		基本・推奨
所有形態	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所有者の在村・不在村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班面積	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定年月	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林認証の種類	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	－	－	－	施業履歴から作成するため移動不要	基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	－	－	－	施業履歴から作成するため移動不要	基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	－	－	－	施業履歴から作成するため移動不要	基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	－	－	－	施業履歴から作成するため移動不要	基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	－	－	－	施業履歴から作成するため移動不要	基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	－	－	－	施業履歴から作成するため移動不要	基本・推奨
小班地利	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班傾斜	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨
備考	－	－	－		基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
樹種番号	基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	基本・推奨
層区分	基本・推奨
林種	基本・推奨
中樹種	基本・推奨
樹種	基本・推奨
面積歩合	基本・推奨
樹種面積	基本・推奨
林齢	基本・推奨
齢級	基本・推奨
樹冠疎密度	基本・推奨
平均樹高	基本・推奨
樹高査定年月日	推奨仕様のみ
ha当たり立木本数	推奨仕様のみ
ha当たり立木本数査定年月日	推奨仕様のみ
相対地位	推奨仕様のみ
ha当たり査定材積－収穫表	推奨仕様のみ
ha当たり査定成長量－収穫表	推奨仕様のみ
更新データ時点	基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種番号	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
層区分	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
中樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
品種					推奨仕様のみ
面積歩合	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種面積	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢範囲上					推奨仕様のみ
林齢範囲下					推奨仕様のみ
齢級	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
標準伐期齢	－	－	－		基本・推奨
樹冠疎密度	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
平均樹高	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹高査定年月日	－	－	－		基本・推奨
樹高査定方法	－	－	－		基本・推奨
ha当たり立木本数					推奨仕様のみ
ha当たり立木本数査定年月日					推奨仕様のみ
本数査定方法					推奨仕様のみ
相対地位	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定材積－収穫表	－	－	－		基本・推奨
ha当たり査定成長量－収穫表	－	－	－		基本・推奨
絶対地位	－	－	－		推奨仕様のみ
ha当たり査定材積－密度管理図	－	－	－		推奨仕様のみ
ha当たり査定成長量－密度管理図	－	－	－		推奨仕様のみ
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜施業履歴DB－施業履歴テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
施業履歴番号	基本・推奨
事業名	推奨仕様のみ
事業実行者	推奨仕様のみ
施業時樹種	推奨仕様のみ
施業時林齢	推奨仕様のみ
施業種	基本・推奨
施業実施年度	基本・推奨
施業面積	基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	基本・推奨
施業延長	基本・推奨
施業総本数	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜施業履歴DB－林相図ベースマップ＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
市町村コード	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
林班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班群	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業履歴番号	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業時小班	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時小班枝番	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時所有者名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業実行者	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時樹種	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時林齢	－	－	－		推奨仕様のみ
施業種	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業実施年度	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業面積	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業延長	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業総本数	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
台帳整理番号	基本仕様
路線名	基本仕様
既設・計画	基本仕様
道種	基本仕様
延長	基本仕様
図上延長	基本仕様
開設(予定)年度	基本仕様
最小幅員(全幅員)	基本仕様
最小幅員(車道幅員)	基本仕様
最小曲線半径	推奨仕様のみ
最急縦断勾配	推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)車両区分	推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)車種	推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)入力年月	推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)入力者名	推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)車種	推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)入力年月	推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)入力者名	推奨仕様のみ
路網管理者	基本仕様
路網管理者連絡先	推奨仕様のみ
更新データ時点	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
台帳整理番号	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路線名	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
既設・計画	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
道種	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
図上延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
開設(予定)年度	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(全幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員(車道幅員)	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小曲線半径	－	－	－		推奨仕様のみ
最急縦断勾配	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)車両区分	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)車種	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)入力年月	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(ホイール系)入力者名	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)車種	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)入力年月	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両(クローラ系)入力者名	－	－	－		推奨仕様のみ
路網管理者	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路網管理者連絡先	路網DB	路網テーブル	同名		推奨仕様のみ
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

（３） 市町村・林業事業体から都道府県へ情報が提供され、そのデータを更新データとして利用する場合

① 基本仕様から基本仕様

＜地番DB－地番テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
林齢データ時点	基本・推奨
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
所有者の在村・不在村	基本・推奨
所有形態	基本・推奨
氏名・名称	基本・推奨
住所	基本・推奨
共有	基本・推奨
氏名・名称	基本・推奨
住所	基本・推奨
共有	基本・推奨
小班面積	基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	基本・推奨
森林経営計画認定年月	基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	基本・推奨
森林認証の種類	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨
備考	基本・推奨

＜森林資源DB－小班テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
林齢データ時点	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林計画区	－	－	－		基本・推奨
都道府県	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
大字	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
字	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
地番本番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
地番支番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所有者の在村・不在村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所有形態	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林地所有者　氏名・名称	地番DB	地番テーブル	氏名・名称	市町村・林業事業体版 分類：登記簿情報	基本仕様のみ
林地所有者　住所	地番DB	地番テーブル	住所		基本仕様のみ
林地所有者　共有有無	地番DB	地番テーブル	共有		基本仕様のみ
現に所有している者　氏名・名称	地番DB	地番テーブル	氏名・名称	市町村・林業事業体版 分類：現に所有している者、所有者とみなされる者	基本仕様のみ
現に所有している者　住所	地番DB	地番テーブル	住所		基本仕様のみ
現に所有している者　共有有無	地番DB	地番テーブル	共有		基本仕様のみ
森林の種類	－	－	－		基本・推奨
小班面積	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
伐採の方法等	－	－	－		基本・推奨
更新の方法等	－	－	－		基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定年月	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
分収林	－	－	－		基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
要間伐森林	－	－	－		基本・推奨
市街化区域	－	－	－		基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林認証の種類	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨
備考	－	－	－		基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
樹種番号	基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	基本・推奨
層区分	基本・推奨
林種	基本・推奨
中樹種	基本・推奨
樹種	基本・推奨
面積歩合	基本・推奨
樹種面積	基本・推奨
林齢	基本・推奨
齢級	基本・推奨
樹冠疎密度	基本・推奨
平均樹高	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種番号	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
層区分	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
施業方法による区分	－	－	－		基本・推奨
地位級	－	－	－		基本・推奨
中樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
面積歩合	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種面積	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
齢級	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹冠疎密度	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
平均樹高	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
ha当たり材積	－	－	－		基本・推奨
ha当たり総成長量	－	－	－		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル（地番図がベースマップの場合）＞

エイリアス名	仕様区分

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	－	－	－	林小班データを取得出来ないため更新に利用しない	基本・推奨
市町村	－	－	－		基本・推奨
旧市町村	－	－	－		基本・推奨
林班	－	－	－		基本・推奨
小班群	－	－	－		基本・推奨
小班	－	－	－		基本・推奨
小班枝番	－	－	－		基本・推奨
施業履歴番号	－	－	－		基本・推奨
施業種	－	－	－		基本・推奨
施業実施年度	－	－	－		基本・推奨
施業面積	－	－	－		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	－	－	－		基本・推奨
施業延長	－	－	－		基本・推奨
施業総本数	－	－	－		基本・推奨

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル（地番図がベースマップの場合）＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
施業履歴番号	基本・推奨
施業種	基本・推奨
施業実施年度	基本・推奨
施業面積	基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	基本・推奨
施業延長	基本・推奨
施業総本数	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
林班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班群	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業履歴番号	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業種	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業実施年度	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業面積	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業延長	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業総本数	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
台帳整理番号	基本仕様
路線名	基本仕様
既設・計画	基本仕様
道種	基本仕様
延長	基本仕様
図上延長	基本仕様
開設（予定）年度	基本仕様
最小幅員（全幅員）	基本仕様
最小幅員（車道幅員）	基本仕様
路網管理者	基本仕様
更新データ時点	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
台帳整理番号	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路線名	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
既設・計画	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
道種	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
図上延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
開設（予定）年度	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員（全幅員）	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員（車道幅員）	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路網管理者	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

②　推奨仕様から基本仕様

＜地番DB－地番テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
林齢データ時点	基本・推奨
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
所有者の在村・不在村	基本・推奨
所有形態	基本・推奨
氏名・名称	基本・推奨
住所	基本・推奨
共有	基本・推奨
氏名・名称	基本・推奨
住所	基本・推奨
共有	基本・推奨
小班面積	基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	基本・推奨
森林経営計画認定年月	基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	基本・推奨
森林認証の種類	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨
備考	基本・推奨

＜森林資源DB－小班テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
林齢データ時点	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林計画区	－	－	－		基本・推奨
都道府県	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
大字	－	－	－		基本・推奨
字	－	－	－		基本・推奨
地番本番	－	－	－		基本・推奨
地番支番	－	－	－		基本・推奨
所有者の在村・不在村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所有形態	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林地所有者　氏名・名称	地番DB	地番テーブル	氏名・名称	市町村・林業事業体版 分類：登記簿情報	基本仕様のみ
林地所有者　住所	地番DB	地番テーブル	住所		基本仕様のみ
林地所有者　共有有無	地番DB	地番テーブル	共有		基本仕様のみ
現に所有している者　氏名・名称	地番DB	地番テーブル	氏名・名称	市町村・林業事業体版 分類：現に所有している者、 所有者とみなされる者	基本仕様のみ
現に所有している者　住所	地番DB	地番テーブル	住所		基本仕様のみ
現に所有している者　共有有無	地番DB	地番テーブル	共有		基本仕様のみ
森林の種類	－	－	－		基本・推奨
小班面積	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
伐採の方法等	－	－	－		基本・推奨
更新の方法等	－	－	－		基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定年月	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
分収林	－	－	－		基本・推奨
直近施業種(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(間伐・主伐)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積(造林・保育)	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
要間伐森林	－	－	－		基本・推奨
市街化区域	－	－	－		基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林認証の種類	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨
備考	－	－	－		基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
樹種番号	基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	基本・推奨
層区分	基本・推奨
林種	基本・推奨
中樹種	基本・推奨
樹種	基本・推奨
面積歩合	基本・推奨
樹種面積	基本・推奨
林齢	基本・推奨
齢級	基本・推奨
樹冠疎密度	基本・推奨
平均樹高	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種番号	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
層区分	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
施業方法による区分	－	－	－		基本・推奨
地位級	－	－	－		基本・推奨
中樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
面積歩合	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種面積	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
齢級	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹冠疎密度	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
平均樹高	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
ha当たり材積	－	－	－		基本・推奨
ha当たり総成長量	－	－	－		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル(地番図がベースマップの場合)＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
施業履歴番号	基本・推奨
施業種	基本・推奨
施業実施年度	基本・推奨
施業面積	基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	基本・推奨
施業延長	基本・推奨
施業総本数	基本・推奨

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	－	－	－	林小班データを取得出来ないため更新に利用しない	基本・推奨
市町村	－	－	－		基本・推奨
旧市町村	－	－	－		基本・推奨
林班	－	－	－		基本・推奨
小班群	－	－	－		基本・推奨
小班	－	－	－		基本・推奨
小班枝番	－	－	－		基本・推奨
施業履歴番号	－	－	－		基本・推奨
施業種	－	－	－		基本・推奨
施業実施年度	－	－	－		基本・推奨
施業面積	－	－	－		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	－	－	－		基本・推奨
施業延長	－	－	－		基本・推奨
施業総本数	－	－	－		基本・推奨

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル（地番図がベースマップの場合＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
施業履歴番号	基本・推奨
施業種	基本・推奨
施業実施年度	基本・推奨
施業面積	基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	基本・推奨
施業延長	基本・推奨
施業総本数	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
林班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班群	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業履歴番号	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業種	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業実施年度	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業面積	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業延長	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業総本数	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	―	―	―	システムによる自動更新	基本・推奨

＜路網DB　ー路網テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
台帳整理番号	基本仕様
路線名	基本仕様
既設・計画	基本仕様
道種	基本仕様
延長	基本仕様
図上延長	基本仕様
開設（予定）年度	基本仕様
最小幅員（全幅員）	基本仕様
最小幅員（車道幅員）	基本仕様
路網管理者	基本仕様
更新データ時点	基本・推奨

＜路網DB　ー路網テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
台帳整理番号	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路線名	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
既設・計画	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
道種	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
図上延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
開設（予定）年度	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員（全幅員）	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員（車道幅員）	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路網管理者	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	―	―	―	システムによる自動更新	基本・推奨

③　基本仕様から推奨仕様

＜森林資源DB_小班テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
林齢データ時点	基本・推奨
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
所有者の在村・不在村	基本・推奨
所有形態	基本・推奨
小班面積	基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	基本・推奨
森林経営計画認定年月	基本・推奨
直近施業種（間伐・主伐）	基本・推奨
直近施業実施年度（間伐・主伐）	基本・推奨
直近施業面積（間伐・主伐）	基本・推奨
直近施業種（造林・保育）	基本・推奨
直近施業実施年度（造林・保育）	基本・推奨
直近施業面積（造林・保育）	基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	基本・推奨
森林認証の種類	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨
備考	基本・推奨

※森林資源DBの各所有者テーブルのデータ変換については未規定。

＜森林資源DB－小班テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
林齢データ時点	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林計画区	－	－	－		基本・推奨
都道府県	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
大字	－	－	－		基本・推奨
字	－	－	－		基本・推奨
地番本番	－	－	－		基本・推奨
地番支番	－	－	－		基本・推奨
所有者の在村・不在村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所有形態	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林の種類	－	－	－		基本・推奨
森林の種類範囲	－	－	－		推奨仕様のみ
小班面積	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
伐採の方法等	－	－	－		基本・推奨
更新の方法等	－	－	－		基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定年月	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
分収林	－	－	－		基本・推奨
直近施業種（間伐・主伐）	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度（間伐・主伐）	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積（間伐・主伐）	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種（造林・保育）	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度（造林・保育）	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積（造林・保育）	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
要間伐森林	－	－	－		基本・推奨
市街化区域	－	－	－		基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林認証の種類	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班地利	－	－	－		推奨仕様のみ
小班傾斜	－	－	－		推奨仕様のみ
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨
備考	－	－	－		基本・推奨

＜森林資源DB　ー樹種テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
樹種番号	基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	基本・推奨
層区分	基本・推奨
林種	基本・推奨
中樹種	基本・推奨
樹種	基本・推奨
面積歩合	基本・推奨
樹種面積	基本・推奨
林齢	基本・推奨
齢級	基本・推奨
樹冠疎密度	基本・推奨
平均樹高	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜森林資源DB　ー樹種テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種番号	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
層区分	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
施業方法による区分	－	－	－		基本・推奨
地位級	－	－	－		基本・推奨
中樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
品種	－	－	－		推奨仕様のみ
面積歩合	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種面積	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢範囲上	－	－	－		推奨仕様のみ
林齢範囲下	－	－	－		推奨仕様のみ
齢級	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹冠疎密度	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
平均樹高	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
ha当たり材積	－	－	－		基本・推奨
ha当たり総成長量	－	－	－		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル（地番図がベースマップの場合）＞

エイリアス名	仕様区分

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	－	－	－		基本・推奨
市町村	－	－	－		基本・推奨
旧市町村	－	－	－		基本・推奨
林班	－	－	－		基本・推奨
小班群	－	－	－		基本・推奨
小班	－	－	－		基本・推奨
小班枝番	－	－	－		基本・推奨
施業履歴番号	－	－	－		基本・推奨
施業時小班	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時小班枝番	－	－	－	林小班データを取得出来ないため 更新に利用しない	推奨仕様のみ
施業時所有者名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業実行者	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時樹種	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時林齢	－	－	－		推奨仕様のみ
施業種	－	－	－		基本・推奨
施業実施年度	－	－	－		基本・推奨
施業面積	－	－	－		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	－	－	－		基本・推奨
施業延長	－	－	－		基本・推奨
施業総本数	－	－	－		基本・推奨

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル（地番図がベースマップの場合）＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
施業履歴番号	基本・推奨
施業種	基本・推奨
施業実施年度	基本・推奨
施業面積	基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	基本・推奨
施業延長	基本・推奨
施業総本数	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
林班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班群	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業履歴番号	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業時小班	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時小班枝番	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時所有者名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業実行者	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時樹種	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時林齢	－	－	－		推奨仕様のみ
施業種	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業実施年度	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業面積	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業延長	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業総本数	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
台帳整理番号	基本仕様
路線名	基本仕様
既設・計画	基本仕様
道種	基本仕様
延長	基本仕様
図上延長	基本仕様
開設（予定）年度	基本仕様
最小幅員（全幅員）	基本仕様
最小幅員（車道幅員）	基本仕様
路網管理者	基本仕様
更新データ時点	基本・推奨

＜路網DB　－路網テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
台帳整理番号	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路線名	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
既設・計画	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
道種	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
図上延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
開設（予定）年度	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員（全幅員）	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員（車道幅員）	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小曲線半径	－	－	－		基本・推奨
最急縦断勾配	－	－	－		基本・推奨
通行可能車両（ホイール系）車両区分	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両（ホイール系）車種	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両（ホイール系）入力年月	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両（ホイール系）入力者名	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両（クローラ系）車種	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両（クローラ系）入力年月	－	－	－		推奨仕様のみ
通行可能車両（クローラ系）入力者名	－	－	－		推奨仕様のみ
路網管理者	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路網管理者連絡先	－	－	－		推奨仕様のみ
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

④　推奨仕様から推奨仕様

＜森林資源DB_小班テーブル＞

＜地番DB－地番テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
林齢データ時点	基本・推奨
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
所有者の在村・不在村	基本・推奨
所有形態	基本・推奨
小班面積	基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	基本・推奨
森林経営計画認定年月	基本・推奨
直近施業種（間伐・主伐）	基本・推奨
直近施業実施年度（間伐・主伐）	基本・推奨
直近施業面積（間伐・主伐）	基本・推奨
直近施業種（造林・保育）	基本・推奨
直近施業実施年度（造林・保育）	基本・推奨
直近施業面積（造林・保育）	基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	基本・推奨
森林認証の種類	基本・推奨
小班地利	推奨仕様のみ
小班傾斜	推奨仕様のみ
更新データ時点	基本・推奨
備考	基本・推奨

※森林資源DBの各所有者テーブルのデータ変換については未規定。

＜森林資源DB－小班テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
林齢データ時点	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林計画区	－	－	－		基本・推奨
都道府県	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
大字	－	－	－		基本・推奨
字	－	－	－		基本・推奨
地番本番	－	－	－		基本・推奨
地番支番	－	－	－		基本・推奨
所有者の在村・不在村	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
所有形態	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林の種類	－	－	－		基本・推奨
森林の種類範囲	－	－	－		推奨仕様のみ
小班面積	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
伐採の方法等	－	－	－		基本・推奨
更新の方法等	－	－	－		基本・推奨
公益的機能別施業森林等区分	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
公益的機能別施業森林等施業方法	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定の有無コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定者の種類コード	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林経営計画認定年月	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
分収林	－	－	－		基本・推奨
直近施業種（間伐・主伐）	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度（間伐・主伐）	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積（間伐・主伐）	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業種（造林・保育）	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業実施年度（造林・保育）	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
直近施業面積（造林・保育）	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
要間伐森林	－	－	－		基本・推奨
市街化区域	－	－	－		基本・推奨
鳥獣害防止森林区域	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
森林認証の種類	森林資源DB	小班テーブル	同名		基本・推奨
小班地利	森林資源DB	小班テーブル	同名		推奨仕様のみ
小班傾斜	森林資源DB	小班テーブル	同名		推奨仕様のみ
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨
備考	－	－	－		基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
樹種番号	基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	基本・推奨
層区分	基本・推奨
林種	基本・推奨
中樹種	基本・推奨
樹種	基本・推奨
品種	基本・推奨
面積歩合	基本・推奨
樹種面積	基本・推奨
林齢	基本・推奨
齢級	基本・推奨
樹冠疎密度	基本・推奨
平均樹高	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜森林資源DB　－樹種テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班群	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種番号	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
計画的伐採対象森林の内外の別	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
層区分	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
施業方法による区分	－	－	－		基本・推奨
地位級	－	－	－		基本・推奨
中樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
品種	森林資源DB	樹種テーブル	同名		推奨仕様のみ
面積歩合	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹種面積	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
林齢範囲上	－	－	－		推奨仕様のみ
林齢範囲下	－	－	－		推奨仕様のみ
齢級	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
樹冠疎密度	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
平均樹高	森林資源DB	樹種テーブル	同名		基本・推奨
ha当たり材積	－	－	－		基本・推奨
ha当たり総成長量	－	－	－		基本・推奨
更新データ時点	－	－	－	システムによる自動更新	基本・推奨

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル（地番図がベースマップの場合）＞

エイリアス名	仕様区分

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	－	－	－		基本・推奨
市町村	－	－	－		基本・推奨
旧市町村	－	－	－		基本・推奨
林班	－	－	－		基本・推奨
小班群	－	－	－		基本・推奨
小班	－	－	－		基本・推奨
小班枝番	－	－	－		基本・推奨
施業履歴番号	－	－	－		基本・推奨
施業時小班	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時小班枝番	－	－	－	林小班データを取得出来ないため 更新に利用しない	推奨仕様のみ
施業時所有者名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業名	－	－	－		推奨仕様のみ
事業実行者	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時樹種	－	－	－		推奨仕様のみ
施業時林齢	－	－	－		推奨仕様のみ
施業種	－	－	－		基本・推奨
施業実施年度	－	－	－		基本・推奨
施業面積	－	－	－		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	－	－	－		基本・推奨
施業延長	－	－	－		基本・推奨
施業総本数	－	－	－		基本・推奨

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル（地番図がベースマップの場合）＞

エイリアス名	仕様区分
都道府県	基本・推奨
市町村	基本・推奨
旧市町村	基本・推奨
林班	基本・推奨
小班群	基本・推奨
小班	基本・推奨
小班枝番	基本・推奨
施業履歴番号	基本・推奨
施業時小班	推奨仕様のみ
施業時小班枝番	推奨仕様のみ
施業時所有者名	推奨仕様のみ
事業名	推奨仕様のみ
事業実行者	推奨仕様のみ
施業時樹種	推奨仕様のみ
施業時林齢	推奨仕様のみ
施業種	基本・推奨
施業実施年度	基本・推奨
施業面積	基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	基本・推奨
施業延長	基本・推奨
施業総本数	基本・推奨
更新データ時点	基本・推奨

＜施業履歴DB_施業履歴テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
都道府県	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
旧市町村	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
林班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班群	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
小班枝番	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業履歴番号	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業時小班	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		推奨仕様のみ
施業時小班枝番	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		推奨仕様のみ
施業時所有者名	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		推奨仕様のみ
事業名	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		推奨仕様のみ
事業実行者	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		推奨仕様のみ
施業時樹種	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		推奨仕様のみ
施業時林齢	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		推奨仕様のみ
施業種	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業実施年度	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業面積	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業ポリゴン作成方法	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業延長	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
施業総本数	施業履歴DB	施業履歴テーブル	同名		基本・推奨
更新データ時点	―	―	―	システムによる自動更新	基本・推奨

＜路網DB　―路網テーブル＞

エイリアス名	仕様区分
台帳整理番号	基本仕様
路線名	基本仕様
既設・計画	基本仕様
道種	基本仕様
延長	基本仕様
図上延長	基本仕様
開設（予定）年度	基本仕様
最小幅員（全幅員）	基本仕様
最小幅員（車道幅員）	基本仕様
最小曲線半径	推奨仕様のみ
最急縦断勾配	推奨仕様のみ
通行可能車両（ホイール系）車両区分	推奨仕様のみ
通行可能車両（ホイール系）車種	推奨仕様のみ
通行可能車両（ホイール系）入力年月日	推奨仕様のみ
通行可能車両（ホイール系）入力者名	推奨仕様のみ
通行可能車両（クローラ系）車種	推奨仕様のみ
通行可能車両（クローラ系）入力年月日	推奨仕様のみ
通行可能車両（クローラ系）入力者名	推奨仕様のみ
路網管理者	基本仕様
路網管理者連絡先	推奨仕様のみ
更新データ時点	基本・推奨

＜路網DB　―路網テーブル＞

エイリアス名	移動元DB	移動元テーブル	フィールド名	備考	仕様区分
台帳整理番号	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路線名	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
既設・計画	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
道種	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
図上延長	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
開設（予定）年度	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員（全幅員）	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小幅員（車道幅員）	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
最小曲線半径	―	―	―		推奨仕様のみ
最急縦断勾配	―	―	―		推奨仕様のみ
通行可能車両（ホイール系）車両区分	―	―	―		推奨仕様のみ
通行可能車両（ホイール系）車種	―	―	―		推奨仕様のみ
通行可能車両（ホイール系）入力年月日	―	―	―		推奨仕様のみ
通行可能車両（ホイール系）入力者名	―	―	―		推奨仕様のみ
通行可能車両（クローラ系）車種	―	―	―		推奨仕様のみ
通行可能車両（クローラ系）入力年月日	―	―	―		推奨仕様のみ
通行可能車両（クローラ系）入力者名	―	―	―		推奨仕様のみ
路網管理者	路網DB	路網テーブル	同名		基本・推奨
路網管理者連絡先	―	―	―		推奨仕様のみ
更新データ時点	―	―	―	システムによる自動更新	基本・推奨

第４章 標準仕様（木材需要者が求める森林情報）

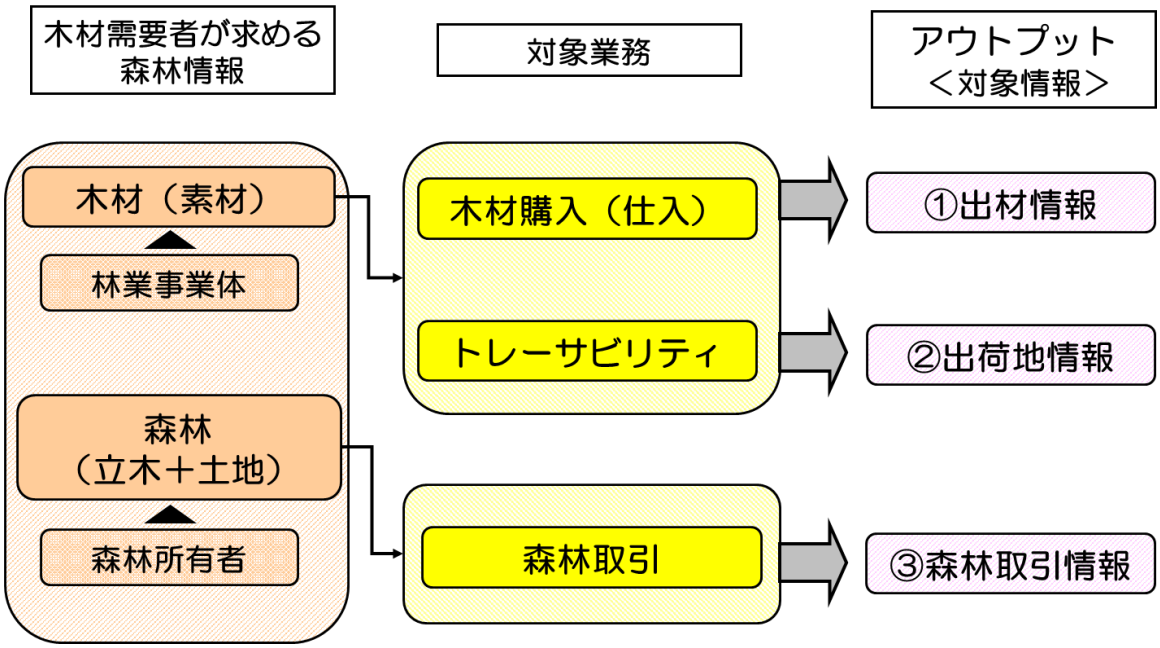
４．１ 概要

木材需要者が求める森林情報として、素材としての木材の情報および森林の取引情報に着目した。前者は林業事業体の保有する情報であり、後者は森林所有者の保有する情報である。

これらの情報を木材需要者がどのような業務に利用しているのかを調査したところ、前者の情報は木材の購入（仕入）の際や、トレーサビリティの確認のために利用しており、後者の情報は森林を立木のみまたは土地込みで取引（購入）する際に利用していることがわかった。

そこで、これらの３つの業務を行う際に必要となる情報を標準化することとし、それぞれ以下の通り定義した。

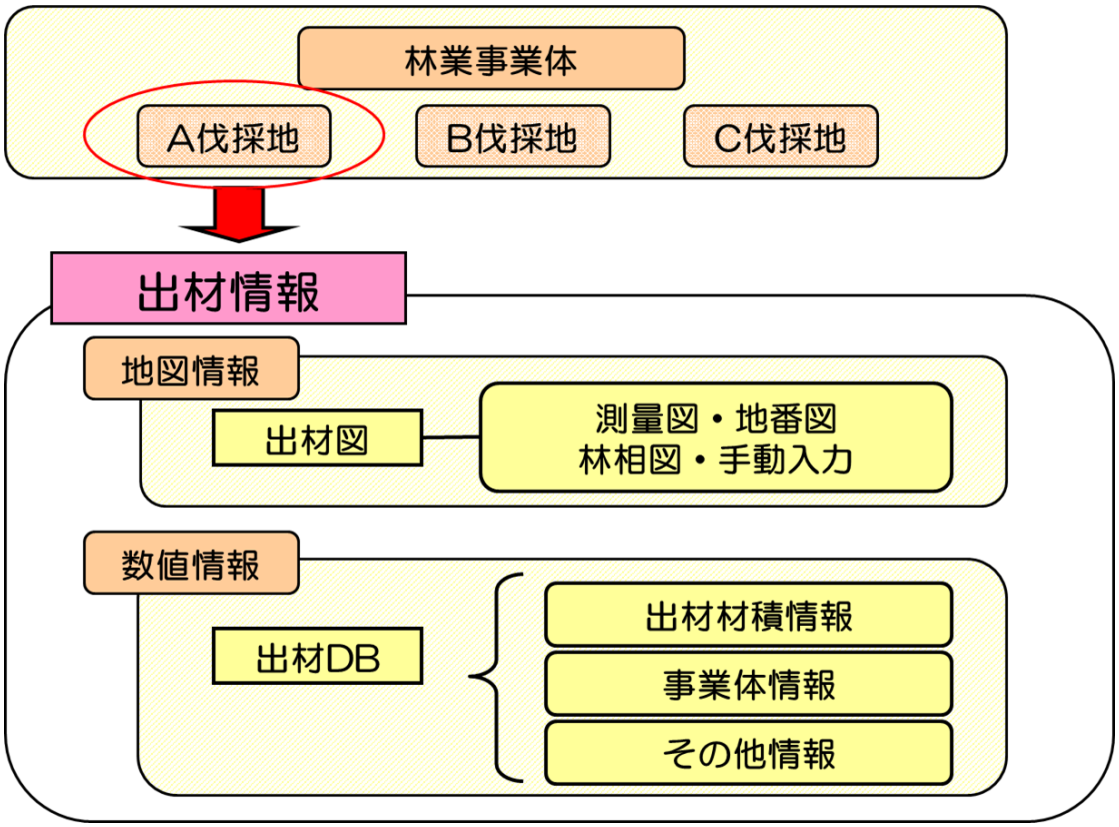
① 出材情報：木材の購入に利用する情報
② 出荷地情報：トレーサビリティに関する情報
③ 森林取引情報：森林（立木または土地込み）の取引に利用する情報



４．２ 出材情報

４.２.１ 概要

出材情報は、１事業体が施業を行う１伐採箇所について１つの情報を作成するものとする。

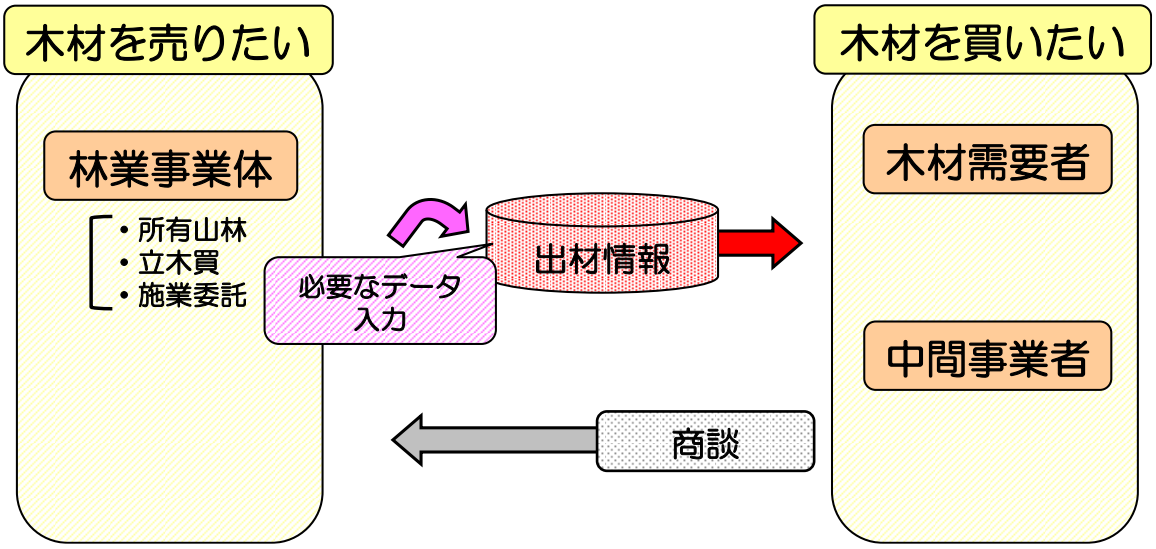


４.２.２ 情報の利用方法

出材情報の一つの利用方法として、木材を売りたい林業事業体がこの出荷地情報に必要な情報を入力し、木材の購入を希望する木材需要者等に情報を提供した上で、実際の商談に入るという流れが想定される。

それ以外にも、複数の事業者の情報を集約し、それを基に木材需要者と需給調整を実施する、複数の伐採箇所をもつ事業体が組織内の出材状況を管理する際に利用するといった利用方法も考えられる。

なお出材情報には、出材前の計画を入力するとともに、実際に伐採や搬出の作業を行って行く上で出材の実績を入力することを想定している。

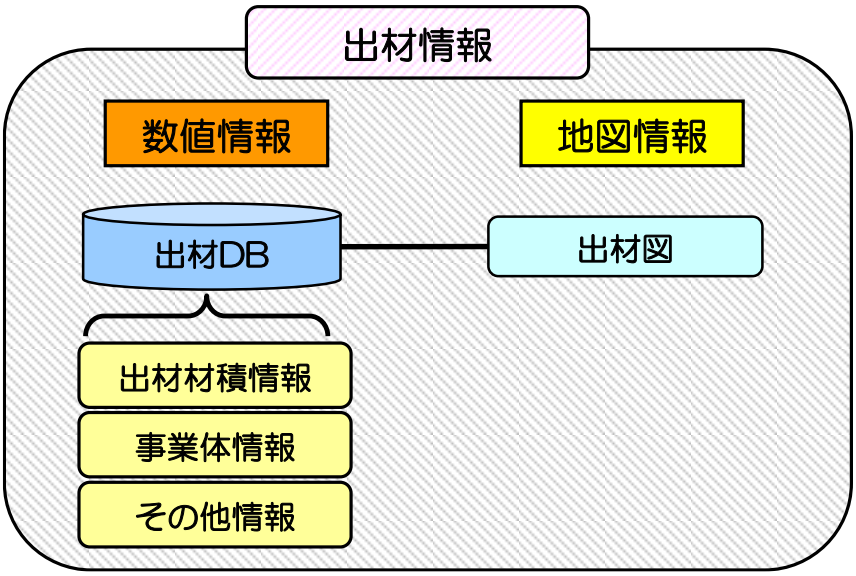


４.２.３ 数値情報と地図情報

出材情報は、数値情報と地図情報から成る。

数値情報は、出材データベース（以下出材 DB）で管理される。出材 DB には出材数量の情報、伐採を実施する林業事業体の情報とその他の情報が含まれる。

地図情報としては出材図を持ち、これは伐採地を測量した図面、または地番図や林相図等、ベースとなる図面から構成される。



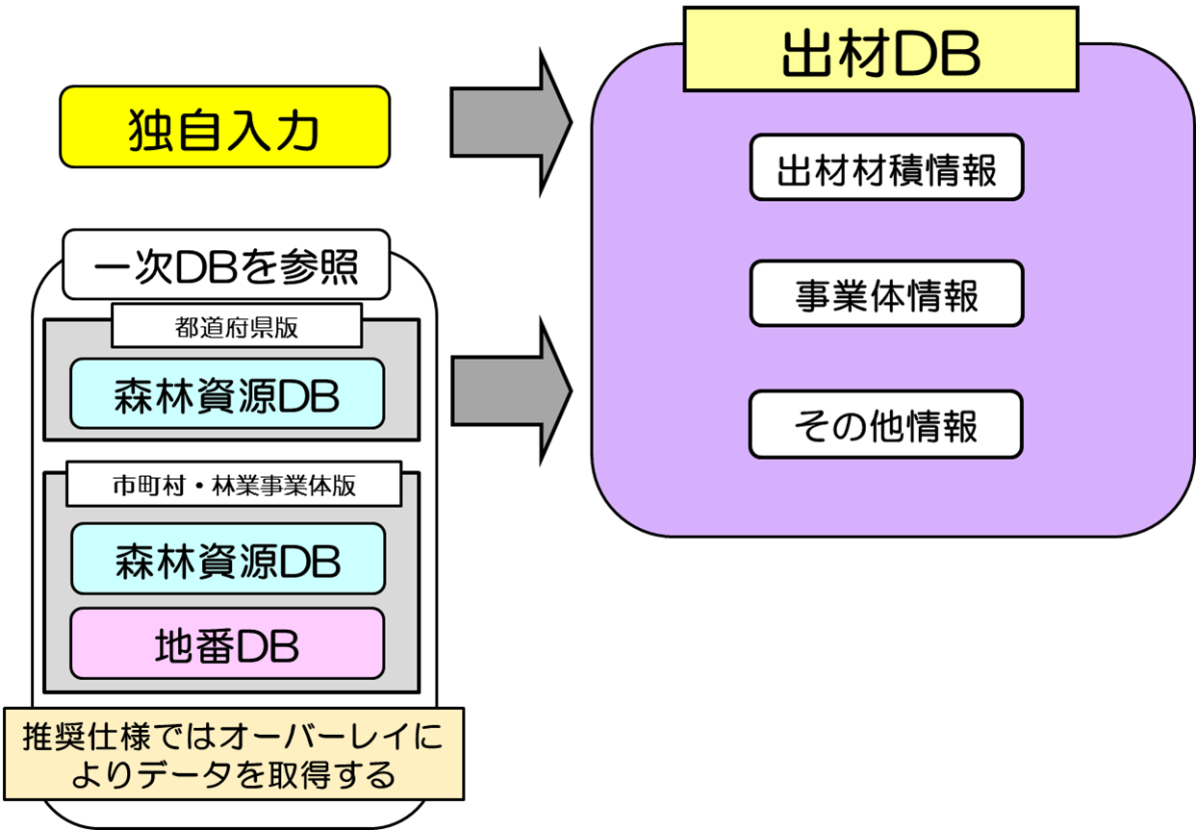
４.２.４ データベースの作成方法

◎　基本仕様

- ユーザーの保有する森林資源情報、地番情報を参考に各項目を手動入力する。
- 出材情報固有の項目については、ユーザーが独自入力する。

◎　推奨仕様

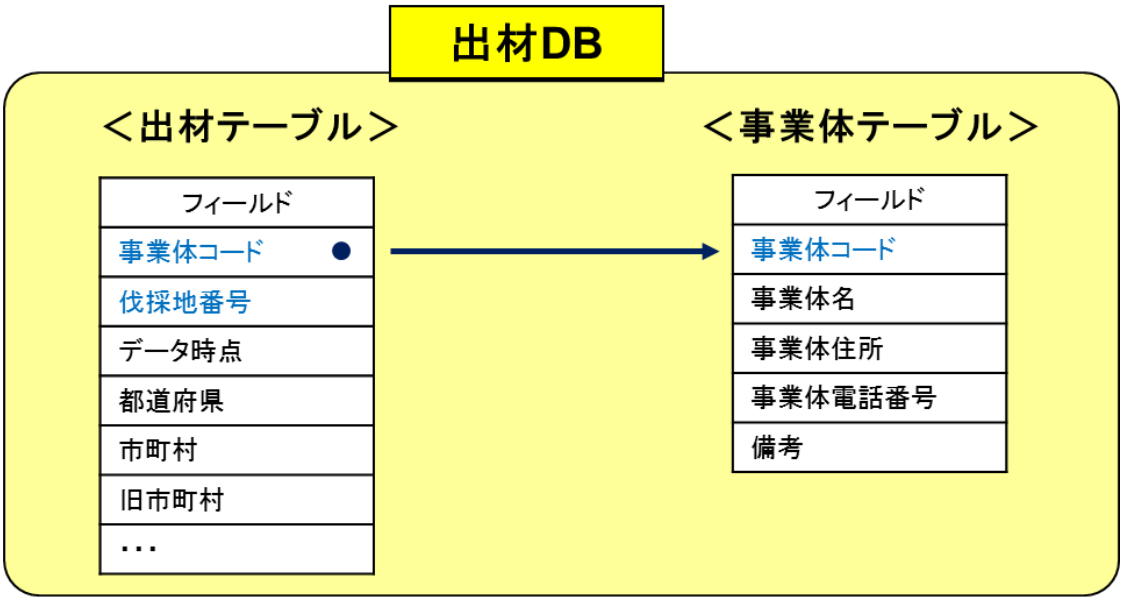
- ユーザーの保有する森林資源情報、地番情報を基に、必要な情報を一部オーバーレイにより自動取得する。
- 出材情報固有の項目については、ユーザーが独自入力する。



４.２.５ データベース構造

◎　基本仕様

- 出材 DB は、出材テーブル（以下 T）と事業体 T のリレーショナルデータベースとする。
- 出材テーブルの主キーは、事業体コード、伐採地番号とする。

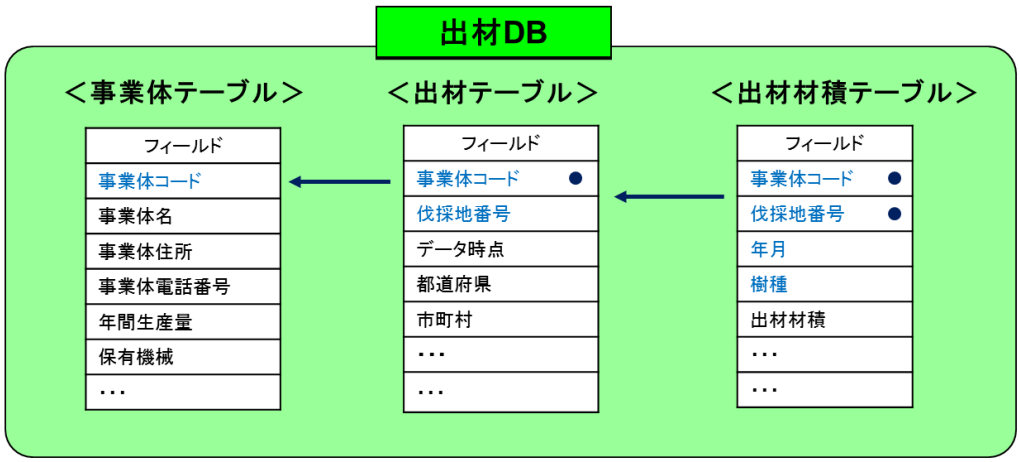


※各テーブルの主キーは青色で表示

※外部キーは● 印、参照は ⟶ で表示

◎　推奨仕様

- 出材 T および出材材積 T、事業体 T のリレーショナルデータベースとする。
- 出材テーブルの主キーは、基本仕様と同じく事業体コード、伐採地番号とする。



※各テーブルの主キーは青色で表示

※外部キーは● 印、参照は ⟶ で表示

４.２.６ 基本仕様

（１） 出材テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
entity_name	事業体名	事業体名		○	X	－	－	－		独自入力			基本・推奨
entity_code	事業体コード	事業体CD	○	○	H	－	13	－		独自入力		コードは法人番号	基本・推奨
logging_area_number	伐採地番号	伐採地番号	○	○	H	－	6	－		自動採番		事業体の中で自動採番	基本・推奨
prefectures_code	都道府県	都道府県		○	H	－	2	－	○	手動入力	地番T		基本・推奨
city_code	市町村	市町村		○	H	－	4	－		手動入力	地番T	コードは任意（全国統一コードの使用を推奨）	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村		○	H	－	4	－		手動入力	地番T		基本・推奨
oaza_code	大字	大字		○	H	－	50	－		手動入力	地番T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
aza_code	字	字		○	H	－	50	－		手動入力	地番T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
honban	地番本番	地番本番		○	H	－	10	－		手動入力	地番T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
shiban	地番支番	地番支番		○	H	－	10	－		手動入力	地番T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
total_logging_volume	合計材積	合計材積		○	9	m3	9	－		独自入力			基本・推奨
volume_culculating_method	材積算定方法	材積算定法		○	H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
logging_start_ymd	伐採開始予定年月	伐採開始年		○	H	－	8	－		独自入力		●●●●年●●月	基本・推奨
logging_finish_ymd	伐採終了予定年月	伐採終了年		○	H	－	8	－		独自入力		●●●●年●●月	基本・推奨
logging_area	伐採面積	面積			9	ha	3	第2位		独自入力			基本・推奨
area_culculating_method	面積算定方法	面積算定法			H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
logging_species1	伐採樹種名１	樹種1		○	H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species2	伐採樹種名２	樹種2		○	H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species3	伐採樹種名３	樹種3		○	H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species4	伐採樹種名４	樹種4		○	H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species5	伐採樹種名５	樹種5		○	H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_age1	伐採樹種林齢1	林齢1			9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age2	伐採樹種林齢2	林齢2			9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age3	伐採樹種林齢3	林齢3			9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age4	伐採樹種林齢4	林齢4			9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age5	伐採樹種林齢5	林齢5			9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_method	伐採方法	伐採方法			H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
frstlandowner_name	林地所有者　氏名・名称	林所有者氏名			X	－	100	－		手動入力	所有者T・地番T		基本・推奨
holder_name	現に所有している者　氏名・名称	現所有者氏名			X	－	100	－		手動入力	所有者T・地番T		基本・推奨
trees_owner_name	立木所有者　氏名・名称	立所有者氏名			X	－	100	－		手動入力	所有者T・地番T		基本・推奨
admin_name	実質管理者　氏名・名称	実管理者氏名			X	－	100	－		手動入力	所有者T・地番T		基本・推奨
KeieiUmu	森林経営計画認定の有無コード	認定有無		○	H	－	2	－	○	手動入力	小班T		基本・推奨
NinteiSyu	森林経営計画認定者の種類コード	認定者		○	H	－	2	－	○	手動入力	小班T		基本・推奨
NtyYM	森林経営計画認定年月	認定年月		○	D	－	－	－	－	手動入力	小班T		基本・推奨
frst_certification_type	森林認証の種類	認証種類			H	－	1	－	○	手動入力	小班T		基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考			X	－	255	－		独自入力			基本・推奨

(参考)作成方法欄の区分

◎自動採番：システムによる自動採番（例：伐採地番号等）

◎自動取得：システムによる自動更新（例：更新データ時点等）またはシステムのオーバーレイによるデータの自動取得

◎手動入力：参考情報(各種テーブル等)を元にユーザーが手入力することで作成

◎独自入力：参考情報をなしにユーザーが手入力することで作成

ア　　事業体名

作成方法：林業事業体の名称を独自入力

イ　　事業体コード

作成方法：林業事業体が保有する法人番号を独自入力

ウ　　伐採地番号

内容　　：同一の事業体の中で伐採地ごとに情報を管理するため、伐採地ごとに番号を付与し、搭載する。

作成方法：自動採番

エ　　都道府県

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上２桁を用いる。

作成方法：重なり面積の最も大きな地番の情報を代表値として手動入力

オ　　市町村

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下４桁を用いる。

作成方法：重なり面積の最も大きな地番の情報を代表値として手動入力

カ　旧市町村

コード表：都道府県ごとに独自に作成する。
合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

作成方法：重なり面積の最も大きな地番の情報を代表値として手動入力

キ　大字・字・地番本番・地番支番

作成方法：重なり面積の最も大きな地番の情報を代表値として手動入力

ク　合計材積

内容　：1 伐採箇所から合計で出材された材積
出材後は、実績を入力する。

作成方法：独自入力

ケ　材積算定方法

内容　：合計材積に入力した材積の算定方法を示す。

コード表：次表の通り

作成方法：独自入力

コード	名称	略称
1	収穫表材積	収穫表
2	密度管理図材積	管理図
3	現地調査結果（幹材積表）	現地調
4	その他	他

コ　伐採開始予定年月・伐採終了予定年月

内容　：伐採を開始する年月と終了する年月
施業開始後は、伐採開始予定日には実績値を入力する。

作成方法：独自入力

サ　伐採面積

内容　：伐採する箇所の面積

作成方法：独自入力

シ　面積算定方法

内容　：伐採する箇所の面積の算定方法

コード表：次表の通り

作成方法：独自入力

コード	名称	略称
1	台帳面積（森林簿）	台帳
2	GIS（林相図）	GIS
3	現地測量	現測
4	航空測量	航測
5	その他	他

ス　　伐採樹種名・伐採樹種林齢

内容　　：伐採する樹種とその林齢

複数の樹種が含まれることが想定されるため、5 つまで入力可能とする。

一つの樹種は一つの林齢とそれぞれ対応するように運用する。

作成方法：出材図と林相図の重なり面積の大きな樹種から順番に手動入力する。

コード表：次表の中樹種コードを利用（都道府県版および市町村・林業事業体版と共通）

コード	名称	略称
1	スギ	スギ
2	ヒノキ類	ヒノキ
3	マツ類	マツ
4	カラマツ	カラ
5	トドマツ	トド
6	エゾマツ	エゾ
7	その他N	N
8	クヌギ	クヌギ
9	ナラ類	ナラ
10	ブナ	ブナ
11	その他L	L
12	タケ	タケ

セ　　伐採方法

内容　　：当該伐採箇所における伐採方法

コード表：次表の通り

作成方法：独自入力

コード	名称	略称
1	皆伐	皆
2	択伐	択
3	間伐	間
4	その他	他

タ　　林地所有者名　氏名・名称

内容　　：林地（土地）の所有者に関する情報

作成方法：全角文字で氏名・名称を記載。一つの小班に複数の林地所有者が存在する場合は原則代表者のみ入力する。

チ　　現に所有している者　氏名・名称

内容　　：森林簿・森林の土地所有者届出制度に基づく所有者情報・境界明確化事業等の各種事業などにより得られた、現に所有している者、所有者と見なされる者の情報

作成方法：全角文字の入力項目を設ける。一つの小班に複数の林地所有者が存在する場合は原則代表者のみ入力する。

ツ　　立木所有者　氏名・名称

内容　　：立木の所有者について、全角文字で氏名・名称を記載する。

テ　　実質管理者　氏名・名称

内容　　：林地の所有者ではない、現地の実質的な管理者に関する情報。全角文字で氏名・名称を記載する。

ト　　森林経営計画認定の有無コード

内容　　：当該レコードの小班（小班枝番）の森林経営計画の認定情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

ナ　　森林経営計画認定者の種類コード

内容　　：森林経営計画の認定者の情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	市町村長	市町村長
2	都道府県知事	知事
3	農林水産大臣	大臣

ニ　　森林経営計画認定年月

内容　　：森林経営計画の認定年月を記載する。

ヌ　　森林認証の種類

内容　　：伐採者・伐採箇所が取得している森林認証の種類

コード表：次表の通り

作成方法：手動入力

コード	名称	略称
1	FSC	FSC
2	SGEC	SGEC
3	その他	他

ネ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（２） 事業体テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
entity_code	事業体コード	事業体CD	○	○	H	－	13	－		独自入力		コードは法人番号	基本・推奨
entity_name	事業体名	事業体名		○	X	－	－	－		独自入力			基本・推奨
entity_address	事業体住所	事業体住所		○	X	－	－	－		独自入力			基本・推奨
entity_tel	事業体電話番号	事業体電話		○	H	－	－	－		独自入力			基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考			X	－	－	－		独自入力			基本・推奨

ア　事業体コード

内容　：林業事業体の保有する法人番号を独自入力

イ　事業体名

作成方法：林業事業体の名称を独自入力

ウ　事業体住所・事業体電話番号

作成方法：各林業事業体の情報を独自入力

エ　更新データ時点

内容　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

４.２.７ 推奨仕様

（１） 出材テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
entity_name	事業体名	事業体名		○	X	－	－	－		独自入力			基本・推奨
entity_code	事業体コード	事業体CD	○	○	H	－	13	－		独自入力		コードは法人番号	基本・推奨
logging_area_number	伐採地番号	伐採地番号	○	○	H	－	6	－		自動採番		事業体の中で自動採番	基本・推奨
prefectures_code	都道府県	都道府県		○	H	－	2	－	○	手動入力	地番T		基本・推奨
city_code	市町村	市町村		○	H	－	4	－		手動入力	地番T	コードは任意（全国統一コードの使用を推奨）	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村		○	H	－	4	－		手動入力	地番T		基本・推奨
oaza_code	大字	大字		○	H	－	50	－		手動入力	地番T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
aza_code	字	字		○	H	－	50	－		手動入力	地番T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
honban	地番本番	地番本番		○	H	－	10	－		手動入力	地番T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
shiban	地番支番	地番支番		○	H	－	10	－		手動入力	地番T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
total_logging_volume	合計材積	合計材積		○	9	m3	9	－		独自入力			基本・推奨
volume_culculating_method	材積算定方法	材積算定法		○	H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
lumber_log_volume	製材用材積	製材材積			9	m3	8	－		独自入力			推奨仕様のみ
plywood_log_volume	合板用材積	合板材積			9	m3	8	－		独自入力			推奨仕様のみ
pulp_log_volume	パルプ用材積	パルプ材積			9	m3	8	－		独自入力			推奨仕様のみ
fuel_log_volume	バイオマス（燃料）用材積	燃料材積			9	m3	8	－		独自入力			推奨仕様のみ
logging_start_ymd	伐採開始予定年月	伐採開始年		○	H	－	8	－		独自入力		●●●●年●●月	基本・推奨
logging_finish_ymd	伐採終了予定年月	伐採終了年		○	H	－	8	－		独自入力		●●●●年●●月	基本・推奨
logging_area	伐採面積	面積			9	ha	3	第2位		独自入力			基本・推奨
area_culculating_method	面積算定方法	面積算定法			H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
logging_species1	伐採樹種名1	樹種1		○	H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species2	伐採樹種名2	樹種2		○	H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species3	伐採樹種名3	樹種3		○	H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species4	伐採樹種名4	樹種4		○	H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species5	伐採樹種名5	樹種5		○	H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_age1	伐採樹種林齢1	林齢1			9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age2	伐採樹種林齢2	林齢2			9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age3	伐採樹種林齢3	林齢3			9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age4	伐採樹種林齢4	林齢4			9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age5	伐採樹種林齢5	林齢5			9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_method	伐採方法	伐採方法			H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
logging_notification	伐採届の有無	伐採届			H	－	1	－	○	独自入力			推奨仕様のみ
frstlandowner_code	林地所有者CD	林所有者CD			H	－	11	－		独自入力	所有者T		推奨仕様のみ
frstlandowner_name	林地所有者　氏名・名称	氏名・名称			X	－	100	－		手動入力	所有者T・地番T		基本・推奨
holder_code	現に所有している者CD	現所有者CD			H	－	11	－		独自入力	所有者T		推奨仕様のみ
holder_name	現に所有している者　氏名・名称	氏名・名称			X	－	100	－		手動入力	所有者T・地番T		基本・推奨
trees_owner_code	立木所有者CD	立所有者CD			H	－	11	－		独自入力	所有者T		推奨仕様のみ
trees_owner_name	立木所有者　氏名・名称	氏名・名称			X	－	100	－		手動入力	所有者T・地番T		基本・推奨
admin_code	実質管理者CD	管理者CD			H	－	11	－		独自入力	所有者T		推奨仕様のみ
admin_name	実質管理者　氏名・名称	氏名・名称			X	－	100	－		手動入力	所有者T・地番T		基本・推奨
KeieiUmu	森林経営計画認定の有無コード	認定有無		○	H	－	2	－	○	手動入力	小班T		基本・推奨
NinteiSyu	森林経営計画認定者の種類コード	認定者		○	H	－	2	－	○	手動入力	小班T		基本・推奨
NbyYM	森林経営計画認定年月	認定年月		○	D	－	－	－	－	手動入力	小班T		基本・推奨
frst_certification_type	森林認証の種類	認証種類			H	－	1	－	○	手動入力			基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考			X	－	255	－		独自入力			基本・推奨

ア　　事業体名

作成方法：林業事業体の名称を独自入力

イ　　事業体コード

作成方法：林業事業体の保有する法人番号を独自入力

ウ　　伐採地番号

内容　　：同一の事業体の中で伐採地ごとに情報を管理するため、伐採地ごとに番号を付与し、搭載する。

作成方法：自動採番

オ　　都道府県・市町村・旧市町村・大字・字・地番本番・地番支番

作成に関するシステム要件：

出材ポリゴンと地番ポリゴンをオーバーレイしてデータを取得し、複数の地番ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の最も大きなポリゴンのデータを取得する。

ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

カ　　合計材積

作成に関するシステム要件：

出材材積テーブルの「出材材積」の合計値を自動入力する。

キ　　材積算定方法

内容　　：合計材積に入力した材積の算定方法を示す。

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	収穫表材積	収穫表
2	密度管理図材積	管理図
3	現地調査結果（幹材積表）	現地調
4	その他	他

ク　　製材用・合板用・パルプ用・バイオマス（燃料）用材積

内容　　：出材する木材の品質を、製材用・合板用・パルプ用・バイオマス（燃料）用の４種類に区分して、それぞれ出材する材積を入力する。
出材後は、実績を入力する。

作成方法：独自入力

作成に関するシステム要件：
各用途の合計値は、基本的には「合計材積」項目の数値と等しくなるため、合計値と「合計材積」の数値が異なる場合は、警告を表示させる。
ただし、数値が異なっていても運用は可能とする。

ケ　　伐採開始予定年月・伐採終了予定年月

内容　　：伐採を開始する年月と終了する年月
施業開始後は、伐採開始予定日は実績値を入力する。

作成方法：独自入力

コ　　伐採面積

内容　　：伐採する箇所の面積

作成方法：独自入力

サ　　面積算定方法

内容　　：伐採する箇所の面積の算定方法

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	台帳面積（森林簿）	台帳
2	GIS（林相図）	GIS
3	現地測量	現測
4	航空測量	航測
5	その他	他

シ　　伐採樹種名・伐採樹種林齢

作成に関するシステム要件：

出材ポリゴンと小班ポリゴンをオーバーレイしてデータを取得し、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな順に５種類までデータを取得する。

ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

コード表：次表の中樹種コードを利用（都道府県版および市町村・林業事業体版と共通）

コード	名称	略称
1	スギ	スギ
2	ヒノキ類	ヒノキ
3	マツ類	マツ
4	カラマツ	カラ
5	トドマツ	トド
6	エゾマツ	エゾ
7	その他N	N
8	クヌギ	クヌギ
9	ナラ類	ナラ
10	ブナ	ブナ
11	その他L	L
12	タケ	タケ

ス　　伐採方法

内容　　：当該伐採箇所における伐採方法

コード表：次表の通り

作成方法：独自入力

コード	名称	略称
1	皆伐	皆
2	択伐	択
3	間伐	間
4	その他	他

セ　　伐採届の有無

コード表：次表の通り

作成方法：独自入力

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無
3	不明	不明

ソ　林地所有者 CD・現に所有している者 CD・立木所有者 CD・実質管理者 CD

内容　：都道府県版および市町村・林業事業体版で利用する所有者テーブルの所有者 CD を利用する。

作成方法：各所有者固有の CD を手動入力する。
（前 9 桁はランダム採番、最後の 2 桁は都道府県コード）

タ　林地所有者名　氏名・名称

内容　：林地（土地）の所有者に関する情報

作成方法：全角文字で氏名・名称を記載。一つの小班に複数の林地所有者が存在する場合は原則代表者のみ入力する。

チ　現に所有している者　氏名・名称

内容　：森林簿・森林の土地所有者届出制度に基づく所有者情報・境界明確化事業等の各種事業などにより得られた、現に所有している者、所有者と見なされる者の情報

作成方法：全角文字の入力項目を設ける。一つの小班に複数の林地所有者が存在する場合は原則代表者のみ入力する。

ツ　立木所有者　氏名・名称

内容　：立木の所有者について、全角文字で氏名・名称を記載する。

テ　実質管理者　氏名・名称

内容　：林地の所有者ではない、現地の実質的な管理者に関する情報。全角文字で氏名・名称を記載する。

ト　森林経営計画認定の有無コード

内容　：当該レコードの小班（小班枝番）の森林経営計画の認定情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

ナ　　森林経営計画認定者の種類コード

内容　　：森林経営計画の認定者の情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	市町村長	市町村長
2	都道府県知事	知事
3	農林水産大臣	大臣

ニ　　森林経営計画認定年月

内容　　：森林経営計画の認定年月を記載する。

ヌ　　森林認証の種類

内容　　：伐採者・伐採箇所が取得している森林認証の種類

作成方法：手動入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	FSC	FSC
2	SGEC	SGEC
3	その他	他

ネ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（2） 出材材積テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
entity_code	事業体コード	事業体CD	○	○	H	－	13	－		独自入力		コードは法人番号	推奨仕様のみ
logging_area_number	伐採地番号	伐採地番号	○	○	H	－	6	－		自動採番			推奨仕様のみ
ym	年月	年月	○	○	H	－	6	－		独自入力			推奨仕様のみ
logging_species	樹種	樹種	○	○	H	－	3	－		独自入力			推奨仕様のみ
logging_volume	出材材積	出材数量		○	9	－	8	－		独自入力			推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考			X	－	任意	－		独自入力			推奨仕様のみ

ア　事業体コード

作成方法：林業事業体の保有する法人番号を独自入力

イ　伐採地番号

内容　：同一の事業体の中で伐採地ごとに情報を管理するため、伐採地ごとに番号を付与し、搭載する。

作成方法：自動採番

ウ　年月

内容　：月別の出材数量を管理するために利用する。

ユーザーは出材における、月別樹種別材積・樹種別総材積・月別総材積のいずれかを管理する。これはユーザーが任意に選択する。

なお、月･樹種で区分しない合計材積は、出材材積 T ではなく、出材 T で管理する。

作成に関するシステム要件：

年月のフィールドを利用しないユーザーは「0000 年 00 月」と入力する。

エ　樹種

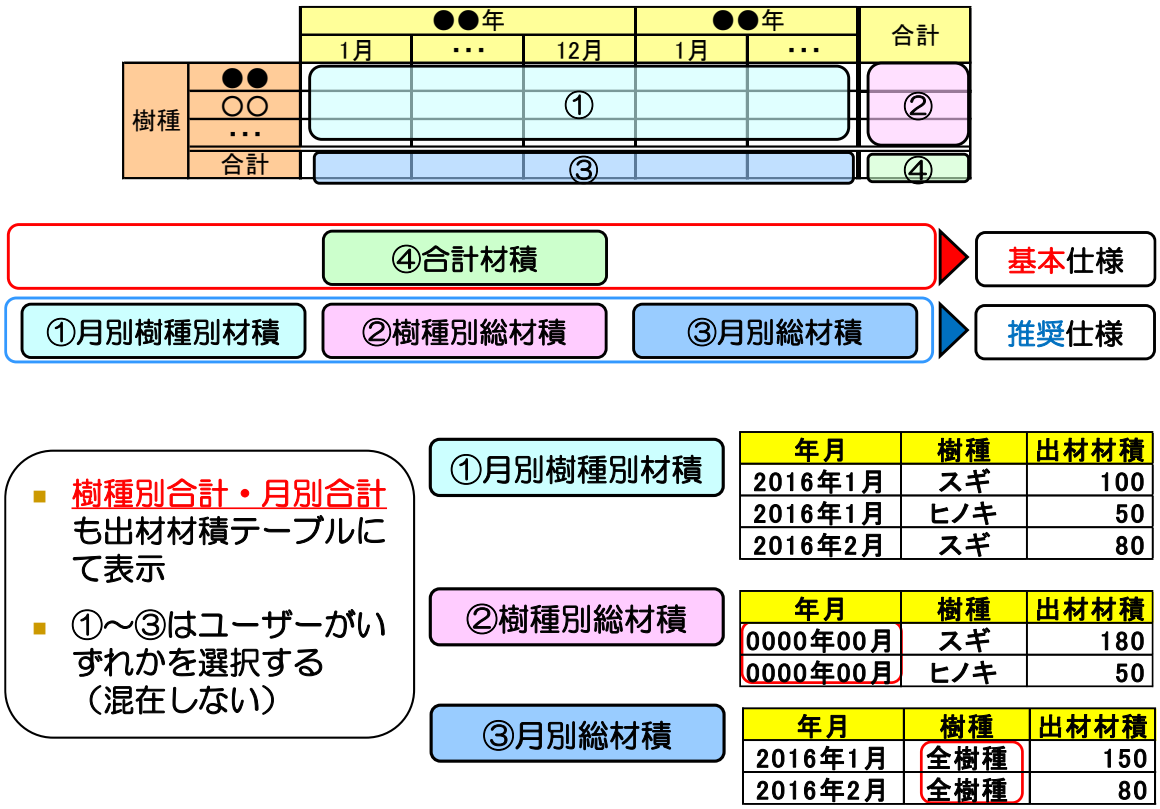
内容　：樹種別の出材数量を管理するために利用する。

作成方法：樹種を利用しないユーザーは「全樹種」と入力する。

作成に関するシステム要件：

月別材積で管理し､樹種別合計･月別合計も出材材積テーブルにて表示する。

オ　出材材積



年月	樹種	出材材積
2016年1月	スギ	100
2016年1月	ヒノキ	50
2016年2月	スギ	80

年月	樹種	出材材積
0000年00月	スギ	180
0000年00月	ヒノキ	50

年月	樹種	出材材積
2016年1月	全樹種	150
2016年2月	全樹種	80

カ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（３） 事業体テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
entity_code	事業体コード	事業体CD	○	○	H	－	13	－		独自入力		コードは法人番号	基本・推奨
entity_name	事業体名	事業体名		○	X	－	－	－		独自入力			基本・推奨
entity_address	事業体住所	事業体住所			9	－	－	－		独自入力			基本・推奨
entity_tel	事業体電話番号	事業体電話		○	H	－	－	－		独自入力			基本・推奨
entity_anual_production	事業体年間生産量	事業体生産量		○	9	m3	10	－		独自入力			推奨仕様のみ
holding_frstry_machines	事業体保有機械	事業体機械		○	H	－	1	－		保有している機械コードを入力			推奨仕様のみ
the_number_of_workers	作業班員人数	作業員数			9	人	3	－		独自入力			推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点			D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考			X	－	－	－		独自入力			基本・推奨

ア　事業体コード

作成方法：林業事業体の保有する法人番号を独自入力

イ　事業体名

作成方法：林業事業体の名称を独自入力

ウ　事業体住所・事業体電話番号

作成方法：各林業事業体の情報を独自入力

エ　事業体年間生産量・作業班員人数

作成方法：出材情報や出荷地情報の提供時に、各林業事業体が自身のデータを独自入力することを基本とする。

オ　事業体保有機械

作成方法：出材情報や出荷地情報の提供時に、各林業事業体が自身のデータを独自入力することを基本とする。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	プロセッサ	プロセッサ
2	ハーベスタ	ハーベスタ
3	フェラーバンチャ	フェラー
4	タワーヤーダ	タワー
5	スイングヤーダ	スイング
6	フォワーダ	フォワーダ
7	スキッダ	スキッダ
8	その他	他

カ　更新データ時点

内容　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

４.２.８ 出材情報の標準化に係るシステムの標準仕様

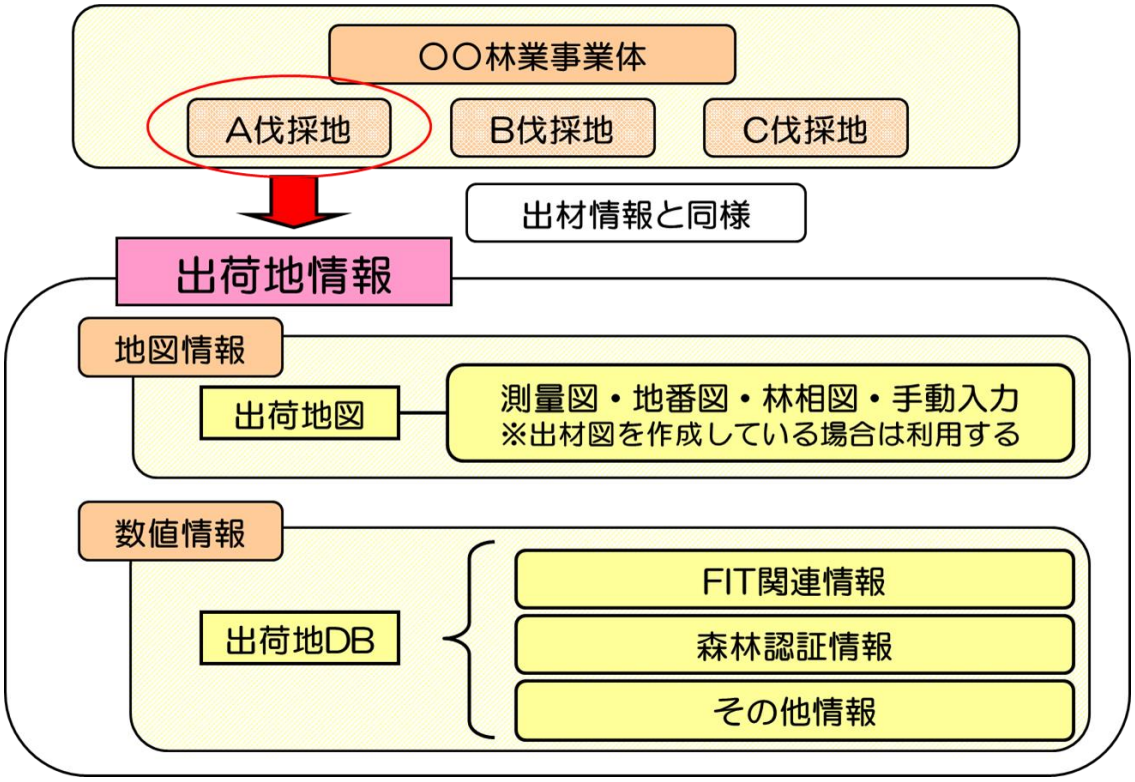
出材情報のデータ項目の標準化に係るシステムの標準仕様を抜粋し、次表に記載する。

テーブル	対象項目	基本・推奨	要件
出材T	都道府県 旧市町村 市町村 大字 字 地番本番 地番支番	推奨	出材ポリゴンと地番ポリゴンをオーバーレイしてデータを取得し、複数の地番ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の最も大きなポリゴンのデータを取得する。 ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。
出材T	合計材積	推奨	出材材積テーブルの「出材材積」の合計値を自動入力する。
出材T	合計材積 製材用材積 合板用材積 パルプ用材積 バイオマス（燃料）用	基本	合計材積（独自入力）と各用途別の材積の合計値が異なっている際に警告を表示する。 （ただし、数値が異なっていても運用は可能とする。）
出材T	伐採樹種名 伐採樹種林齢	基本	樹種名及び林齢は同じコード・数値のデータが別の番号のデータ項目に入力可能とする。 これは樹種・林齢ごとに番号を分けて入力する運用を可能とするため。
出材T	伐採樹種名 伐採樹種林齢	推奨	出材ポリゴンと小班ポリゴンをオーバーレイしてデータを取得し、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな順に5種類までデータを取得する。 ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。
出材材積T	年月	推奨	樹種別材積で管理し、年月を利用しないユーザーは「0000年00月」と入力する。
出材材積T	樹種	推奨	月別材積で管理し、樹種を利用しないユーザーは「全樹種」と入力する。

４．３ 出荷地情報

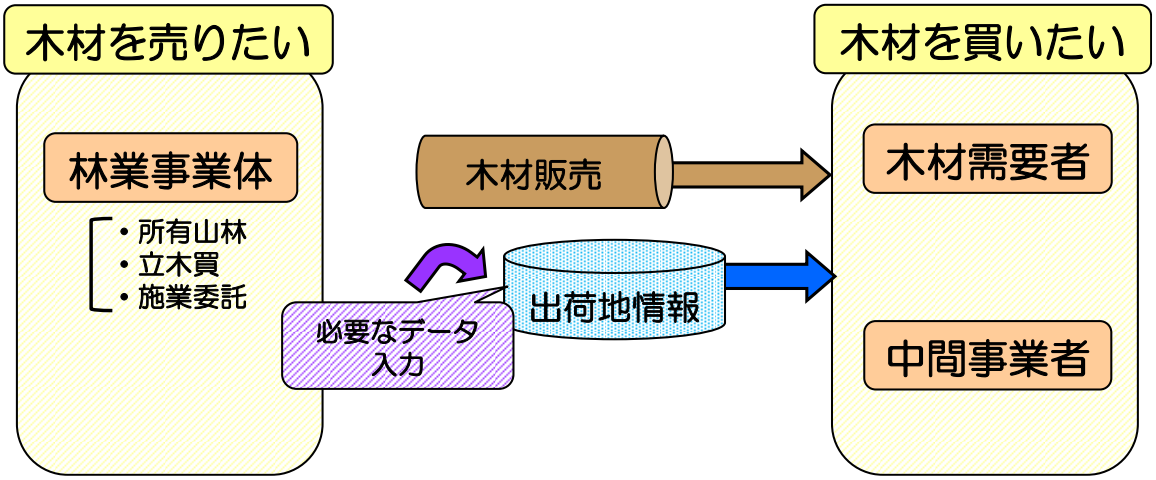
４.３.１ 概要

出荷地情報は、出材情報と同様、１事業体が施業を行う１伐採箇所について１つの情報を作成するものとする。



４.３.２ 情報の利用方法

伐採した木材を販売する際に、林業事業体が必要な情報を出荷地情報に入力し、販売先である木材需要者等に提供することで、木材のトレーサビリティが確保されることを想定している。

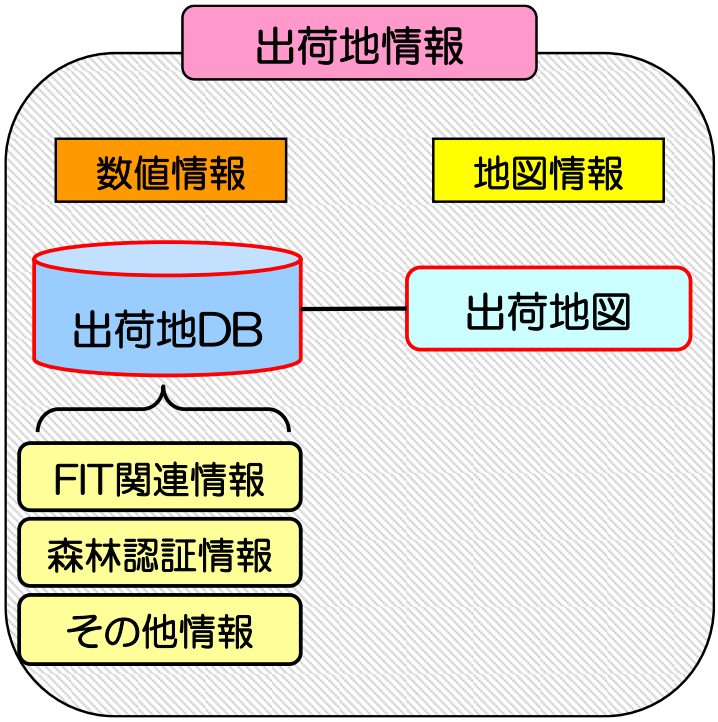


４.３.３ 数値情報と地図情報

出荷地情報は、数値情報と地図情報から成る。

数値情報は出荷地データベース（以下出荷地 DB）で管理される。出荷地 DB には、（その用途を考慮した）FIT（固定価格買取制度）に関する情報、森林認証に関する情報、その他の情報が含まれる。

地図情報としては出荷地図をもち、これは伐採地を測量した図面または、地番図や林相図等ベースとなる図面から構成される。また、出材情報を作成しており、出材図がある場合はそれをそのまま利用することも可能である。



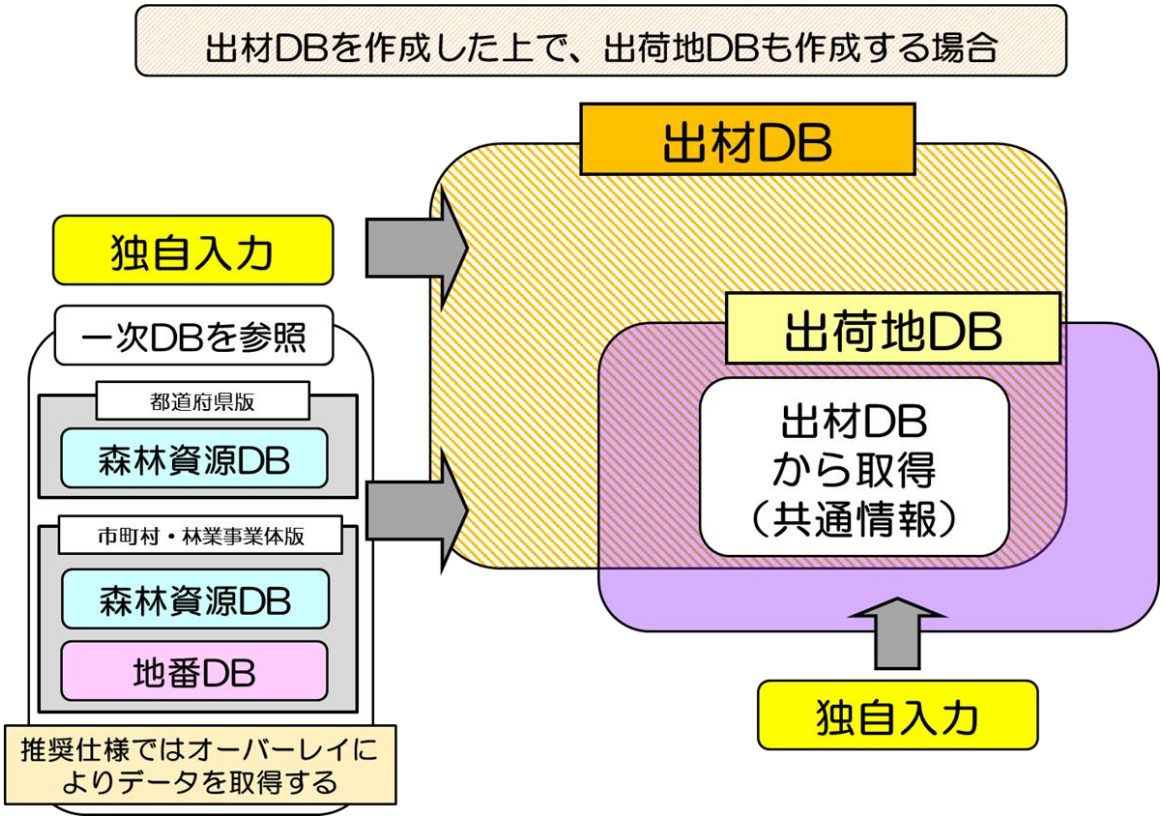
４.３.４ データベースの作成方法

◎　基本仕様

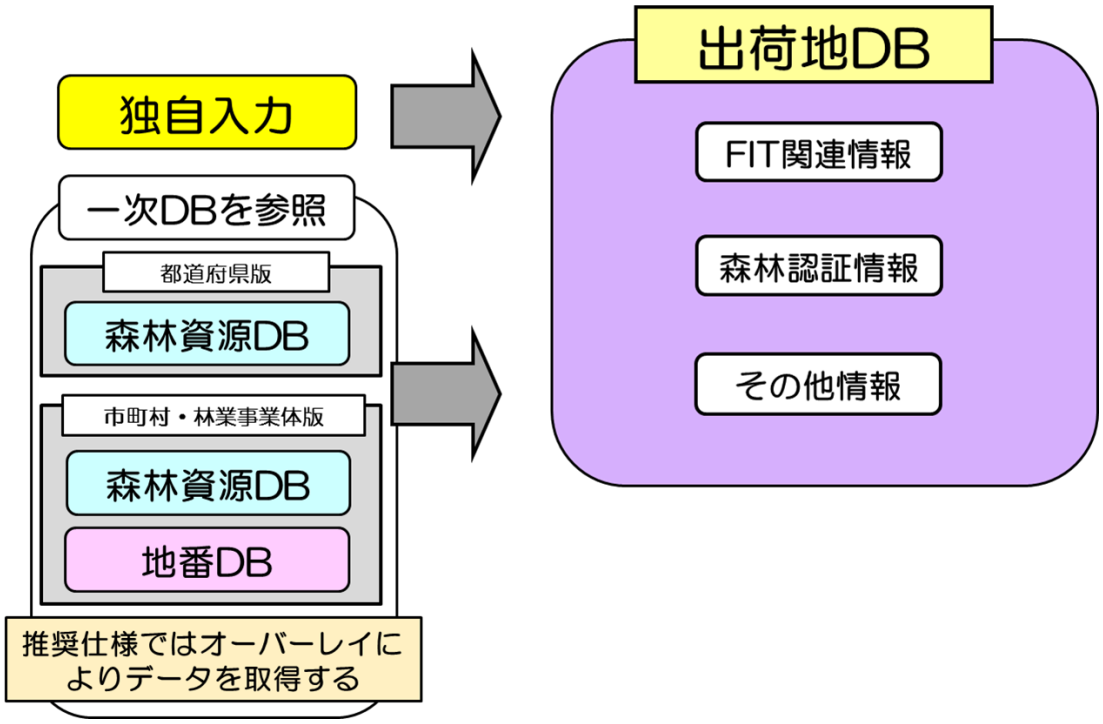
- 出材情報を作成している場合は、同情報と共通の項目については、同情報からデータを自動取得する。
- 出材情報を作成していない場合や、出荷地情報固有の項目については、ユーザーの保有する森林資源情報、地番情報を参考に各項目を手動入力する。
- 出荷地情報固有の項目については、ユーザーが独自に手動入力する。

◎　推奨仕様

- 基本仕様と同様、出材情報を作成している場合は、同情報と共通の項目については同情報からデータを自動取得する。
- 出材情報を作成していない場合や、出材情報に存在しない項目については、ユーザーの保有する森林資源情報、地番情報を基に、必要な情報を一部オーバーレイ機能により自動取得する。
- 出荷地情報固有の項目については、ユーザーが独自に手動入力する。



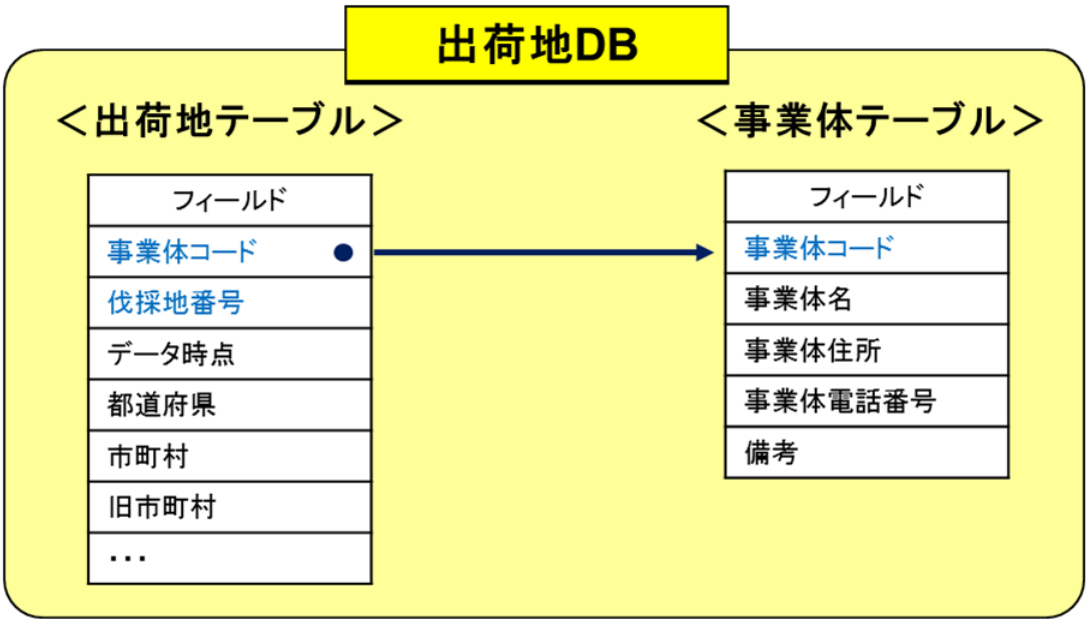
出材DBは作成せず、出荷地DBのみ作成する場合



４.３.５ データベース構造

◎　基本仕様・推奨仕様（共通）

- 出荷地 DB は、出荷地テーブル（以下 T）と事業体 T の 2 テーブルのリレーショナルデータベースとする。
- 出荷地 T の主キーは、事業体コード、伐採地番号とする。



※各テーブルの主キーは青色で表示

※外部キーは● 印、参照は ⟶ で表示

４.３.６ 基本仕様

（１） 出荷地テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	キキー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
entity_code	事業体コード	事業体CD	○	○	○	H	－	13	－		独自入力/出材DBがあれば自動取得		コードは法人番号	基本・推奨
logging_area_number	伐採地番号	伐採地番号	○	○	○	H	－	6	－		自動採番/出材DBがあれば自動取得		事業体の中で自動採番	基本・推奨
frstlandowner_name	林地所有者 氏名・名称	氏名・名称			○	X	－	100	－		手動入力	所有者T・地番T	代表者	基本・推奨
holder_name	現に所有している者 氏名・名称	氏名・名称			○	X	－	100	－		手動入力	所有者T・地番T	代表者	基本・推奨
trees_owner_name	立木所有者 氏名・名称	氏名・名称			○	X	－	100	－		手動入力	所有者T・地番T	代表者	基本・推奨
admin_name	実質管理者 氏名・名称	氏名・名称			○	X	－	100	－		手動入力	所有者T・地番T	代表者	基本・推奨
prefectures_code	都道府県	都道府県			○	H	－	2	－	○	手動入力/出材DBがあれば自動取得	出材T		基本・推奨
city_code	市町村	市町村			○	H	－	4	－		手動入力/出材DBがあれば自動取得	出材T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村			○	H	－	4	－		手動入力/出材DBがあれば自動取得	地番T・出材T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
oaza_code	大字	大字			○	H	－	50	－		手動入力/出材DBがあれば自動取得	地番T・出材T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
aza_code	字	字			○	H	－	50	－		手動入力/出材DBがあれば自動取得	地番T・出材T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
honban	地番本番	地番本番			○	H	－	10	－		手動入力/出材DBがあれば自動取得	地番T・出材T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
shiban	地番支番	地番支番				H	－	10	－		手動入力/出材DBがあれば自動取得	地番T・出材T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
rinpan	林班	林班				H	－	4	－		手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群				H	－	2	－		手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
syohan	小班	小班				H	－	4	－		手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番				H	－	2	－		手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
logging_area	伐採面積	面積				9	ha	3	第2位		独自入力/出材DBがあれば自動取得	出材T		基本・推奨
logging_species1	伐採樹種名１	樹種1				H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species2	伐採樹種名２	樹種2				H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species3	伐採樹種名３	樹種3				H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species4	伐採樹種名４	樹種4				H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species5	伐採樹種名５	樹種5				H	－	3	－	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_age1	伐採樹種林齢1	林齢1				9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age2	伐採樹種林齢2	林齢2				9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age3	伐採樹種林齢3	林齢3				9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age4	伐採樹種林齢4	林齢4				9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age5	伐採樹種林齢5	林齢5				9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_method	伐採方法	伐採方法				H	－	1	－	○	独自入力/出材DBがあれば自動取得	出材T		基本・推奨
assumed_lumber_volume	搬出予定材積(用材)	用材材積				9	m3	8	－		独自入力		製材・合板の合計	基本・推奨
assumed_wood_chip_volume	搬出予定材積(チップ材)	チップ材積				9	m3	8	－		独自入力		パルプ・林地残材の合計	基本・推奨
assumed_wood_chip_weight	搬出予定重量(チップ材)	チップ重量				9	t	8	－		独自入力		パルプ・林地残材の合計	基本・推奨
logging_start_ymd	伐採開始予定年月	伐採開始年				H	－	8	－		独自入力/出材DBがあれば自動取得	出材T	●●●●年●●月	基本・推奨
logging_finish_ymd	伐採終了予定年月	伐採終了年				H	－	8	－		独自入力/出材DBがあれば自動取得	出材T	●●●●年●●月	基本・推奨
KeieiUmu	森林経営計画認定の有無コード	認定有無				H	－	2	－	○	手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T・出材T		基本・推奨
NinteiSyu	森林経営計画認定者の種類コード	認定者				H	－	2	－	○	手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T・出材T		基本・推奨
NtyYM	森林経営計画認定年月	認定年月				D	－	－	－		手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T・出材T		基本・推奨
frst_type1	森林の種類１	森林種類1				H	－	2	－	○	手動入力	地番T		基本・推奨
frst_type2	森林の種類２	森林種類2				H	－	2	－	○	手動入力	地番T		基本・推奨
frst_type3	森林の種類３	森林種類3				H	－	2	－	○	手動入力	地番T		基本・推奨
protected_frst_permiss_date	保安林許可日	保許可日				D	－	－	－		独自入力			基本・推奨
protected_frst_permiss_number	保安林許可番号	保許可番号				H	－	100	－		独自入力			基本・推奨
protected_frst_permitter	保安林許可者	保許可者				X	－	100	－		独自入力		コード表は任意で作成	基本・推奨
protected_frst_receipt_date	保安林受理日	保受理日				D	－	－	－		独自入力		保安林届出	基本・推奨
protected_frst_receipt_number	保安林受理番号	保受理番号				H	－	100	－		独自入力		保安林届出	基本・推奨
protected_frst_recipient	保安林受理者	保受理者				X	－	100	－		独自入力		保安林届出 コード表は任意で作成	基本・推奨
logging_notification_date	伐採届受理日	伐採届日				D	－	－	－		独自入力			基本・推奨
logging_notification_number	伐採届受理番号	伐採届番号				H	－	100	－		独自入力			基本・推奨
logging_notification_recipient	伐採届受理者	伐採届受理者				X	－	100	－		独自入力		コード表は任意で作成	基本・推奨
from_thinning	由来区分(間伐材)	間伐由来				H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
from_managed_and_planned_frst	由来区分(経営計画)	経計由来				H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
from_protected_frst	由来区分(保安林)	保安林由来				H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
from_national_frst	由来区分(国有林)	国有林由来				H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
from_others	由来区分(その他)	その他由来				H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
from_unknown	由来区分(無)	由来無				H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
biomass_type	バイオマスの種類	バイオマス種類				H	－	1	－	○	由来区分から判断して自動取得			基本・推奨
frst_certification_type	森林認証の種類	認証種類				H	－	1	－	○	手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T・出材T		基本・推奨
frst_certification_number	森林認証認定番号	認証番号				H	－	100	－		独自入力			基本・推奨
frst_certification_authorizer	森林認証認定者	認証認定者				X	－	100	－	○	独自入力		コード表は任意で作成	基本・推奨
other_notification	その他証明	その他証明				X		255			独自入力			基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考				X	－	255	－		独自入力			基本・推奨

ア　事業体コード

作成方法：林業事業体が保有する法人番号を独自入力

出材 DB があれば自動取得

イ　伐採地番号

内容　：同一の事業体の中で伐採地ごとに情報を管理するため、伐採地ごとに番号を付与し、搭載する。

作成方法：自動採番

出材 DB があれば自動取得

ウ　林地所有者名　氏名・名称

内容　：林地（土地）の所有者に関する情報

作成方法：全角文字で氏名・名称を記載。一つの小班に複数の林地所有者が存在する場合は原則代表者のみ入力する。

エ　現に所有している者　氏名・名称

内容　：森林簿・森林の土地所有者届出制度に基づく所有者情報・境界明確化事業等の各種事業などにより得られた、現に所有している者、所有者と見なされる者の情報

作成方法：全角文字の入力項目を設ける。一つの小班に複数の林地所有者が存在する場合は原則代表者のみ入力する。

オ　立木所有者　氏名・名称

内容　：立木の所有者について、全角文字で氏名・名称を記載する。

カ　実質管理者　氏名・名称

内容　：林地の所有者ではない、現地の実質的な管理者に関する情報。全角文字で氏名・名称を記載する。

キ　都道府県

コード表：総務省全国地方公共団体コードの上 2 桁を用いる。

作成方法：重なり面積の最も大きな地番の情報を代表値として手動入力
出材 DB があれば自動取得

ク　市町村

コード表：総務省全国地方公共団体コードの下 4 桁を用いる。

作成方法：重なり面積の最も大きな地番の情報を代表値として手動入力
出材 DB があれば自動取得

ケ　旧市町村

コード表：都道府県ごとに独自に作成する。
合併前の全国統一コードの利用を推奨する。

作成方法：重なり面積の最も大きな地番の情報を代表値として手動入力
出材 DB があれば自動取得

コ　大字・字・地番本番・地番支番

作成方法：重なり面積の最も大きな地番の情報を代表値として手動入力
出材 DB があれば自動取得

サ　林班・小班群・小班・小班枝番

作成方法：重なり面積の最も大きな小班枝番の情報を代表値として手動入力
出材 DB があれば自動取得

シ　伐採面積

内容　：伐採する箇所の面積

Copyright © 2021 森林 GIS フォーラム

作成方法：独自入力

出材 DB があれば自動取得

ス　伐採樹種名・伐採樹種林齢

内容　：伐採する樹種とその林齢

複数の樹種が含まれることが想定されるため、5 つまで入力可能とする。

一つの樹種は一つの林齢とそれぞれ対応するように運用する。

作成方法：出材図と林相図の重なり面積の大きな樹種から順番に手動入力する。

コード表：次表の中樹種コードを利用（都道府県版および市町村・林業事業体版と共通）

コード	名称	略称
1	スギ	スギ
2	ヒノキ類	ヒノキ
3	マツ類	マツ
4	カラマツ	カラ
5	トドマツ	トド
6	エゾマツ	エゾ
7	その他N	N
8	クヌギ	クヌギ
9	ナラ類	ナラ
10	ブナ	ブナ
11	その他L	L
12	タケ	タケ

セ　伐採方法

内容　：当該伐採箇所における伐採方法

作成方法：独自入力

出材 DB があれば自動取得

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	皆伐	皆
2	択伐	択
3	間伐	間
4	その他	他

ソ　搬出予定材積（用材）

内容　：搬出を予定している材のうち、製材および合板の合計材積（m^3）

作成方法：独自入力

タ　搬出予定材積（チップ材）

内容　　：搬出を予定している材のうち、パルプ材および林地残材の合計材積（m^3）

作成方法：独自入力

チ　搬出予定重量（チップ材）

内容　　：搬出を予定している材のうち、パルプ材および林地残材の合計重量（T）

作成方法：独自入力

ツ　伐採開始予定年月・伐採終了予定年月

内容　　：伐採を開始する年月と終了する年月

施業開始後は、伐採開始予定日には実績値を入力する。

作成方法：独自入力。　　出材 DB があれば自動取得

ト　森林経営計画認定の有無コード

内容　　：当該レコードの小班（小班枝番）の森林経営計画の認定情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

ナ　森林経営計画認定者の種類コード

内容　　：森林経営計画の認定者の情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	市町村長	市町村長
2	都道府県知事	知事
3	農林水産大臣	大臣

ニ　森林経営計画認定年月

内容　　：森林経営計画の認定年月を記載する。

ヌ　森林の種類

作成方法：重なり面積の最も大きな地番の情報を手動入力

1 つの地番に、複数の制限林が指定されている場合、3 つまで入力を可能とする。

コード表：次表の通り

コード	名称	コード	名称
01	普通林	46	国立公園普通地域
11	水源かん養保安林	51	国定公園特別保護地区
12	土砂流出防備保安林	52	国定公園第1種特別地域
13	土砂崩壊防備保安林	53	国定公園第2種特別地域
14	飛砂防備保安林	54	国定公園第3種特別地域
15	暴風保安林	55	国定公園地区分未定地域
16	水害防備保安林	56	国定公園普通地域
17	潮害防備保安林	61	都道府県立自然公園第1種特別地域
18	干害防備保安林	62	都道府県立自然公園第2種特別地域
19	防雪保安林	63	都道府県立自然公園第3種特別地域
20	防霧保安林	64	都道府県立自然公園地区分未定地域
21	雪崩防止保安林	65	都道府県立自然公園普通地域
22	落石防止保安林	70	原生自然環境保全地域
23	防火保安林	71	鳥獣保護区特別保護地区
24	魚つき保安林	72	都市計画区域風致地区
25	航行目標保安林	73	特別母樹林
26	保健保安林	74	史跡名勝天然記念物
27	風致保安林	75	自然環境保全地区特別地区
30	保安施設地区	76	自然環境保全地区普通地区
31	砂防指定地	77	都道府県自然環境保全地域特別地区
41	国立公園特別地区	78	都道府県自然環境保全地域普通地区
42	国立公園第1種特別地域	79	緑地保全地区
43	国立公園第2種特別地域	80	生息地等保護区内の管理地区
44	国立公園第3種特別地域	81	生息地等保護区内の監視地区
45	国立公園地区分未定地域	82	その他

ネ　保安林許可日

内容　：当該箇所で保安林の申請をしている場合の許可日

入力方法：独自入力

ノ　保安林許可番号

内容　：保安林申請の許可番号

入力方法：独自入力

ハ　保安林許可者

内容　：保安林申請の許可者

コード表：任意で作成する。

入力方法：独自入力

ヒ　保安林受理日

内容　：保安林届出の受理日

入力方法：独自入力

フ　　保安林受理番号

内容　　：保安林届出の受理番号

入力形式：文字型

入力方法：独自入力

ヘ　　保安林受理者

内容　　：保安林届出の受理者

コード表：任意で作成する。

入力方法：独自入力

ホ　　伐採届受理日

内容　　：伐採届出の受理日

入力方法：独自入力

マ　　伐採届受理番号

内容　　：伐採届出の受理番号

入力方法：独自入力

ミ　　伐採届受理者

内容　　：伐採届出の受理者

コード表：任意で作成する。

入力方法：独自入力

ム　　由来区分（間伐材・経営計画・保安林・国有林・その他・無）

内容　　：固定価格買取制度（以下 FIT）におけるバイオマスの種類の判断根拠となる由来区分

作成方法：それぞれの項目に対して「該当」・「該当無」を独自入力する。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	該当	該当
2	該当無	無

メ　　バイオマスの種類

内容　　：FIT の買取価格の根拠となっているバイオマスの種類。由来区分が「間伐材」「経営計画」「保安林」「国有林」のいずれかに該当する場合は、「間伐材等由来の木質バイオマス」となり、由来区分が「その他」に該当する場合は、「一

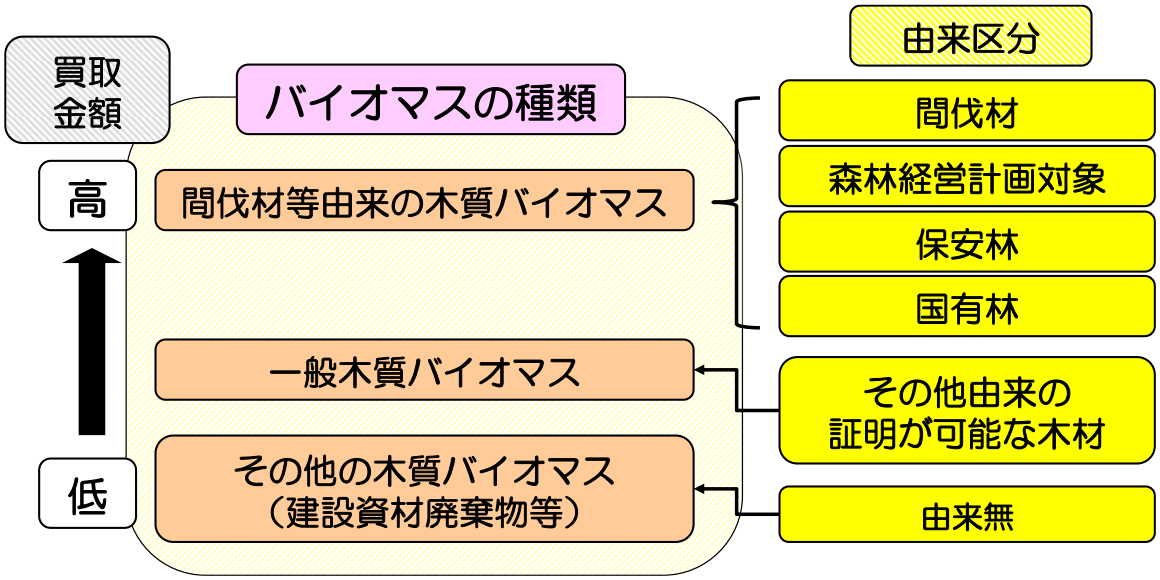
般木質バイオマス」となり、由来区分が「無」に該当売る場合は、「その他バイオマス」となる。

作成に関するシステム要件：

該当する由来区分により自動取得

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	間伐材等由来の木質バイオマス	間伐等
2	一般木質バイオマス	一般
3	その他のバイオマス	その他



モ　　森林認証の種類

内容　　：伐採者・伐採箇所が取得している森林認証の種類

作成方法：手動入力

出材 DB があれば自動取得

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	FSC	FSC
2	SGEC	SGEC
3	その他	その他

ヤ　　森林認証認定番号

内容　　：森林認証の認定番号

作成方法：独自入力

ユ　　森林認証認定者

内容　　：森林認証の認定者

コード表：任意で作成する。

作成方法：独自入力

ヨ　　その他証明

内容　　：FIT および森林認証以外で特別に証明を得ていることを示す必要がある場合に入力する。

作成方法：独自入力

ラ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（2） 事業体テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
entity_code	事業体コード	事業体CD	○	○	○	H	－	13	－		独自入力		コードは法人番号	基本・推奨
entity_name	事業体名	事業体名			○	X	－	－	－		独自入力			基本・推奨
entity_address	事業体住所	事業体住所			○	X	－	－	－		独自入力			基本・推奨
entity_tel	事業体電話番号	事業体電話			○	H	－	－	－		独自入力			基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考				X	－	－	－		独自入力			基本・推奨

ア　事業体コード

内容　：林業事業体の保有する法人番号を独自入力

イ　事業体名

作成方法：林業事業体の名称を独自入力

ウ　事業体住所・事業体電話番号

作成方法：各林業事業体の情報を独自入力

エ　更新データ時点

内容　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

4.3.7 推奨仕様

（1） 出荷地テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	キー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
entity_code	事業体コード	事業体CD	○	○	○	H	―	13	―		独自入力/出材DBがあれば自動取得		コードは法人番号	基本・推奨
logging_area_number	伐採地番号	伐採地番号	○	○	○	H	―	6	―		自動採番/出材DBがあれば自動取得		事業体の中で自動採番	基本・推奨
frstlandowner_code	林地所有者CD	林所有者CD				H	―	11	―		手動入力/出材DB(推奨)があれば自動取得	所有者T・出材T	所有者Tの所有者CDを利用 前9桁はランダム採番、最後の2桁は都道府県コード	推奨仕様のみ
frstlandowner_name	林地所有者 氏名・名称	氏名・名称			○	X	―	100	―		手動入力	所有者T・地番T	代表者	基本・推奨
holder_code	現に所有している者CD	現所有者CD				H	―	11	―		手動入力/出材DB(推奨)があれば自動取得	所有者T・出材T	所有者Tの所有者CDを利用 前9桁はランダム採番、最後の2桁は都道府県コード	推奨仕様のみ
holder_name	現に所有している者 氏名・名称	氏名・名称			○	X	―	100	―		手動入力	所有者T・地番T	代表者	基本・推奨
holder_name	立木所有者CD	立所有者CD				H	―	11	―		手動入力/出材DB(推奨)があれば自動取得	所有者T・出材T	所有者Tの所有者CDを利用 前9桁はランダム採番、最後の2桁は都道府県コード	推奨仕様のみ
trees_owner_name	立木所有者 氏名・名称	氏名・名称			○	X	―	100	―		手動入力	所有者T・地番T	代表者	基本・推奨
admin_code	実質管理者CD	管理者CD				H	―	11	―		手動入力/出材DB(推奨)があれば自動取得	所有者T・出材T	所有者Tの所有者CDを利用 前9桁はランダム採番、最後の2桁は都道府県コード	推奨仕様のみ
admin_name	実質管理者 氏名・名称	氏名・名称			○	X	―	100	―		手動入力	所有者T・地番T	代表者	基本・推奨
prefectures_code	都道府県	都道府県			○	H	―	2	―	○	手動入力/出材DBがあれば自動取得	出材T		基本・推奨
city_code	市町村	市町村			○	H	―	4	―		手動入力/出材DBがあれば自動取得	出材T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村			○	H	―	4	―		手動入力/出材DBがあれば自動取得	地番T・出材T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
oaza_code	大字	大字			○	H	―	50	―		手動入力/出材DBがあれば自動取得	地番T・出材T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
aza_code	字	字			○	H	―	50	―		手動入力/出材DBがあれば自動取得	地番T・出材T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
honban	地番本番	地番本番			○	H	―	10	―		手動入力/出材DBがあれば自動取得	地番T・出材T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
shiban	地番支番	地番支番				H	―	10	―		手動入力/出材DBがあれば自動取得	地番T・出材T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
rinpan	林班	林班				H	―	4	―		手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群				H	―	2	―		手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
syohan	小班	小班				H	―	4	―		手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番				H	―	2	―		手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
logging_area	伐採面積	面積				9	ha	3	第2位		独自入力/出材DBがあれば自動取得	出材T		基本・推奨
logging_species1	伐採樹種名1	樹種1				H	―	3	―	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species2	伐採樹種名2	樹種2				H	―	3	―	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species3	伐採樹種名3	樹種3				H	―	3	―	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species4	伐採樹種名4	樹種4				H	―	3	―	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_species5	伐採樹種名5	樹種5				H	―	3	―	○	手動入力	樹種T	中樹種コードを利用	基本・推奨
logging_age1	伐採樹種林齢1	林齢1				9	―	3	―		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age2	伐採樹種林齢2	林齢2				9	―	3	―		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age3	伐採樹種林齢3	林齢3				9	―	3	―		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age4	伐採樹種林齢4	林齢4				9	―	3	―		手動入力	樹種T		基本・推奨
logging_age5	伐採樹種林齢5	林齢5				9	―	3	―		手動入力	樹種T		基本・推奨
frst_treatment	森林施業	森林施業				H	―	1	―	○	独自入力			推奨仕様のみ
construction_contents	施工内容	施工内容				H	―	1	―	○	独自入力		森林施業が森林以外の場合のみ入力	推奨仕様のみ
assumed_wood_chip_volume	伐採方法	伐採方法				H	―	1	―	○	独自入力/出材DBがあれば自動取得	出材T		基本・推奨
assumed_wood_chip_weight	搬出予定材積(用材)	用材材積				9	m3	8	―		独自入力		製材・合板の合計	基本・推奨
assumed_lumber_volume	搬出予定材積(チップ材)	チップ材積				9	m3	8	―		独自入力		パルプ・林地残材の合計	基本・推奨
assumed_wood_chip_volume	搬出予定重量(チップ材)	チップ重量				9	t	8	―		独自入力		パルプ・林地残材の合計	基本・推奨
logging_start_ymd	伐採開始予定年月	伐採開始年				H	―	8	―		独自入力/出材DBがあれば自動取得	出材T	●●●●年●●月	基本・推奨
logging_finish_ymd	伐採終了予定年月	伐採終了年				H	―	8	―		独自入力/出材DBがあれば自動取得	出材T	●●●●年●●月	基本・推奨
KeieiUmu	森林経営計画認定の有無コード	認定有無				H	―	2	―	○	手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T・出材T		基本・推奨
NinteiSyu	森林経営計画認定者の種類コード	認定者				H	―	2	―	○	手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T・出材T		基本・推奨
NbyYM	森林経営計画認定年月	認定年月				D	-	-	-		手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T・出材T		基本・推奨
frst_type1	森林の種類1	森林種類1				H	―	2	―	○	手動入力	地番T		基本・推奨
frst_type2	森林の種類2	森林種類2				H	―	2	―	○	手動入力	地番T		基本・推奨
frst_type3	森林の種類3	森林種類3				H	―	2	―	○	手動入力	地番T		基本・推奨
protected_frst_permiss_date	保安林許可日	保許可日				D	―	―	―		独自入力			基本・推奨
protected_frst_permiss_number	保安林許可番号	保許可番号				H	―	100	―		独自入力			基本・推奨
protected_frst_permitter	保安林許可者	保許可者				X	―	100	―		独自入力		コード表は任意で作成	基本・推奨
protected_frst_receipt_date	保安林受理日	保受理日				D	―	―	―		独自入力		保安林届出	基本・推奨
protected_frst_receipt_number	保安林受理番号	保受理番号				H	―	100	―		独自入力		保安林届出	基本・推奨
protected_frst_recipient	保安林受理者	保受理者				X	―	100	―		独自入力		保安林届出 コード表は任意で作成	基本・推奨
logging_notification_date	伐採届受理日	伐採届日				D	―	―	―		独自入力			基本・推奨
logging_notification_number	伐採届受理番号	伐採届番号				H	―	100	―		独自入力			基本・推奨
logging_notification_recipient	伐採届受理者	伐採届受理者				X	―	100	―		独自入力		コード表は任意で作成	基本・推奨
from_thinning	由来区分(間伐材)	間伐由来				H	―	1	―	○	独自入力			基本・推奨
from_managed_and_planned_frst	由来区分(経営計画)	経計由来				H	―	1	―	○	独自入力			基本・推奨
from_protected_frst	由来区分(保安林)	保安林由来				H	―	1	―	○	独自入力			基本・推奨
from_national_frst	由来区分(国有林)	国有林由来				H	―	1	―	○	独自入力			基本・推奨
from_others	由来区分(その他)	その他由来				H	―	1	―	○	独自入力			基本・推奨
from_unknown	由来区分(無)	由来無				H	―	1	―	○	独自入力			基本・推奨
biomass_type	バイオマスの種類	バイオマス種類				H	―	1	―	○	由来区分から判断して自動取得			基本・推奨
frst_certification_type	森林認証の種類	認証種類				H	―	1	―	○	手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T・出材T		基本・推奨
frst_certification_number	森林認証認定番号	認証番号				H	―	100	―		独自入力			基本・推奨
frst_certification_authorizer	森林認証認定者	認証認定者				X	―	100	―	○	独自入力		コード表は任意で作成	基本・推奨
other_notification	その他証明	その他証明				X		255			独自入力			基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	―	―	―	―	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考				X	―	255	―		独自入力			基本・推奨

ア　　事業体コード

作成方法：林業事業体が保有する法人番号を独自入力

出材 DB があれば自動取得

イ　　伐採地番号

内容　　：同一の事業体の中で伐採地ごとに情報を管理するため、伐採地ごとに番号を付与し、搭載する。

作成方法：自動採番

出材 DB があれば自動取得

ウ　　林地所有者 CD・立木所有者 CD・実質管理者 CD

内容　　：都道府県版および市町村・林業事業体版で利用する所有者テーブルの所有者 CD

コード表：コードはシステム利用者内で、任意に作成する。

前９桁はランダム採番、最後の２桁は都道府県コード

作成方法：手動入力。出材 DB(推奨仕様)があれば自動取得。

エ　　林地所有者名　氏名・名称

内容　　：林地（土地）の所有者に関する情報

作成方法：全角文字で氏名・名称を記載。一つの小班に複数の林地所有者が存在する場合は原則代表者のみ入力する。

オ　　現に所有している者　氏名・名称

内容　　：森林簿・森林の土地所有者届出制度に基づく所有者情報・境界明確化事業等の各種事業などにより得られた、現に所有している者、所有者と見なされる者の情報

作成方法：全角文字の入力項目を設ける。一つの小班に複数の林地所有者が存在する場合は原則代表者のみ入力する。

カ　　立木所有者　氏名・名称

内容　　：立木の所有者について、全角文字で氏名・名称を記載する。

キ　　実質管理者　氏名・名称

内容　　：林地の所有者ではない、現地の実質的な管理者に関する情報。全角文字で氏名・名称を記載する。

ケ　　都道府県・市町村・旧市町村・大字・字・地番本番・地番支番

作成に関するシステム要件：出材 DB があれば自動取得する。

出材 DB がない場合は、出荷地ポリゴンと地番ポリゴンをオーバーレイしてデータを取得し、複数の地番ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の最も大きなポリゴンのデータを取得する。

ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

コ　　林班・小班群・小班・小班枝番

作成に関するシステム要件：出荷地ポリゴンと小班ポリゴンとをオーバーレイし、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな林小班のデータを代表値として取得する。

ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

サ　　伐採面積

内容　　：伐採する箇所の面積

作成方法：独自入力

出材 DB があれば自動取得

シ　　伐採樹種名・伐採樹種林齢

作成方法：出荷地ポリゴンと小班ポリゴンをオーバーレイしてデータを取得し、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな順に 5 種類までデータを取得するものとする。
ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

ス　　伐採方法

内容　　：当該伐採箇所における伐採方法

作成方法：独自入力
出材 DB があれば自動取得

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	皆伐	皆
2	択伐	択
3	間伐	間
4	その他	他

セ　　森林施業

内容　　：実施した施業が、皆伐・間伐等の森林施業か支障木伐採や開発等の森林施業以外かを入力する。

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	森林施業	施業
2	森林施業以外	外

ソ　　施工内容

作成方法：森林施業以外の施業を実施した場合に、その内容を手動入力
森林施業の場合は空欄

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	林道工事支障木	林道支障
2	治山工事支障木	治山支障
3	開発行為	開発
4	河川支障木	河川支障
5	ダム流木	流木
6	道路法面支障木	法面支障
7	剪定枝	剪定
8	その他	その他

タ　搬出予定材積（用材）

内容　：搬出を予定している材のうち、製材および合板の合計材積（m^3）

作成方法：独自入力

チ　搬出予定材積（チップ材）

内容　：搬出を予定している材のうち、パルプ材および林地残材の合計材積（m^3）

作成方法：独自入力

ツ　搬出予定重量（チップ材）

内容　：搬出を予定している材のうち、パルプ材および林地残材の合計重量（T）

作成方法：独自入力

テ　伐採開始予定年月・伐採終了予定年月

内容　：伐採を開始する年月と終了する年月

施業開始後は、伐採開始予定日には実績値を入力する。

作成方法：独自入力。　出材 DB があれば自動取得。

ト　森林経営計画認定の有無コード

内容　：当該レコードの小班（小班枝番）の森林経営計画の認定情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

ナ　森林経営計画認定者の種類コード

内容　：森林経営計画の認定者の情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	市町村長	市町村長
2	都道府県知事	知事
3	農林水産大臣	大臣

ニ　　森林経営計画認定年月

内容　　：森林経営計画の認定年月を記載する。

ヌ　　森林の種類

作成に関するシステム要件：出荷地ポリゴンと地番ポリゴンをオーバーレイし、複数の地番ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな順に 3 種類までデータを取得するものとする。

ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

コード表：次表の通り

コード	名称	コード	名称
01	普通林	46	国立公園普通地域
11	水源かん養保安林	51	国定公園特別保護地区
12	土砂流出防備保安林	52	国定公園第1種特別地域
13	土砂崩壊防備保安林	53	国定公園第2種特別地域
14	飛砂防備保安林	54	国定公園第3種特別地域
15	暴風保安林	55	国定公園地区分未定地域
16	水害防備保安林	56	国定公園普通地域
17	潮害防備保安林	61	都道府県立自然公園第1種特別地域
18	干害防備保安林	62	都道府県立自然公園第2種特別地域
19	防雪保安林	63	都道府県立自然公園第3種特別地域
20	防霧保安林	64	都道府県立自然公園地区分未定地域
21	雪崩防止保安林	65	都道府県立自然公園普通地域
22	落石防止保安林	70	原生自然環境保全地域
23	防火保安林	71	鳥獣保護区特別保護地区
24	魚つき保安林	72	都市計画区域風致地区
25	航行目標保安林	73	特別母樹林
26	保健保安林	74	史跡名勝天然記念物
27	風致保安林	75	自然環境保全地区特別地区
30	保安施設地区	76	自然環境保全地区普通地区
31	砂防指定地	77	都道府県自然環境保全地域特別地区
41	国立公園特別地区	78	都道府県自然環境保全地域普通地区
42	国立公園第1種特別地域	79	緑地保全地区
43	国立公園第2種特別地域	80	生息地等保護区内の管理地区
44	国立公園第3種特別地域	81	生息地等保護区内の監視地区
45	国立公園地区分未定地域	82	その他

ネ　　保安林許可日

内容　　：当該箇所で保安林の申請をしている場合の許可日

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

入力方法：独自入力

ノ　　保安林許可番号
内容　　：保安林申請の許可番号
入力方法：独自入力

ハ　　保安林許可者
内容　　：保安林申請の許可者
コード表：任意で作成する。
入力方法：独自入力

ヒ　　保安林受理日
内容　　：保安林届出の受理日
入力方法：独自入力

フ　　保安林受理番号
内容　　：保安林届出の受理番号
入力形式：文字型
入力方法：独自入力

ヘ　　保安林受理者
内容　　：保安林届出の受理者
コード表：任意で作成する。
入力方法：独自入力

ホ　　伐採届受理日
内容　　：伐採届出の受理日
入力方法：独自入力

マ　　伐採届受理番号
内容　　：伐採届出の受理番号
入力方法：独自入力

ミ　　伐採届受理者
内容　　：伐採届出の受理者
コード表：任意で作成する。

入力方法：独自入力

ム　　由来区分（間伐材・経営計画・保安林・国有林・その他・無）

内容　　：固定価格買取制度（以下 FIT）におけるバイオマスの種類の判断根拠となる由来区分

作成方法：それぞれの項目に対して「該当」・「該当無」を独自入力する。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	該当	該当
2	該当無	無

メ　　バイオマスの種類

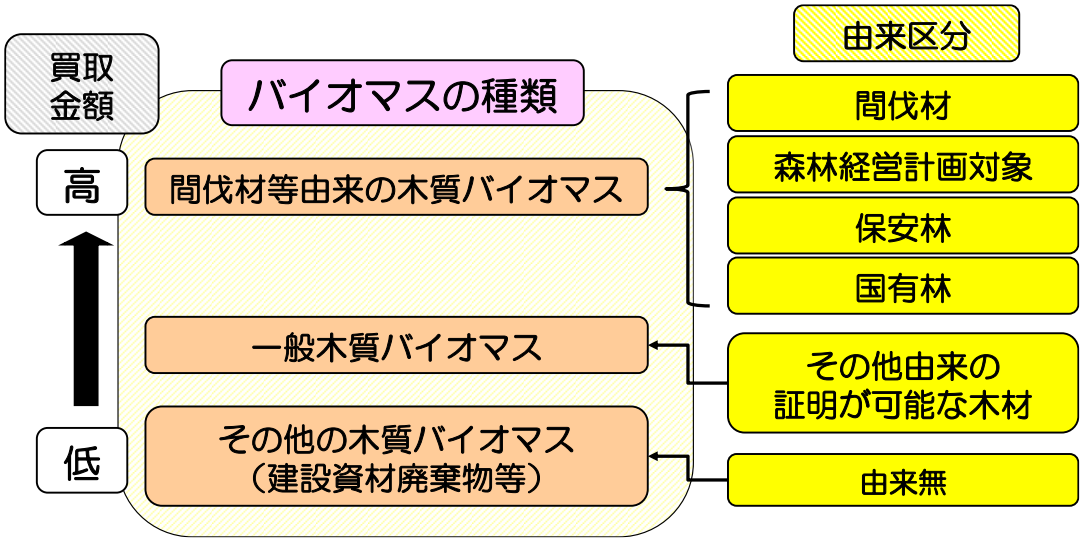
内容　　：FIT の買取価格の根拠となっているバイオマスの種類。由来区分が「間伐材」「経営計画」「保安林」「国有林」のいずれかに該当する場合は、「間伐材等由来の木質バイオマス」となり、由来区分が「その他」に該当する場合は、「一般木質バイオマス」となり、由来区分が「無」に該当売る場合は、「その他バイオマス」となる。

作成に関するシステム要件：

該当する由来区分により自動取得

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	間伐材等由来の木質バイオマス	間伐等
2	一般木質バイオマス	一般
3	その他のバイオマス	その他



モ　　森林認証の種類

内容　　：伐採者・伐採箇所が取得している森林認証の種類

作成方法：手動入力

出材 DB があれば自動取得

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	FSC	FSC
2	SGEC	SGEC
3	その他	その他

ヤ　　森林認証認定番号

内容　　：森林認証の認定番号

作成方法：独自入力

ユ　　森林認証認定者

内容　　：森林認証の認定者

コード表：任意で作成する。

作成方法：独自入力

ヨ　　その他証明

内容　　：FIT および森林認証以外で特別に証明を得ていることを示す必要がある場合に入力する。

作成方法：独自入力

ラ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（２） 事業体テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	キキー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
entity_code	事業体コード	事業体CD	○	○	○	H	－	13	－		独自入力		コードは法人番号	基本・推奨
entity_name	事業体名	事業体名			○	X	－	－	－		独自入力			基本・推奨
entity_address	事業体住所	事業体住所			○	X	－	－	－		独自入力			基本・推奨
entity_tel	事業体電話番号	事業体電話			○	H	－	－	－		独自入力			基本・推奨
entity_anual_production	事業体年間生産量	事業体生産量			○	9	m3	10	－		独自入力			実証仕様のみ
holding_frstry_machines	事業体保有機械	事業体機械			○	H	－	1	－		保有している機械コードを入力			推奨仕様のみ
the_number_of_workers	作業班員人数	作業員数				9	人	3	－		独自入力			推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考				X	－	－	－		独自入力			基本・推奨

ア　　事業体コード

作成方法：林業事業体の保有する法人番号を独自入力

イ　　事業体名

作成方法：林業事業体の名称を独自入力

ウ　　事業体住所・事業体電話番号

作成方法：各林業事業体の情報を独自入力

エ　　事業体年間生産量・作業班員人数

作成方法：出材情報や出荷地情報の提供時に、各林業事業体が自身のデータを独自入力することを基本とする。

オ　　事業体保有機械

作成方法：出材情報や出荷地情報の提供時に、各林業事業体が自身のデータを独自入力することを基本とする。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	プロセッサ	プロセッサ
2	ハーベスタ	ハーベスタ
3	フェラーバンチャ	フェラー
4	タワーヤーダ	タワー
5	スイングヤーダ	スイング
6	フォワーダ	フォワーダ
7	スキッダ	スキッダ
8	その他	他

カ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

４.３.８ 出荷地情報の標準化に係るシステムの標準仕様

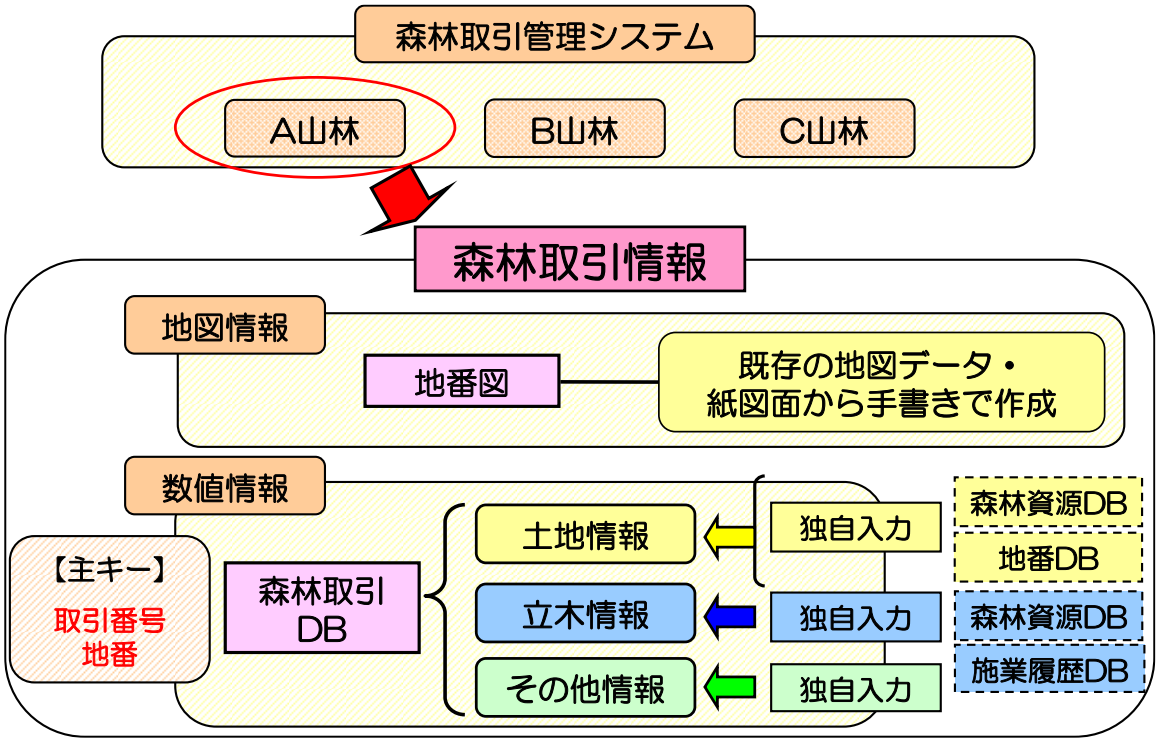
出荷地情報のデータ項目の標準化に係るシステムの標準仕様を抜粋し、次表に掲載する。

テーブル	対象項目	基本・推奨	要件
出荷地T	都道府県 旧市町村 市町村 大字 字 地番本番 地番支番	推奨	出材DBがあれば自動取得する。 出材DBがない場合は、出荷地ポリゴンと地番ポリゴンをオーバーレイしてデータを取得し、複数の地番ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の最も大きなポリゴンのデータを取得する。 ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。
出荷地T	林班 小班群 小班 小班枝番	推奨	出荷地ポリゴンと小班ポリゴンとをオーバーレイし、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな林小班のデータを代表値として取得する。 ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。
出荷地T	伐採樹種名 伐採樹種林齢	基本	樹種名及び林齢は同じコード・数値のデータが別の番号のデータ項目に入力可能とする。 これは樹種・林齢ごとに番号を分けて入力する運用を可能とするため。
出荷地T	伐採樹種名 伐採樹種林齢	基本	それぞれの番号を対応させて作成する。（運用） 同じ樹種でも別林齢または、同じ林齢でも別の樹種であれば、それぞれ番号を付して作成する。（運用）
出荷地T	森林経営計画の認定先	推奨	出材DBがあれば自動取得する。 出材DBがない場合は、出荷地ポリゴンと小班ポリゴンとをオーバーレイし、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな林小班のデータを代表値として取得する。 ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。
出荷地T	森林の種類	推奨	出荷地ポリゴンと地番ポリゴンをオーバーレイし、複数の地番ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな順に3種類までデータを取得するものとする。 ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。
出荷地T	バイオマスの種類	基本	由来区分を入力するとバイオマスの種類が自動入力されることとする。 以下の通り自動入力される。 由来区分（間伐・経営計画・保安林・国有林）のいずれかが該当する場合は間伐材等由来の木質バイオマス 由来区分（その他）のみに該当する場合は、一般木質バイオマス 由来区分（無）のみに該当する場合は、その他のバイオマス

４．４ 森林取引情報の検討

４.４.１ 概要

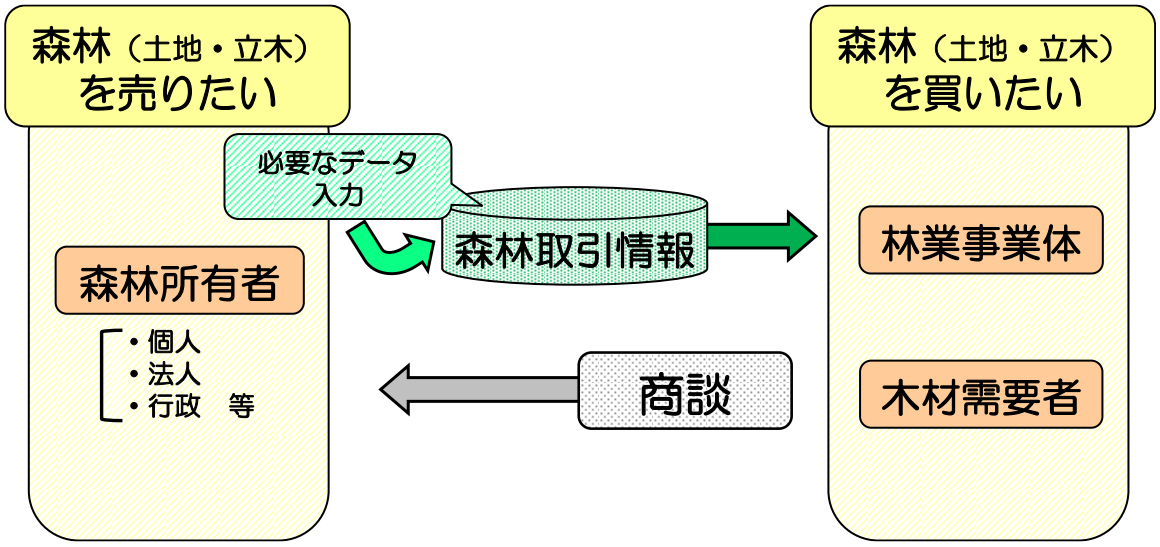
森林取引情報は、取引の対象となる１箇所の山林について１つの情報を作成するものとする。



４.４.２ 情報の利用方法

森林取引情報の一つの利用方法として、森林（立木または土地込み）を売りたい森林所有者が、必要な情報をこの森林取引情報に入力し、森林を買いたい木材需要者や林業事業体等のユーザーに情報を提供した上で実際の商談に入るという流れが想定される。

さらに、商談に入る前に買主は現地を確認することになるが、この現地確認を行うべきかどうかの判断に、本森林取引情報を利用することを想定している。



４.４.３ 数値情報と地図情報

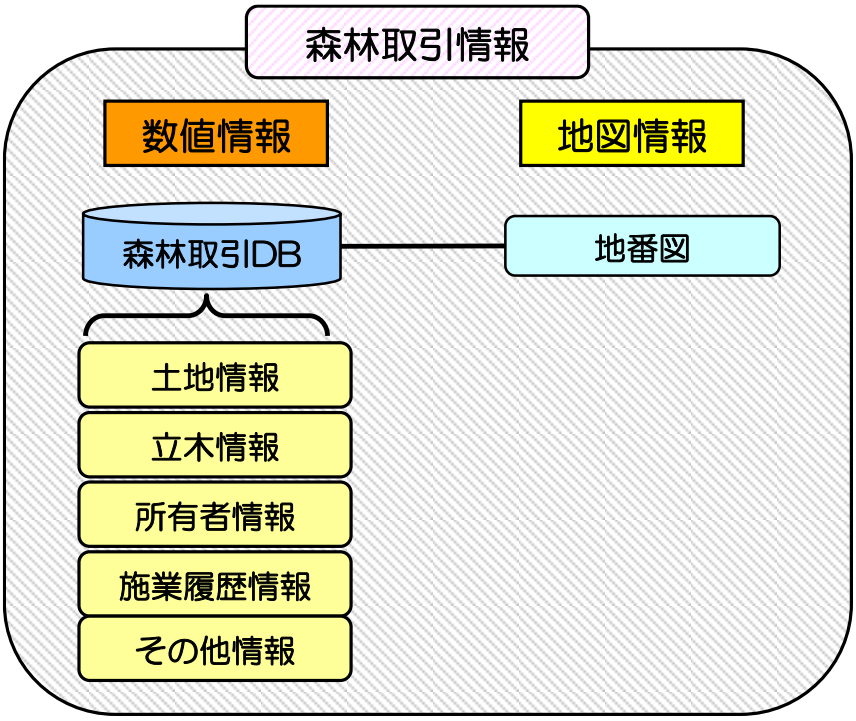
森林取引情報は、数値情報と地図情報をから成る。

数値情報は森林取引データベース（以下 DB）にて管理される。森林取引 DB には土地、立木、所有者、施業履歴、その他の情報が含まれている。

地図情報としては、地番図を利用する。

地番図はユーザーによってその作成方法が異なる。作成方法としては以下が想定される。

- 地籍図の情報から作成
- 境界明確化等の境界測量の成果から作成
- 都道府県版標準仕様の地番情報から作成



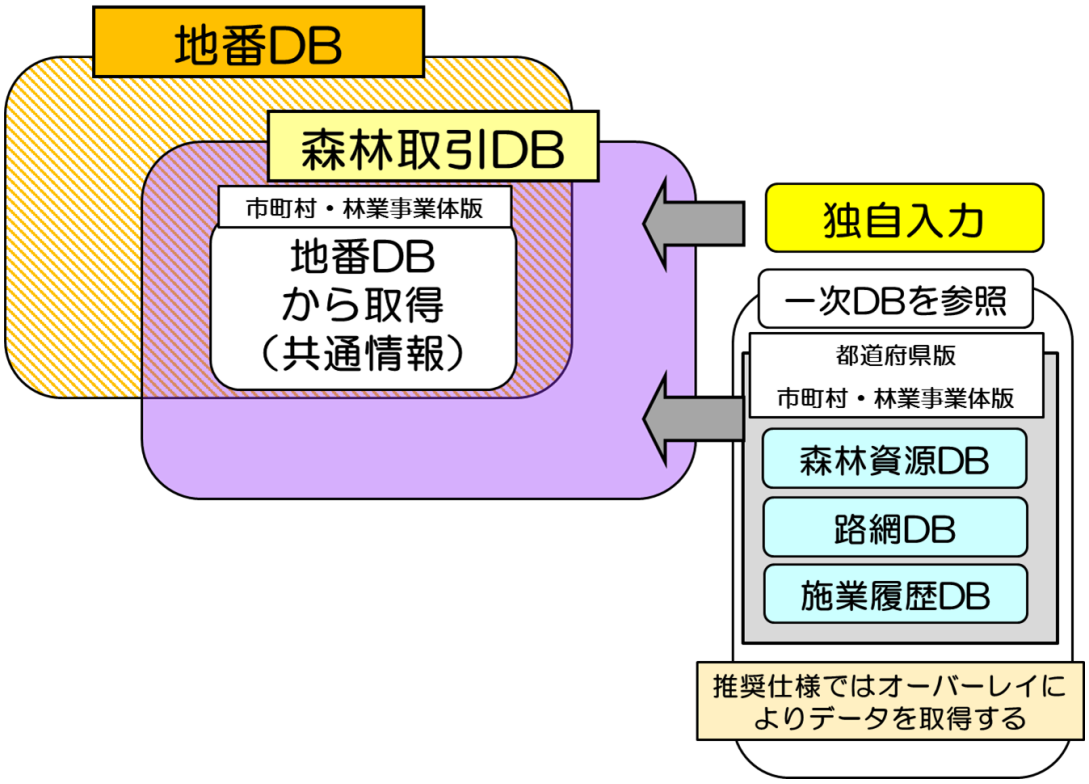
４.４.４ データベースの作成方法

◎　基本仕様

- 地番図を利用するため、市町村・林業事業体版標準仕様の地番 DB にある情報は森林取引 DB に自動で取得可能である。
- 地番 DB にない情報は、ユーザーが保有する森林資源情報、施業履歴情報、路網情報を参考に各項目を手動入力する。
- 森林取引情報固有の項目については、ユーザーが独自に手動入力する。

◎　推奨仕様

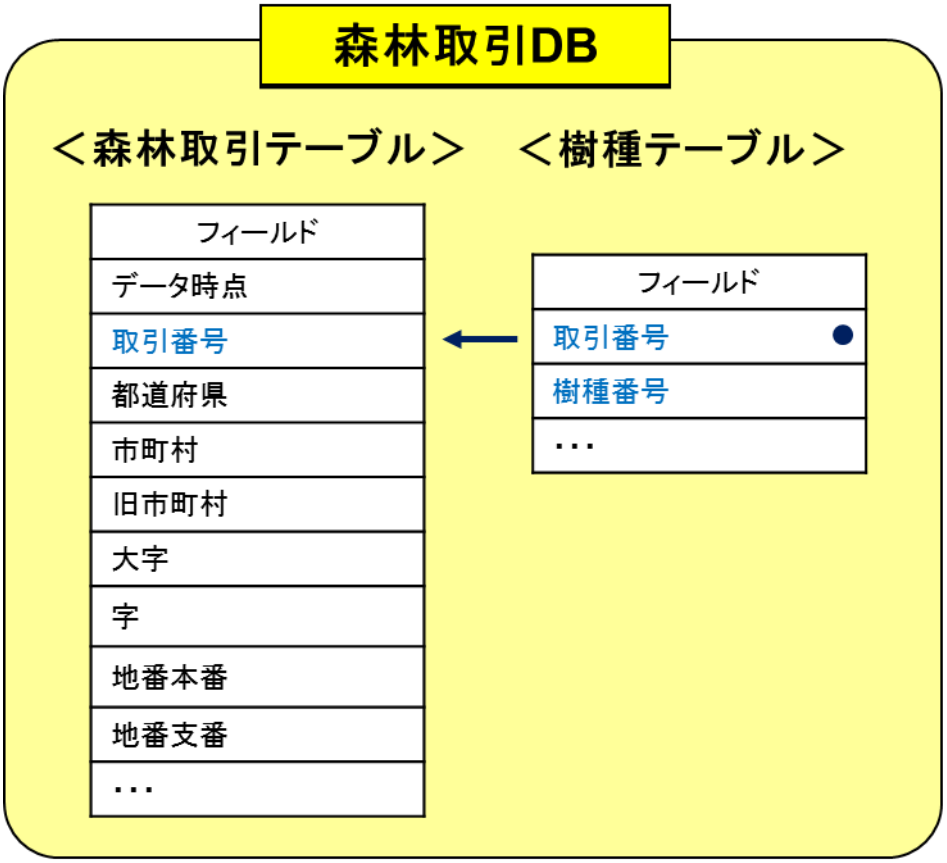
- 基本仕様と同様、地番図を利用するため、市町村・林業事業体版標準仕様の地番 DB にある情報は森林取引 DB に自動で取得可能である。
- 地番 DB にない情報は、ユーザーが保有する森林資源情報、施業履歴情報、路網情報を基に、必要な情報を一部オーバーレイ機能により自動取得する。ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。
- 森林取引情報固有の項目については、ユーザーが独自に手動入力する。



４.４.５ データベース構造

◎　基本仕様

- 森林取引 DB は、森林取引テーブル（以下 T）と樹種 T の 2 テーブルのリレーショナルデータベースとする。
- 森林取引テーブルの主キーは、取引番号とする。
- 樹種 T には、取引する森林が重なる林小班における全ての樹種に関して情報を入力する。

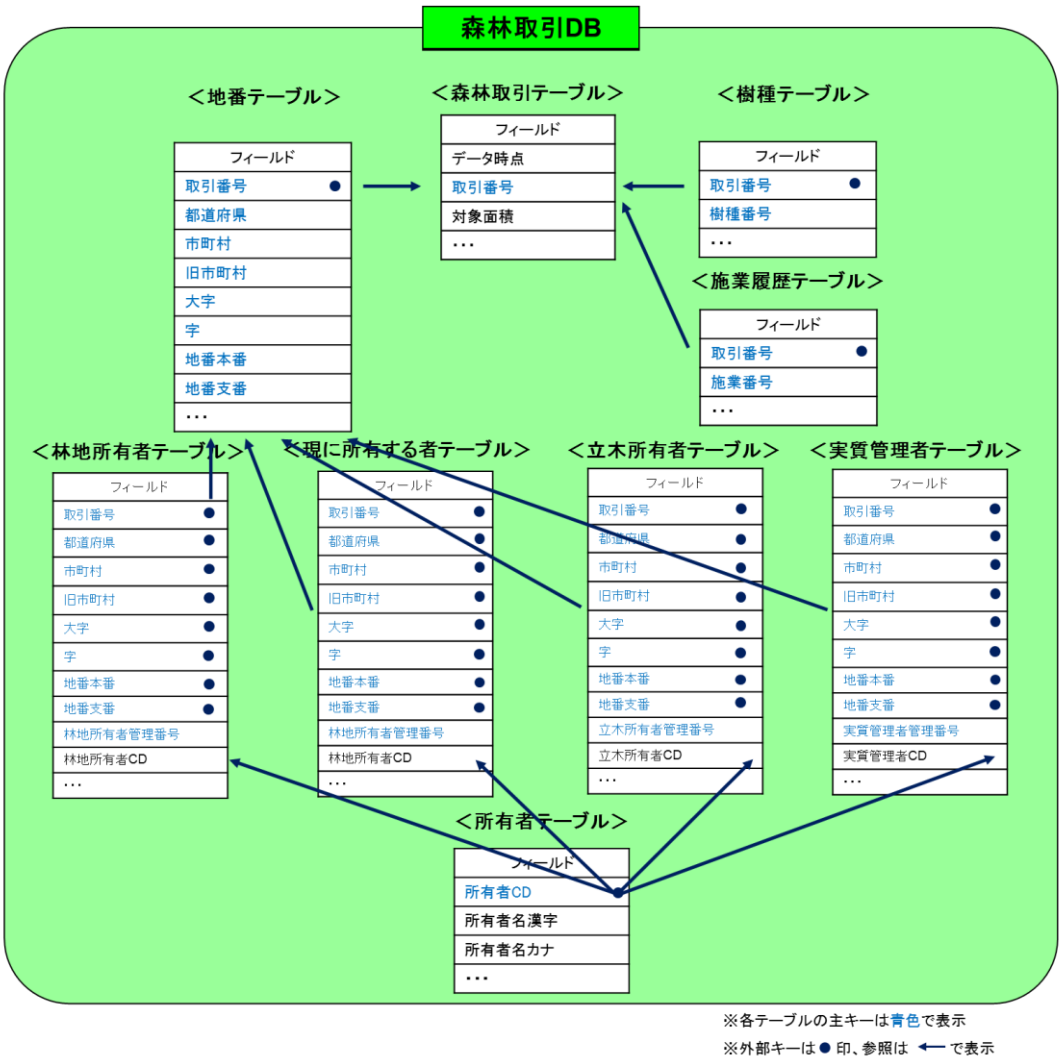


※各テーブルの主キーは青色で表示

※外部キーは● 印、参照は ← で表示

◎　推奨仕様

- 森林取引 DB は、森林取引 T、樹種 T、施業履歴 T、地番 T、林地所有者 T、現に所有する者 T、立木所有者 T、実質管理者 T、森林所有者 T の 9 テーブルのリレーショナルデータベースとする。
- 基本仕様と同じく、森林取引テーブルの主キーは取引番号とする。



４.４.６ 基本仕様

（１） 森林取引テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
deal_number	取引番号	取引番号	○	○	○	H	－	6	－		システム単位ごとに自動採番			基本・推奨
prefectures_code	都道府県	都道府県			○	H	－	2	－	○	地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
city_code	市町村	市町村			○	H	－	4	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村			○	H	－	4	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
oaza_code	大字	大字			○	H	－	50	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
aza_code	字	字			○	H	－	50	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
honban	地番本番	地番本番			○	H	－	10	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
shiban	地番支番	地番支番			○	H	－	10	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
land_category	地目	地目			○	H	－	2	－		独自入力			基本・推奨
rinpan	林班	林班			○	H	－	4	－		手動入力	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群			○	H	－	2	－		手動入力	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
syohan	小班	小班			○	H	－	4	－		手動入力	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番			○	H	－	2	－		手動入力	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
target_area	対象面積	対象面積			○	9	ha	3	第2位		独自入力			基本・推奨
frstlandowner_name	林地所有者 氏名・名称	氏名・名称			○	X	－	100	－		地番DBから自動取得	地番T	代表者	基本仕様のみ
frstlandowner_name_kana	林地所有者名カナ	林所有者カナ			○	X	－	100	－		独自入力			基本仕様のみ
frstlandowner_address	林地所有者住所	林所有者住所1			○	X	－	100	－		地番DBから自動取得	地番T	代表者	基本仕様のみ
frstlandowner_tel	林地所有者電話番号	林所有者電話1			○	X	－	100	－		独自入力		電話番号は"－"は入れない	基本仕様のみ
holder_name	現に所有している者 氏名・名称	現所有者氏名・名称			○	X	－	100	－		地番DBから自動取得	地番T	代表者	基本仕様のみ
holder_kana	現に所有している者名カナ	現所有者名カナ			○	X	－	100	－		独自入力			基本仕様のみ
holder_address	現に所有している者住所	現所有者住所1			○	X	－	100	－		地番DBから自動取得	地番T	代表者	基本仕様のみ
holder_tel	現に所有している者電話番号	現所有者電話1			○	X	－	100	－		独自入力		電話番号は"－"は入れない	基本仕様のみ
trees_owner_name	立木所有者 氏名・名称	立所有者氏名・名称			○	X	－	100	－		地番DBから自動取得	地番T	代表者	基本仕様のみ
trees_owner_kana	立木所有者名カナ	立所有者カナ			○	X	－	100	－		独自入力			基本仕様のみ
trees_owner_adress	立木所有者住所	立所有者住所1			○	X	－	100	－		地番DBから自動取得	地番T	代表者	基本仕様のみ
trees_owner_tel	林地所有者電話番号1	立所有者電話1			○	X	－	100	－		独自入力		電話番号は"－"は入れない	基本仕様のみ
admin_name	実質管理者 氏名・名称	実管者氏名・名称			○	X	－	100	－		地番DBから自動取得	地番T	代表者	基本仕様のみ
admin_kana	実質管理者名カナ	実管者名カナ			○	X	－	100	－		独自入力			基本仕様のみ
admin_address	実質管理者住所	実管者住所1			○	X	－	100	－		地番DBから自動取得	地番T	代表者	基本仕様のみ
admin_tel	実質管理者電話番号	実管者電話1			○	X	－	100	－		独自入力		電話番号は"－"は入れない	基本仕様のみ
last_logging_type	直近施業種(間伐・主伐)	直近伐採種				H	－	2	－	○	手動入力	小班T	施業種コードを利用	基本仕様のみ
last_logging_year	直近施業実施年度(間伐・主伐)	直近伐採年				9	－	4	－		手動入力	小班T		基本仕様のみ
last_logging_area	直近施業面積(間伐・主伐)	直近伐採面積				9	ha	3	第2位		手動入力	小班T		基本仕様のみ
last_affrstation_type	直近施業種(造林・保育)	直近造林保育種				H	－	2	－	○	手動入力	小班T		基本仕様のみ
last_affrstation_year	直近施業実施年度(造林・保育)	直近造林保育年				9	－	4	－		手動入力	小班T		基本仕様のみ
last_affrstation_area	直近施業面積(造林・保育)	直近造林保育面積				9	ha	3	第2位		手動入力	小班T		基本仕様のみ
KeieiUmu	森林経営計画認定の有無コード	認定有無				H	－	2	－	○	手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T・出材T		基本・推奨
NinteiSyu	森林経営計画認定書の種類コード	認定書				H	－	2	－	○	手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T・出材T		基本・推奨
NityYM	森林経営計画認定年月	認定年月				D	－	－	－		手動入力/出材DBがあれば自動取得	小班T・出材T		基本・推奨
conecting_road	接続道路有無	接続道有無				H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
conecting_road_type	接続道路種類	接続道種類				H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
dealing_start_ymd	売買開始予定時期	売買開始時期			○	H	－	8	－		独自入力		●●●●年●●月	基本・推奨
dealing_finish_ymd	売買完了予定時期	売買完了時期			○	H	－	8	－		独自入力		●●●●年●●月	基本・推奨
payment_method	支払方法	支払方法				H	－	100	－		独自入力			基本・推奨
payment_terms	決済条件	決済条件				H	－	100	－		独自入力			基本・推奨
lincluding_land_or_not	土地込・無	土地込無			○	H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
demarcation	境界状況	境界状況				H	－	1	－	○	独自入力		複数ある場合はより高条件を選択	基本・推奨
consign_to_frst_owners_coop	森林組合委託の有無	組合委託有無				H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考				X	－	255	－		独自入力			基本・推奨

ア　　林齢データ時点

作成方法：データの作成時に自動取得

イ　　取引番号

内容　　：森林取引を管理するシステム内で、取引の対象となる山林を識別するための番号

作成方法：システム単位ごとに自動採番

ウ　　都道府県・市町村・旧市町村・大字・字・地番本番・地番支番

作成方法：地番 DB から該当する項目のデータを自動取得

データがない場合は独自入力

エ　　地目

作成方法：独自入力

オ　　林班・小班群・小班・小班枝番

作成方法：重なり面積の最も大きな小班の情報をそれぞれ代表値として手動入力

カ　　対象面積

内容　　：取引する森林の面積

作成方法：独自入力

キ　　林地所有者名　氏名・名称

内容　　：林地（土地）の所有者に関する情報

作成方法：地番 DB から該当する項目のデータを自動取得
データがない場合は独自入力

ク　　現に所有している者　氏名・名称

内容　　：森林簿・森林の土地所有者届出制度に基づく所有者情報・境界明確化事業等の各種事業などにより得られた、現に所有している者、所有者と見なされる者の情報

作成方法：地番 DB から該当する項目のデータを自動取得
データがない場合は独自入力

ケ　　立木所有者　氏名・名称

内容　　：立木の所有者に関する情報。

作成方法：地番 DB から該当する項目のデータを自動取得
データがない場合は独自入力

コ　　実質管理者　氏名・名称

内容　　：林地の所有者ではない、現地の実質的な管理者に関する情報。

作成方法：地番 DB から該当する項目のデータを自動取得
データがない場合は独自入力

サ　　林地所有者・現に所有している者・立木所有者・実施管理者　住所・電話番号

内容　　：各種所有者の住所・電話番号

作成方法：複数存在する場合は、代表者の住所・電話番号を最大 2 件まで入力

シ　　林地所有者・現に所有している者・立木所有者・実施管理者名カナ

作成方法：独自入力

ス　　直近施業種・実施年度・面積（間伐・主伐）

作成方法：森林資源情報および施業履歴情報を参考に、間伐または主伐施業のうち、直近のものを手動入力

コード表：施業種コードは次表の通り。施業履歴 DB と共通

コード	名称	略称
1	間伐(切捨)	切捨間
2	間伐(搬出)	搬出間
3	間伐(治山事業)	治山間
4	間伐(区分不明)	不明間
11	主伐(皆伐)	皆伐
12	主伐(択伐)	択伐

セ　直近施業種・実施年度・面積（造林・保育）

作成方法：森林資源情報および施業履歴情報を参考に、造林または保育施業のうち、直近のものを手動入力

コード表：施業種コードは次表の通り。施業履歴 DB と共通

21	造林	造林
31	下刈	下刈
32	除伐	除伐
33	つる切り	つる切
34	枝打	枝打
51	鹿ネット設置	鹿ネット
52	ツリーシェルター設置	シェルター

セ　森林経営計画認定の有無コード

内容　：当該レコードの小班（小班枝番）の森林経営計画の認定情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

ソ　森林経営計画認定者の種類コード

内容　：森林経営計画の認定者の情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	市町村長	市町村長
2	都道府県知事	知事
3	農林水産大臣	大臣

タ　森林経営計画認定年月

内容　：森林経営計画の認定年月を記載する。

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無
3	不明	不明

チ　　接続道路有無

内容　　：取引予定の森林に次項の「接続道路種類」に示す道路が接続されているかを示す。

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

ツ　　接続道路種類

内容　　：取引予定の森林に接続する道路の種類

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

接続道路種類		
	公道	
コード	道種	略称
1	高速自動車国道(有料)	高速有料
2	高速自動車国道(無料)	高速無料
3	その他国道(有料)	国道有料
4	その他国道(無料)	国道無料
5	都道府県道(有料)	県道有料
6	都道府県道(無料)	県道無料
7	市町村道(有料)	市道有料
8	市町村道(無料)	市道無料
9	農道	農道
10	その他公道	その他

	林業用路網	
コード	道種	略称
21	林道(基幹道)	基幹道
22	林道(管理道)	管理道
23	林道(施業道)	施業道
24	林業専用道	専用道
25	森林作業道	作業道
26	その他私設路網	その他

テ　　売買開始予定時期・売買完了予定時期

内容　　：森林を売る予定のユーザーが売買開始時期と完了時期

作成方法：独自入力

ト　　支払方法・決済条件

内容　　：森林を売る予定のユーザーが想定している支払方法および決済条件

作成方法：独自入力

ナ　　土地込・無

内容　　：森林を売る予定のユーザーが想定する売買形態が、立木のみか土地込みかを示す。

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	込	込
2	無	無

ニ　　境界状況

内容　　：境界の状況

作成方法：情報が複数ある場合は、より高条件のものを独自入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	地籍調査	地籍
2	境界明確化事業	境界測量
3	その他調査	他調査
4	地形上明確	地形
5	不明	不明

ヌ　　森林組合委託の有無

内容　　：取引対象森林を森林組合等に施業または経営委託しているかを示す。

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無
3	不明	不明

ネ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（２） 樹種テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	主キー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
deal_number	取引番号	取引番号	○	○	○	H	－	任意	－		システム単位ごとに自動採番		システム単位ごとに自動採番	基本・推奨
tree_species_number	樹種番号	樹種番号			○	H	－	2	－		自動採番		通し番号自動採番	基本・推奨
logging_planned_frst	計画的伐採対象森林の内外の別					H	－	1	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
layer_type	層区分	層区分			○	H	－	1	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
first_type	林種	林種			○	H	－	1	－	○	手動入力	樹種T		基本・推奨
tree_species	樹種	樹種			○	H	－	3	－	○	手動入力	樹種T		基本・推奨
area_of_each_species	樹種面積	樹種面積			○	9	ha	3	第2位		手動入力	樹種T		基本・推奨
culculating_method_of_each_area	樹種面積算定方法	面積算定法				H	－	1	－	○	手動入力	小班T		基本・推奨
frst_age	林齢	林齢			○	9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
average_tree_height	標準伐期齢	標準伐期				9	年	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
tree_height_assay_date	平均樹高	平均樹高			○	9	m	2	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
tree_height_assay_date	樹高査定年月日	樹高査定日				D	－	－	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
tree_height_assay_method	樹高査定方法	樹高査定法				H	－	1	－	○	手動入力	樹種T		基本・推奨
yield_table_based_volume	ha当たり査定材積－収穫表	ha材積収穫表				9	m3	4	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考				X	－	－	－		手動入力			基本・推奨

ア　取引番号

内容　：森林取引を管理するシステム内で、取引の対象となる山林を識別するための番号

作成方法：システム単位ごとに自動採番

イ　樹種番号

内容　：1 つの森林取引データ内に複数の樹種レコードを保有可能なデータベース構造とするため、各樹種レコードを識別するための番号

作成方法：1 つの森林取引データ内の樹種レコードに、1 から順に通し番号を自動採番

ウ　計画的伐採対象森林の内外の別

作成方法：森林資源情報を参考に手動入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	内	内
2	外	外

エ　層区分

作成方法：森林資源情報を参考に手動入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	上層木	上
2	下層木	下

オ　林種

作成方法：森林資源情報を参考に手動入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	人工林	J
2	天然林	T
3	伐採跡地	A
4	未立木地	M
5	竹林	B

カ　　樹種

作成方法：森林資源情報を参考に手動入力

コード表：次表の通り

市町村・林業事業体版の「中樹種」と共通のコード

コード	名称	略称
1	スギ	スギ
2	ヒノキ類	ヒノキ
3	マツ類	マツ
4	カラマツ	カラ
5	トドマツ	トド
6	エゾマツ	エゾ
7	その他N	N
8	クヌギ	クヌギ
9	ナラ類	ナラ
10	ブナ	ブナ
11	その他L	L
12	タケ	タケ

キ　　樹種面積

作成方法：森林資源情報を参考に手動入力

取引ごとに樹種レコードを作成し、面積歩合を設けないため直接樹種面積を入力する。

ク　　樹種面積算定方法

内容　　：樹種レコードごとの樹種面積の算定方法

作成方法：森林資源情報を参考に手動入力

コード表：次表の通り

市町村・林業事業体版森林資源情報の面積算定方法と共通のコード表

コード	名称	略称
1	台帳面積（森林簿）	台帳
2	GIS（林相図）	GIS
3	現地測量	現測
4	航空測量	航測
5	その他	他

ケ　　林齢・標準伐期齢

作成方法：森林資源情報を参考に手動入力

コ　　平均樹高・樹高査定年月日

作成方法：森林資源情報を参考に手動入力

サ　　樹高査定方法

内容　　：樹高の査定方法を示す項目

作成方法：森林資源情報を参考に手動入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	現地調査	現調
2	航空測量	航測
3	その他	他

シ　　ha 当たり査定材積―収穫表

内容　　：「林齢」・「樹種」・「相対地位」に基づき、各都道府県が調製した収穫予想表から推定される ha 当たり材積

作成方法：森林資源情報を参考に手動入力

ス　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

4.4.7 推奨仕様

（1） 森林取引テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	キー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
deal_number	取引番号	取引番号	○	○	○	H	－	6	－		システム単位ごとに自動採番			基本・推奨
target_area	対象面積	対象面積			○	9	ha	3	第2位		自動取得		地番面積の合計値を自動取得	基本・推奨
KeieiUmu	森林経営計画認定の有無コード	認定有無				H	－	2	－	○	手動入力	小班T		基本・推奨
NinteiSyu	森林経営計画認定者の種類コード	認定者				H	－	2	－	○	手動入力	小班T		基本・推奨
NtsYM	森林経営計画認定年月	認定年月				D	－	－	－		手動入力	小班T		基本・推奨
public_functions	公益的機能別施業森林等区分	公益的区分				H	－	1	－	○	小班ポリゴンとオーバーレイ	小班T	第1から第5まで持つこととする。	推奨仕様のみ
treatment_methods	公益的機能別施業森林等施業方法	公益的施業				H	－	1	－	○	小班ポリゴンとオーバーレイ	小班T	第1から第3まで持つこととする。	推奨仕様のみ
syohan_location	小班地利	小班地利				9	m	6	－		小班ポリゴンとオーバーレイ	小班T		推奨仕様のみ
syohan_inclination	小班傾斜	小班傾斜				9	°	2	－		小班ポリゴンとオーバーレイ	小班T		推奨仕様のみ
conecting_road	接続道路有無	接続道有無				H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
conecting_road_type	接続道路種類	接続道種類				H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
road_denshity	路網密度	路網密度				9	m/ha	3	－		独自入力			
passable_wheelbase_type	通行可能車両(ホイール系)車両区分	通行ホイル区分				H		1	－	○	手動入力	路網T		推奨仕様のみ
passable_wheelbase_type	通行可能車両(ホイール系)車種	通行ホイル車種				H		2	－	○	手動入力	路網T		推奨仕様のみ
input_ymd_of_wheelbase	通行可能車両(ホイール系)入力年月日	通行ホイル入力日				D			－		手動入力	路網T		推奨仕様のみ
passable_crawler_type	通行可能車両(クローラ系)車種	通行クロラ車種				H		2	－	○	手動入力	路網T		推奨仕様のみ
input_ymd_of_crawler	通行可能車両(クローラ系)入力年月日	通行クロラ入力日				D			－		手動入力	路網T		推奨仕様のみ
dealing_start_ymd	売買開始予定時期	売買開始時期			○	H	－	8	－		独自入力		●●●●年●●月	基本・推奨
dealing_finish_ymd	売買完了予定時期	売買完了時期			○	H	－	8	－		独自入力		●●●●年●●月	基本・推奨
payment_method	支払方法	支払方法				H	－	100	－		独自入力			基本・推奨
payment_terms	決済条件	決済条件				H	－	100	－		独自入力			基本・推奨
lincluding_land_or_not	土地込・無	土地込無			○	H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
demarcation	境界状況	境界状況				H	－	1	－	○	独自入力		複数ある場合はより高条件を選択	基本・推奨
consign_to_frst_owners_coop	森林組合委託の有無	組合委託有無				H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
mortage	抵当権の有無	抵当権有無				H	－	1	－	○	独自入力			推奨仕様のみ
subsidy	補助金の有無	補助有無				H	－	1	－	○	独自入力			推奨仕様のみ
last_year_of_subsidy_receipt	補助金直近受領年度	補助受領年				9	－	4	－		独自入力			推奨仕様のみ
water_right	水利権の有無	水利権有無				H	－	1	－	○	独自入力			推奨仕様のみ
right_of_use_frst_road	林道利用権の有無	利用権有無				H	－	1	－	○	独自入力			推奨仕様のみ
rare_species	希少種の有無	希少種有無				H	－	1	－	○	独自入力			推奨仕様のみ
remaining_building	残存建物・構築物の有無	構築物等有無				H	－	1	－	○	独自入力			推奨仕様のみ
need_of_animal_damage_control	獣害対策の必要性	獣害対策				H	－	1	－	○	独自入力			推奨仕様のみ
forestry_insurance	森林保険加入状況	保険加入状況				H	－	1	－	○	独自入力			推奨仕様のみ
percentage_of_lumber_log	製材用割合	製材割合				9	%	3	－		独自入力			推奨仕様のみ
percentage_of_plywood	合板用割合	合板割合				9	%	3	－		独自入力			推奨仕様のみ
percentage_of_pulp	パルプ用割合	パルプ割合				9	%	3	－		独自入力			推奨仕様のみ
percentage_of_biomass	バイオマス(燃料用)割合	バイオマス割合				9	%	3	－		独自入力			推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考				X	－	255	－		独自入力			基本・推奨

ア　　林齢データ時点

作成方法：データの作成時に自動取得

イ　　取引番号

内容　　：森林取引を管理するシステム内で、取引の対象となる山林を識別するための番号

作成方法：システム単位ごとに自動採番

ウ　　対象面積

作成に関するシステム要件：地番 T の地番面積の合計値を自動取得

エ　　森林経営計画認定の有無コード

内容　　：当該レコードの小班（小班枝番）の森林経営計画の認定情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無

オ　　森林経営計画認定者の種類コード

内容　　：森林経営計画の認定者の情報

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	市町村長	市町村長
2	都道府県知事	知事
3	農林水産大臣	大臣

カ　　森林経営計画認定年月

内容　　：森林経営計画の認定年月を記載する。

キ　　公益的機能別施業森林等区分・施業方法

作成に関するシステム要件：森林取引図（地番ポリゴン）と小班ポリゴンをオーバーレイし、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな林小班のデータを代表林小班の情報として取得する。

ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	水源涵養機能森林	S
2	災害防止･土壌保全機能森林	T
3	快適環境機能森林	K
4	保健文化機能森林	H
5	木材生産機能森林	M
6	その他森林機能森林	Z

コード	名称	略称
1	伐期延長森林	E
2	長伐期施業森林	B
3	複層林施業森林(択伐以外)	F
4	複層林施業森林(択伐)	P
5	特定広葉樹育成森林	I

ク　　小班地利・小班傾斜

作成に関するシステム要件：森林取引図（地番ポリゴン）と小班ポリゴンをオーバーレイし、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな林小班のデータを代表林小班の情報として取得する。

ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

ケ　　接続道路有無

内容　　：取引予定の森林に次項の「接続道路種類」に示す道路が接続されているかを示す。

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無
3	不明	不明

コ　　接続道路種類

内容　　：取引予定の森林に接続する道路の種類

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

接続道路種類		
	公道	
コード	道種	略称
1	高速自動車国道(有料)	高速有料
2	高速自動車国道(無料)	高速無料
3	その他国道(有料)	国道有料
4	その他国道(無料)	国道無料
5	都道府県道(有料)	県道有料
6	都道府県道(無料)	県道無料
7	市町村道(有料)	市道有料
8	市町村道(無料)	市道無料
9	農道	農道
10	その他公道	その他

	林業用路網	
コード	道種	略称
21	林道(基幹道)	基幹道
22	林道(管理道)	管理道
23	林道(施業道)	施業道
24	林業専用道	専用道
25	森林作業道	作業道
26	その他私設路網	その他

サ　　路網密度

作成方法：取引する森林内の路網（公道・林業用路網）の延長（m）を対象面積（ha）で除した値を独自入力する。

算出の基礎値となる路網延長の算出方法は標準仕様では定めない。

シ　　通行可能車両（ホイール系・クローラ系）　車両区分・車種

内容　　：路網 DB の推奨仕様と同様の項目

ホイール系は車両区分及び車種、クローラ系は車種の情報のみとする。

作成方法：路網情報を参考に手動入力

コード表：次表の通り

	コード	車両区分	コード	車種	略称
ホイール系	1	大型自動車	1	フルトレーラー	フルトレ
			2	セミトレーラー	セミトレ
			3	15tトラック	15t
			4	11tトラック	11t
	2	中型自動車	5	8tトラック	8t
	3	普通自動車	6	4tトラック	4t
			7	2tトラック	2t
			8	普通自動車（四駆）	普通
			9	軽トラック	軽トラ
	0	通行不能	0	通行不能	通行不能

	コード	車種	略称
クローラ系	21	0.70m3級	0.7
	22	0.45m3級	0.45
	23	0.25m3級	0.25
	24	0.20m3級	0.2
	20	通行不能	通行不能

ス　　通行可能車両（ホイール系・クローラ系）　入力年月日

作成方法：路網情報を参考に手動入力

セ　　売買開始予定時期・売買完了予定時期

内容　　：森林を売る予定のユーザーが売買開始時期と完了時期

作成方法：独自入力

ソ　　支払方法・決済条件

内容　　：森林を売る予定のユーザーが想定している支払方法および決済条件

作成方法：独自入力

タ　　土地込・無

内容　　：森林を売る予定のユーザーが想定する売買形態が、立木のみか土地込みかを示す。

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	込	込
2	無	無

チ　　境界状況

内容　　：境界の状況

作成方法：情報が複数ある場合は、より高条件のものを独自入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	地籍調査	地籍
2	境界明確化事業	境界測量
3	その他調査	他調査
4	地形上明確	地形
5	不明	不明

ツ　　森林組合委託の有無

内容　　：取引対象森林を森林組合等に施業または経営委託しているかを示す。

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無
3	不明	不明

テ　　抵当権の有無

内容　　：取引森林における抵当権の設定の有無

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

森林組合委託の有無等と共通のコード

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無
3	不明	不明

ト　　補助金の有無・補助金直近受領年度

内容　　：取引森林内の施業における補助金の受領の有無

作成方法：独自入力

補助金を受領している場合は、直近の年度を入力する。

なお、制限内容等、詳細な情報は標準仕様外とする。

コード表：次表の通り

森林組合委託の有無等と共通のコード

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無
3	不明	不明

ナ　　水利権の有無・林道利用権の有無

内容　　：取引森林における権利関係

施業を実施する上で制限がかかっていないかの判断に利用する。

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

森林組合委託の有無等と共通のコード

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無
3	不明	不明

ニ　　希少種の有無

内容　　：国の定める希少種の取引森林内における生息の有無

有の場合は、伐採が制限されることが想定されるが、制限内容については標準仕様外とする。

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

森林組合委託の有無等と共通のコード

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無
3	不明	不明

ヌ　　残存建物・構築物の有無

内容　　：取引森林内における建物・構築物の有無

有の場合の内容については標準仕様外とする。

コード表：次表の通り

森林組合委託の有無等と共通のコード

コード	名称	略称
1	有	有
2	無	無
3	不明	不明

ネ　　獣害対策の必要性

内容　　：取引森林内における獣害対策の必要性に関する項目

作成方法：対策の必要性をユーザーが判断し、独自入力する。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	必要	必要
2	不要	不要
3	不明	不明

ノ　　森林保険加入状況

内容　　：取引森林の森林保険加入状況

作成方法：独自入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	加入	加入
2	未加入	未加入
3	不明	不明

ハ　　製材用・合板用・パルプ用・バイオマス（燃料）用林地残材割合

内容　　：参考情報として、取引する森林内にある立木の品質を、製材用・合板用・パルプ用・バイオマス（燃料）用林地残材の４種類に区分して、それぞれの割合を示したもの。

作成方法：独自入力

ヒ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（２） 地番テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	キキー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
deal_number	取引番号	取引番号	○	○	○	H	―	6	―		システム単位ごとに自動採番			基本・推奨
prefectures_code	都道府県	都道府県			○	H	―	2	―	○	地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
city_code	市町村	市町村			○	H	―	4	―		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村			○	H	―	4	―		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
oaza_code	大字	大字			○	H	―	50	―		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
aza_code	字	字			○	H	―	50	―		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
honban	地番本番	地番本番			○	H	―	10	―		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
shiban	地番支番	地番支番			○	H	―	10	―		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
land_category	地目	地目			○	H	―	2	―		独自入力			基本・推奨
rinpan	林班	林班			○	H	―	4	―		手動入力	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
syohan_gun	小班群	小班群			○	H	―	2	―		手動入力	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
syohan	小班	小班			○	H	―	4	―		手動入力	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
syohan_eda	小班枝番	小班枝番			○	H	―	2	―		手動入力	小班T	複数ある場合は、最も面積の大きなもの	基本・推奨
chiban_area	地番面積	地番面積			○	9	ha	3	第2位	―	地番DBから自動取得	地番T		推奨仕様のみ
first_type_range	森林の種類範囲	種類範囲				H	―	1	―	○	地番DBから自動取得	地番T		推奨仕様のみ
first_type1	森林の種類1	森林種類1				H	―	2	―	○	地番DBから自動取得	地番T		推奨仕様のみ
first_type2	森林の種類2	森林種類2				H	―	2	―	○	地番DBから自動取得	地番T		推奨仕様のみ
first_type3	森林の種類3	森林種類3				H	―	2	―	○	地番DBから自動取得	地番T		推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	―	―	―	―	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考				X	―	255	―		手動入力			基本・推奨

ア　取引番号

内容　：森林取引を管理するシステム内で、取引の対象となる山林を識別するための番号

作成方法：システム単位ごとに自動採番

イ　都道府県・市町村・旧市町村・大字・字・地番本番・地番支番

作成方法：地番 DB から該当する項目のデータを自動入力
データがない場合は手動入力

ウ　地目

作成方法：独自入力

エ　林班・小班群・小班・小班枝番

作成方法：基本仕様では重なり面積の最も大きな小班の情報をそれぞれ代表値として手動入力する。

オ　地番面積

作成方法：地番 DB から該当する項目のデータを自動入力
データがない場合は手動入力

カ　森林の種類範囲・森林の種類

内容　：地番 DB から該当する項目のデータを自動入力
データがない場合は手動入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	全域制限林	全域
2	一部制限林	一部
3	制限林なし	無し

コード	名称	略称
01	普通林	普
11	水源かん養保安林	水かん
12	土砂流出防備保安林	土流
13	土砂崩壊防備保安林	土崩
14	飛砂防備保安林	飛砂
15	防風保安林	防風
16	水害防備保安林	水害
17	潮害防備保安林	潮害
18	干害防備保安林	干害
19	防雪保安林	防雪
20	防霧保安林	防霧
21	雪崩防止保安林	雪崩
22	落石防止保安林	落石
23	防火保安林	防火
24	魚つき保安林	魚つき
25	航行目標保安林	航行
26	保健保安林	保健
27	風致保安林	風致
30	保安施設地区	保施設
31	砂防指定地	砂防
41	国立公園特別地区	国公特
42	国立公園第1種特別地域	国公1
43	国立公園第2種特別地域	国公2
44	国立公園第3種特別地域	国公3
45	国立公園地区分未定地域	国公未
46	国立公園普通地域	国公普

コード	名称	略称
51	国定公園特別保護地区	国公保
52	国定公園第1種特別地域	国定1
53	国定公園第2種特別地域	国定2
54	国定公園第3種特別地域	国定3
55	国定公園地区分未定地域	国定未
56	国定公園普通地域	国定普
61	都道府県立自然公園第1種特別地域	県公1
62	都道府県立自然公園第2種特別地域	県公2
63	都道府県立自然公園第3種特別地域	県公3
64	都道府県立自然公園地区分未定地域	県公未
65	都道府県立自然公園普通地域	県公普
70	原生自然環境保全地域	原生
71	鳥獣保護区特別保護地区	鳥獣
72	都市計画区域風致地区	都市
73	特別母樹林	母樹
74	史跡名勝天然記念物	史跡
75	自然環境保全地区特別地区	自特
76	自然環境保全地区普通地区	自普
77	都道府県自然環境保全地域特別地区	県自特
78	都道府県自然環境保全地域普通地区	県自普
79	緑地保全地区	緑地
80	生息地等保護区内の管理地区	生管
81	生息地等保護区内の監視地区	生監
82	その他	他

キ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（３） 林地所有者テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	キキー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
deal_number	取引番号	取引番号	○	○	○	H	－	6	－		システム単位ごとに自動採番			基本・推奨
prefectures_code	都道府県	都道府県	○	○	○	H	－	2	－	○	地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	○	H	－	4	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	○	H	－	4	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
oaza_code	大字	大字	○	○	○	H	－	50	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
aza_code	字	字	○	○	○	H	－	50	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
honban	地番本番	地番本番	○	○	○	H	－	10	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
shiban	地番支番	地番支番	○	○	○	H	－	10	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
firstlandowner_number	林地所有者管理番号	林所有者番号	○	○	○	H	－	2	－	－	自動採番			推奨仕様のみ
firstlandowner_code	林地所有者CD	林所有者CD			○	H	－	11	－	－	手動入力	所有者T	前9桁ランダム＋後2桁都道府県コード 所有者Tの所有者CDを利用	推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨

ア　　取引番号

内容　　：森林取引を管理するシステム内で、取引の対象となる山林を識別するための番号

作成方法：システム単位ごとに自動採番

イ　　都道府県・市町村・旧市町村・大字・字・地番本番・地番支番

作成方法：地番 DB から該当する項目のデータを自動入力

データがない場合は手動入力

ウ　　林地所有者管理番号

内容　　：1 つの地番レコードにおいて、通し番号を付与して利用する。

作成方法：自動採番

エ　　林地所有者 CD

内容　　：都道府県版（推奨仕様）の所有者テーブルおよび市町村・林業事業体版（推奨仕様）の地番テーブルで利用する所有者 CD を利用する。

コード表：コードはシステム利用者内で、任意に作成する。

前 9 桁はランダム採番、最後の 2 桁は都道府県コード

オ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（4） 現に所有する者テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	キー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
deal_number	取引番号	取引番号	○	○	○	H	－	6	－		システム単位ごとに自動採番			基本・推奨
prefectures_code	都道府県	都道府県	○	○	○	H	－	2	－	○	地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	○	H	－	4	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	○	H	－	4	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
oaza_code	大字	大字	○	○	○	H	－	50	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
aza_code	字	字	○	○	○	H	－	50	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
honban	地番本番	地番本番	○	○	○	H	－	10	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
shiban	地番支番	地番支番	○	○	○	H	－	10	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
holder_number	現に所有している者管理番号	現所有者番号	○	○	○	H	－	2	－	－	自動採番			推奨仕様のみ
holder_code	現に所有している者CD	現所有者CD			○	H	－	11	－	－	手動入力	所有者T	前9桁ランダム＋後2桁都道府県コード 所有者Tの所有者CDを利用	推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨

ア　取引番号

内容　：森林取引を管理するシステム内で、取引の対象となる山林を識別するための番号

作成方法：システム単位ごとに自動採番

イ　都道府県・市町村・旧市町村・大字・字・地番本番・地番支番

作成方法：地番 DB から該当する項目のデータを自動入力

データがない場合は手動入力

ウ　現に所有している者管理番号

内容　：1 つの地番レコードにおいて、通し番号を付与して利用する。

作成方法：自動採番

エ　現に所有している者 CD

内容　：都道府県版（推奨仕様）の所有者テーブルおよび市町村・林業事業体版（推奨仕様）の地番テーブルで利用する所有者 CD を利用する。

コード表：コードはシステム利用者内で、任意に作成する。

前 9 桁はランダム採番、最後の 2 桁は都道府県コード

オ　更新データ時点

内容　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（５） 立木所有者テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	キキー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
deal_number	取引番号	取引番号	○	○	○	H	－	6	－		システム単位ごとに自動採番			基本・推奨
prefectures_code	都道府県	都道府県	○	○	○	H	－	2	－	○	地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	○	H	－	4	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	○	H	－	4	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
oaza_code	大字	大字	○	○	○	H	－	50	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
aza_code	字	字	○	○	○	H	－	50	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
honban	地番本番	地番本番	○	○	○	H	－	10	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
shiban	地番支番	地番支番	○	○	○	H	－	10	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
trees_owner_number	立木所有者管理番号	立木所有者番号	○	○	○	H	－	2	－	－	自動採番			推奨仕様のみ
trees_owner_code	立木所有者CD	立木所有者CD			○	H	－	11	－	－	手動入力	所有者T	前9桁ランダム＋後2桁都道府県コード 所有者Tの所有者CDを利用	推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨

ア　　取引番号

内容　　：森林取引を管理するシステム内で、取引の対象となる山林を識別するための番号

作成方法：システム単位ごとに自動採番

イ　　都道府県・市町村・旧市町村・大字・字・地番本番・地番支番

作成方法：地番 DB から該当する項目のデータを自動入力

データがない場合は手動入力

ウ　　立木所有者管理番号

内容　　：１つの地番レコードにおいて、通し番号を付与して利用する。

作成方法：自動採番

エ　　立木所有者 CD

内容　　：都道府県版（推奨仕様）の所有者テーブルおよび市町村・林業事業体版（推奨仕様）の地番テーブルで利用する所有者 CD を利用する。

コード表：コードはシステム利用者内で、任意に作成する。

前９桁はランダム採番、最後の 2 桁は都道府県コード

オ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（6） 実質管理者テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	キー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
deal_number	取引番号	取引番号	○	○	○	H	－	6	－		システム単位ごとに自動採番			基本・推奨
prefectures_code	都道府県	都道府県	○	○	○	H	－	2	－	○	地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
city_code	市町村	市町村	○	○	○	H	－	4	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
oldcity_code	旧市町村	旧市町村	○	○	○	H	－	4	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
oaza_code	大字	大字	○	○	○	H	－	50	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
aza_code	字	字	○	○	○	H	－	50	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
honban	地番本番	地番本番	○	○	○	H	－	10	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
shiban	地番支番	地番支番	○	○	○	H	－	10	－		地番DBから自動取得	地番T		基本・推奨
admin_number	実質管理者管理番号	実質管理者番号	○	○	○	H	－	2	－	－	自動採番			推奨仕様のみ
admin_code	実質管理者CD	実質管理者CD			○	H	－	11	－	－	手動入力	所有者T	前9桁ランダム＋後2桁都道府県コード 所有者Tの所有者CDを利用	推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨

ア　　取引番号

内容　　：森林取引を管理するシステム内で、取引の対象となる山林を識別するための番号

作成方法：システム単位ごとに自動採番

イ　　都道府県・市町村・旧市町村・大字・字・地番本番・地番支番

作成方法：地番 DB から該当する項目のデータを自動入力

データがない場合は手動入力

ウ　　実質管理者管理番号

内容　　：1 つの地番レコードにおいて、通し番号を付与して利用する。

作成方法：自動採番

エ　　実質管理者 CD

内容　　：都道府県版（推奨仕様）の所有者テーブルおよび市町村・林業事業体版（推奨仕様）の地番テーブルで利用する所有者 CD を利用する。

コード表：コードはシステム利用者内で、任意に作成する。

前 9 桁はランダム採番、最後の 2 桁は都道府県コード

オ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（7） 樹種テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	キー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
deal_number	取引番号	取引番号	○	○	○	H	－	6	－		システム単位ごとに自動採番		システム単位ごとに自動採番	基本・推奨
tree_species_number	樹種番号	樹種番号	○	○	○	H	－	2	－		自動採番		通し番号自動採番	基本・推奨
logging_planned_first	計画的伐採対象森林の内外の別					H	－	1	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
layer_type	層区分	層区分			○	H	－	1	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
first_type	林種	林種			○	H	－	1	－	○	手動入力	樹種T		基本・推奨
tree_species	樹種	樹種			○	H	－	3	－	○	手動入力	樹種T		基本・推奨
area_of_each_species	樹種面積	樹種面積			○	9	ha	3	第2位		手動入力	樹種T		基本・推奨
culculating_method_of_each_area	樹種面積算定方法	面積算定法				H	－	1	－	○	独自入力			基本・推奨
first_age	林齢	林齢			○	9	－	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
rotation_age	標準伐期齢	標準伐期				9	年	3	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
trees_count	ha当たり立木本数	ha本数				9	本	5	－		小班ポリゴンとオーバーレイ	樹種T		推奨仕様のみ
trees_count_date	ha当たり立木本数査定年月日	本数調査日				D	－	－	－		小班ポリゴンとオーバーレイ	樹種T		推奨仕様のみ
tree_height_assay_method	本数査定方法	本数査定法				H	－	1	－	○	小班ポリゴンとオーバーレイ	樹種T		推奨仕様のみ
average_tree_height	平均樹高	平均樹高			○	9	m	2	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
tree_height_assay_date	樹高査定年月日	樹高査定日				D	－	－	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
tree_height_assay_date	樹高査定方法	樹高査定法				H	－	1	－	○	手動入力	樹種T		基本・推奨
tree_height_assay_method	ha当たり査定材積－収穫表	ha材積収穫表				9	m3	4	－		手動入力	樹種T		基本・推奨
yield_table_based_volume	ha当たり査定材積－密度管理図	ha材積管理図				9	m3	4	－		小班ポリゴンとオーバーレイ	樹種T		推奨仕様のみ
average_dbh	平均胸高直径	平均直径				9	cm	3	－		独自入力			推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	－	－	－	－	自動取得			基本・推奨
remarks	備考	備考				X	－	－	－		手動入力			基本・推奨

ア　取引番号

内容　：森林取引を管理するシステム内で、取引の対象となる山林を識別するための番号

作成方法：システム単位ごとに自動採番

イ　樹種番号

内容　：1 つの森林取引データ内に複数の樹種レコードを保有可能なデータベース構造とするため、各樹種レコードを識別するための番号

作成方法：1 つの森林取引データ内の樹種レコードに、1 から順に通し番号を自動採番

ウ　計画的伐採対象森林の内外の別

作成方法：森林資源情報を参考に手動入力

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	内	内
2	外	外

エ　層区分・林種・樹種・樹種面積・林齢・標準伐期齢

作成に関するシステム要件：

森林取引図（地番ポリゴン）と小班ポリゴンをオーバーレイし、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、全ての小班の樹種情報を取得する。

この際に、同じ樹種であっても異なる林小班のデータは別データとして保有する。

ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

オ　樹種面積算定方法

作成に関するシステム要件：

森林取引図（地番ポリゴン）と小班ポリゴンをオーバーレイし、複数の小班

ポリゴンと重なる場合は、全ての小班の樹種情報の「面積算定方法」を樹種面積算定方法として取得する。
この際に、同じ樹種であっても異なる林小班のデータは別データとして保有する。
ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

カ　ha 当たり立木本数・査定年月日・ha 当たり査定材積－密度管理図

作成に関するシステム要件：

森林取引図（地番ポリゴン）と小班ポリゴンをオーバーレイし、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、全ての小班の樹種情報を取得する。
この際に、同じ樹種であっても異なる林小班のデータは別データとして保有する。
ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

キ　本数査定方法

作成に関するシステム要件：

森林取引図（地番ポリゴン）と小班ポリゴンをオーバーレイし、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、全ての小班の樹種情報を取得する。
この際に、同じ樹種であっても異なる林小班のデータは別データとして保有する。
ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	現地調査	現調
2	航空測量	航測
3	その他	他

ク　平均樹高・樹高査定年月日

作成方法：森林資源情報を参考に手動入力

ケ　樹高査定方法

内容　：樹高の査定方法を示す項目
作成方法：森林資源情報を参考に手動入力
コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	現地調査	現調
2	航空測量	航測
3	その他	他

コ　　ha 当たり査定材積―収穫表

内容　　:「林齢」・「樹種」・「相対地位」に基づき、各都道府県が調製した収穫予想表から推定される ha 当たり材積

作成方法：森林資源情報を参考に手動入力

サ　　平均胸高直径

作成方法：平均胸高直径を独自入力する。

シ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（８） 施業履歴テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	キキー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
deal_number	取引番号	取引番号	○	○	○	H	―	6	―		システム単位ごとに自動採番		システム単位ごとに自動採番	推奨仕様のみ
treatment_number	施業履歴番号	施業番号			○	9	―	2	―		自動採番		通し番号自動取得	推奨仕様のみ
treatment_type	施業種	施業種			○	H	―	2	―	○	施業履歴ポリゴンとオーバーレイ	施業履歴T	複数ある場合は、全てのレコードを入力	推奨仕様のみ
last_treatment_year	施業実施年度	施業年			○	H	―	4	―		施業履歴ポリゴンとオーバーレイ	施業履歴T	西暦年度で記載	推奨仕様のみ
treatment_area	施業面積	施業面積			○	9	ha	3	第2位		施業履歴ポリゴンとオーバーレイ	施業履歴T		推奨仕様のみ
deer_net_length	施業延長	施業延長				H	m	4	―		施業履歴ポリゴンとオーバーレイ	施業履歴T	施業が鹿ネット設置の場合のみ	推奨仕様のみ
the_number_of_treeshelter	施業総本数	施業総本数				9	本	5	―		施業履歴ポリゴンとオーバーレイ	施業履歴T	施業がツリーシェルター設置の場合のみ	推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	―	―	―	―	自動取得			基本・推奨

ア　　取引番号

内容　　：森林取引を管理するシステム内で、取引の対象となる山林を識別するための番号

作成方法：システム単位ごとに自動採番

イ　　施業履歴番号

内容　　：１つの小班（または小班枝番）または地番（本番・支番）で複数の施業が実施される場合に、これらを識別するための番号。

作成方法：同じ区画内において、１から順に通し番号を入れる。
この通し番号は、施業を実施し、ポリゴンデータを作成した順に入力する。

ウ　　施業種

作成に関するシステム要件：
森林取引図（地番ポリゴン）と施業履歴ポリゴンをオーバーレイし、複数の施業履歴ポリゴンと重なる場合は、全ての施業履歴の情報を取得する。
ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	間伐(切捨)	切捨間
2	間伐(搬出)	搬出間
3	間伐(治山事業)	治山間
4	間伐(区分不明)	不明間
11	主伐(皆伐)	皆伐
12	主伐(択伐)	択伐
21	造林	造林
31	下刈	下刈
32	除伐	除伐
33	つる切り	つる切
34	枝打	枝打
51	鹿ネット設置	鹿ネット
52	ツリーシェルター設置	シェルター

エ　　施業実施年度・施業面積・施業延長・施業総本数

作成に関するシステム要件：

森林取引図（地番ポリゴン）と施業履歴ポリゴンをオーバーレイし、複数の施業履歴ポリゴンと重なる場合は、全ての施業履歴の情報を取得する。
ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

オ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

（9） 所有者テーブル

フィールド名	エイリアス名	略称	キキー	必須	重要項目	データ型	単位	桁数	小数点	コード表	作成方法	情報参照先	備考	仕様区分
owner_code	所有者CD	所有者CD	○	○	○	H	－	任意	－		システム単位ごとに自動採番		システム単位ごとに自動採番	推奨仕様のみ
owner_name	所有者氏名･名称	氏名･名称			○	H	－	2	－		独自入力			推奨仕様のみ
absentee_holder	所有者の在村･不在村	在村			○	H	－	1	－		独自入力			推奨仕様のみ
owner_prefecture	所有者都道府県	所有者県			○	H	－	2	－	○	独自入力			推奨仕様のみ
owner_city	所有者市町村	所有者市			○	H	－	4	－		独自入力			推奨仕様のみ
owner_adress1	所有者住所1	所有者住所1			○	X	－	100	－		独自入力			推奨仕様のみ
owner_adress2	所有者住所2	所有者住所2				X	－	100	－		独自入力			推奨仕様のみ
owner_tel1	所有者電話番号1	所有者電話1			○	X	－	100	－		独自入力			推奨仕様のみ
owner_tel2	所有者電話番号2	所有者電話2				X	－	100	－		独自入力			推奨仕様のみ
updated_at	更新データ時点	更新時点				D	－	－	－	－	自動取得			推奨仕様のみ

ア　所有者 CD

内容　：都道府県版および市町村・林業事業体版標準仕様と共通のテーブル。
森林取引 DB の林地所有者 CD・立木所有者 CD・実質管理者 CD とそれぞれリンクする。

コード表：コードはシステム利用者内で、任意に作成する。
前 9 桁はランダム採番、最後の 2 桁は都道府県コード

イ　所有者名氏名・名称

作成方法：全角文字で氏名・名称を記載。1 地番レコードに複数の所有者名レコードが存在する場合は、ユーザーが適宜追加する。
（例：所有者 1、所有者 2）

ウ　所有者の在村・不在村

作成方法：各所有者が取引森林のある市町村に住んでいるかを入力する。

コード表：次表の通り

コード	名称	略称
1	在村	在村
2	不在村－都道府県内	不内
3	不在村－都道府県外	不外
4	不明	不明

エ　所有者都道府県・市町村

作成方法：総務省全国区地方公共団体コードの、それぞれ上 2 桁・下 4 桁を用いる。

オ　所有者住所

作成方法：代表となる 1 森林所有者につき、2 レコード入力可能とする。

カ　所有者電話番号

作成方法：代表となる 1 森林所有者につき、2 レコード入力可能とする。

キ　　更新データ時点

内容　　：ユーザーがデータ更新を行った年月日（例：2017 年 12 月 21 日）

作成・更新に関するシステム要件：

ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。

４.４.８ 森林取引情報の標準化に係るシステムの標準仕様

森林取引情報のデータ項目の標準化に係るシステムの標準仕様を抜粋し、次表に再掲する。

テーブル	対象項目	基本・推奨	要件
森林取引T	都道府県 市町村 旧市町村 大字・字 地番（本番・支番） 地目 代表林小枝番 森林の種類・範囲 所有者（林地・立木・実質管理者） 電話番号・住所	基本	地番DBから該当する項目のデータを取得する。 データがない場合は手動入力
森林取引T	林小班 公益的機能別施業森林等区分 公益的機能別施業森林等施業方法 森林経営計画 小班地利 小班傾斜	推奨	森林取引図（地番ポリゴン）と小班ポリゴンをオーバーレイし、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな林小班のデータを代表林小班の情報として取得する。 ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。
森林取引T	対象面積	基本	対象面積と樹種面積の合計値が異なる際に警告を表示する。
森林取引T	対象面積	推奨	対象面積は地番テーブルの地番面積の合計値を自動入力
地番T	地番面積 森林の種類範囲 森林の種類	推奨	地番DBから該当する項目のデータを取得する。 データがない場合は手動入力
樹種T	層区分 林種・樹種 樹種面積 林齢・標準伐期齢 本数・年月日・査定方法 樹高・年月日・査定方法 材積（収穫表・密度管理図）	推奨	森林取引図（地番ポリゴン）と小班ポリゴンをオーバーレイし、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、全ての小班の樹種情報を取得する。 この際に、同じ樹種であっても異なる林小班のデータは別データとして保有する。 ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。
樹種T	樹種面積算定方法	推奨	森林取引図（地番ポリゴン）と小班ポリゴンとオーバーレイし、当該樹種を含む小班の面積算定方法のデータを取得する。
施業T	施業種 施業実施年度 施業面積 施業延長 施業総本数	推奨	森林取引図（地番ポリゴン）と施業履歴ポリゴンをオーバーレイし、複数の施業履歴ポリゴンと重なる場合は、全ての施業履歴の情報を取得する。 ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

４．５ システムの標準仕様

４.５.１ データ作成に関するシステムの要件

本標準仕様における各データの作成に関して、各システムが最低限備えておくべき要件を整理して、標準仕様として定めた。

① 出材 DB

◎ 都道府県・旧市町村・市町村・大字・字・地番本番・地番支番（推奨）

- 出材ポリゴンと地番ポリゴンをオーバーレイしてデータを取得し、複数の地番ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の最も大きなポリゴンのデータを取得する。
- ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

◎ 合計材積・製材用材積・合板用材積・パルプ用材積・バイオマス（燃料）用材積

- 合計材積（独自入力）と各用途別の材積の合計値が異なっている際に警告を表示する。（ただし、数値が異なっていても運用は可能とする。）

◎ 合計材積（推奨）

- 出材材積テーブルの「出材材積」の合計値を自動入力する。

◎ 伐採樹種名・伐採樹種林齢

- 樹種名及び林齢は同じコード・数値のデータが別の番号のデータ項目に入力可能とする。
- これは樹種・林齢ごとに番号を分けて入力する運用を可能とするため。

◎ 伐採樹種名・伐採樹種林齢（推奨）

- 出材ポリゴンと小班ポリゴンをオーバーレイしてデータを取得し、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな順に５種類までデータを取得する。
- ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

◎ 年月

- 樹種別材積で管理し、年月を利用しないユーザーは「0000 年 00 月」と入力する。

◎ 樹種

- 月別材積で管理し、樹種を利用しないユーザーは「全樹種」と入力する。

◎ CSV

- 作成するレコードの中に,(カンマ)が含まれていたときに警告を表示する。CSV 出力の際に,で区切るためデータの中には含めないようにしないといけないため。

② 出荷地 DB

◎ 出材 DB と共通の項目

- 出材 DB と共通の項目については、同じ主キーの出材 DB のレコードの数値を自動入力する。
- 出材 DB がない場合、出材 DB と同じ作成方法を用いてデータを作成する。

◎ 都道府県・旧市町村・市町村・大字・字・地番本番・地番支番（推奨）

- 出材 DB があれば自動取得する。
- 出材 DB がない場合は、出荷地ポリゴンと地番ポリゴンをオーバーレイしてデータを取得し、複数の地番ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の最も大きなポリゴンのデータを取得する。
- ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

◎ 林班・小班群・小班・小班枝番（推奨）

- 出荷地ポリゴンと小班ポリゴンとをオーバーレイし、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな林小班のデータを代表値として取得する。
- ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

◎ 伐採樹種名・伐採樹種林齢

- 樹種名及び林齢は同じコード・数値のデータが別の番号のデータ項目に入力可能とする。
- これは樹種・林齢ごとに番号を分けて入力する運用を可能とするため。

◎ 森林経営計画の認定先（推奨）

- 出材 DB があれば自動取得する。
- 出材 DB がない場合は、出荷地ポリゴンと小班ポリゴンとをオーバーレイ

し、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな林小班のデータを代表値として取得する。

- ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

◎ 森林の種類（推奨）

- 出荷地ポリゴンと地番ポリゴンをオーバーレイし、複数の地番ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな順に 3 種類までデータを取得するものとする。
- ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

◎ バイオマスの種類

- 由来区分を入力するとバイオマスの種類が自動入力されることとする。
- 以下の通り自動入力される。
- 由来区分（間伐・経営計画・保安林・国有林）のいずれかが該当する場合は間伐材等由来の木質バイオマス
- 由来区分（その他）のみに該当する場合は、一般木質バイオマス
- 由来区分（無）のみに該当する場合は、その他のバイオマス

◎ CSV

- 作成するレコードの中に,(カンマ)が含まれていたときに警告を表示する。CSV 出力の際に,で区切るためデータの中には含めないようにしないといけな

③ 森林取引 DB

◎ 都道府県・市町村・旧市町村・大字・字・地番（本番・支番）・地目・代表林・小枝番・森林の種類・範囲・所有者（林地・立木・実質管理者）・電話番号・住所

- 地番 DB から該当する項目のデータを自動入力
- データがない場合は手動入力

◎ 林小班・公益的機能別施業森林等区分・公益的機能別施業森林等施業方法・森林経営計画・小班地利・小班傾斜（推奨）

- 森林取引図（地番ポリゴン）と小班ポリゴンをオーバーレイし、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、重なり面積の大きな林小班のデータを代表林小班の情報として取得する。
- ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

◎ 対象面積

対象面積と樹種面積の合計値が異なる際に警告を表示する。

◎ 対象面積（推奨）

- 対象面積は地番テーブルの地番面積の合計値を自動入力

◎ 地番面積・森林の種類範囲・森林の種類（推奨）

- 地番 DB から該当する項目のデータを自動入力
- データがない場合は手動入力

◎ 層区分・林種・樹種・樹種面積・林齢・標準伐期齢・本数・年月日・査定方法・樹高・年月日・査定方法・材積（収穫予想表・密度管理図）（推奨）

- 森林取引図（地番ポリゴン）と小班ポリゴンをオーバーレイし、複数の小班ポリゴンと重なる場合は、全ての小班の樹種情報を取得する。
- この際に、同じ樹種であっても異なる林小班のデータは別データとして保有する。
- ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

◎ 樹種面積算定方法（推奨）

- 森林取引図（地番ポリゴン）と小班ポリゴンとオーバーレイし、当該樹種を含む小班の面積算定方法のデータを取得する。

◎ 施業種・施業実施年度・施業面積・施業延長・施業総本数（推奨）

- 森林取引図（地番ポリゴン）と施業履歴ポリゴンをオーバーレイし、複数の施業履歴ポリゴンと重なる場合は、全ての施業履歴の情報を取得する。
- ただし取得した情報はユーザーにより編集可能とする。

◎ CSV

- 作成するレコードの中に,(カンマ)が含まれていたときに警告を表示する。
- CSV 出力の際に,で区切るためデータの中には含めないようにしないといけないため。

４.５.２ データ閲覧に関するシステムの要件

◎ PDF 出力

- PDF での出力を可能とする。

◎ 項目の選択

- 表示・出力する項目をユーザーが任意に選択することを可能とする。
  （重要項目であっても表示・出力しないことも可能とする）

◎ 伐採樹種名・伐採樹種林齢（出材 T・出荷地 T）

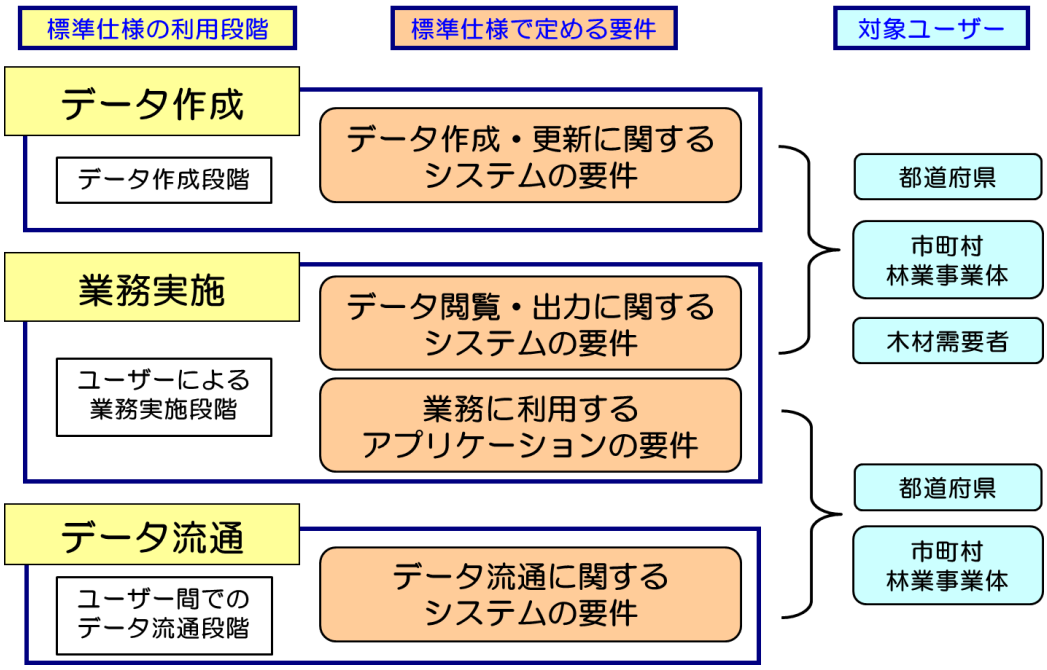
- 樹種名及び林齢において、それぞれ同じ番号のレコードを対応させて表示する。
- ただし、その表示方法は定めない。

第５章 システムの標準仕様

５．１ 概要

本標準仕様で作成されたデータの運用方法として、本仕様では「データ作成」「業務実施」「データ流通」の３つに大別し、それを実現する４つのシステムの最低限の機能要件を「システムの標準仕様」として記述している。

尚、本標準仕様において「システム」と記述する場合、森林情報を取り扱う「森林クラウドシステム」を念頭に置いているものの、スタンドアロン型の森林 GIS においても求められるシステムの仕様・要件は同様であると想定している。



５．２ データ作成・更新に関するシステムの要件

標準仕様で定めた各データの作成・更新に関するシステムの要件は都道府県版（第２章）、市町村・林業事体版（第３章）、木材需要者の求める森林情報（第４章）それぞれについて、基本仕様・推奨仕様に分けて各章内で記載されている。

データ作成・更新に関するシステムの要件として、本項では下記の内容について記載する。

（１） 各データの作成・更新に関するシステムの要件
（２） DB 間リンクの更新
（３） 年次更新
（４） データの管理運用

５.２.１ 各データの作成・更新に関するシステムの要件

各データの「作成・更新に関するシステムの要件」については、第２章～第４章において記載されている内容を参照願いたい。

５.２.２ DB 間リンクの更新

〇市町村・林業事業体版

① 森林資源 DB と地番 DB のリンクの更新（推奨仕様）

- 地籍調査の完了等、地番データに変更があった場合、森林資源 DB の大字、字、地番本番、地番支番を、地番レイヤとのオーバーレイにより、最も面積の重なりが大きい情報に更新する。
- 年次更新や独自区分等により、林小班データに変更があった場合、地番 DB の林班、小班群、小班、小班枝番を、森林資源レイヤとのオーバーレイにより、最も面積の重なりが大きい情報に更新する。

② 施業履歴 DB とベースマップ間のリンクの更新（推奨仕様）

- ベースマップが森林資源レイヤで林小班データに変更があった場合、施業履歴 DB の林班、小班群、小班、小班枝番を、森林資源レイヤとのオーバーレイにより、最も面積の重なりが大きいデータに更新する。
- ベースマップが地番レイヤで地番データに変更があった場合、施業履歴 DB の大字、字、地番本番、地番支番を、地番レイヤとのオーバーレイにより、最も面積の重なりが大きいデータに更新する。

５.２.３ 年次更新

〇森林資源情報（市町村・林業事業体版）

◎ 林齢更新

- 年次更新時に、林齢を１加えた値に自動更新する。

◎ 樹高成長

- 更新された「林齢」と「相対地位」（基本仕様・推奨仕様）、又は「絶対地位」（推奨仕様のみ）により、樹高を再計算し、自動更新する。

◎ 材積の再算定

- （基本仕様・推奨仕様）
  林種が人工林の場合、「相対地位」と「林齢」より、収穫予想表に基づいて ha 当たり材積を算定し、「 ha 当たり査定材積－収穫予想表」を自動更新する。
- （推奨仕様のみ）

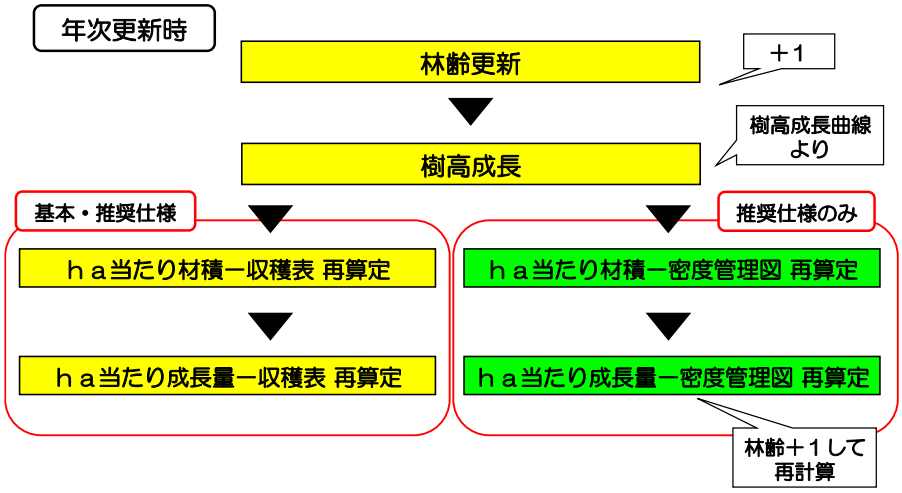
成長させた「樹高」と「ha 当たり本数」、「樹種」より、密度管理図に基づいて ha 当たり材積を算定し、「ha 当たり査定材積－密度管理図」を自動更新する。

◎ 成長量の再算定

- （基本仕様・推奨仕様）
  林種が人工林の場合、材積と同様、「相対地位」と「林齢」より、収穫予想表に基づいて ha 当たり成長量を算定し、「ha 当たり査定成長量－収穫予想表」を自動更新する。

（推奨仕様のみ）

「ha 当たり査定成長量－密度管理図」は 1 年後の（林齢を 1 加えた場合の）材積を計算し、現在の材積との差を自動更新する。



５.２.４ データの管理運用

データの管理運用については、下記の要件を定める。

- クラウド運用管理側がどのようにデータを管理したのか、トレーサビリティの観点から明らかにできるよう、セキュリティガイドラインに示すとおりアクセスログを管理すること。
- データの更新時には、更新前データベースのバックアップデータをとること。更新頻度は各主体で定めるものとする。
- システムは、必要な場合にバックアップデータ内容を復元することが可能であること。

５．３ データ閲覧・出力に関するシステムの要件

作成した各種数値データ・地図データを閲覧及び出力をする際に、利用するシステム（主に GIS）に対して求められる要件を整理し、標準仕様として示す。

５.３.１ データ閲覧における要件

◎ 表示機能

（市町村・林業事業体版）

- デフォルトで、ベースマップ、森林基本図、路網レイヤを表示する。
- ベースマップが森林資源レイヤの場合、森林資源レイヤの任意のポリゴンを選択すると、
  ・選択箇所の森林資源 DB の各数値データ
  が全て表示される。
- 同様、推奨仕様では、
  ・選択箇所の森林資源 DB の各数値データ
  ・リンクする地番 DB の各数値データ
  ・リンクする施業履歴 DB の各数値データ
  が全て表示される。
- ベースマップが地番レイヤの場合、地番レイヤの任意のポリゴンを選択すると、
  ・選択箇所の地番 DB の各数値データ
  が全て表示される。
- 同様、推奨仕様では、
  ・選択箇所の地番 DB の各数値データ
  ・リンクする森林資源 DB の各数値データ
  ・リンクする施業履歴 DB の各数値データ
  が全て表示される。
- ベースマップが森林資源レイヤの場合、林班、小班群、小班、小班枝番をデフォルトでラベル表示する。
- ベースマップが地番レイヤの場合、大字、字、地番本番、地番支番をデフォルトでラベル表示する。

（都道府県版／市町村・林業事業体版共通）

- 施業履歴レイヤは、同一箇所に複数の履歴が重なる場合、最新の履歴が一番上となるように表示する。
- 路網レイヤは道種（公道・林道・林業専用道・森林作業道）により、表示を変更可能とする。
- 表示するラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。

- ユーザーが設定した表示形式は、保存可能とする。

◎ 検索機能

（都道府県版／市町村・林業事業体版共通）

- 各 DB に内包する項目ごとに、検索を可能とする。
- 検索結果は色塗り表示等により、識別できる様にする。
- 検索・選択箇所の属性情報を、閲覧可能とする。
  ただし、利用ユーザーにより閲覧可能な属性情報を制限する。
- 森林資源 DB における 1 小班レコードに、複数の樹種レコードが含まれる場合、最も面積の大きい樹種レコードの情報に基づいて主題図が作成される。ラベル表示も同様とする。

５.３.２ 地図データの印刷・出力における要件

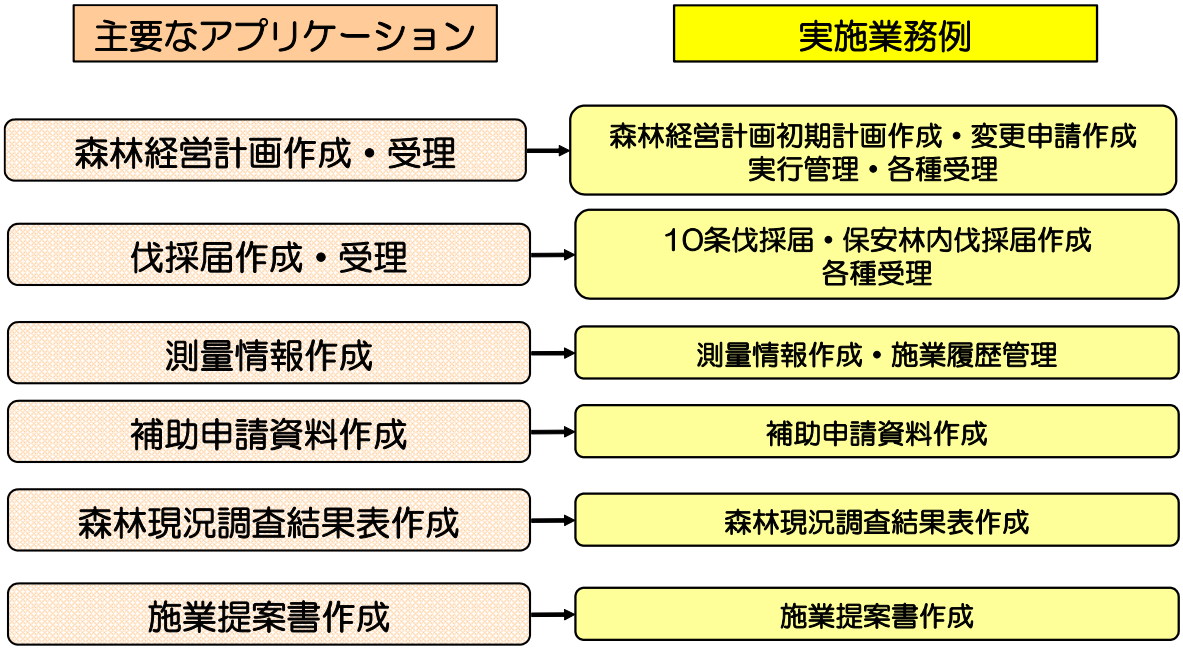
- 印刷・データ出力に関するプレビュー機能を保有する
- 自由縮尺による印刷・データ出力を可能とする。
- 印刷の際に、縮尺・凡例・任意テキストを付加可能とする。
- 検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。
- データ出力形式は、PDF 形式、JPEG 形式の他、シェープファイル形式、GML 形式での出力を可能とする。
  なお、GIS が扱う地図形式は任意とするが、シェープファイル形式と GML 形式の入出力は可能とする。

以上のデータ閲覧・出力に関するシステムの各要件を、一覧にて取りまとめたものを以下に示す。

区分	項目	内容区分	内容
必須	ベースマップ	表示方法	◎デフォルトで、ベースマップ、基本図、路網レイヤを表示する。 ◎ベースマップが林相レイヤの場合、林相レイヤを選択すると、「選択箇所の森林資源DBの各属性データ」が全て表示される。
推奨	ベースマップ	表示方法	◎ベースマップが林相レイヤの場合、林相レイヤを選択すると、「選択箇所の森林資源DBの各属性データ」「リンクする地番DBの各属性データ」「リンクする施業履歴DBの各属性データ」が全て表示される。 ◎ベースマップが地番レイヤの場合、地番レイヤを選択すると、「選択箇所の地番DBの各属性データ」「リンクする森林資源DBの各属性データ」「リンクする施業履歴DBの各属性データ」が全て表示される。
必須	地図表示機能	表示方法	◎ベースマップが林相レイヤの場合、林班・小班群・小班・小班枝番をデフォルトで表示する。 ◎ベースマップが地番レイヤの場合、大字・字・地番本番・地番支番をデフォルトで表示する。 ただし、森林所有者情報の表示・閲覧は、ユーザー権限で管理する。 ◎施業履歴レイヤは、同一箇所に複数の履歴が重なる場合、最新の履歴が一番上となるように表示する。 ◎路網レイヤは、道種（公道・林道・林業専用道・森林作業道）により、表示を変える。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能と
必須	検索機能	検索方法	◎各DBの項目毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所の属性情報を閲覧可能とする。ただし、利用ユーザーにより閲覧可能な属性情報を制限可能にする。 ◎1小班レコードに複数の樹種レコードが含まれる場合、もっとも面積の大きい樹種レコードの情報に基づいて主題図が作成される。ラベル表示も同様とする。
必須	地図の印刷・データ出力	出力方法	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 （なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。）

５．４ 業務に利用するアプリケーションの要件

標準仕様にて作成したデータを利用して、ユーザーが各種業務を遂行するためのアプリケーションに求められる機能要件を整理して、標準仕様として示す。



５.４.１ アプリケーションが利用する DB

	都道府県版森林資源情報	森林資源DB	地番DB	施業履歴DB	路網DB
森林経営計画作成・受理	●	●	●	●	●
伐採届作成・受理	●	●	●		
測量情報作成	●	●	●		
補助申請資料作成	●	●	●	●	●
森林現況調査結果表作成	●	●	●		
施業提案書作成	●	●	●	●	●

Copyright © 2021 森林 GIS フォーラム

５.４.２ 機能概要

◎ 申請作成業務アプリ共通（森林経営計画・伐採届・補助申請）

- 入力するデータを、都道府県版森林情報（または市町村・林業事業体版森林情報）から選択する。
- 事前に各申請様式の入力項目と DB 項目の対応を設定しておき、様式のキーとなる項目を手動入力すれば、他の項目が自動入力される。
- 各申請書は、PDF 形式での出力を可能とする。
- 地図情報を電子データで提出する場合、数値情報を併せて提出する。
- 写真を添付する必要のある申請の場合、ジオタグつきの Exif 形式の写真ファイルに対応する。

◎ 申請受理業務アプリ共通（経営計画・伐採届・造林補助申請）

- 電子申請する場合、受理の際に申請者へ通知をする。
- 受理した申請書データは、申請日ごとに保存する。
- 各申請書は、PDF 形式での出力を可能とする。

◎ 森林経営計画作成・受理アプリ

- 任意の時点での計画・実行状況の閲覧を可能とする。
- 計画の随時変更・追加・削除を可能とする。
- 計画の変更・追加・削除が反映された生きた計画のデータを抽出可能とする。
- 標準仕様 DB を参照し、効率的な計画の立案を支援する

◎ 伐採届作成・受理アプリ

- 事前に各申請様式の入力項目と DB 項目の対応を設定しておき、様式のキーとなる項目を手動入力すれば、他の項目が自動入力される。

◎ 測量情報作成アプリ

- 測量データを、GIS へ取り込み可能な形式で出力する。
- 測量情報は、表計算ソフト形式での出力を可能とする。
- 過去の測量成果を利用して、再度測量出来るようにする。
  この場合、データを部分的に再利用可能とする。
- コンパスで現地測量した情報は、磁北の影響を調整しなければならない場合があるが、これを自動調整もしくは、表計算ソフトでの調整を可能とする。

Copyright © 2021 森林 GIS フォーラム

◎ 森林現況調査結果表作成アプリ

- 現地の写真を選択して、取り込める様にする。
- 運用上、森林資源 DB に現地調査結果を入力している場合は、DB からアプリのデータリンクを可能とする。ただし胸高直径は現地調査成果を当アプリに手動入力する。

◎ 施業提案書※作成アプリ

- 森林の現況情報、及び現地写真は、森林現況調査結果表と共用する。
- 提案した金額は、見積りシステムと連動可能とする。
- 入力箇所の数値を変更することで、即時に見積り金額が変更される。

※施業提案書

- 林業事業体及び、一部では市町村から森林所有者に示される提案書
- 内容としては、
  - ・森林現況・現地写真
  - ・施業内容説明
  - ・出材数量予測（木材の搬出が伴う場合）
  - ・施業費用
  - ・補助金入金予定額　　等がある。
- 提案書は、経営計画作成前及び施業実施前、もしくはその両方で提示する場合がある。

以上の業務に利用するアプリケーションの各要件を、一覧にて取りまとめたものを以下に示す。

区分	項目	内容区分	内容
必須	申請作成業務アプリ共通	データ入力	◎入力するデータを、都道府県版森林情報（または市町村・林業事業体版森林情報）から選択する。 ◎キーとなる項目を手動入力すれば、各DBに格納されている項目は、各申請書様式に合わせて自動入力される。そのために、事前に各様式の項目に入力すべきDBの項目を設定しておく。
必須	申請作成業務アプリ共通	データ出力	◎各申請書は、PDF形式での出力を可能とする。 ◎地図情報を電子データで提出する場合、数値属性を併せて提出する。 ◎写真を添付する必要のある申請の場合、ジオタグつきのExif形式の写真ファイルに対応する。
必須	申請受理業務アプリ共通	通知	◎電子申請する場合、受理の際に申請者へ通知をする。
必須	申請受理業務アプリ共通	データ入力	◎受理した申請書データは、申請日毎に保存する。
必須	申請受理業務アプリ共通	データ出力	◎各申請書は、PDF形式での出力を可能とする。
必須	森林経営計画作成・受理アプリ	データ検索	◎任意の時点で、計画の変更・追加・削除が反映されたデータを抽出可能とする。
必須	森林経営計画作成・受理アプリ	システム実行	◎計画の作成・変更・実行管理を、1つのシステムで処理する。
必須	伐採届作成・受理アプリ	システム実行	◎保安林関連の各種申請を、1つのシステムで処理する。
必須	測量情報作成アプリ	データ入力	◎測量データを、GISが取り込み可能な形式で出力する。
必須	測量情報作成アプリ	データ出力	◎測量情報は表計算ソフトでの出力を可能とする。 ◎以前測量した点を利用して、再度測量出来るようにする。
必須	測量情報作成アプリ	データ編集	◎コンパスで現地測量した情報は、磁北の影響を調整しなければならない場合がある。 これを自動調整もしくは、表計算ソフトでの調整を可能とする。
必須	森林現況調査結果表作成アプリ	データ入力	◎現地の写真を選択して、取り込む。 ◎運用上、現地調査結果から直接森林資源DBに結果を反映している場合は、そのDBからデータを自動入力する。ただし直径は現地調査成果から手動入力となる。
必須	施業提案書作成アプリ	システム間連携	◎森林の現況情報および、現地写真は、森林現況調査結果表と連動させる。 ◎提案した金額は、見積もりシステムと連動させる。
必須	施業提案書作成アプリ	データ入力	◎入力箇所の数値を変更することで、即時に見積もり金額が変更される。

５．５ データ流通に関するシステムの要件

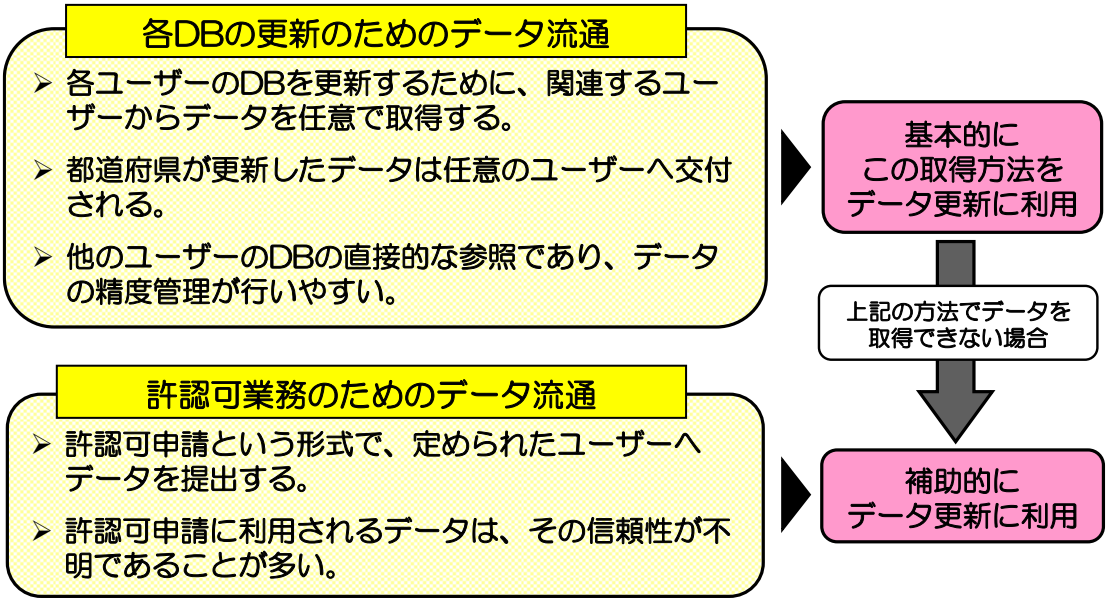
作成した各データを他のユーザーへ提供する方法は、その目的の違いにより大きく二つに区分できる。一つは受理するユーザーが提供されたデータを基に DB を更新することを目的としたデータ提供であり、もう一つは許認可業務のためのデータ提供である。

基本的には、前者のデータ流通により、各ユーザーがデータを取得し、データ更新することが望ましい。

しかし、現状では、この方法でデータを流通させることができるのは、ごく一部のユーザーに限られている。

そのため、前者の方法でデータを流通できない場合に、補助的に、後者の方法を用いることが想定される。

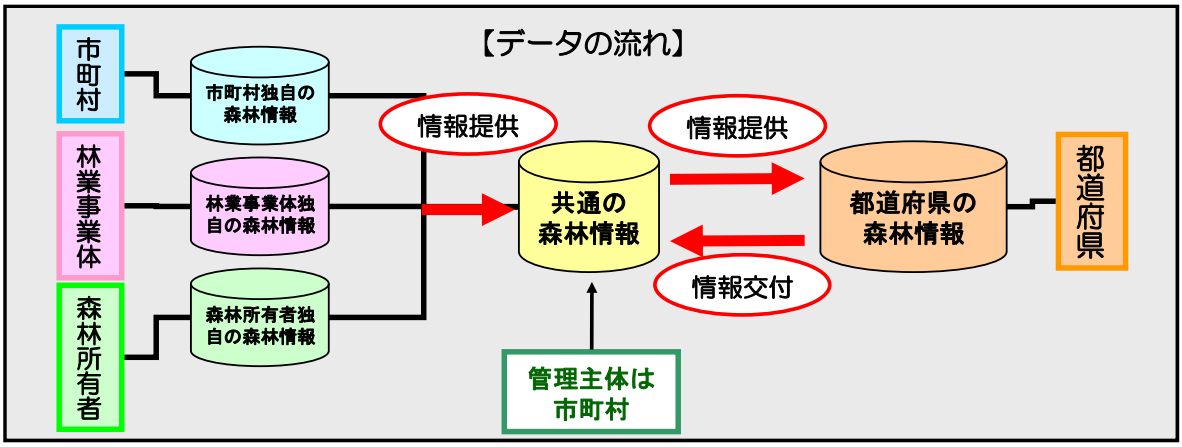
この二つの流通方法について、それぞれ整理した。



５.５.１ 各 DB の更新のためのデータ流通

各 DB を更新するために実施するデータ提供の流れは、今回、以下の図を想定した。

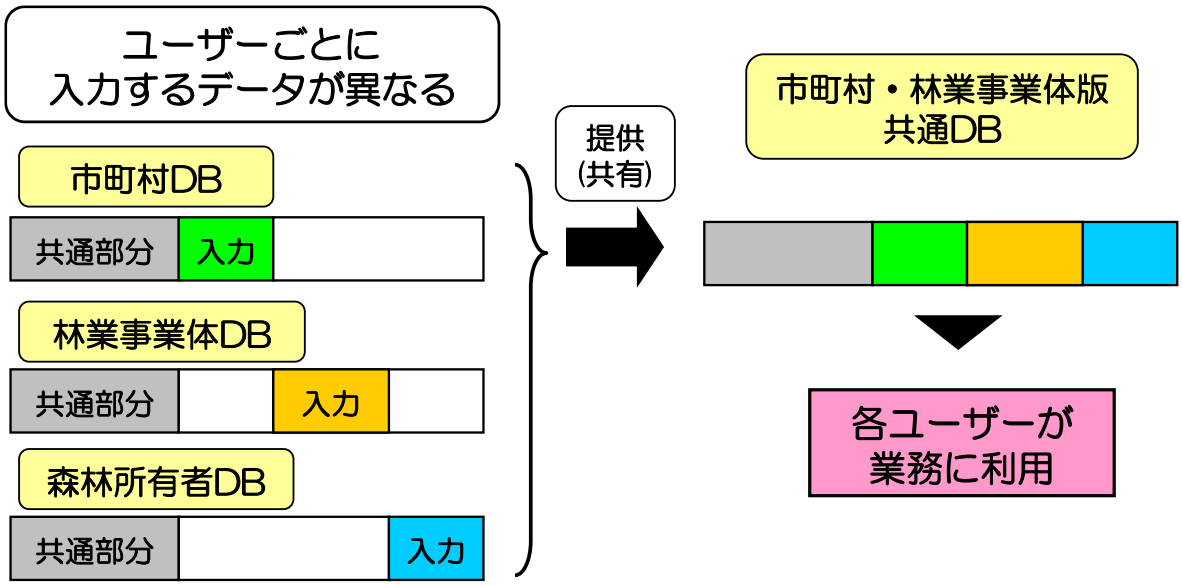
このそれぞれのユーザー間のデータ流通に関するデータ形式、ならびに、DB を更新する際に必要となるシステム要件について整理して、標準仕様として示した。



① ユーザー間のデータ流通に対応するデータ形式

◎ 各ユーザー（市町村・林業事業体・森林所有者）と市町村・林業事業体共通間のデータ流通

- 市町村、林業事業体、森林所有者においては、前述した市町村・林業事業体版標準仕様で定めた DB を利用する。これはユーザーが異なっていても、同一の形式の DB となる。
- ユーザーにより、入力可能なデータが異なることがある。
  例えば、市町村であれば、森林所有者に関する情報、路網情報等が更新可能であり、林業事業体であれば、森林資源情報、施業履歴情報等がある。
  自身で入力不可能な項目については、空欄のままとなる。
- 各ユーザーが一部入力された状態の DB を、共通の DB に提供し、更新することで、多くのデータ項目が入力済みの DB が作成される。
- 作成された DB を、各ユーザーが各業務に利用する。



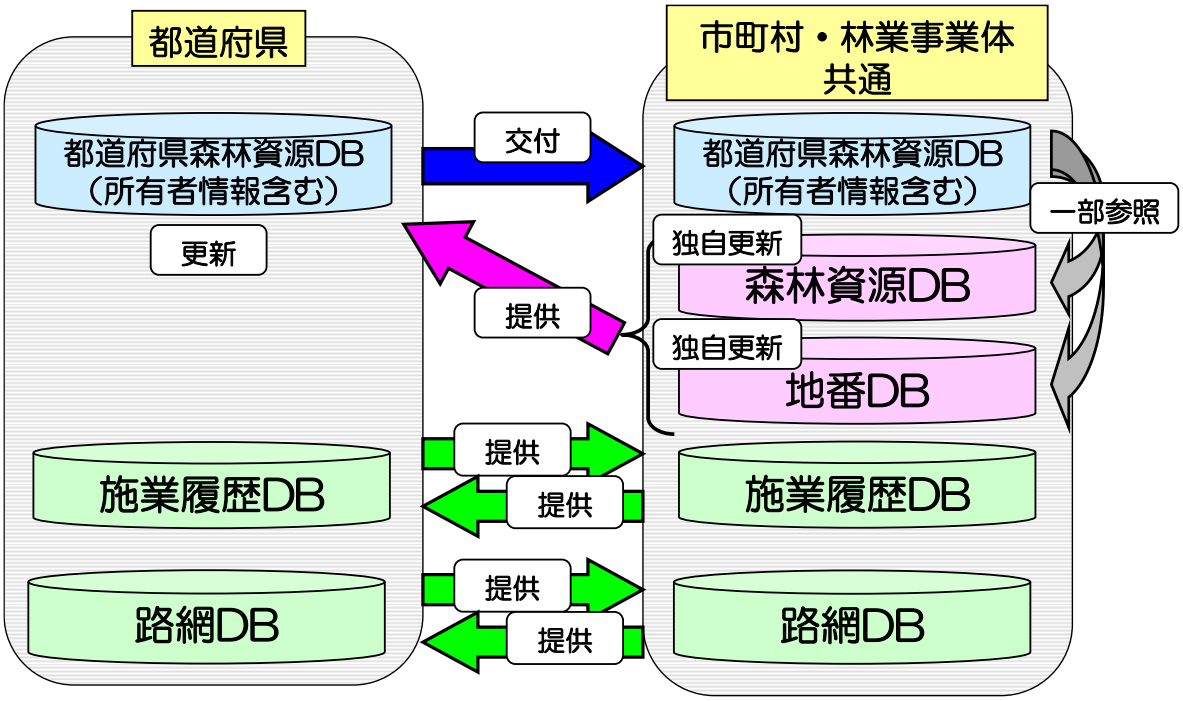
◎　市町村・林業事業体と都道府県間のデータ流通

＜森林資源 DB・地番 DB＞

- 市町村・林業事業体（・森林所有者）が、市町村・林業事業体共通の森林資源 DB と地番 DB を維持管理し、これを都道府県に提供する。
- 都道府県はこのデータを基に、都道府県森林資源 DB を更新し、改めてこの更新した DB を、市町村・林業事業体共通の各 DB に交付する。
- この際に、都道府県森林資源 DB と市町村・林業事業体共通の森林資源 DB・地番 DB は、それぞれ DB の形式は異なるものの、双方向のデータ流通は可能な構造としている。

＜施業履歴 DB・路網 DB＞

- 施業履歴 DB と路網 DB は都道府県と市町村・林業事業体共通とで、同一の DB 形式となっている。そのため、双方向のデータ流通は可能である。



② 他ユーザーから取得したデータによる DB の更新に関する要件

◎ データ提供の時期

- 都道府県へのデータ提供は、各ユーザーから市町村・林業事業体共通データベースに情報を一度共有した後に実施する。＜運用＞
- データの共有・提供の時期はユーザーが任意に定めるが、最低年に一度は実施する。＜運用＞
- 「更新データ時点」は、データの「更新した時期」であるため、データ提供ユーザーから併せて「林齢データ時点」項目も取得し、両者を区別して更新する。＜要システム対応＞

◎ 提供データの選択

- 他ユーザーへ提供（共有）する際に、ユーザーが提供を望まないデータを任意に選択することを可能にする。＜要システム対応＞
- 各ユーザーから提供された共有データへ、他ユーザーがアクセスする場合は、利用権限にてデータアクセスを管理する。＜要システム対応＞

◎ データの信頼性

- データの一部を提供する場合には、データの精度を示すデータ項目（査定方法・データ取得方法等）を併せて提供する。＜運用＞
- 同じデータ項目についてデータが複数のユーザーから提供された場合、より精度が高く、より新しいデータを採用する。＜運用＞

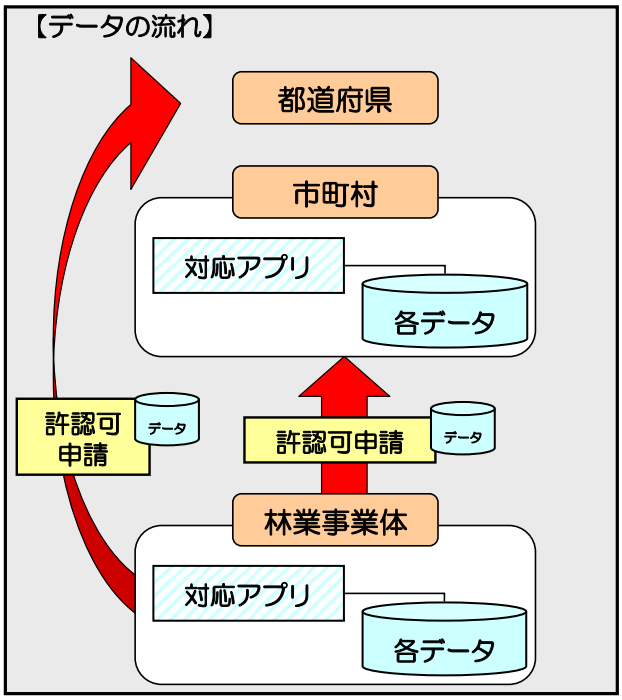
◎ 区画

- 他ユーザーから取得した地図データは、独自区分により区画が異なる場合があるため、あらかじめ区画を確認する。＜運用＞
- 区画が異なる場合は、区画を変更した後に、提供されたデータを基に各種数値属性を更新する。＜運用＞

５.５.２ 許認可業務のためのデータ流通

許認可業務のためのデータ流通では、以下の図のようなデータの流通を想定した。

許認可申請を通したデータの提供において、各申請に利用するデータを明示した上で、提供されるデータにより、DB を更新する際の留意点を整理して、標準仕様として示した。



① 各申請に利用するデータ

	都道府県版森林資源情報	森林資源DB	地番DB	施業履歴DB	路網DB
森林経営計画（林業事業体→市町村）	●	●	●	●	●
伐採届（林業事業体→市町村）	●	●	●		
保安林各種届（林業事業体→都道府県）	●	●	●		
（造林）補助申請（林業事業体→都道府県）	●	●	●		●
森林所有者届（林業事業体→市町村）	●		●		

② 申請情報反映時の留意点

◎ データの精度

- 申請情報のみでは、申請者がどのような方法でデータを取得したか判断できないため、受理者が自身のデータを更新するときは、精度が低くても問題がない項目のみ更新する。＜運用＞

◎ 申請データによる更新

- 申請データをデータ更新に利用する際、各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、選択的にデータを更新する。
  ＜要システム対応＞
- 更新時の年月日は「更新データ時点」に入力する。
  「林齢データ時点」と「更新データ時点」は区別する。＜運用＞

以上のデータ流通に関するシステムの各要件を、一覧にて取りまとめたものを以下に示す。

仕様区分	項目	内容区分	内容区分 詳細	内容
基本・推奨	更新データ時点	データ流通	データ流通	◎「更新データ時点」は、データの「更新した時期」であるため、データ提供ユーザーから併せて「林齢データ時点」項目も取得し、両者を区別して更新する。
基本・推奨	提供データの選択	データ流通	データ流通	◎他ユーザーへ提供（共有）する際に、ユーザーが提供しないデータを任意に選択することを可能にする。 ◎各ユーザーから提供された共有データへ、他ユーザーがアクセスする場合は、利用権限にて管理する。
基本・推奨	データ更新	データ流通	データ流通	◎申請データをDB更新に利用する際、各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データをもとに、選択的にデータを更新することを可能にする。

５．６ データ・機能別システム要件一覧

本標準仕様で定めた各システム要件を、以下に示すシステムの機能と関係するデータの種類により分類した。

これにより、各システム要件がどの場面で必要となるのかを、明確に把握することが可能となる。

◎ システムの機能

データの作成・更新・閲覧・出力・流通

◎ 関係するデータの種類

小班テーブル（T）/林相図 ・ 樹種 T/林相図 ・ 地番 T/地番図

所有者 T/地番図 ・ 施業履歴 T/施業履歴図 ・ 路網 T/路網図

なお、システム要件は都道府県版／市町村・林業事業体版、標準仕様／推奨仕様とで異なるため、本一覧表も都道府県版／市町村・林業事業体版で標準仕様と推奨仕様とをそれぞれ定める。

①　都道府県版／基本仕様

	作成		更新		閲覧		出力		流通	
	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
小班T/林相図	林齢データ時点	◎年次更新を行った際に、自動で一年繰り上がる。	林齢データ時点	◎年次更新を行った際に、自動で一年繰り上がる。	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎林班・小班群・小班・小班枝番をデフォルトでラベル表示する。 ◎レイヤを選択すると、 選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 （なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。）	更新データ時点	◎「更新データ時点」は、データの「更新した時期」であるため、データ提供ユーザーから併せて「林齢データ時点」項目も取得し、両者を区別して更新する。
	林班・小班・枝番	◎変更すると不都合が生じる等、運用上避けられない場合は、属する都道府県の区分に合わせて名称を変更することを可能とする。ただし概念は変えない。 ◎小班が小班群（準林班）、施業番号などが小班（枝番）を意味している場合は、小班ー小班群、施業番号ー小班、施業番号枝番ー小班枝番に変換する。 ◎管理方法が「林班ー地番ー地番枝番」となっている場合は、地番ー小班、地番枝番ー小班枝番に変換する。	更新データ時点	◎データを入力・更新する際に自動入力される。	主題図表示	◎DBの各属性データでレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供（共有）する際に、提供をしないデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	森林所有者	◎小班テーブルの中に含める。 ◎コード化しない。			一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量（合計・平均等）を算出可能とする。			受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	公益的機能別施業森林等区分	◎1つの小班（または小班枝番）に複数の制限林が指定されている場合があるが、5つまで入力を可能とする。 （例：公益的機能別施業森林等区分1、公益的機能別施業森林等区分2、・・・公益的機能別施業森林等区分5）			属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	更新データ時点	◎データを入力・更新する際に自動入力される。			検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				
樹種T/林相図	リレーショナルDB	◎小班テーブル内に、樹種テーブルの内容が包含されている場合（「第1樹種」・「第2樹種」～）、リレーショナルデータベースに変換する。	林齢	◎年次更新時に1加える	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎林班・小班群・小班・小班枝番をデフォルトでラベル表示する。 ◎レイヤを選択すると、 選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 （なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。）	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供（共有）する際に、提供をしないデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	中樹種・樹種	◎ユーザー毎に、中樹種と樹種の対応表を作成し、樹種が入力されれば、中樹種が自動入力される。	齢級	◎齢級は林齢から自動計算する。	主題図表示	◎「森林資源DBの各属性データ」でレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎1小班レコードに複数の樹種レコードが含まれる場合、もっとも面積の大きい樹種レコードの情報に基づいて主題図を作成する。ラベル表示も同様とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	小班面積・樹種面積	◎「樹種面積＝小班面積×面積歩合」とする。 ◎「小班面積」が入力された場合は「面積歩合」を、「面積歩合」が入力された場合は「小班面積」を再計算する。	樹高	◎年次更新時に、林齢と相対地位（基本仕様）、または林齢と絶対地位（推奨仕様）、により再計算される。	一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量（合計・平均等）を算出可能とする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	林齢	◎異齢林の場合（林齢範囲上下に記載がある場合）、林齢範囲の中央値が林齢として自動入力される。			属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。				
	齢級	◎齢級は林齢から自動計算する。			検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

	作成		更新		閲覧		出力		流通	
	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
施業履歴T/施業履歴図	施業履歴テーブル	◎GIS上で独立した施業履歴レイヤ(ポリゴン)を生成する。 ◎小班レイヤ(ポリゴン)と施業履歴レイヤをオーバーレイし、森林資源DBの施業履歴テーブルの主キーを更新する。 (地図データの更新の都度、処理を行う。年次更新作業の際に実施するイメージ)			主題図表示	◎「DBの各属性データ」でレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 (なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。)	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供(共有)する際に、提供をしないデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	直近施業種 直近施業実施年度 直近施業面積	◎上記オーバーレイ時に、施業種(間伐・主伐、造林・育林)毎に、直近の施業履歴データのみ小班テーブルに自動入力する。 ◎同時に、小班ポリゴンと施業履歴ポリゴンの重なり面積を算定し、小班テーブルの「直近施業面積」に自動入力する。			一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量(合計・平均等)を算出可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	更新データ時点	◎データを入力・更新する際に自動入力される。			属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。				
					検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
路網T/路網図	公道、林業用路網	◎台帳システムを構築した場合、台帳情報を地物データとリンクさせる。	入力年月日	◎データを入力した年月日を自動入力する。	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎林班・小班群・小班・小班枝番をデフォルトでラベル表示する。 ◎レイヤを選択すると、 選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 (なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。)	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供(共有)する際に、提供をしないデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	図上延長	◎GIS上でラインデータの延長を算出し、自動入力する。	入力者氏名	◎(システムでユーザー管理を行っている場合、)データを入力したユーザーの氏名を自動入力する。	主題図表示	◎「路網DBの各属性データ」で路網レイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	入力年月日	◎データを入力した年月日を自動入力する。			一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量(合計・平均等)を算出可能とする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	入力者氏名	◎(システムでユーザー管理を行っている場合)データを入力したユーザーの氏名を自動入力する。			属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。				
	更新データ時点	◎データを入力・更新する際に自動入力される。			検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

②　都道府県版／推奨仕様

	作成		更新		閲覧		出力		流通	
	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
小班T/林相図	林齢データ時点	◎年次更新を行った際に、自動で一年繰り上がる。	林齢データ時点	◎年次更新を行った際に、自動で一年繰り上がる。	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎林班・小班群・小班・小班枝番をデフォルトでラベル表示する。 ◎レイヤを選択すると、 選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 （なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。）	更新データ時点	◎「更新データ時点」は、データの「更新した時期」であるため、データ提供ユーザーから併せて「林齢データ時点」項目も取得し、両者を区別して更新する。
	林班・小班・枝番	◎変更すると不都合が生じる等、運用上避けられない場合は、属する都道府県の区分に合わせて名称を変更することを可能とする。ただし概念は変えない。 ◎小班が小班群（準林班）、施業番号などが小班（枝番）を意味している場合は、小班→小班群、施業番号→小班、施業番号枝番→小班枝番に変換する。 ◎管理方法が「林班－地番－地番枝番」となっている場合は、地番→小班、地番枝番→小班枝番に変換する。	更新データ時点	◎データを入力・更新する際に自動入力される。	主題図表示	◎DBの各属性データでレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供（共有）する際に、提供をしないデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	所有者テーブル （所有者管理番号 ・所有者CD）	◎小班テーブルと別テーブルで管理 ◎林地所有者、現に所有する者、立木所有者、実質管理者をそれぞれ別テーブルとする。 ◎コード化する。全11桁（前9桁はランダム採番、最後の2桁は都道府県コード）とする。 ◎所有者管理番号を自動採番する。			一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量（合計・平均等）を算出可能とする。			受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	公益的機能別施業森林等区分	◎1つの小班（または小班枝番）に複数の制限林が指定されている場合があるが、5つまで入力を可能とする。 （例：公益的機能別施業森林等区分1、公益的機能別施業森林等区分2、・・公益的機能別施業森林等区分5）			属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	更新データ時点	◎データを入力・更新する際に自動入力される。			検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				

	作成		更新		閲覧		出力		流通	
	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
樹種T/林相図	リレーショナルDB	◎小班テーブル内に、樹種テーブルの内容が包含されている場合（「第1樹種」・「第2樹種」～）、リレーショナルデータベースに変換する。	林齢	◎年次更新時に1加える	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎林班・小班群・小班・小班枝番をデフォルトでラベル表示する。 ◎レイヤを選択すると、 選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 （なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。）	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供（共有）する際に、提供をしないデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	中樹種・樹種	◎ユーザー毎に、中樹種と樹種の対応表を作成し、樹種が入力されれば、中樹種が自動入力される。	齢級	◎齢級は林齢から自動計算する。	主題図表示	◎「森林資源DBの各属性データ」でレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎1小班レコードに複数の樹種レコードが含まれる場合、もっとも面積の大きい樹種レコードの情報に基づいて主題図を作成する。ラベル表示も同様とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	小班面積・樹種面積	◎「樹種面積＝小班面積×面積歩合」とする。 ◎「小班面積」が入力された場合は「面積歩合」を、「面積歩合」が入力された場合は「小班面積」を再計算する。	樹高	◎年次更新時に、林齢と相対地位（基本仕様）、または林齢と絶対地位（推奨仕様）、により再計算される。	一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量（合計・平均等）を算出可能とする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	林齢	◎異齢林の場合（林齢範囲上下に記載がある場合）、林齢範囲の中央値が林齢として自動入力される。	ha当たり査定材積-収穫表・ha当たり査定成長量-収穫表	◎「平均樹高」または「林齢」が更新された場合、「樹種」・「林齢」・「相対地位」が該当する収穫予想表のha当たり材積・成長量が自動更新される。 ◎収穫予想表が存在しない樹種に関しては、別途何らかの基準を設け、自動でデータを入力可能とする。	属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。				
	齢級	◎齢級は林齢から自動計算する。			検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				
	林齢範囲	◎（林齢の区分が明確でない異齢林の場合、）林齢範囲の最高値と最低値を入力すると、その平均値が「林齢」に自動入力される。 ◎（同齢林の場合は）、「林齢」が入力されれば、その数値が「林齢範囲上」「林齢範囲下」にそれぞれ自動入力される。								
	森林の種類範囲	◎小班データ（地図）の更新時に、制限林ポリゴンと当該小班ポリゴンをオーバーレイし、その重なり具合で、該当コードが自動入力される。								
	相対地位	◎樹高成長曲線と相対地位の関係は、ユーザー毎に設定する。 ◎平均樹高を入力すると、樹種・林齢の関係から、相対地位が自動更新される。 ◎相対地位の算定基準となる樹高成長曲線と相対地位の区分（1等級、2等級等）は、ぞれぞれの都道府県が調整したものを利用する。								
	平均樹高	◎算定の基データとして航空レーザ計測成果がラスタないしメッシュポリゴン、単木データ等で与えられた場合、小班ポリゴンとこれらのデータをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の樹高データの平均値が、0.1m単位で自動入力される。								
	ha当たり立木本数	◎算定の基データとして、航空レーザ計測成果がラスタないしメッシュポリゴン、単木データ等で与えられた場合、小班ポリゴンと基データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の立木本数データの総計を小班面積で割り返した値が、100本刻み（四捨五入）で自動入力される。								
	ha当たり査定材積-収穫表・ha当たり査定成長量-収穫表	◎「平均樹高」または「林齢」が更新された場合、「樹種」・「林齢」・「相対地位」が該当する収穫予想表のha当たり材積・成長量が自動更新される。 ◎収穫予想表が存在しない樹種に関しては、別途何らかの基準を設け、自動でデータを入力可能とする。								
	小班地利	◎基礎となる地利データとして、10tトラックが通行可能な路網からの距離を算定した10mメッシュデータを作成する。 ◎データ作成・更新時に、小班ポリゴンと上記地利データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の地利データの平均値が、10m単位で自動入力される。 ◎小班ポリゴン、公道データ（後述）、林業用路網データ（同）のいずれが更新された場合、上記処理を実施する。								
	小班傾斜	◎基礎となる10mメッシュの傾斜データを作成する。 ◎データ作成・更新時に、小班ポリゴンと傾斜データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の傾斜の平均値が5度刻みで、小班傾斜欄に自動入力される。 ◎小班ポリゴン、傾斜データいずれかが更新された場合、上記処理を実施する。								
	更新データ時点	◎データを入力・更新する際に自動入力される。								

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

	作成		更新		閲覧		出力		流通	
	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
施業履歴T/施業履歴図	施業履歴テーブル	◎GIS上で独立した施業履歴レイヤ(ポリゴン)を生成する。 ◎小班レイヤ(ポリゴン)と施業履歴レイヤをオーバーレイし、森林資源DBの施業履歴テーブルの主キーを更新する。 (地図データの更新の都度、処理を行う。年次更新作業の際に実施するイメージ)			主題図表示	◎「DBの各属性データ」でレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 (なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。)	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供(共有)する際に、提供をしないデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	施業履歴テーブル (施業履歴番号・直近施業種・直近施業実施年度・直近施業面積)	◎上記オーバーレイ時に、該当小班に重なる施業履歴ポリゴン全てのデータを、森林資源DBの施業履歴テーブルに入力し、リレーショナルデータベースに変換する(施業履歴番号は自動採番する)。 ◎同時に、小班ポリゴンと施業履歴ポリゴンの重なり面積を算定し、施業履歴テーブルの「直近施業面積」に自動入力する。 ◎施業履歴テーブルより、施業履歴種類(間伐・主伐、造林・育林)毎に、直近の施業履歴データのみ小班テーブルに入力する。			一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量(合計・平均等)を算出可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	更新データ時点	◎データを入力・更新する際に自動入力される。			属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。				
					検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
路網T/路網図	公道、林業用路網	◎台帳システムを構築した場合、台帳情報を地物データとリンクさせる。	入力年月日	◎データを入力した年月日を自動入力する。	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎林班・小班群・小班・小班枝番をデフォルトでラベル表示する。 ◎レイヤを選択すると、 選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 (なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。)	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供(共有)する際に、提供をしないデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	図上延長	◎GIS上でラインデータの延長を算出し、自動入力する。	入力者氏名	◎(システムでユーザー管理を行っている場合、)データを入力したユーザーの氏名を自動入力する。	主題図表示	◎「路網DBの各属性データ」で路網レイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	入力年月日	◎データを入力した年月日を自動入力する。			一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量(合計・平均等)を算出可能とする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	入力者氏名	◎(システムでユーザー管理を行っている場合)データを入力したユーザーの氏名を自動入力する。			属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。				
	更新データ時点	◎データを入力・更新する際に自動入力される。			検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

③　市町村・林業事業体版／基本仕様

	作成		更新		閲覧		出力		流通	
	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
小班T/林相図	更新データ時点	◎ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。	更新データ時点	◎ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、ベースマップ(「森林資源レイヤ」「地番レイヤ」のいずれか)、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎ベースマップが「森林資源レイヤ」の場合、林班・小班群・小班・小班枝番をデフォルトでラベル表示する。 ◎レイヤを選択すると、 選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 (なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。)	更新データ時点	◎「更新データ時点」は、データの「更新した時期」であるため、データ提供ユーザーから併せて「林齢データ時点」項目も取得し、両者を区別して更新する。
	林班・小班・枝番	◎変更すると不都合が生じる等、運用上避けられない場合は、属する都道府県の区分に合わせて名称を変更することを可能とする。ただし概念は変えない。 ◎小班が小班群(準林班)、施業番号などが小班(枝番)を意味している場合は、小班→小班群、施業番号→小班、施業番号枝番→小班枝番に変換する。 ◎管理方法が「林班－地番－地番枝番」となっている場合は、地番→小班、地番枝番→小班枝番に変換する。			主題図表示	◎DBの各属性データでレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供(共有)する際に、提供をしないデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
					一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量(合計・平均等)を算出可能とする。			受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
					属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
					検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				
樹種T/林相図	リレーショナルDB	◎小班テーブル内に、樹種テーブルの内容が包含されている場合(「第1樹種」・「第2樹種」～)、リレーショナルデータベースに変換する。	林齢	◎年次更新時に1加える	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、ベースマップ(「森林資源レイヤ」「地番レイヤ」のいずれか)、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎「森林資源レイヤ」が表示されている場合、林班・小班群・小班・小班枝番をデフォルトでラベル表示する。 ◎レイヤを選択すると、 選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 (なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。)	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供(共有)する際に、提供をしないデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	中樹種・樹種	◎ユーザー毎に、中樹種と樹種の対応表を作成し、樹種が入力されれば、中樹種が自動入力される。	齢級	◎齢級は林齢から自動計算する。	主題図表示	◎「森林資源DBの各属性データ」でレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎1小班レコードに複数の樹種レコードが含まれる場合、もっとも面積の大きい樹種レコードの情報に基づいて主題図を作成する。ラベル表示も同様とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	小班面積・樹種面積	◎「樹種面積＝小班面積×面積歩合」とする。 ◎「小班面積」が入力された場合は「面積歩合」を、「面積歩合」が入力された場合は「小班面積」を再計算する。	樹高	◎年次更新時に、林齢と相対地位(基本仕様)、または林齢と絶対地位(推奨仕様)、により再計算される。	一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量(合計・平均等)を算出可能とする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	林齢	◎異齢林の場合(林齢範囲上下に記載がある場合)、林齢範囲の中央値が林齢として自動入力される。			属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。				
					検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

	作成		更新		閲覧		出力		流通	
	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
地番T/地番図	地番データ時点	◎地番DBにデータを入力・更新する際に、自動入力される。	地番データ時点	◎地番DBにデータを入力・更新する際に、自動入力される。	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、ベースマップ(「森林資源レイヤ」「地番レイヤ」のいずれか)、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎「地番レイヤ」が表示されている場合、大字・字・地番本番・地番支番をデフォルトでラベル表示する。 ◎レイヤを選択すると、選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 (なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。)	更新データ時点	◎「更新データ時点」は、データの「更新した時期」であるため、データ提供ユーザーから併せて「地番データ時点」項目も取得し、両者を区別して更新する。
	森林所有者	◎小班テーブルの中に含める。 ◎コード化しない。			主題図表示	◎「DBの各属性データ」でレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供(共有)する際に、提供をしないデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
					一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量(合計・平均等)を算出可能とする。			受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
					属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。特に、森林所有者情報の表示・閲覧は、厳重に管理する。。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
					検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				
施業履歴T/施業履歴図	ベースマップ	◎ベースマップが林相図の場合は林相ポリゴン、ベースマップが地番図の場合は地番ポリゴンを施業履歴ポリゴンとオーバーレイし、最も大きな面積を占める小班(または小班枝番)または地番(本番・支番)を施業履歴の主キーとして、更新する。 (地図データの更新の都度、処理を行う。または年次更新作業の際に実施する。)			主題図表示	◎「DBの各属性データ」でレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 (なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。)	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供(共有)する際に、提供をしないデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
					一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量(合計・平均等)を算出可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
					属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。				
					検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
路網T/路網図	公道、林業用路網	◎林道台帳・作業道台帳のシステムを構築し、台帳情報を地物データとリンクさせる。	入力年月日	◎データを入力した年月日を自動入力する。	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、ベースマップ(「森林資源レイヤ」「地番レイヤ」のいずれか)、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎路網レイヤが表示されている場合、道種(公道・林道・林業専用道・森林作業道)により、表示を変える。 ◎レイヤを選択すると、 選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 (なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。)	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供(共有)する際に、提供をしないデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	図上延長	◎GIS上でラインデータの延長を算出し、自動入力する。	入力者氏名	◎(システムでユーザー管理を行っている場合、)データを入力したユーザーの氏名を自動入力する。	主題図表示	◎「路網DBの各属性データ」で路網レイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	入力年月日	◎データを入力した年月日を自動入力する。			一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量(合計・平均等)を算出可能とする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
					属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。				
	入力者氏名	◎(システムでユーザー管理を行っている場合、)データを入力したユーザーの氏名を自動入力する。			検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

④　市町村・林業事業体版／推奨仕様

	作成		更新		閲覧		出力		流通	
	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
小班T/林相図	更新データ時点	◎ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。	更新データ時点	◎ユーザーがデータベースを更新した際に自動更新される。	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、ベースマップ(「森林資源レイヤ」「地番レイヤ」のいずれか)、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎ベースマップが「森林資源レイヤ」の場合、林班・小班群・小班・小班枝番をデフォルトでラベル表示する。 ◎レイヤを選択すると、 選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 (なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。)	更新データ時点	◎「更新データ時点」は、データの「更新した時期」であるため、データ提供ユーザーから併せて「林齢データ時点」項目も取得し、両者を区別して更新する。
	林班・小班・枝番	◎変更すると不都合が生じる等、運用上避けられない場合は、属する都道府県の区分に合わせて名称を変更することを可能とする。ただし概念は変えない。 ◎小班が小班群(準林班)、施業番号などが小班(枝番)を意味している場合は、小班→小班群、施業番号→小班、施業番号枝番→小班枝番に変換する。 ◎管理方法が「林班－地番－地番枝番」となっている場合は、地番→小班、地番枝番→小班枝番に変換する。	小班地利	◎データ更新時に、小班ポリゴンデータと地利データとのオーバーレイにより、小班ポリゴン内の地利の平均値が10m単位で自動入力される。 ◎小班ポリゴンデータ、路網データのいずれかの更新の度に、上記オーバーレイ処理を実施する。	主題図表示	◎DBの各属性データでレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供(共有)する際に、ユーザーが提供を望まないデータを任意に選択することを可能にする。 ◎各ユーザーから提供された共有データへ、他ユーザーがアクセスする場合は、利用権限にてデータアクセスを管理する。
	大字・字・地番本番・地番支番	◎地番図における地番ポリゴンとのオーバーレイにより、最も面積の重なりが大きな地番の情報を入力する。	小班傾斜	◎データ更新時に小班ポリゴンデータと傾斜データのオーバーレイにより、小班ポリゴン内の傾斜の平均値が5度刻みで、小班傾斜欄に自動入力される。 ◎小班ポリゴンデータ、傾斜データの更新の度に、上記オーバーレイ処理を実施する。	一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量(合計・平均等)を算出可能とする。			受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	独自小班区分	◎部分的に区分を行う場合、林班(小班群)ポリゴンからコピーしたポリゴンをベースに、ポリゴン分割機能を利用して、区分する。 ◎スナッピング機能を用いて、測量結果、施業履歴レイヤからの取り込み、フリーハンド等により作成されたポリゴンをトレースして、分割する。 ◎区分した各小班の属性情報を、別途表計算ソフト(CSV)にて作成し、GISへ取り込む。 ◎地図情報と数値情報の不整合を、自動でチェックする。	直近施業種・直近施業実施年度・直近施業面積	◎小班ポリゴンと施業履歴ポリゴンをオーバーレイし、その重なり面積を算定し、施業履歴テーブルの「施業面積」に自動入力する。 ◎施業履歴テーブルより、「間伐・主伐」、「造林・育林」別に、直近の施業履歴データのみ小班テーブルに入力する。	属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	直近施業種・直近施業実施年度・直近施業面積	◎小班ポリゴンと施業履歴ポリゴンをオーバーレイし、その重なり面積を算定し、施業履歴テーブルの「施業面積」に自動入力する。 ◎施業履歴テーブルより、「間伐・主伐」、「造林・育林」別に、直近の施業履歴データのみ小班テーブルに入力する。			検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

	作成		更新		閲覧		出力		流通	
	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
樹種T/林相図	リレーショナルDB	◎小班テーブル内に、樹種テーブルの内容が包含されている場合（「第１樹種」・「第2樹種」～）、リレーショナルデータベースに変換する。	林齢	◎年次更新時に1加える	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、ベースマップ（「森林資源レイヤ」「地番レイヤ」のいずれか）、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎「森林資源レイヤ」が表示されている場合、林班・小班群・小班・小班枝番をデフォルトでラベル表示する。 ◎レイヤを選択すると、 選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 （なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。）	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供（共有）する際に、ユーザーが提供を望まないデータを任意に選択することを可能にする。 ◎各ユーザーから提供された共有データへ、他ユーザーがアクセスする場合は、利用権限にてデータアクセスを管理する。
	中樹種・樹種	◎ユーザー毎に、中樹種と樹種の対応表を作成し、樹種が入力されれば、中樹種が自動入力される。	齢級	◎齢級は林齢から自動計算する。	主題図表示	◎「森林資源DBの各属性データ」でレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎1小班レコードに複数の樹種レコードが含まれる場合、もっとも面積の大きい樹種レコードの情報に基づいて主題図を作成する。ラベル表示も同様とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	小班面積・樹種面積	◎「樹種面積＝小班面積×面積歩合」とする。 ◎「小班面積」が入力された場合は「面積歩合」を、「面積歩合」が入力された場合は「小班面積」を再計算する。	樹高	◎年次更新時に、林齢と相対地位（基本仕様）、または林齢と絶対地位（推奨仕様）、により再計算される。	一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量（合計・平均等）を算出可能とする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	林齢	◎異齢林の場合（林齢範囲上下に記載がある場合）、林齢範囲の中央値が林齢として自動入力される。	樹高・本数査定年月日	◎樹高または本数のデータを入力した際に、自動で査定年月日を入力する。 ◎査定年月日は、入力による更新を可能とする。	属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。				
	齢級	◎齢級は林齢から自動計算する。	相対地位	◎ユーザー毎に設定された樹高成長曲線と相対地位の関係より、査定樹高を入力すると、林齢と樹種の関係から相対地位が自動更新される。 ◎相対地位の算定基準となる樹高成長曲線と区分（一等級、二等級など）は、ユーザーが所属する都道府県が調製したものを利用する。	検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				
	林齢範囲上・下	◎林齢が入力されている場合は、林齢の数値を「林齢範囲上」「林齢範囲下」にそれぞれ自動入力する。	ha当たり査定材積－収穫表・ha当たり査定成長量－収穫表	◎樹高と林齢が入力された場合、収穫表における当該林齢と査定地位が該当するha当たり材積および、ha当たり成長量が自動入力される。						
	平均樹高	◎算定の基データとして航空レーザ計測成果がラスタないしメッシュポリゴン、単木データ等で与えられた場合、小班ポリゴンとこれらのデータをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の樹高データの平均値が、0.1m単位で自動入力される。	絶対地位	◎樹高と樹種、林齢が入力されれば、樹高成長曲線より40年生時の樹高を計算し、絶対地位が自動入力される。						
	ha当たり立木本数	◎算定の基データとして、航空レーザ計測成果がラスタないしメッシュポリゴン、単木データ等で与えられた場合、小班ポリゴンと基データをオーバーレイすることにより、小班ポリゴン内の立木本数データの総計を小班面積で割り返した値が、100本刻み（四捨五入）で自動入力される。	ha当たり査定材積－密度管理図	◎林齢と絶対地位に基づき、年次更新時に、樹高を自動成長させる。 このとき同時に、「 ha当たり査定材積－密度管理図」も、上記により再算定して更新する。						
	樹高・本数査定年月日	◎樹高または本数のデータを入力した際に、自動で査定年月日を入力する。 ◎査定年月日は、入力による更新を可能とする。	ha当たり査定成長量－密度管理図	◎年次更新時に林齢、樹高が更新されるにあたり、「ha当たり成長量－密度管理図」も再算定して更新する。						
	相対地位	◎ユーザー毎に設定された樹高成長曲線と相対地位の関係より、査定樹高を入力すると、林齢と樹種の関係から相対地位が自動更新される。 ◎相対地位の算定基準となる樹高成長曲線と区分（一等級、二等級など）は、ユーザーが所属する都道府県が調製したものを利用する。								
	ha当たり査定材積－収穫表・ha当たり査定成長量－収穫表	◎樹高と林齢が入力された場合、収穫表における当該林齢と査定地位が該当するha当たり材積および、ha当たり成長量が自動入力される。								
	絶対地位	◎樹高と樹種、林齢が入力されれば、樹高成長曲線より40年生時の樹高を計算し、絶対地位が自動入力される。								
	ha当たり査定材積－密度管理図	◎初期データは、「樹高」と「ha当たり本数」、樹種より、「 ha当たり査定材積－密度管理図」を自動入力する。								
	ha当たり査定成長量－密度管理図	◎初期データは、現時点での林齢において「ha当たり査定材積－密度管理図」を計算した後に、林齢を1加えたときの「ha当たり査定材積－密度管理図」を計算し、その材積の差を自動入力する。								

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

	作成		更新		閲覧		出力		流通	
	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
地番T/地番図	地番データ時点	◎地番DBにデータを入力・更新する際に、自動入力される。	地番データ時点	◎地番DBにデータを入力・更新する際に、自動入力される。	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、ベースマップ(「森林資源レイヤ」「地番レイヤ」のいずれか)、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎「地番レイヤ」が表示されている場合、大字・字・地番本番・地番支番をデフォルトでラベル表示する。 ◎レイヤを選択すると、選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 (なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。)	更新データ時点	◎「更新データ時点」は、データの「更新した時期」であるため、データ提供ユーザーから併せて「地番データ時点」項目も取得し、両者を区別して更新する。
	森林の種類	◎制限林の地図データがある場合に、地番ポリゴンとオーバーレイして、森林の種類にその制限林の種類を自動入力する。			主題図表示	◎「DBの各属性データ」でレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供(共有)する際に、ユーザーが提供を望まないデータを任意に選択することを可能にする。 ◎各ユーザーから提供された共有データへ、他ユーザーがアクセスする場合は、利用権限にてデータアクセスを管理する。
	森林の種類範囲	◎制限林の地図データがある場合に、地番ポリゴンとオーバーレイし、地番ポリゴンの各地番と制限林ポリゴンとの重なり度合いにより、当該地番の森林種類範囲を自動入力する。			一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量(合計・平均等)を算出可能とする。			受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
					属性の非表示	◎表示/非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。特に、森林所有者情報の表示・閲覧は、厳重に管理する。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
					検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				
森林所有者T/地番図	森林所有者CD	◎小班テーブルと別テーブルで管理 ◎コード化する。全11桁(前9桁はランダム採番、最後の2桁は都道府県コード)とする。 ◎森林所有者管理番号を自動採番する。	前所有者名	◎新しく所有者が変更になる際には、「森林所有者漢字」項目から自動入力される。 ただし、入力による更新を可能とする。	地図表示機能	◎ベースマップが地番レイヤの場合、大字・字・地番本番・地番支番をデフォルトで表示する。 ただし、森林所有者情報の表示・閲覧は、ユーザー権限で管理する。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 (なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。)	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供(共有)する際に、ユーザーが提供を望まないデータを任意に選択することを可能にする。 ◎各ユーザーから提供された共有データへ、他ユーザーがアクセスする場合は、利用権限にてデータアクセスを管理する。
	地番・森林所有者名・森林所有者住所・森林所有者電話番号	◎地籍調査の情報や境界明確化事業の成果等の電子データがある場合、自動で取り込む。 ◎この際、基のデータ形式への対応が必要となる。			項目の非表示	◎非表示可能項目を通常非表示とし、任意の操作により表示させることを可能とする。			受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	森林所有者都道府県・森林所有者市町村CD・在村・不在村	◎森林所有者住所から、森林所有者都道府県と森林所有者市町村のCD、在村・不在村を自動入力する。			検索機能	◎各DBの項目毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所の属性情報を閲覧可能とする。ただし、利用ユーザーにより閲覧可能な属性情報を制限可能にする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

	作成		更新		閲覧		出力		流通	
	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
施業履歴T /施業履歴図	ベースマップ	◎ベースマップが林相図の場合は林相ポリゴン、ベースマップが地番図の場合は地番ポリゴンを施業履歴ポリゴンとオーバーレイし、最も大きな面積を占める小班（または小班枝番）または地番（本番・支番）を施業履歴の主キーとして、更新する。 （地図データの更新の都度、処理を行う。または年次更新作業の際に実施する。）	施業面積	◎小班ポリゴンと施業履歴ポリゴンをオーバーレイし、その重なり面積を算定し、施業履歴テーブルの「施業面積」に自動入力する。	主題図表示	◎「DBの各属性データ」でレイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 （なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。）	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供（共有）する際に、ユーザーが提供を望まないデータを任意に選択することを可能にする。 ◎各ユーザーから提供された共有データへ、他ユーザーがアクセスする場合は、利用権限にてデータアクセスを管理する。
	施業面積	◎小班ポリゴンと施業履歴ポリゴンをオーバーレイし、その重なり面積を算定し、施業履歴テーブルの「施業面積」に自動入力する。			一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量（合計・平均等）を算出可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
					属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。				
					検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
路網T/路網図	公道、林業用路網	◎林道台帳・作業道台帳のシステムを構築し、台帳情報を地物データとリンクさせる。	入力年月日	◎データを入力した年月日を自動入力する。	レイヤー表示	◎デフォルトで森林基本図、ベースマップ（「森林資源レイヤ」「地番レイヤ」のいずれか）、路網レイヤの順に重ねて表示する。 ◎路網レイヤが表示されている場合、道種（公道・林道・林業専用道・森林作業道）により、表示を変える。 ◎レイヤを選択すると、 選択箇所の「DBの各属性データ」が表示される。	地図の印刷・データ出力	◎印刷・データ出力についてのプレビュー機能を持つ。 ◎自由縮尺による、印刷・データ出力を可能とする。 ◎印刷・データ出力の際に、縮尺・凡例・テキストを入力可能とする。 ◎検索・選択した箇所の属性情報を表示した状態での印刷・データ出力を可能とする。 ◎データ出力形式は、PDF形式・JPEG形式のほか、シェイプ形式・GML形式での出力を可能とする。 （なお、GISが扱う地図形式は任意とするが、シェイプ形式とGML形式の入力および変換は可能とする。）	提供データの選択	◎他ユーザーへ提供（共有）する際に、ユーザーが提供を望まないデータを任意に選択することを可能にする。 ◎各ユーザーから提供された共有データへ、他ユーザーがアクセスする場合は、利用権限にてデータアクセスを管理する。
	図上延長	◎GIS上でラインデータの延長を算出し、自動入力する。	入力者氏名	◎（システムでユーザー管理を行っている場合、）データを入力したユーザーの氏名を自動入力する。	主題図表示	◎「路網DBの各属性データ」で路網レイヤを色分け、ラベリングした主題図の表示を可能とする。 ◎表示ラベルと色は、ユーザーが任意に変更可能とする。 ◎ユーザーが設定した表示は、保存可能とする。	一覧の印刷・データ出力	◎各DBの属性データの一覧表の印刷を可能とする。 ◎一覧表のCSV形式での出力を可能とする。 ◎属性データ毎の統計量の印刷を可能とする。 ◎統計量のCSV形式での出力を可能とする。	受領データの選択	◎他ユーザーから受領したデータを基に自身のデータを作成・更新する際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
	入力年月日	◎データを入力した年月日を自動入力する。			一覧表示	◎各DBの属性データの一覧表示を可能とする。 ◎一覧表の属性データによるソートを可能とする。 ◎一覧表の属性データ毎の統計量（合計・平均等）を算出可能とする。			アプリケーションを利用したデータ更新	◎各申請受理アプリケーションを通じて受理した申請データを基に、自身のデータを更新可能とする。 ◎上記の際、反映するデータ項目及びレコードをユーザーが任意に選択することを可能にする。
					属性の非表示	◎表示／非表示とする属性を選択可能とし、任意の操作により全表示させることを可能とする。 ◎利用ユーザーの権限により表示可能な属性を制限可能にする。				
	入力者氏名	◎（システムでユーザー管理を行っている場合、）データを入力したユーザーの氏名を自動入力する。			検索機能	◎各DBの属性毎に、検索を可能とする。 ◎検索箇所は色塗り表示等により、識別できるようにする。 ◎検索・選択箇所のみの属性データの一覧表示を可能とする。				

Copyright © 2021 森林GISフォーラム

第６章 森林管理業務に用いる画像情報のガイドライン

６．１ 概要

各ユーザーが適切なコストで、より新しい画像を利用できるような環境を構築するために、日常業務から解析業務に至るまでの各種業務で利活用する画像の要件をガイドラインとして示した。

６．２ 前提

＜共通＞

- 画像の利用方法は様々であるが、本仕様では、特にオルソ画像を目視で、デジタイズすることにより、GIS データを作成するという利用方法、また林況データを取得するという利用方法に着目してガイドラインを作成した。
- これは、この利用方法が最も一般的であるとともに、森林管理に携わるユーザーの業務に有効であると考えられるためである。
- 本ガイドラインでは、モノクロの解像度の濃淡に、カラーの解像度での色情報を付けた、パンシャープンを前提としている。
- アーカイブの購入は、現在多くのユーザーで実施されているが、画像の入手や提供の面でデメリットが大きいため、注意が必要である。

＜航空写真＞

- 季節により特徴が異なっており、春に撮影した写真は影の影響が少ないため、新植の判別や、路線の確認、林況データの取得には適している。
- 一方秋に撮影した写真は、広葉樹を始め、スギ等でも葉の変色が発生するため、人工林と天然林の区分や樹種の判別が容易になると考えられる。
- どの業務に重点を置くかにより、撮影する時期を選択することが重要である。

＜衛星画像＞

- 斜め撮影は、立木等の倒れ込みが出てくるというデメリットがある。
- 倒れ込みは、傾斜が大きいほど顕著であり、最悪の場合は、区分すべき境目が分からないという可能性もある。
- そのため、衛星画像はできる限り直下視で撮影したものを使用するのが望ましい。

６．３ 各業務に必要となる画像の要件

解像度（m）	バンド	可能業務	航空写真	衛星画像
2.50	RGB（赤外）	・森林・伐跡判別、区画ポリゴン作成	◎	SPOT6,7
1.00	RGB	・人天区分 ・路網線形確認	◎	※
	RGB 赤外	・病虫・獣害確認		
0.50	RGB	・新植判別	◎	WorldView2 GeoEye-1 Pleades1,2
	RGB（赤外）	・樹種判別 ・侵入竹林判別		
0.30	RGB	・林況データ取得（低密度　～1,000本/ha）	◎	WorldView3
0.10	RGB	・林況データ取得（1,000本/ha～）※2	◎	×

※IKONOS、QuickBirdは2015年で運用を終了

- 上表は、森林管理における各業務に画像を利用するにあたり、どのような要件の画像を使用すれば良いのかを示している。
- なお、解像度の高い画像は、それ以下の解像度で利用可能となっている業務に対しても有効である。
- 航空写真の場合、費用によるが、どの解像度の写真も入手可能である。
- 一方衛星画像は、現状では、最高でも解像度は WorldView3 の 31cm であり、詳細な林況データの取得を行うのは厳しいと思われる。
- これにより、画像を利用したい主要業務を想定し、それに対して最低限必要となる画像データを入手することにより、コストを最低限に抑えることが可能になる。

６．４ クラウドの利用における画像取り扱いの技術

- 画像は高解像度・広域のものほど、ファイルの容量が大きくなるため、クラウド技術を利用するにあたっては、圧縮やピラミッド化、タイル化等の技術により、少しでも画像を取り扱いやすい状態にすることが重要である。

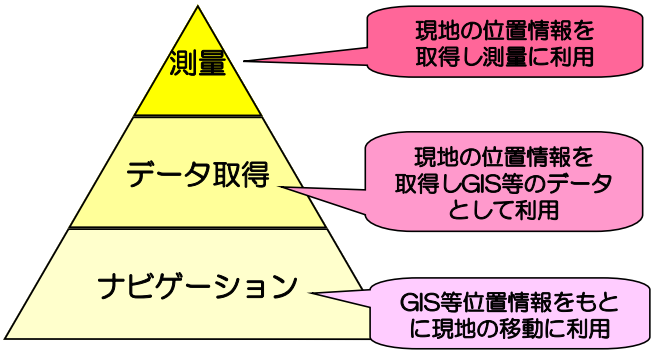
６．５ リモートセンシング技術やその利用手法等に関する手引き(仮称)

・　林野庁では、平成 29 年度リモートセンシング技術活用ガイドライン作成事業において、森林資源情報の効率的な把握と施業集約化の円滑な調整に寄与する最新のリモートセンシング技術を効果的に活用するため、「リモートセンシング技術やその利用方法等に関する手引き(仮称)」を作成した。本ガイドラインにおいて紹介する各衛星画像データの取得方法や、衛星の諸元・価格については、本手引きを参照することとする。

第７章 森林管理業務に用いる GNSS のガイドライン

７．１ GNSS の利用が考えられる森林管理業務

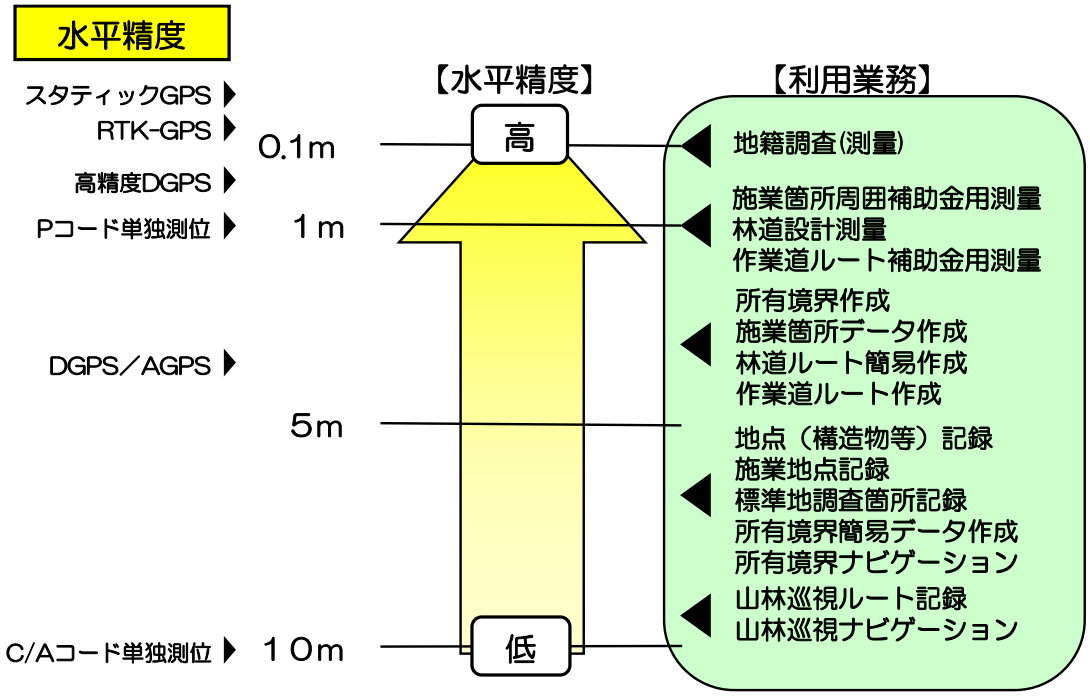
GNSS を利用した森林管理業務は、「測量」・「データ取得」・「ナビゲーション」の大きく３つに分類される。分類した各業務において、具体的な業務・利用シーンを以下の図の通り、抽出した。



分類	利用シーン
測量	地籍調査(測量)(参考)
測量	施業箇所周囲補助金用測量
測量	林道設計測量
測量	作業道ルート補助金用測量
測量	所有境界作成
データ取得	施業箇所データ作成
データ取得	林道ルート簡易作成
データ取得	作業道ルート作成
データ取得	地点(構造物等)記録
データ取得	施業地点記録
データ取得	標準地調査箇所記録
データ取得	所有境界簡易データ作成
データ取得	山林巡視ルート記録
ナビゲーション	所有境界ナビゲーション
ナビゲーション	山林巡視ナビゲーション

７．２ 森林管理業務に影響を与える GNSS の水平精度

抽出した各森林管理業務を実施する上において、どの程度の水平精度が必要かを以下に示した。



この図より、測量、データ取得、ナビゲーションの順に、高い水平精度が必要となるということが分かる。

- 低精度で構わないとしているナビゲーション業務に関しても、少なくとも 5～10mの誤差に抑えることが必要である。
- なお補助申請に関する測量等においては、水平精度以外に別途必要な仕様が定められている場合があるため、留意が必要である。

7．3 GNSS の精度をより高めるための方法

◎ 事前の衛星状況を確認する。

- 事前に観測日の衛星配置を確認し、観測のスケジュールを立てる。

◎ 電源を付けて測位を始めた直後の座標は使わない。

- ハンディ GNSS の場合、少なくとも約 30 秒は、受信機を固定させてデータを取得する。
  （ただし、単独測位の場合は 30 秒以上取得しても、衛星の配置によっては精度が上がらない可能性がある。）

◎ なるべく人体から離し、アンテナを高い位置に置く。

- より高く上げることで、上木の密度が疎になるため、衛星を捕捉しやすくなる。
- 人体で衛星を遮らない様にする必要がある。

◎ SBAS を利用する。

- 機種によっては、気象衛星ひまわりから送信される測位誤差情報を受信して誤差を抑えることが出来る機能（SBAS）を持つものがあるので、それを利用する。

◎ コンパス測量と組み合わせて測量する。

- 谷合等上空が限られた箇所では、高精度の GNSS を用いても、精度が低くなる恐れがあるため、可能な限りコンパスを利用して測量を実施する。

- この場合、上空の開けた箇所で GNSS により基準点を測位し、その点からコンパス測量を行うようにする。

＜変更履歴＞

<table>
<tr><th rowspan="2">日時</th><th rowspan="2">バージョン</th><th colspan="2">対象</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td rowspan="4">2022/3/7</td><td rowspan="4">Ver.6.1</td><td>都道府県版</td><td>路網情報</td><td rowspan="4">※航空レーザ計測データの標準仕様改訂に準拠</td></tr>
<tr><td colspan="2">※項目追加
（地形計測法・地形計測者・通行調査・通行調査年）</td></tr>
<tr><td>市町村・林業事業体版</td><td>路網情報</td></tr>
<tr><td colspan="2">※項目追加
（地形計測法・地形計測者・通行調査・通行調査年）</td></tr>
</table>

森林クラウドシステムに係る標準仕様書　Ver. 6.1

平成 25~29 年度　林野庁補助事業
森林情報高度利活用技術開発事業のうち森林クラウドシステム標準化事業
令和 2~3 年度　　林野庁補助事業
林業イノベーション推進総合対策のうちＩＣＴ生産管理推進対策のうち
レーザ計測による森林資源データの解析・管理の標準化事業

令和 4 年 3 月　発行
発　行：
一般財団法人　日本森林技術協会
〒102-0085　東京都千代田区六番町 7 番地
TEL　03 - 3261 - 5497　FAX　03 - 3261 - 3044　http://www.jafta.or.jp

一般社団法人　日本林野測量協会
〒102-0085　東京都千代田区六番町 7 番地　日林協会館 2Ｆ
TEL　03 - 3261 - 8138　FAX　03 - 3261 - 8145　http://rinsokyo.sakura.ne.jp/

© 2020　森林 GIS フォーラム
本書の全部または一部を無断に引用・転載することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。
本書からの引用・転載を希望される場合は、下記宛ご連絡下さい。

問合先
森林 GIS フォーラム　事務局　TEL　029 – 829 - 8314